CBETA電子佛典集成

CBETA Chinese Electronic Tripitaka Collection

eBook

B29n0161

武林梵志

吳之鯨著

財團法人 佛教電子佛典基金會

目次

- 編輯說明
- 章節目次
  - 提要
  - 城內梵剎
    - 仙林慈恩普濟教寺
    - 天長淨心寺
    - 壽聖寺
    - 吉祥律寺
    - 大中祥符律寺
    - 長壽庵
    - 青蓮寺
    - 崇福庵
    - 法輪寺
    - 棲禪雪洞院
    - 興福寺
    - 止止菴
    - 廣壽慧雲禪寺
    - 七寶寺
    - 普照院
    - 潮鳴寺
    - 普慈寺
    - 水月菴
    - 蓮居菴
    - 華藏寺
    - 悟空寺
    - 長明寺
    - 相國寺
    - 靈芝崇福律寺
    - 大慈菴
    - 金剛廣福教寺
    - 妙淨菴
    - 祇園寺
    - 東岡寺
    - 惠林寺

- 佛惠寺
- 崇寧萬壽教寺
- 慈雲寺
- 水陸寺
- 白蓮寺
- 下水陸寺
- 孝義菴
- 崇恩延福院
- 聖壽寺
- 覺苑寺
- 千頃廣化院
- 明慶寺
- 菩提律寺
- 靈壽寺
- 安國羅漢寺
- 上方寺
- 妙心寺
- 長生菴
- 比勝廟
- 慈濟院
- 真教寺
- 慈光寺
- 慧安寺
- 寶梵寺
- 海會寺
- 百法寺
- 寶奎寺
- 寶成寺
- 雲居聖水寺
- 上方菴
- 金波禪院
- 寶嚴院
- 廣嚴寺
- 開元寺
- 開寶仁王寺
- 定水寺
- 戒壇院

- 城外南山分脈

- 梅竹菴
- 般若院
- 報先菴
- 報國寺
- 梵天講寺
- 棲雲菴
- 勝果禪寺
- 善應總持菴
- 圓通菴
- 福田慶壽寺
- 延聖寺
- 普濟寺
- 萬壽寺
- 資教菴
- 潮音菴
- 黑菴
- 吉祥寺
- 寶華院
- 聖壽禪寺
- 鎮海禪院
- 真如寺
- 正定菴
- 普陀菴
- 永慶寺
- 延壽白石寺
- 崇福寺
- 因果寺
- 寶界寺
- 定香寺
- 月塘寺
- 正宗菴
- 大慈禪寺
- 下天真寺
- 六湛菴
- 善慧禪寺
- 真覺院
- 淨因寺
- 普福菴

- 萬壽菴
- 奉聖禪寺
- 普寧菴
- 道林寺
- 龍華禪寺
- 兜率菴
- 永壽禪寺
- 上天真寺
- 天龍禪寺
- 淨明院
- 天華禪寺
- 勝相寺
- 妙因菴
- 保和寺
- 九曜寺
- 廣澤禪寺
- 定慧禪寺
- 襲慶禪寺
- 六和塔
- 開化寺
- 朝陽菴
- 五雲山真際院
- 雲棲寺
- 天柱寺
- 妙山菴
- 白沙菴
- 棲真寺
- 定安寺
- 定明寺
- 金蓮寺
- 妙靜寺
- 定南寺
- 慈巖院
- 龍門菴
- 光明寺

- 城外南山分脉
  - 靈芝寺
  - 褒親崇壽教寺

- 觀音菴
- 頭陀菴
- 香圓菴
- 淨慈寺
- 雷峯塔
- 湖心寺
- 惠因講寺
- 六通律寺
- 法相寺
- 大仁院
- 大慈菴
- 滿覺院
- 歸雲菴
- 烟霞寺
- 淨心院
- 榮國禪寺
- 最上菴
- 覺照菴
- 綠蘿菴
- 演福菴
- 延恩衍慶寺
- 鉢池菴
- 老龍井
- 方圓菴
- 波羅菴
- 報恩寺
- 理安禪寺

◦ 北山分脉一

- 香積寺
- 妙行寺
- 法雲寺
- 定光寺
- 永慈寺
- 化度寺
- 寶覺豐樂寺
- 顯教寺
- 福壽寺
- 大覺禪院

- 智果院
- 永寧菴
- 西方菴
- 廣教寺
- 昭化寺
- 崇興寺
- 崇先顯孝華嚴教寺
- 普潤寺
- 普化庵
- 治平寺
- 寶嚴寺
- 興化菴
- 真如寺
- 覺圓寺
- 鐵佛普明寺
- 永慶寺
- 永興寺
- 佛慧寺
- 報先寺
- 真覺院
- 豐禾菴
- 慈嚴寺
- 慈泉寺
- 廣福寺
- 寂福寺
- 定安寺
- 定明寺
- 金蓮寺
- 棲真寺
- 無諍寺
- 禪智寺
- 法性寺
- 真寂寺
- 大雲寺
- 重興寺
- 荀山寺
- 廣化寺
- 淨安院

- 正續寺
- 寶慧菴
- 圓覺菴
- 東明寺
- 長慶寺
- 寶林寺
- 東蓮寺
- 妙智寺
- 智勝寺
- 廣福寺
- 觀音寺
- 正等寺
- 仁壽寺
- 報福寺
- 佛日寺
- 天王寺
- 保江寺
- 慧日寺
- 純一院
- 萬壽菴
- 資慶院
- 清流禪院
- 普濟院
- 德雲菴
- 永清禪院
- 大圓菴
- 化城菴
- 泗水菴
- 廣濟菴
- 崇勝寺
- 寶華寺
- 普濟寺
- 崇覺寺
- 興福菴
- 普寧寺
- 普濟院
- 昇平廟
- 圓通菴

- 泰清菴
- 定心菴
- 資福菴
- 普門菴
- 膝泉菴
- 黃龍菴
- 龍珠菴
- 大覺菴
- 巧山菴
- 林雅菴
- 圓通菴
- 永慶禪寺
- 大悲妙心菴
- 薔薇菴
- 慧覺院
- 慈孝菴
- 龍峰菴
- 大雲菴
- 梅石菴
- 聚石菴
- 俪伽菴
- 功德院
- 圓教禪寺
- 普慈菴
- 靈花菴
- 臥龍菴
- 白蓮菴
- 定慧菴
- 法華菴
- 烟石居
- 翠微菴
- 秀水菴
- 吉祥菴
- 西向菴
- 華藏菴
- 永福菴
- 般若菴
- 偏福寺

- 茶湯寺
- 長壽寺
- 上塔伏虎禪院
- 中塔悟空禪院
- 下塔月明菴
- 法華菴
- 柳翠菴
- 興教寺
- 華嚴菴
- 金佛寺
- 無垢院
- 善曇寺
- 鼎湖寺
- 安隱寺
- 勝安寺
- 廣嚴寺
- 淨惠寺
- 蓮華窟
- 明覺院
- 龍興寺
- 大安寺
- 驀直菴
- 彌陀菴
- 龍華菴

- 北山分脉二
  - 菩提院
  - 真覺院
  - 法濟院
  - 妙因院
  - 寶嚴院
  - 昭慶律寺
  - 大佛寺
  - 金輪寺
  - 保叔寺
  - 相嚴院
  - 智果禪寺
  - 治平寺
  - 壽星寺

- 寶雲寺
- 瑪瑙寺
- 招賢寺
- 嘉德永壽講寺
- 鳳林寺
- 君子泉
- 妙智庵
- 護國仁王講寺
- 雙桐菴
- 淨性寺
- 淨業堂
- 碧漪蓮社
- 玉泉寺
- 靈峯寺
- 普福講寺
- 圓覺天台教寺
- 黑觀音堂
- 集慶講寺
- 靈隱禪寺
- 峋嶁山房
- 韜光庵
- 永福禪院
- 無著禪師塔
- 鄴公庵
- 白衲庵
- 大桐庵
- 薦福寺
- 下天竺寺
- 三生庵
- 中天竺寺

- 外七縣梵剎
  - 海寧縣
    - 太平廣福寺
    - 崇教寺
    - 真如寺
    - 真相寺
    - 崇惠寺
    - 西山廣福院

- 金佛寺
- 永寧寺
- 薦福寺
- 安國寺
- 延恩寺
- 東岡廣福寺
- 覺王寺
- 淨妙寺
- 興福寺
- 資勝寺
- 吉祥寺
- 菩提寺
- 惠力寺
- 淨信寺

- 富陽縣
  - 法相寺
  - 淨居寺
  - 偃松寺
  - 能仁寺
  - 寶相寺
  - 妙智寺
  - 慈修護聖禪寺
  - 永寧寺
  - 龍景寺
  - 真寂寺
  - 大雄寺
  - 華盖仙山寺
  - 淨土庵
  - 天鐘院
- 餘杭縣
  - 永安寺
  - 南山普寧禪寺
  - 慈聖寺
  - 光孝寺
  - 徑山興聖萬壽禪寺
  - 化城寺
  - 大祿寺
  - 洞霄宮

- 臨安縣
  - 海會寺
  - 淨土禪寺
  - 太平萬壽禪院
  - 玲瓏山大雄殿
  - 化城院
  - 興教院
  - 淨應院
  - 雙林院
  - 福勝院
  - 東天目山昭明禪寺
  - 西天目山獅子正宗禪寺
  - 天台傳教庵
- 新城縣
  - 普照院
  - 東白院
  - 黑山蟠龍庵
  - 咽水洞
  - 寶勝院
  - 寶乘寺
  - 寧國寺
- 於潛縣
  - 獅子正宗禪寺
  - 寂照教寺
- 昌化縣
  - 治平寺

◦ 天朝寵錫
◦ 宰官護持

- 陶潛
- 謝靈運
- 范元琰
- 楊衒之
- 褚亮
- 褚遂良
- 賈島
- 駱賓王
- 李白
- 李泌

- 虞允文
- 楊綰
- 劉禹錫
- 孟簡
- 白居易
- 王勃
- 裴度
- 錢鏐
- 呂蒙正
- 楊億
- 王旦
- 王隨
- 趙抃
- 歐陽修
- 范仲淹
- 蔡襄
- 司馬光
- 王安石
- 蘇軾
- 蘇轍
- 陳師道
- 仲殊
- 米芾
- 陳瓘
- 史浩
- 楊傑
- 秦觀
- 黃庭堅
- 李邴
- 呂本中
- 張商英
- 王以寧
- 張浚
- 曹勛
- 程珌
- 張九成
- 曾開
- 提刑吳偉明居士

- 張鎡
- 林希逸
- 鄭清之
- 甄龍友
- 曾公亮
- 林逋
- 貫雲石
- 朱熹
- 陸游
- 真德秀
- 郡守謝朝議
- 宋給事中
- 武林守陳公襄
- 州牧劉彥慕
- 宋丞相喬行
- 岳飛
- 錢象祖
- 潛說友
- 李端愿
- 鄧文原
- 趙孟頫
- 馮子振
- 黃溍
- 虞集
- 白珽
- 仇遠
- 鄭所南
- 張翥
- 趙雍
- 周密
- 楊維楨
- 劉基
- 宋濂
- 高啟
- 張羽
- 姚廣孝
- 張寧
- 聶大年

- 陳基
- 徐一夔
- 于謙
- 錢溥
- 王守仁
- 孫一元

- 古德機緣一
  - 靈隱寺
    - 慧理法師
    - 實達禪師
    - 守直律師
    - 道標侍者
    - 皎然侍者
    - 鑑空法師
    - 道齊尊師
    - 韜光禪師
    - 智一尊師
    - 靈隱清聳禪師
    - 契嵩禪師
    - 普慈禪師
    - 德章禪師
    - 蘊聰禪師
    - 文勝禪師
    - 雲知禪師
    - 正童禪師
    - 延珊禪師
    - 重顯禪師
    - 慧淳禪師
    - 寂室禪師
    - 瞎堂禪師
    - 覺阿侍者
    - 德光禪師
    - 誰庵禪師
    - 懶庵禪師
    - 最庵禪師
    - 悅堂禪師
    - 竹田禪師
    - 妙峰善禪師

- 石皷希夷禪師
- 鐵牛印禪師
- 松源崇岳禪師
- 笑庵了悟禪師
- 高原祖泉禪師
- 竹泉法林禪師
- 性原慧朗禪師
- 天鏡原瀞禪師
- 退耕寧禪師
- 守仁禪師

- 淨慈寺
  - 五代杭州永明寺道潛禪師
  - 慧日永明延壽智覺禪師
  - 慧日永明寺道鴻通辯禪師
  - 宗本圓照禪師
  - 善本大通禪師
  - 音堂彥充禪師
  - 佛智端裕禪師
  - 水庵師一禪師
  - 自得慧暉禪師
  - 混源曇密禪師
  - 楚明寶印禪師
  - 木庵安永禪師
  - 石田禪師
  - 偃溪廣聞禪師
  - 淮海原肇禪師
  - 荊叟如珏禪師
  - 晦機元熙禪師
  - 虛堂智愚禪師
  - 斷橋妙倫禪師
  - 北磵居簡禪師
  - 笑翁妙堪禪師
  - 東叟仲穎禪師
  - 孤雲權禪師
  - 退谷義雲禪師
  - 介石明禪師
  - 晦翁悟明禪師
  - 谷源道禪師

        - 潛庵慧光禪師
        - 大用普濟禪師
        - 無極觀禪師
        - 石林行鞏禪師
        - 石帆衍禪師
        - 簡翁敬禪師
        - 愚極慧禪師
        - 愚庵智及禪師
        - 本源善達禪師
        - 清溪泥禪師
        - 宋南屏道臻法師
        - 宋道濟
    - 古德機緣二
        - 徑山寺
            - 大覺國一禪師
            - 無上禪師
            - 法濟禪師
            - 大禪明禪師
            - 佛日大慧杲禪師
            - 密菴傑禪師
            - 別峰印禪師
            - 佛照普慈宗覺光禪師
            - 癡絕道冲禪師
            - 雲峰高禪師
            - 佛日普照元叟端禪師
            - 月林鏡禪師
            - 浙翁如琰禪師
            - 蒙菴元聰禪師
            - 塗毒智策禪師
            - 照堂了一禪師
        - 上天竺寺
            - 唐錢塘上天竺寺道翊法師
            - 釋法詵
            - 子儀心印水月大師
            - 天竺證悟法師
            - 杭州上天竺我菴本無法師
            - 從諫慈辯講師
            - 杭州普門寺希辨禪師

- 中天竺寺
  - [仁-二+幻]堂中仁禪師
  - 癡禪玄妙禪師
  - 一關逵禪師
  - 雪屋珂禪師
  - 一溪自如禪師
  - 季潭泐禪師
- 下天竺寺
  - 宋慈雲法師
  - 隋觀法師
- 集慶寺
  - 集慶法師
  - 滅幻禪師
- 普福寺
  - 普福法師
- 鳳林寺
  - 唐鳥窠道林禪師
  - 杭州招賢寺會通禪師
- 智果寺
  - 錢塘道潛禪師
- 瑪瑙寺
  - 宋孤山法師
- 孤山祥符寺
  - 法師可久
- 湖心寺
  - 紹岩居
  - 毒峰禪師
- 護國寺
  - 隆興黃龍無門慧開禪師
  - 杭州護國臭菴宗禪師
- 昭慶寺
  - 宋真悟律師
  - 宋道匡禪師
  - 省僜禪師
  - 宋省常
  - 子元禪師
- 玉泉寺
  - 齊玉泉法師

- 懿禪師
- 虎跑寺
  - 唐杭州大慈山釋寰中
- 慧因寺
  - 慧因懷祥禪師
  - 慧因義寧禪師
  - 淨源住慧因院見長水諸師
- 法相寺
  - 長耳和尚
- 六通寺
  - 五代杭州六通慈德僧彥求
  - 宋杭州龍興宗靖禪師
- 龍井寺
  - 宋杭州龍井通禪師
  - 宋辯才淨法師
- 五雲院
  - 杭州五雲山華嚴道塲志逢大師
- 開化寺
  - 月輪山開化傳法大師
  - 宋僧統賛寧法師
- 天龍寺
  - 五代杭州天龍寺重機明真大師
  - 天龍俱胝和尚
  - 後唐杭州天龍寺釋道怱
  - 杭州天龍和尚
  - 宋杭州天龍秀禪師
- 龍華寺
  - 宋龍華真覺大師
  - 契盈廣辯周智大師
  - 慧居禪師
- 勝果寺
  - 無著禪師
  - 僧淨梵
- 報國寺
  - 大元杭州鳳山大報國廣智全悟笑隱訢禪師
  - 大明楚石禪師
- 萬壽寺
  - 宋杭州靈鳳山萬壽法詮禪師

- 靈芝寺
  - 宋大智元照律師
  - 佛印名了元
- 千佛寺
  - 漢錢塘千佛釋希覺
- 慈光寺
  - 宋釋晤恩
  - 立中成禪師
- 仁王寺
  - 杭州仁王復禪師

◦ 古德機緣三

- 報恩寺
  - 五代杭州報恩慧明禪師
  - 法安禪師
  - 宋釋永安
  - 慧月禪師
  - 通辨明達禪師
  - 玄則禪師
  - 從[王*(十/(罩-卓+衣))]禪師
- 法輪寺
  - 法輪端禪師
  - 添禪師
- 妙行寺
  - 思淨錢
- 香積寺
  - 宋三藏法師
- 僊林寺
  - 大明師
- 廣化寺
  - 錢唐廣化住持覺宗
- 崇先寺
  - 宋杭州崇先真歇清了禪師
- 黃龍菴
  - 皐亭黃龍慧南禪師
  - 晦堂心禪師
- 佛日寺
  - 宋杭州佛日本空禪師
  - 智才禪師

- 淨慧戒弼禪師
- 文祖禪師
- 奉先寺
  - 杭州奉先法明普照禪師
  - 宋奉先法昱禪師
- 華嚴寺
  - 唐杭州華嚴釋玄
- 羅漢寺
  - 宋宗徹禪師
- 七寶寺
  - 宋用欽居
- 慶善寺
  - 杭州慶善院普能禪師
  - 杭州慶善守隆禪師
- 千頃慈雲院
  - 唐杭州千頃山釋楚南
- 廣福寺
  - 臨安府廣福惟尚禪師
- 興教寺
  - 興教洪壽禪師
- 龍興寺
  - 唐杭州龍興釋可周
  - 漢杭州龍興釋宗季
- 多福寺
  - 宋杭州多福和尚
- 湖光寺
  - 周杭州湖光釋師
- 常照寺
  - 宋慧明禪師
- 天目山
  - 唐天目釋明覺
  - 唐錢塘永福釋慧琳
  - 高峯禪師
  - 中峯禪師
  - 斷崖禪師
  - 大明空谷禪師
- 淨土院
  - 淨土惟正禪師

        - 光慶寺
            - 光慶遇安禪師
        - 武林山
            - 支遁
            - 禪月大師
            - 宋慧亨住
            - 後唐杭州真身寶塔釋景霄
            - 杭州瑞龍幼璋禪師
            - 杭州傾心法[啗-口+王]宗一禪師
            - 餘杭大錢山從襲禪師
            - 瞽菴講師
            - 千歲和尚
            - 海月法師
            - 水源法師
    - 歷朝勳績
        - 浙江
        - 捍江塘
        - 鐵幢浦
        - 西湖
        - 唐君
        - 南湖
- 卷目次
    - 1
    - 2
    - 3
    - 4
    - 5
    - 6
    - 7
    - 8
    - 9
    - 10
    - 11
    - 12
- 贊助資訊

編輯說明

- 本電子書以「CBETA 電子佛典集成 Version 2025.R3」為資料來源。
- 漢字呈現以 Unicode 3.0 為基礎，不在此範圍的字則採用組字式表達。
- 梵文悉曇字及蘭札字均採用羅馬轉寫字，如無轉寫字則提供字型圖檔。
- CBETA 對底本所做的修訂用字以紅色字元表示（黑白色系版本則無顏色差別）。
- 若有發現任何問題，歡迎來函 service@cbeta.org 回報。
- 版權所有，歡迎自由流通，但禁止營利使用。

欽定四庫全書　史部十一　武林梵志　地理類七(古蹟之屬)

提要

(臣)等謹案武林梵志十二卷明吳之鯨撰之鯨字伯裔錢塘人與吳大山稱江皋二俊萬歷中舉於鄉數上春官不第謁選得浮梁知縣卒於官是編以杭州梵剎盛於南宋至明而殘廢者多恐遺蹟漸湮乃博考桑牒分城內城外南山北山及諸屬縣凡得寺院四百二十六所俱詳誌創置始末及其山川形勝後為天朝寵錫宰官護持古德機緣歷代勳績四門分紀名流勝蹟高僧支派各編小傳序錄井然頗有條理其中採輯宋元人詩文如仙林崇先二寺記見曹勛松隱集智果寺記見徐一夔始興集而志俱失載不免稍有漏脫又如宋張敦禮捨鐘者非杭之法雲寺而以名同誤入又撰法相寺碑記者前作范楷後作沈楷亦為參錯失檢然搜剔幽隱無微不至實多武林舊事西湖遊覽志所未載如明遠堂詩次於蘇軾諸作之後而東坡集無之張九成喻彌陀塔銘亦不見於橫浦集張伯雨天池樓詩與本集互異可以參攷遺文軼事俱足為談藝之資正不徒為伽藍增故實也乾隆四十五年三月恭校上

總纂官(臣)紀昀(臣)陸錫熊(臣)孫士毅
總校官(臣)陸費墀

欽定四庫全書　武林梵志卷一

明　吳之鯨　撰

城內梵剎

按舊志三種俱以仙林寺為首今仍之依次分派一自南至候潮門一自北至鳳山門以便觀覽

仙林慈恩普濟教寺

在安國坊宋紹興三十二年洪濟大師智[夕*即]建賜額隆興元年孝宗改賜額曰隆興萬善戒壇淳祐三年理宗賜額曰飛天法輪寶藏又製鐘銘賜之銘曰　大塊噫噓震薄蓋輿眷此洪鐘以實出虛欒銑其角十分其鼓豈有鑄鼎收金遺禹博大闡繹厚薄和均上開天閫下徹地垠乃警聾聵乃割昏曉咨爾有聞孰不心皎以為有聲匪撞不鳴以為無聲如雷如霆作鎮梵宮法音無際鞏我神皋萬有千禩

元至正間張士誠據為軍器局洪武四年重建置僧綱司有司即其鐘樓為郡城昏昕之節正德間徙其鐘更鑄置朝天門仁和縣歲造玉牛迎春於此

天長淨心寺

在仁和北壁後洋街晉天福四年錢氏建南渡後析其地為軍寨咸淳元年興復元季燬景泰間重建

聶大年送僧日福聽講還山詩云　歸去深居遠俗譁莫教巢燕污袈裟從今悟了三生話高倚瓊臺看雨花

寺內有龍華寶閣宋理宗時捲簾使許禎建宋亡禎挈三子居之學佛自晦名出塵菴元延祐元年有僧講法華經天華紛降遂名龍華其時寶閣穹壯冠絕郡城歸併於此者曰清修院正定菴保福院九曲法濟院

宋高宗幸天長賜僧廣寶詩云　大界宜春賞禪門不掩關宸遊雙闕外僧引百花間車馬喧長路烟雲淨遠山觀空復觀俗皇鑑此中閒

壽聖寺

在虎林山上舊名長壽在東青門外淳祐間僧無住光隱重建永樂十三年潮壞徙建今所即壽聖院故址遂名壽聖山上古樸一株為風雨所掣內有大井銀杏皆宋物也殘碑龍鳳御書之寶篆額尚存俗稱祖山寺

虎林山在武林門內一里而近有小土阜高可三丈廣不滿百步宋太乙宮元大青蓮寺在其下宋為雜造局局廢山之陽舊有此長壽寺後易名今額

吉祥律寺

在仁和縣之安國坊宋乾德三年睦州刺史薛溫捨地為寺立今額治平二年改曰廣福南渡初以其地為文思院軍頭司其寺界于兩間仍扁以吉祥之額舊傳其地多牡丹熙寧間名人巨公常賞之寺有觀空閣

蔡端明吉祥寺賞牡丹對月詩　花未全開月未圓看花賦月思依然明知花月無情物若使多情更可憐

蘇東坡詩銘跋八首　賞花人老簪花不自羞花應羞上老人頭醉扶歸路人爭笑十里珠簾半上鉤

花將落而述古期不至　今歲東風巧剪裁含情只待使君來對花無語花應恨直恐明年便不開

述古期明日同至因用前韻　仙衣不用剪刀裁國色初酣卯酒來太守問花花有語為君零落為君開

惜花　吉祥寺中錦千堆前年賞花真盛哉道人勸我清明來腰鼓百面如春雷打徹凉州花自開沙河塘上插花回醉倒不覺吳兒咍豈知如今雙鬢摧城西古寺沒蒿萊有僧閉門手自栽千枝萬葉巧剪裁就中一叢何所似瑪瑙盤盛金縷盃而我食菜方清齋對花不飲花應猜夜來雨雹如李梅紅殘綠暗吁可哀

自跋云錢塘吉祥寺花為第一壬子清明賞會最盛金盤綵籃以獻于座者五十三人夜歸沙河塘上觀者如山爾後無復繼也今年諸家園圃花亦極盛而龍興僧房一叢亦奇但衰病牢落自無以發興耳昨日雨雹如此花之存者有幾可為嘆惜也

冬至遊寺詩　井底微陽回未回蕭蕭寒雨濕枯荄何人更似蘇夫子不是花時肯獨來

後十餘日復至　東君意淺著寒梅千朵深紅未暇裁安得道人殷七七不論時節遣花開

觀空閣銘　過眼榮枯電與風久長那得似花紅上人宴坐觀空閣觀色觀空色即空

大中祥符律寺

在祥符橋畔梁大同二年邑人鮑侃捨宅為寺舊名發心唐貞觀中改眾善神龍初改中興宋真宗時改大中祥符其廣九里子院有千佛閣諸天閣戒壇院內有鐵塔一石塔四錢王所鑿九十九眼井實靈芝大智律師受經之地金人南寇燬于兵南渡初斥為軍器所元初仍建寺至正末燬洪武間重建其傍地盡為軍民之居

蘇子瞻祥符寺上元觀燈詩　紗籠擎燭迎門入銀葉燒香見客邀金鼎轉丹光吐夜寶珠穿蟻鬧連宵波翻焰裏元相激魚舞湯中不畏焦明日酒醒空想像清吟半逐夢魂銷

曾子固詩　月明如晝露華濃錦帳明廊笑語同金地夜寒消美酒玉人春困倚東風紅雲燈火浮滄海碧水樓臺浸遠空白髮蹉跎歡意少強顏猶入少年叢

可久師上元詩　門前燈火鬬分明一室清風冷欲冰不把瑠璃閒照佛始知無盡本無燈

長壽庵

放生池記西湖古放生池也法久而敝實亡名存敝之久而安焉恒產乎水族併迷其名若罔聞者歲在乙未予演圓覺于佛國山之南屏南屏故有池當其三門一時主會諸名公捐資贖而出之植蓮其中斷漁業人由是知放生池為武林舊事既而予復鑿池上方既而北門有園園有池復贖之

園距上方南北相望者半拘廬舍而城之內有二放生池矣頃予碑上方謂以是為之兆兆且引而蔓延之顧予德微年衰不足以風未知繼此而興起者更幾池也上方苦隘僅為池餘少叢竹羽蟲之獲逭其生者聊以依止茲頗閒曠池聯比擴之則濊然成浸水涵而土山壘之則[山/隱]然成山循而界之則幽然成徑相其宜而樹之竹木則鬱然蔭而成林將使嚶嚶洋洋樂而相忘雖無繇擬飛泳亭之萬一而猶冀想像其遺踪則上方所不逮也園以東為興福禪院旋而南為養濟院又旋而西為得一道院養濟昔號悲田聖主賢臣哀煢民之顛連而無告者設也今之困矰餌伏質于刀砧必不可逃而待烹其無告尤甚貿而畜之池縱之林俾終保殘壽慈孰加焉佛示三福云慈心不殺而五福千箕疇亦壽為其最瀕殺而重壽之福孰加焉天地之大德曰生舜之德曰好生德一而已上清下寧侯王所以配兩間之久長貞萬物之壽命者恒於斯德孰加焉儒道釋三聖人之偉蹟鼎峙夫三方若環拱然而園介乎其中是曲阜之仁里摩竭之慈室西華長生葆真之靈宅天合而冥隣也豈偶然之故歟夫救生之滅也而有生求其生而未嘗生也而無生無生然後無不生則生滅一生滅一則福興于無相悲濟于無緣福不可得悲不可得一亦不可得唯法性常住不斷不續同于虛空彼梵網以放生為常住法常住者金剛身無量壽也廼菴其園曰長壽而園有荒廬數楹飭治之為供接引導師及當來慈氏尊像蓋津梁所放一切含靈先生安養息輪廻苦後于龍華而得授記也廬止是無增多以淨戒僧守之守之之方具如上方記中語時里之父老聞予言前執予手歔然太息曰園之源吾弗知之矣吾猶及見二禪人居焉向稔其古為伽藍而業已蔬圃莫返厥初吾何圖重睹今日也是役也始其事者予與化[夕*即]宋君而諸上善人樂助而成斯美利者例得書碑左云祩宏記

青蓮寺

在車橋北宋隆德間錢氏建祥符中改淨戒院先是宋元豐中吳處厚以皇嗣未立上書乞立程嬰公孫杵臼廟詔封嬰為成信侯杵臼為忠智侯廟食於絳後又以韓厥存趙孤三人皆以春秋祠于祚德廟紹興二十年建祚德廟于院內以春秋二仲祭之至正末張氏據聖壽青蓮二寺為府而廟亦廢

崇福庵

在平安坊石晉開運三年僧義宣教厚法師建宋元兵火因仍入國朝復興嘉靖間僧苦徭役乞庇于總戎萬鹿園稱萬氏宗祠幾為所據萬歷乙酉僧能惠等募贖鼎新殿剎宏偉緇侶雲集稱十方禪院馮夢禎沈楩虞淳熙為之記

法輪寺

在觀橋南五代長興中龜法師建於城東湯鎮額曰觀音後改安國宋大中祥符間改法輪洪武間立為叢林永樂十八年潮嚙殿基僧至恂改建今所

棲禪雪洞院

在平安坊吳越王建於艮山門外名觀音院建炎間改棲禪院至正十二年僧時俊作雪洞于今處移請舊額為棲禪雪洞院今併慧雲寺

僧泐季潭詩　洞雪團團白飄來不自風恍疑雲母室如在水晶宮大暑翻愁冷深春未覺融不須燈照夜定起月朦朧

祥止庵禪室虛生白居之最吉祥了經　何待月上鬢不知霜宿恐雲來借寒愁火有妨老禪棲息穩無復夢華陽

興福寺

在斜橋南宋紹興丁卯左丞薛昂以花藥圃施僧慧觀築菴名曰擇勝尋建佛剎請龍山廢興福院額表之國初定為叢林

止止菴

在羲同安谷坊萬歷三十年僧如玉重建

廣壽慧雲禪寺

在三撥營畔宋淳熙十四年張循王之孫鎡捨宅建寺紹熙元年賜額俗稱張家寺有留雲亭白蓮池元至正間燬洪武十七年僧文副重建永樂九年永忠宣德間廣睿弘治元年福海相繼重建萬歷間旁地侵為賽西湖辛亥復原額

僧梵琦留雲亭詩云　人家十萬繡成堆未抵南湖一段奇象輦不來春草綠小亭雲鎖紫珉碑

僧德祥白蓮池詩云　念念西池道路賒東池今已種蓮花他時若到西池上應念東池是故家

吳用先重復慧雲寺建宣義張公祠碑慧雲者張宣義所捨南湖園宅紹熙間請于朝以為寺者也歲久漸湮狹少其額迤東稍稍入軍營而所為南湖俗稱白洋池者亦不知何時并入民居萬歷間復有豪依大璫踞其寺之半并沒其所失額于軍營者即具宮室安處其上為年且二十有餘余與

右轄竇公力清故物盡反所侵併營房悉撤還寺俱復其租慧雲已光復矣已與孫司理喬仁和楊錢塘謀修飾佛宇首建張公祠以酬其宏深之願古今之捨宅為寺者多矣即右軍東山輩皆慧業文人卒不聞親勒文字建之金石慧雲獨有之模豐碑所手書預製發願疏出自血誠讀不能終篇淚潸潸下想見公之為人也史魏國與公同時稱公閒居遠聲色薄滋味矻矻詩文自處不異臞布考之史乘殊非實錄魏國蓋以是飾公焉夫公雄才大畧風流文雅人也玉津討賊之舉公實沈幾製為文章靈心燦出筆彩縱橫絕無書生筆墨之氣蓋非矻矻以此道見者自奉極侈園池聲伎服玩之麗甲天下南湖園世所傳凌霄亭玉照堂諸勝在焉即其排比十有二月之燕遊各有次序而牡丹一會名伎且百數十人梅花之社一棹徑穿十里豈齷齪小生為假令歌舞濃而感慨生杯酌酣而逸興闌此亦稱英雄回首大力矣而考南湖捨寺之年顧即其經始之第二歲諸所賞心樂事之見于南園者乃更其假舍寓居于所捨之後是誠何心哉公之言曰光明藏中孰非遊戲若心常清淨離諸取著于有差別境而能入無差別智則[泳-永+(瑤-王)]坊酒肆偏歷道場鼓樂聲音皆談般若倘情遮物隔境逐源移如鳥黏黐動傷性命又烏知所為說法度人然則公之捨寺也寺與家等捨與不捨等身後之捨與生前之假寓等赤洒白淨不挂一絲真捨矣彼所為滄海桑田之感公實無當焉而圖報福田之論猶淺之乎言公哉乃知真用世人真文人真受享人即能為捨其用世捨其文捨其受享而大展手眼于覺海無邊中也斯寺一區公之自力實足以奠之發願之文猶其誘人者耳寺迄今猶呼為張家寺公之真誠在人也慧雲其舊所賜額踞杭北城艮山門之西南湖之上其中東西井各一原碑載地百畝今清得為畝者五十四有奇為弓者一千三百十七有奇周以界石東底營南界長和巷西許田北負睥睨後之人如有妄覬而搏取之者公之誓文可畏也公名鎡字功甫別號約齋循王之曾孫官宣義郎直秘閣判臨安軍歷右司郎為少卿云

張鎡自撰誓願文云大乘菩薩戒弟子承事郎直秘閣新權通判臨安軍府事兼管內勸農事張鎡右鎡一心歸命本師釋迦牟尼佛當來下生彌勒尊佛西方極樂世界阿彌陀佛十方法界諸佛諸大菩薩緣覺聲聞大梵天王帝釋尊天四大天王韋馱尊天守護正法天龍八部大權聖眾五岳四瀆名山大川祠廟神祇伏望不離真際普賜證明鎡恭以欲導羣迷必闡揚于佛道將興遺教宜建立于僧坊勝福難思契經具載鎡生佛滅後值法住時幸發無上心願學第一義念真乘難逢于曠劫思慧命常續于未來助行欲妙于莊嚴隨力當施於利益深心所在至願方陳閣浮乃眾生選佛之場震旦多大乘得道之器教法東漸而獨此為盛祖師西來而其傳不窮由是眾多之伽藍徧我清淨之國土或據名山勝地或居赤縣神州皆古德之所興實檀那之自創伏遇主上體佛心而治天下崇祖道而護宗門惟錢塘駐蹕之方乃寰宇觀光之地昔相國曾聞十禪之建今在所未見一剎之隆如來演教于王城蓋居精舍宗師接人于閙市可乏叢林都民膠擾而罕聞說

法之音衲子徃來而靡有息肩之處慨斯闕典久矣經懷昨倦處于舊廬遂更謀于別業園得百畝地占一隅幽當北郭之隣秀踞南湖之上雖混京塵而有山林之趣雖在人境而無車馬之喧爰剪荊榛式營棟宇勞一心而經始歷二歲而落成念勝處可作精藍而薄德豈宜於大廈顧棲身之尚賴姑假舍而寓居浮生自嘆于艱虞幻質累縈于疾疚求佛祖之加被祈天龍之護持增長善根銷除宿業年得踰于知命運獲度于多灾必法尊經變穢坊而成淨域定依前哲捨居宅而為梵宮用分常產之田常作香厨之供願主席者皆有道行使掛錫者咸悟心源為東方立光明幢與末世灑甘露雨插草不離於當念布金何借于他緣言弗苟陳誓無終悔鎡切慮事有多障時不待人先期或至於報終異議恐紛于身後宗族長幼朋友親姻或稱亂命之難從或謂名教之有害引屈到嗜芰之說誚王旦削髮之言壞我良因奪我素志以至恃勢力而求據占由賄賂而請住持輒汙招提妄譚般若是出佛身之要是斷正法之輪死當墮于阿鼻生遂遭于奇禍特將此誓痛警若人俾草一時之狂心勿受歷劫之極苦蓋念起立墝廟飯食沙門流通大事之緣成就圓機之善恭願皇圖鞏固睿算增延期永措于兵刑庶宏持于像教上薦祖先父母次及知識冤親八難三塗四生九類悉資熏而獲益總解脫以超輪廣此願心周乎法界作菩提之妙行為淨業之正因佛國俱空畢竟首登于極樂法身非有不妨面奉于彌陀普與有情同成此道謹疏其碑現存書法遒媚酷似小米雲間董太史其昌極珍之復有魏國公史浩撰記學士樓鑰書俱存

七寶寺

在鹽橋東梁貞明七年錢王建名上方多福院宋大中祥符間改今額有六游堂臨暉閣郡守王欽若詩

普照院

俗稱報師菴在鹽橋北晉天福八年錢氏建舊名報國千佛院祥符間改今額洪武十四年僧正宗重修嘉靖八年燬重建

潮鳴寺

在慶春門北梁貞明元年建初名歸德院高宗南渡駐蹕寺中聞江濤聲賜今名寺北有回龍橋高宗嘗作詩賜統制劉漢臣勒石寺中詩云　野寺參差落漲痕踈林欹倒出霜根扁舟一棹向何處家在江南黃葉村兵燹重建洪武二十四年立為叢林

普慈寺

在蒲場巷內宋紹興間僧思淨建元至元間僧元忠修

水月菴

在潮鳴寺東僧道弘拓地四畝搆禪堂焚修其中旁有放生池

蓮居菴

在土橋東古延壽菴址燬于兵萬歷六年里人虞淳熙建懺室延紹覺法師安居而加拓之結禪講期方伯吳公碑定額為蓮居有記

虞淳熙載錢塘志曰廣承字紹覺潘氏子少穎悟師圓鑨勤三七懺精相宗雲棲宏命之代講於天台賢首教模象知形無師自會晝夜聽眾圍繞戒鎧甚堅後觀佛面西而逝

方伯浮渡居士吳用先碑記武林故稱佛國古剎精藍賁相望于山林城郭間然天下莫不重趼而走雲棲者非獨其剎勝也禪教律爭取宗焉四十年來法嗣棊布區中其間紹明教律以一精藍走天下者則無踰蓮居云蓮居為紹覺承上人菴院上人即雲棲首座余既獲叅請雲棲謀以公餘謁講席而竟示寂往矣寒灰老衲飛錫蓮居亟為余道其生平甚悉蓋年未三十已從雲棲大師應期吳越間所至輒命代講儼然堪作人天範矣而猶不自滿假遄歸建懺室禮法華足不窺戶外者六易寒暑嚴淨毘尼研討三藏於台宗尤宿契馬弱冠辯六即義時賢悉為遜席讀法華玄籤會釋過目即能點檢其訛演唱垂二十年四方弟子日益進上人為之搜玄抉秘破難析疑盡形壽無幾微倦色人率擬師智者後身上人欿然自視若未敢膺行于四明荊溪間也既以聲聞行律身又以菩薩行弘法視末世中濫據法王之席而缺篇犯聚空腹高心且哆口增結算沙云者何啻在羣之鶴翔仞之鳳乎以故崛起一隅竭蹷四眾叅雲棲而下即叅蓮居城東咫尺地卓然為海內一時法窟云蓮居當慶春清泰二門之間左負郭右亘土橋門繞清流竹樹環列臨其地者恍然有樂邦水樹之思馬先是依大覺上人於萬歷六年始建二十四年上人復加拓之懺室則德園虞公所建菴名則古鄞屠長卿公所顏余更為酌定者也其徒大真三十五年佃地在菴師歿而真主菴事二三居士復為廣室置產時共四方名宿結禪期講其中宛如其師在時嗚呼天下古跡名區半委之斷崖衰草蓮居以一泥丸馳譽二紀且使子若孫悠然承之可久可大豈非法席之興以人不以地而行寡儀範學無師傅固難以虛聲籠世也哉余故樂而志之使知蓮居所以蔚為世宗者誠非偶然而雲棲一滴水其沾溉固無涯也上人著有心經二解唯識因明觀所緣緣

論記若干卷方謀梓行世其懿行備載銘傳暨錢塘誌中弟子具辨才能升座者甚眾茲不復詳聊志菴居始末如此

華藏寺

在橫河橋東唐清泰二年吳越王建名報恩院大中祥符間改今額淳熙十五年重建

僧濟天岸詩　清泰年間古道場門前馳陌幾炎凉破除客夢憑吟草陪伴禪心有佛香寶地月來清耿耿江城潮落夜鏜鏜叮嚀細栁營頭鼓莫放騰騰更點長

悟空寺

在淳祐橋東晉天福七年僧齊教建名崇新院大中祥符改額淳祐六年法昌重修元末燬永樂元年德兼重建門有小溪茂樹可蔭

長明寺

在螺螄門內晉天福間建宋開寶四年錢忠懿王改名法燈治平二年改長明佛印禪師開講于此元季燬弘治十五年僧如塤重建萬歷庚戌葺治一新

相國寺

在淳祐橋東北百步許北齊天保六年建名建國唐時燬為鄭景宅園景雲初僧慧購為寺值睿宗由相王即位賜名相國元末燬洪武初僧大雲重建置僧綱司於內正德八年僧東明重修尚書洪鍾為之銘

費宏詩　舍衛結禪林幽棲一徑深竹窓懸綠蔓蓮座相黃金解脫身前業遙知去後心坐談那忍別殊為滌煩襟

虞淳熙詩　行到雲深處雲深故不飛鐘聲遲好月詩思轉明璣入午藤花飯經冬薜葉衣那知人世裏辛苦屬輕肥

靈芝崇福律寺

在東花園崇新巷俗稱蠟燭菴唐貞觀己酉年郡人施光慶捨宅建名實際院宋佛印禪師重興元季燬元統間僧妙通重建洪武二十四年立為叢林永樂間徵僧能守纂修永樂大典宣德徵僧如真校修藏典正統徵僧智淳說戒開壇為天下傳戒宗師乙亥年辭朝沐浴坐化皇上遣禮部趙勗

諭祭智淳曰爾夙悟善緣堅持梵行邇膺榮命為釋宗師方闡法音導人為善倏云示寂良可悼嗟靈其如存服茲諭祭賜勅諭祭碑額見存為律宗第一山錢塘縣歲造土牛迎春于此

元時劉伯溫以行省都事坐法宿菴中簡俊上人詩云　城外春江動客愁江邊細草綠悠悠還將短髮臨歧路畏向東風憶舊遊斜日遠天歸鴈急薄雲孤館落花稠青燈不放還家夢一夜腸回一萬

周萬歷壬寅僧如堯重修

大慈菴

在墓園巷宋淳祐四年僧德殊建洪武三十四年僧可觀重修

金剛廣福教寺

在章家橋東晉天成間善杲法師肩負金剛憩息于此夜放光明陳少師感異捨地為寺初名功德院宋寶佑年間理宗賜今額至正末燬洪武十八年重建

有衍慧堂御史謝文昌記萬歷辛亥寺僧常秀捐衣鉢募眾重修

妙淨菴

即古妙淨寺在香餅子園萬歷甲寅沈宮詹淮集善信重建延雲棲僧大雯焚修於此

祇園寺

在東花園獅子巷西北太平興國間僧清照建舊在郊臺側南渡後造御馬院移築于此至正間燬重建

東岡寺

在獅子巷西乾德元年德法師建紹興三十二年賜額永樂十八年僧松巖重建

惠林寺

在蒲場巷紹興初汴僧惠林禪師隨駕來杭建興國院于天慶坊嘉定四年移于薦橋門外報國寺基改名惠林元至正間展城圍入尋燬洪武初

僧曇芳重建

佛惠寺

俗呼壽火星菴在仁和縣之義和坊元大德間建後燬景泰間重建

崇寧萬壽教寺

俗呼姚園寺在高陽閭巷宋初為姚氏花園紹興初僧慈昌購園結菴乾道初賜額淳祐二年建膺福殿以奉理宗御容元季燬洪武初僧大雲重建

慈雲寺

在高陽閭巷周顯德二年僧圓覺建名慈濟大中祥符間改今額理宗書靈感道場四字洪武二十四年立為叢林沙門延禮重修嘉靖二十年燬僧圓鼎重建

水陸寺

在獅子巷南宋太平興國七年生法師建咸淳間僧師則重修內有銀杏二株甚巨蓋宋物也寺故在城外張氏展城圍入

蘇軾寄水陸寺清順師詩　草沒河堤雨暗村寺藏修竹不知門拾薪煮藥憐僧病掃地燒香淨客魂農事未休侵小雪佛燈初上報黃昏年來漸識閒居味思與高人對榻論

白蓮寺

在仙林橋東晉開運元年吳越王建名華藏院宋治平間改妙惠院咸淳間僧祖顯誦經持戒地產白蓮因賜白蓮妙惠寺額

下水陸寺

在平安坊舊名無碍院宋嘉熙三年被潮水衝坍僧行椿于太平橋西南無碍院住寶佑二年奉禮部符據臨安府四月給帖賜額重建改今名東有古栢軒

孝義菴

在菜市橋西即古無礙菴故址萬歷間禪師祩宏重建方伯吳公及郡邑長各助資給箚名孝義無礙菴方伯郭子章匾曰超塵詳司馬宋應昌記

蓮池禪師少與予同業黌校予登仕禪師出家為嘉靖乙丑禪師夙志方外以二尊人在不敢離既先後歲雙失怙恃將力酬所願而室人湯氏年才一十有九前兒殤亡憶子輿之規疑未决已而念風燈石火時不我延遂疾從薙染湯處室齋戒禪誦與其母偕母尋故孑然煢居宗人議後以三姪文彬無何湯亦脫簪珥為尼僧召文彬謂曰茲無所事後不後我固無害彼生而養死而服而殯而祭世法也吾學佛存資鉢衲歿歸闍維耳夫何求哉因舉所有田廬普給羣姪於文彬低昂之而別以居屬文彬已從隣傢舍繩樞蓬門夕燈晨香闃如也嘉禾朱公子衷純追厥先大夫銀臺虞葑先生遺意首事搆菴而予與一時宰官居士比丘某某從臾馬累百金買趙氏故宅宅苦隘水文學施傍屋一楹附益之又歲久頹圮幾盡眾相與施材緇侶之能匠石杇墁畚插者相與施工施力中為禪堂鑿井於左廡餘垣軒厨湢圊備而已予惟禪師無子無留貲無素所憑依故舊親戚僚友湯以年少婦獨御家政伶仃苦辛多歷年所如一朝及其分田割廬皆出本懷亦難矣諸上善人憐而菴之義舉也舉于義則十方常住業也後清信女展轉相續焚修于此菴遠為二尊人莊嚴報土又孝思之道也按府志菜市橋西有古無礙菴其後漸沒入于民家徒而北里之耆氓告予以斯地正菴之舊址久湮忽興殆天意非人力而義以孝不虛孝以義不泯若交相成而不相悖乃沿古證今合而顏之曰孝義無礙菴沈氏子孫尚其念之護之以無忘孝義永為人天福田流慶淵淵後必有昌大其門閭者湯法諱祩錦暨禪師同師關中南五臺性天和尚遡禪師出家逾四十稔蓋行年五十九而菴成

崇恩延福院

在鹽橋下八界舊係西北流寓濠州鍾離縣孔雀妙明寺淳熙十四年嗣濮王請為功德院賜今額

聖壽寺

即永福寺在後洋街宋嘉定元年僧永明建淳祐間賜額永福以奉秀王香火元至元燬洪武初善祥重建宣德十年賜今額

覺苑寺

在豐樂橋東宋嘗徙三聖廟于此改賜額曰旌忠廟寺久廢宣德中重建

千頃廣化院

在木子巷北開平元年吳越王建舊名千頃大中祥符九年改賜今額中興後為臨安府祝聖道場僧了性精于醫善草書東坡嘗為作六觀堂老人草書歌趙清獻公名其堂曰垂慈堂以著其療疾濟人之功

東坡草書歌物生有象象乃滋夢幻無根成斯須方其夢時了非無泡影一失俯仰殊清露未晞電已徂此滅滅盡乃真吾云如死灰實不枯逢場作戲三昧俱化身為醫忘其軀草書非學聊自娛落筆已喚周越奴蒼鼠奮髯飲松腴剡藤玉版開雪膚游龍天飛外人呼莫作羞澁羊氏妹

參寥子千頃廨院觀司馬才仲遺墨詩　朦朧春雨濕村橋竹裏禽啼婆餅焦度谷倦聞車軋軋穿林愁聽馬蕭蕭細窺陳迹僧房靜默想風流鄙俗消浮魄浮魂今已矣無人為作楚詞招

明慶寺

在木子巷北唐大中二年建為靈隱下院大中祥符五年改今額宋中興駐蹕視東京大相國寺凡朝廷禱雨暘宰執百官建散聖節道場咸在焉淳熙十四年六月嘉熙四年七月皆以禱雨車駕臨幸理宗回鑾撒蓋甘雨隨至平章喬肅公行簡獻詩賀上用韻以賜又御書明慶二大字淳祐六年重建法堂御書南山道場為額嘉泰三年建閣藏御書扁曰宸奎萬壽之閣有蘇文忠書觀音經碑及題識大智祖師書彌陀字碑又有法喜堂明碧軒

王荊公為僧修廣作法喜堂詩　浮屠之法與世殊洗滌萬事求空虛心思以此不掛物一堂收身自有餘堂陰置石雙嵽嵲石脚立竹青扶疎一來已覺心膽豁况乃宴坐窮朝晡初憶幼時勇自許壯大看俗尤崎嶇豐車肥馬載豪傑少得志願多憂虞始知進退各一理造次未可分賢愚會將築室反耕釣相與此處吟山湖

沈文通詩　溷溷學佛者營營良足悲不知佛之樂誰使汝學為廣師吾州秀智解乃天資既以法為喜萬緣脫若遺高堂客滿坐妙語破羣疑來者豈不辨辨此堂之題

王荊公寄題明碧軒詩　明碧軒南竹數叢別來江外幾秋風道人無復人間世嗟我今為白髮翁

趙忠簡公明慶僧房夜坐詩　月明窓竹冷橫斜坐看風燈落燼花老眼病餘嫌細字枯腸寒甚怯清茶囊空豈是久為客夢短其能飛到家但有流年尋鬢髮蕭蕭蓬葆靖霜華

菩提律寺

舊在錢塘門外宋太平興國二年錢惟演捨宅為惠嚴寺七年賜額建炎間火紹興中復建有堂二曰南漪堂迎薰堂東坡題南漪堂看杜鵑花詩勒于石至元末築城徙寺于憲司巽方太學街東永樂間節菴守公被召修大典智淳修戒律別原修藏典約宗亦以高行被召四代入覲亦沙門榮遇云正統十一年丙寅七月丁卯朔初九日皇帝遣禮部郎中趙昺賜祭宗師智淳曰爾夙悟善緣堅持梵行邇膺榮命為釋宗師方闡法音導人為善倏云示寂良可悼嗟靈其如存服茲諭祭萬歷二年重建後殿內奉旃檀白衣觀音像

蘇軾題南漪堂看杜鵑詩　南漪杜鵑天下無披香殿上紅氍毹鶴林兵火真一夢不歸閬苑歸西湖

菩提寺小軒晚晴詩　杭穎雌雄本自殊淡粧濃抹是吾姝滿傾漲玉千鍾酒來看鎔銀百頃湖白鳥去邊山潑黛綠蒲疎處雨跳珠不知能似王摩詰貌得西湖落照無

靈壽寺

在曲阜橋東元至正二十一年浙江行省左丞相達實特穆爾建本輝和爾氏世族故稱輝和爾寺俗訛為義烏寺洪武二十四年改今額

安國羅漢寺

即相國寺俗稱西井寺在井亭橋西甘泉坊內宋淳熙十一年開山顯禪師請鳳凰山已廢安國羅漢寺額為額內有大井唐大歷五年鄴侯李相國所開六井之一寺屢燬以井故至今存

上方寺

在溜水橋西僧祿宏重建內鑿放生池

祿宏有記曰武林自宋蹕南駐環湖山禪講律寺粲然棊布星列而郭以內稱焉迨今多半淪沒至不可考諸傳志有上方寺者背倚城垣左右掖湧金錢塘二門前通西井官道蓋肇建後梁貞明七年而國朝景泰四年僧以難事作散去寺隨廢漸蠶食為民居僅存者什一優婆塞沈善能者廬其中嘉靖二十三年尚寶卿六橋徐公得請于官佃為圃公無子以[田/廾]女遺命還寺女孝且賢持契歸王氏遵父囑以[田/廾]雲棲遂復為僧地如初無何王謝世居士化卿宋君聞其義而高之化卿以世祿之裔砥德礪行樂善不厭廼輸金贈二子更與之契予亦罄衣資偕善信旁贖其故址若干向明正位別為廻廊旋所向面城而門取幽寂也期世世承事三寶因諗于眾曰唯上方彈丸重興伶仃衰微何修何營而俾久遠或議闢草萊輪奐

其殿堂羣之以僧僧多則常住予以為不然時丁末法塔寺靡堅試屈指而計凡三門乎闤闠者楗椎之庭不為罇罍之所能幾僧雖多而行寡奚以多為顧茲地隣城城隣湖湖外高而城內卑隨鋤成流亢陽所不能涸因而池之良便以池放生以隙地之敝堂稍葺其莛楹守以二三誠信衲子蚤莫禪誦庶幾上祝皇圖下濟含識得之一舉矣或謂物如塵如沙池一勺耳容有限奈何而庸知夫鑿斯池也為之兆也美引也引而伸之而又伸之汪然徧域中矣昔子產之畜魚一勺也使鄭之人若大夫若士若民皆然鄭之與國若燕趙齊楚輩皆然則池無量所畜無量不然西湖古放生池也謂普容天壤間物寧有是乎哉化卿曰唯唯與其仲直卿諸賢士夫諸比丘淨人有呈財者裹糧者疏其塁而鍬者畚者埋者枯橫泉之撓而扈者槔者埭者固隄防之浸[泳-永+(瑤-王)]崩頹而埤者堙者[石*親]者磩者捍狸與獺而[蘇-禾+又]者閑其外侮而版築者憂其寒暑而上為之[序-予+仌]下為之窟者皇皇乎晝胼宵胝勞不知息兼工再閱月而池成于時在筌而釋當釜而逸洋焉悠焉出而遊馬一勺之內足其從容也予喜且懼稽首而告於十方如來主池神主伽藍神願以佛力法力賢聖力諸神誓願力慈護而威臨之從于今日盡未來際常為鱗介諸水族等棲止安宅又稽首而告於見住僧後住僧願以戒力悲智力念流水之苦躬而澤焦[歹*高]天台之抗章而斷簋梁智覺之負辜成仁蹈白刃而不悔尚永持無斁以風四方敢有叛先盟師陶朱媒利於網罟或倍眾而售之乎白衣是名違佛律犯波羅夷諸所稱釋子者鳴以羯磨遄擯絕之勿共住即朋比而阿神必陰縶其魂顯僇其形無能逃者既免焉其報盡也墮泥犂中嬰萬苦無竟所以者何好生惡死天道也人情也前人捐難捨之貲役所愛之身創五濁世不恒見之勝舉以生必死之命置之安全後人忍不一深思之而惟便其私圖於天道逆於人情不祥從逆凶不祥者災逮鼓桴形影感應自然非危言怖之也化卿及諸大眾踊躍歡喜嘆未曾有作而曰善哉是緇與素之龜鏡也不可使無聞于末法也而碑上方頌曰始舉為興滅而兼得放生豈唯滅不滅生亦無生相生滅俱滅已寂滅何有方以明超於方無方中說上無方說西方其意亦如是作寺作池人願共了斯旨

妙心寺

在湧金門內舊在西湖行春橋南元至正間徙今所

長生菴

在溜水橋西城下為昭慶下院舊有冲靜真人遺址萬歷間寺僧智禮募金贖建正殿掩關六載裝塑千佛羅漢

楊廉夫詩　獨坐清都鶴夢長碧天如水月蒼蒼雲和有樂降王母霹靂無車喚阿香雪泛玉甌茶吐沫花零金剪鉢生光仙風不動庭前竹又送微鐘到下方

趙孟頫詩　流水橋西一徑斜青衣相接到仙家香分橄欖燒銀葉酒瀉松脂溢紫霞綠竹滿堦初解籜碧桃幾樹正開花何時脫却塵凡累來叩丹房九轉砂

聶大年詩　蔬宮琪樹罷棲鸞空有玄都太古壇野老不尋餐玉訣山人自製切雲冠杖龍化去秋池涸笙鶴歸來夜月寒前渡劉郎偏好事種桃留與後人看

比勝廟

司馬宋應昌建雲棲大師弟子真玉修淨土其中

慈濟院

舊在西湖蓮花橋北自牧牛孝公苦志精修事母至孝蓋欲廣慈利濟托跡禪那士大夫咸敬慕之名因稱馬實為開山第一代祖事聞于上賜號弘慈普濟大禪師即額慈濟院元末兵燬洪武壬子年僧行德重闢于南壁積善坊傍有寶覺寺正德十四年僧宗愷重建尚書洪鐘為之記

真教寺

在文錦坊南元延祐間回回大師阿喇卜丹所建先是宋室徙蹕西域夷人安插中原者多從駕而南元時內附者又往往編管江浙閩廣之間而杭州尤夥號色目種隆準深眸不啗豕肉婚姻喪葬不與中國相通誦經持齋歸于清淨推其酋長統之號曰滿剌經皆番書面壁膜拜不立佛像第以法號祝贊神祇而已寺基高五六尺扃鐍森固罕得闌入者俗稱禮拜寺

慈光寺

俗稱鐵佛寺在錢塘芝松坊佑聖橋西晉開運初晤恩禪師建宋寶慶二年清河郡王張魏公割地擴充名張府功德菴元至正燬正統間重建萬歷壬子撤圮殿新之方伯吳用先有記

重建慈光寺碑記武林有佑聖橋旁為慈光寺寺有彌勒尊佛以鐵鑄之俗稱鐵佛寺因以名橋晉天福間晤恩禪師卓錫於此迨開運初寺成師時登座講貫彌年通達法華金光明經止觀論咸洞玄微尋施覆述門弟子相次角立宋雍熙三年八月朔日恩於中夜覩白光自井而出明滅不恒謂

門人曰吾報齡極矣乃絕粒禁言一心念佛次夢擁衲沙門執金爐焚香三繞其室自言祖師灌頂來此相迎汝當長逝夢覺呼弟子至猶聞異香至廿五日為弟子說止觀指歸及觀心義辰時端坐面西而化其夜寺僧皆聞絲竹嘹亮漸久漸遠依稀西去迨九月九日茶毘獲青白圓粒無筭建塔於瑪瑙坡因以事聞上請額御書慈光普照四字顏其門法席之盛甲于通都後宋寶慶二年清河郡王張魏公復捨基廿四間拓而充之共計四畝餘名張府功德菴元至正燬皇明正統立中成師重建而寶覺寺銅佛菴寺屬焉寺有合抱銀杏五株及放光古井皆宋物樹為風雷掣去井甚甘冽給數百家大早不涸咸稱為慈光甘露泉云第闤闠鱗次湫隘囂塵門難旋馬殿亦漸圮寺僧慧皞年十九矢志鼎新閉關書蓮經積三年縉紳士庶鑒其誠共為檀施不脛而馳蓋發願在萬歷甲辰鳩工在丁未至壬子落成中建大雄寶殿高廣踰舊制廊廡門楹委折合度殿左有古逕逶迤紆曲深藏大士居供古佛三尊左右諸天羅漢猊座蓮臺金碧耀射仍重鑄彌勒以識其實約費二千餘金燦然一新其間助成者僧智能護法宰官則中丞金學曾太守凌登名孝廉吳之鯨等贊襄則王介朱佐沈坤戴綸張永年而與會有俞普才者助義田供常住為大殿四時香燈之費噫一念堅持眾緣俱到信非誣矣余觀武林梵宇之盛載在譜牒者什五沿滅大多因山水而存因人而廢如慈光在市廛中無山水之勝而古剎聿隆則皞志可述也余因書殿額為摽而錫之以記

慧安寺

在十三灣巷晉天福間吳越王為明律師建于草橋門外羅木營地元季燬洪武初僧得實移于錢塘保安坊東永樂乙未又移今所少保兵部尚書于謙為之記

寶梵寺

在鎮海樓北晉天福初建于崇新門外名崇壽院宋淳熙二年徙建今所崇寧元年賜額寶梵洪武二十四年併入慈雲永樂元年重歸原所尚書夏原吉為之記

海會寺

吳越王建舊名石佛智果院宋大中祥符間改名積善海會寺嘉泰間燬至正間重建平章庫庫子山書大海會寺額御史大夫慶通書觀音寶殿額成化十年火踰年僧浩中重建

百法寺

在石龜巷宋建炎初僧寶寧建有大佛半身依山鑿石為之淳熙十四年賜額廣潤元時改額百法趙子昂書元末燬天順元年僧道冲重建

寶奎寺

在吳山之陽宋丞相喬行簡故第奇石峭拔東望海門如在咫尺紹定間理宗幸其第書見滄二字又書雙現樓孔山二軸五大字賜之勒之厓石遂捨宅為寺以寶奎請額詔從之元季燬弘治間重建有月江和尚欽取和番化導留彼不回成化改元其徒道澤日持金剛經為課游天目重建昭明道場畢還山是時寺跡瓜分而寺所存者僅見滄石與殿基耳澤具奏恢復逮繫藩司理問所獄仍日持金剛經不徹半年餘岳伯忽夢感老僧覺而徧物色之有以澤言者即出獄見之宛然夢中僧也蘧然驚異即師禮之成化二十三年重建尚書洪鐘為之記

寶成寺

晉天福中建名釋迦院宋大中祥符間改今額歲久廢為黎氏園萬歷壬子方伯吳公清復捐資建大觀樓開砌石徑煥然一新壁間有唐宋時石觀音羅漢像甚古有蘇子瞻寶成院賞牡丹詩　春風小院却來時壁間惟見使君詩應問使君何處去憑君說與春風知年年歲歲何窮已花似去年人老矣去年崔護若重來前度劉郎在千里

詩鐫石壁筆法甚遒其旁有歲寒松竹四字乃成化間吳東升題者

浙江叅政左贊詩　吳山曲徑入西南方丈雲深僧兩三艾納吹風香細細葛藤罥日影氄氄泉分童子青衣洞塵斷維摩白石菴晝省若逢公事了海天送目再停驂

雲居聖水寺

舊名雲居禪菴在七寶山元元貞間中峯禪師建山皆本府財賦地師請而得之芟荊棘夷巖塹搆殿宇不置恒產惟資檀施或持鉢化緣立為常規俾後嗣永守至大己酉傳之中舟復增廣之因闢殿基得古井浚之得三石佛首遂名三佛泉鄧文肅公文原為之銘中峯常居之有雲居八景詩趙子昂墨跡萬歷間都閫某見井中有光掘得磁觀音像瑩然如玉建閣奉于寺舊有法華松數百株蒼虬翠峙為住持歷年損削殆盡又有中峯拂塵麻鞋復有小像一幅神氣如生相傳為中峯自寫上有贊云　幻人無此相此

相非幻人若喚作中峯鏡面添埃塵和甫雙眼碧能辨踈與親請掛向空壁日日生陽春

夏原吉詩　誰闢雲居境峩峩瞰古城西湖晴送碧上竺曉分青經鎮千函妙鐘鳴萬戶聲此中真可樂何必訪蓬瀛

沈夢麟聖水寺詩　白雲長繞梵王居湖上諸山總不如客至每煩塵榻下詩成那問酒尊虛摩挲修竹三年別抖擻塵襟一旦舒更待牡丹庭下發重期來此賦元輿

上方菴

為聖水下院與法華松接武峭石林立中有一滴泉極巖壑之勝昔東坡共佛印時過趺坐於此泉滴如注寺僧苦為游觀累鑿敗而石現存

金波禪院

即金波廟在金波橋宋淳熙元年建勅賜聖旨二字東坡書扁見存萬歷癸卯慈光僧圓美慧暉重建歸併慈光寺普照堂中丞金學曾有記

寶嚴院

在七寶山唐清泰二年錢氏建名瑞隆宋治平二年改今額寺有垂雲亭借竹軒淳祐間建佛閣理宗御書無量福海四字

陳古靈垂雲亭詩　小亭巉絕出雲間萬象升沈不得閒莫怪詩翁頭白早時來向此寫湖山

東坡詩三首　江山雖有餘亭榭著難穩登臨不得要萬象各偃蹇惜哉垂雲軒此地得何晚天功爭向背詩眼巧增損路窮朱欄出山破石壁狠海門浸坤軸湖尾抱雲巘葱葱城郭麗淡淡烟村遠紛紛烏鵲去一一漁樵返雄觀快新獲微景收昔遁道人真古人嘯詠慕嵇阮空齋臥蒲褐芒鞋每自捆天憐詩人窮乞與供詩本我詩久不作荒澁旋鋤墾從君覓佳句咀嚼廢朝飲

臥病彌月垂雲亭花開順閣黎以詩見招次韻答之曰　道人心似水無礙照花妍燕坐春強半清陰月屢遷平生無起滅一念有陳鮮嫋嫋風枝舉離離日薨蔫病吟終少味老醉不成顛何必遨頭出湖中有散仙

僧怡然以垂雲新茶見餉報以大龍團仍戲云　妙供來香積珍烹具大官揀芽分雀舌賜茗出龍團曉日雲菴暖春風玉殿寒聊將試道眼莫作兩般看

廣嚴寺

在七寶山清泰元年錢氏建舊名瑞隆宋治平二年改是額寺有雙竹甚奇南渡後分寺基為御廚營景定初重建王架閣應鳳撰記又有司馬文正公詠雙竹詩并序草木類同而種異者竹為多杭州廣嚴寺有雙竹其狀尤異于枯樹腹中自其頂出森然並竦樹如龍蛇相縈矯首呀然余遊見之為賦詩曰　雙幹根枯腹青青凡幾霜龍騰雙角直鯨噴兩鬚長既欲尋支遁安能問辟疆屢來非別意未與此君忘

蘇東坡遊七寶山并序去年秋遊七寶山上方入小院闃然無人有一僧隱几低頭讀書與之語漠然不對問其隣之僧曰此雲閣黎也不出十五年矣今年六月自常潤還復至其室則死葬數月矣作詩題其壁云　雲師來寶山一住十五秋讀書常閉戶客至不舉頭去年造其室清坐忘百憂我初無言說師亦無對酬今年復扣門空房但颼颼云已滅無餘薪盡火不留卻疑此室中常有斯人不所遇孰非夢事過吾何求

開元寺

在鳳山門內唐玄宗時建宋建炎間徙建于西湖元季兵燹復徙故址正統五年禮部尚書胡濙記

劉士亨贈寧和尚詩　清平山下古叢林主席如師道行深菩薩每分香積飯伽藍常護給孤金誦餘千偈燈生暈坐斷諸緣樹轉陰媿我未能修淨業塵勞空役利名心

開寶仁王寺

宋汴京開寶寺有仁王院高宗南渡僧慧照隨駕卓錫于此遂建寺如汴京紹熙二年賜額景定五年燬景泰間重建尚書孫原貞記

薩天錫登橫山閣詩　千尺青蓮座烟霞擁地靈山川幾兩屐日月兩浮萍鳥渡天垂海龍歸水在瓶深堂說法處應有石頭聽

定水寺

宋乾道八年建於萬松嶺嘉定八年移清波門外元至元十三年築城徙七寶山佛泉巴西鄧文原為之銘曰　我觀大地積水所載孰疏鑿是太虛無外掘地及泉視之縈帶如履冥塗破諸障礙其源淵谷其瀉湍瀨不止不流以與井會瑞相見前示我三昧彼壞者石實相不壞是實相故遍恒沙界以一勺甘除世渴愛是相是水無在不在我作銘詩以警盲瞶

戒壇院

在祥符橋內有鐵塔基錢王井經畧宋應昌贖建延僧廣泰住持



武林梵志卷一

總校官庶吉士(臣)朱鈐
校對官中書(臣)吳甸華
謄錄監生(臣)李大任
詳校官太僕寺少卿(臣)李廷欽
編修(臣)程嘉謨覆勘

欽定四庫全書　武林梵志卷二

明　吳之鯨　撰

城外南山分脈

由鳳山候潮上至風水洞下至艮山

梅竹菴

上中下各據其一在萬松嶺境路幽仄高可眺江

般若院

在上梅竹左徑舊廢萬歷甲午僧真誠定淳重建有普同骨塔

報先菴

在孔家山萬歷己亥僧普明建仁和令劉洪謨倡緣樊良樞有碑記并卓錫青松額

樊良樞鳳凰山報先菴記鳳凰山都會神皋也山之陰萬松書院本報恩招提舊址弘治中參知周公毀寺建院祀先師孔子配以四賢令孔氏子孫世守之號曰孔家山云山夾道多巨松蓊薆盤鬱自萬松坊迤邐入有半剎焉曰報先萬歷己亥普明上人來自匡廬卓錫茲山吾鄉劉公洪謨為邑宰于斯也邑人直指金公階州牧孔公承士請復為菴菴環堵皆山也左薄湖濱右挹江濤拱城闉而負八蟠可盡茲山幽絕之勝山後有古松三株婆娑偃仰有千霄凌風勢則郡邑之陽所隱映也普明坳後弟子庶勝能守其衣鉢勝亦吾鄉人也所奉象教移自廬山崴以西江檀越餉米為伊蒲供惟飲茲山泉水爾泉皆自來從石罅中流淙淙足供茗碗諸比丘皈依勝上人漱風嚥月諷誦不輟高足肅然予觀虎林招提之在湖山者未有不以湖山累者也叢雲香閣飾以丹璇碧澗竹林雜以金翠則中央渾沌鑿矣市聲喧豗車塵霧起歌舞雜遝壺觴交錯遂令淨土化為火宅良可愾歎獨茲山與市墨遼邈幸不為人所居而菴踞長松修筠之間白雲一塢流水一泓優鉢花香菩提樹茂庶幾清淨之場勝上人與諸比丘逍遙雙樹繙演三車惟聞空中山谷荅響而已上人匄予一言為山靈護此山有靈後必有供養護法即如劉公與予不佞先後合揆雖使佛氏精舍與孔林並存可也

報國寺

在鳳凰山麓即南宋垂拱殿基殿角銀杏樹有實無心楊載錢塘懷古詩云萬年珠樹落秋霜盖指此也至元十一年賜額禪宗大報國寺妙濟禪師開山延祐六年燬僧大訢重建元末燬于兵洪武二十四年立為叢林萬歷丙午僧海音新葺舊有大雄殿大悲閣碧梧軒舞鳳軒皆宋制元廢南宋大內為五寺而此獨存

梵天講寺

宋乾德中吳越王建名南塔治平中改今額元元統中燬永樂十五年重建有靈鰻井金井石塔二高五丈列門之左右先是四明阿育王山有靈鰻井吳越王迎阿育舍利歸梵天寺奉之鑿井南廊鰻忽見寺以蘇東坡為伽藍與玉岑山為二僧賛寧有記

王在晉重修梵天寺建觀音閣碑記杭有鳳凰山唐以前建州故吳越為國治宋南渡以山為行宮山如翥鳳兩翅翩然左薄湖右掠江碧流瀠溯水光相映山之東麓環入宋都宮禁苑蒼翠華麗佳氣鬱葱經鳳山門折而南又南折而西為梵天講寺宋乾德三年吳越王所建也初名南塔治平中改今額燬於元元統間重翬於永樂十五年盖年久而傾圮矣僧成杉于嘉靖甲子建佛殿仁良于萬歷甲辰建天王殿山門來綸於萬歷壬子募鄉紳洪給諫黃儀部等仝建觀音閣而梵天古剎煥然增飾焉又鑿得水池泉窖題名玄鏡而南塔故墟儼然稱勝焉夫自宋乾德至今為年六百五十寺經幾燬燬而復興無改於乾德之舊法宮梵宇與江海湖山同茲永奠回視和寧祥曦集英崇德明堂郊祀翬飛翼拱變為綠莎蒼薺金鋪鐵葉化為枳棘銅駝亭臺囿圃踐為甌窶汙邪兩川晴霽萬家煙火若明若滅如聚如散空中之色色色成空而獨最勝招提法身非相無假三輪常依無住之住盖皇王大業有而非有雖凌厲一世率歸於無空門淨緣無而非無即興歇相尋仍歸于有有歸于無視循環之天命無歸于有藉不朽之人心人心常有則佛法如在佛以無相為體以不住為宗以妙有為用三塗法界總集諸天護持消磨刼煞佛說無盡法我願世人結無盡緣吳越宋元偏全世界眼底一瞬法華圓滿寂照堂前年復如是請觀靈鰻井問四明阿育王三界浮沉倏忽變遷徙倚孰無孰有山頭明月夜夜照人來去不似宋行宮凄凄冷冷也只今梵天無改諸達官標題具在其合掌以告之諸天是為記

僧守詮詩　落日寒蟬鳴獨歸林下寺柴扉夜未掩片月隨行屨惟聞犬吠聲又入青蘿去

蘇子瞻和詩　但聞煙外鐘不見煙中寺幽人行未已草露濕芒屨惟應山頭月夜夜照來去

寒食遊南塔寺寂照堂詩　城南鐘鼓鬬清新端為投荒洗瘴塵總是鑑空堂上客誰為寂照鏡中人紅芳歸去風驚曉綠葉成陰雨洗春記取明年作寒食杏花曾與此翁隣

棲雲菴

由梵天中山居循徑而上高樹密篠彷彿觀江濤幽閒可結禪習貫酸齋棲隱處貫之父楚國公貫濟格裕實遂以貫為氏號曰酸齋年十二三膂力絕人使健兒驅三惡馬疾驅持槊立而待馬至越二而跨三運槊生風觀者辟易或挽強射生逐猛獸上下峻阪如飛稍長折節讀書目五行下菴其脩藏之所也西可達龍華寺

勝果禪寺

唐乾寧間無著喜禪師建吳越王鐫彌陀觀音勢至三佛及十八羅漢像於石壁宋慶歷初郡守鄭戩奏請額曰崇聖寺至正燬洪武初盥初敬公重建苗衷有記永樂燬嘉靖戊午僧正因復建寺門向有江山勝槩額蔣公暉題并書榜云入深松徑開名剎上盡雲峰見大江山形翔舞如鳳江潮平湃松徑盤紆澗淙潺潨真偉觀也殿旁為將軍池鐘樓鐘本宋景陽舊物嘉靖間胡中丞取鑄為軍器壬子重鑄仁和令樊良樞有鐘樓記登顛為千佛閣廢基上為三松頂側為崇聖塔相傳高七級二十餘丈宋景祐建下為柳浦綠蔭垂垂無異官堤桂洲夏公讀書其問題曰天峰孤嘯筆勢飛舞今在松濤閣有介亭祖無擇建中峰亭中峰習禪定於此忠實亭高宗御書鳳山二字宋洛王書金星洞晦夜放光石通明洞飛龍石飛雲洞上天梯觀微石許僧泉泉不盈握大旱如注臥醉石霧岩題石平如掌長江在枕上歸雲洞躍雲石石側為竹塢即懶耕禪師塔院僧洪恩書檀欒齋吳之鯨額乘鷺閣并榜云踈徑曲穿藏異石紫蘿深護吸天花盖竹與石交勝云循級而上即月岩規峰削立有隙如鏡中秋子夜相映如合璧題詠半多蘚剝伏石如虎大中丞梅林胡公望海烽崇飲于此至今有去思碑最上為御校塲宋殿前司營親軍護衛之所石笋隊列名排牙石一名隊石相傳孝宗時登頂閱江操執鐵杖六十觔許上下如飛以志恢復一稱女校塲至此則江湖俱在指掌而龕赭對峙海門一線盡入覽觀矣

唐僧處默詩　路自中峰上盤迴出薜蘿到江吳地盡隔岸越山多古木叢青靄遙天浸白波下方城郭近鐘磬雜笙歌

王介甫詩　登高見山水身在水中央下視樓臺處空多樹木蒼浮雲連海氣落日動湖光偶坐吹橫笛殘聲入富陽

蘇子瞻登介亭餞楊傑次公詩　籃輿西出登山門喜與我友尋仙村丹青明滅風篁嶺環佩空響桃花源前朝欲上已蠟屐黑雲白雨如傾盆今晨積霧卷千里豈畏觸熱生病根在家頭陀無為子久與青山為弟昆孤峰盡處亦何有西湖鏡天江抹坤臨高麾手謝好住清風萬壑傳其言風回響荅君聽取我亦到處隨君軒

圓法師詩并敘云勝果名剎相望而高軒虛閣盡得江山之勝槩因謝宣城天際識歸舟雲中辨江樹之句頗類是景用以為韻成詩十章寄勝果裕師開士雖不足發揮騷雅庶寫相懷之心耳　江色杳無極渺渺接遙天歸帆帶夕陽去鳥衝寒烟幽景不同觀遐想成斯篇　樓閣聳岩巃參差極雲際高牕曉色鮮晚景餘霞麗寥寥羣動息冥心遠塵世　冷淡杳難羣幽趣惟吾識高情薄雲漢清談潤金石不學浮世人奔名競雕飾　惟靜百慮忘軒開萬象歸空江荅夜鐘高嶠留殘暉幽砌絕塵踪孤雲自依依　顧惡如探湯觸物類虛舟他人莫己知此道本吾求獨坐時相懷斜陽下危樓　崔巍高山側觸石生片雲自將霖雨期不與塵士羣杳杳游太虛對此幾思君　高蹟將誰親幽棲白雲中閒階吐蒼苔古木生清風時將西竺詩講議訓來蒙　靜躁各所好是非安能辨聲利如我仇雲泉若牽挽寂寂深林中芳菲自堪翦　羣峰聳危碧倒影沉空江清景生晚晴冷色涵虛牕逍遙縱吟賞能使吾心降　海日照吟軒江風動庭樹此景樂間情何人識高趣登樓獨南望杳杳空烟霧

王伯安詩　江上但知山色好峰迴始見寺門開半空虛閣有雲住六月深松無暑來病肺正思移枕簟洗心兼得遠塵埃富春咫尺烟濤外時倚層霞望釣臺　深林容鳥道古洞隱春蘿天迥聞潮早江空得月多氷霜叢草木舟楫玩風波巖下幽棲處時聞白石歌

豫章王孫朱多烜登勝果詩　大內離宮已盡荒空餘臺殿鎖醫王諸天欲雪藤蘿紫淨土非春草木香山到隔江排作鳳石眠當路叱為羊攀援削壁窺奇絕海月先穿一線光

蕭一中詩　秋月同看此夕圓坐中風景共悠然微茫山色青天外隱見江濤綺席前蓬鬢漸因時節改壯懷徒為世情牽巖前高閣空寥闊莫惜清樽酒盡添

鄭繼之御教塲詩　萬峰雲木鬱蒼蒼故壘仍存閱武塲南渡關河雙眼盡中原風物百憂傍尚傳草莽開黃屋想見龍蛇遶御牀徃事只今俱灑淚兩階千羽意何長

仁和令樊良樞鐘樓記鳳凰山志稱鍾一郡王氣而勝果寺居其翠微釋處默詩云路自中峰上盤迴出薜蘿遂為千古名勝上方鐘磬與下方笙歌齊鳴荅響抑何盛耶自昔唐迄宋明歷千劫矣舊有巨鐘每晨鳴如鳳應朝陽歲久鐘從樓圮寸莛不發道塲岑寂郡邑風會若或缺焉萬歷庚戌之夏樊子宰是邑會壑上人登猊座說楞嚴經予數過從因笑謂壑公淵明過虎溪乃不聞鐘故應不攢眉去耳于是吳伯霖為南郊檀越與壑公謀興道塲首議三亟而鳧氏之鐘為最虞長孺先生感而疏之謂予喜聞桐魚之扣必能引七寶杵發此鯨音也夫引七寶杵者余則安能壑公高座撾鐘說法令三千大眾盡開聾聵余亦能扣者耳若夫長孺以大覺証菩提伯霖以大乘觀聲聞予尚不能闇解庶幾聞此霹靂聲醒我睡夢中人也華鐘既鏗鳳凰其鳴郊雉皆雊蒲牢震吼政於是和地於是靈人文於是乎興鐘亦綦重

矣鐘樓成而後開薜蘿之徑啟松濤之閣舉中峰歸雲二三室次第振飭此伯霖所謂素樸畧施點綴而曇林蓮社共證勝果者也

樊良樞遊勝果寺　一徑青蘿合逶迤白石橋天[仁-二+氏]吳苑樹地圻浙江潮寒晚催僧臘春雲斷野樵言尋無著子雙澗落風瓢

月巖夜坐　長林穿窈窕巨石劈谿岩磴轉團風葉巖空結雨花步檐窺月脇拂渚下星槎不記歸時路春燈亂暝鴉　夜宿松濤閣古剎開幽徑長松漱碧谿卷簾江色近隱几石幢[仁-二+氏]林暝深巢鶻潮生遠應鷄獨憐僧夢穩片月下窓西

鳳凰山懷古　滿目山河似裂繒鳳凰峰勢鬥崚嶒百年霸氣迷秦望萬樹寒煙積宋陵江浦聽鐘潮乍落海門凭檻月孤升登臨不下牛山淚林杪幢幢見佛燈

善應總持菴

在尊勝巷宋開寶六年錢王建於西湖南山曰總持治平二年改寶林院有可賦軒景定間遷建於便門鐵箭巷改善應總持元至元三十一年復遷建今所

張孝祥可賦軒詩　光明玁玁上烏巾不羨西湖爛漫春借我繩牀對脩竹為君一洗軟紅塵

圓通菴

去總持可百武宋紹興間僧德厚建門有大井極甘冽通鳳山泉脈萬歷間僧德雲圓曉重修(從此自東而北至艮山門)

福田慶壽寺

在候潮門外普濟橋宋寶祐二年徐路鈐捨宅建寺請額曰福田以居白石皓禪師元至治間燬泰定間重修復請額加慶壽二字洪武二十四年立為叢林

延聖寺

在候潮門外宋乾德間吳越王建於清波門外名土宿院天聖二年超法師沿江施食以濟修堤之士詔移院于今所賜額延聖嘉定年間御帶陳玉節於寺側建天妃殿崇奉海神元元統乙亥重建洪武二十四年立為叢林

普濟寺

在候潮門外普濟橋對宋太平興國元年建有理宗元命殿御書曰祈永度宗元命殿御書曰申祐皇太后元命殿御書曰順福有閣以奉觀音大士御書曰圓通寶閣石碑具存元初以祈永殿奉五顯之神元末燬國初重建周宣靈王祠

萬壽寺

在江口寺內有鰲背觀音像甚古俗稱淨因羅漢萬壽觀音即此也門有江陽第一山扁

資教菴

在候潮門外宋大中祥符元年僧堯道夫啟初庭建名火星菴宋末燬元大德間生禪師重建請額曰火星資教院洪武二十四年歸併延聖寺

潮音菴

在候潮門外大郎巷元延祐間僧永暹建

黑菴

在跨浦橋

吉祥寺

在欞木營左宋紹興間建於皋亭山咸淳九年移建今所洪武二十四年歸併福田寺

寶華院

在欞木營東灰團巷口伏虎廟側

聖壽禪寺

在永昌門外灰團巷俗稱小新菴嘉隆間無塵禪師燃指供佛持戒精猛殿廡俱重新

鎮海禪院

在永昌門外仁和縣會保四畾瀕江為剎俗稱海潮寺萬歷三十一年僧如德性和海仁建地約五畝餘郡邑給帖焚修接眾凡進香普陀者必聚足於此猶徑山之有接待院也與巽峰新塔相望

真如寺

在永昌門外真如巷宋建炎三年僧普慧建洪武十三年僧俊堂重脩

正定菴

在永昌門外陳鐵巷元至正間建

普陀菴

在永昌門外近江塘銀杏樹元至正間僧立宗建

永慶寺

在清泰門外宋時楊節使香火開寶二年建紹定三年燬景定四年重建元大德至正間曉夫師重建

延壽白石寺

在慶春門外宋建隆二年建於艮山白石村元至正間燬洪武三年重建二十四年立為叢林永樂十二年移建今所

崇福寺

在艮山門外宋雍熙間建大中祥符元年改今額大觀間燬紹興間重建元末燬洪武十六年復建

因果寺

在艮山門外晉開運二年錢忠懿王建名崇壽宋大中祥符元年改今額元末燬洪武二年重建

寶界寺

在艮山門外梁貞明間建於城中名翠峰宋治平間改今額移建今所

定香寺

在艮山門外宋乾德四年建於西湖上今定香橋是也名香積院治平二年改今額寶慶間建旌德觀移建今所

月塘寺

在艮山門外何[衝-重+賣]店宋淳熙間建在月塘之北嘉熙三年潮壞徙今所元至正初潮水復壞徙高原尋燬洪武間重建月塘者沙田也土脈宜瓜宋有周姓者善種瓜號周家算筭[瓜-丶]側有中新院

正宗菴

在山川壇北元至大間僧大方建(鳳山從此自西而南至五雲山雲棲寺)

大慈禪寺

俗稱包山寺宋乾道九年僧德殊建淳熙間賜額寺後石壁蒼翠古樹葱鬱有泉甘冽不減中泠虎跑

下天真寺

與包山聯界齊高宗朝建武年普正大師建永樂元年洪演法師重建成化二十三年毒峰善禪師重建善師建十剎之一也

六湛菴

在邊家山其上為桃花關石壁有蒸霞二字桃花嶺側有福泉菴

善慧禪寺

元延祐間建伏龍岡禪師道塲有涼馬池

袁福徵詩　岡迴壁障宅清池扈蹕歸林飲馬孳勝地賴僧全據有為園須客小規隨林端宰樹無尋主窓下經鐘伏講師境絕通江泉竇出青藜

惟許校書知

真覺院

洪武初徐一夔有記

淨因寺

在和肅坊元延祐己未僧斯受建有銅佛三像銅塔一座桐木十八羅漢像元末燬洪武庚午僧法瀾等重建弘治壬子僧宗謚等萬歷癸卯僧鳴奉明濟等相繼重修昔有道人竊銅佛一臂以去未幾臂腫潰不可治哀悔投誠化金修臂而逝俗稱新寺

普福菴

在桃花嶺下石井上

萬壽菴

僧智光智燈建

奉聖禪寺

舊名廣福院在鴻鴈池北宋開寶三年一真法師建大中祥符元年改今額正統十四年僧廣仁住持重建歲久傾圮萬歷丁酉僧圓松重建觀音殿一真堂馮夢禎題無諍軒大雄殿殿前臨池有彌勒殿後有大用全行中仁兩法師塔辛亥落成

黃汝亨贈寄雲行空原不礙出岫總無心汗漫人間世因依祇樹林和風臨翠盖倚日上高岑五色誰能擬峰峰托影深

普寧菴

在鴻鴈池南宋孝宗隆興元年道慧禪師開山請額宋末燬元仁宗皇慶二年僧了清重建洪武二十四年歸併萬壽寺萬歷元年重建僧宗林字大章號朽菴弘治八年欽宣到京提督五臺山校正清凉通傳入藏正德間欽賜紫衣玉帶法王佛子大宗師後歸北京西直門外大香山寺欽建宗師府賜祭嘉隆間坦然寧禪師解脫能文作偈擲筆而逝

朽菴詩　新命傳來墨未乾櫛風沐雨上長安低頭懶進三公府洗足羞登萬壽壇聞戒過多持戒少承恩雖易報恩難何如只向山中住松竹蕭蕭共歲寒　再拜下楓宸衣香御路新九門三月雨千里一歸人馬踏殘花路鶯啼細柳春因思頭白母心火熱如焚

坦然師自讚偈云　開化住山活埋叟氣弱神衰形貌醜惟耽眼底看拈心懶向人前閒論口自從學做個中人一步不曾圈外走虛名日午打三更假相面南觀北斗徒眾門人得許多冷債家錢俱沒有留下一條柱杖子接振宗門須後手坦然用處活如龍後與兒孫龍未守何如得我本來真紙墨壞時渠不朽只在傳心是遺囑無羣野犴作獅吼呵呵痛棒痕消屈自伸莫問天長和地久

道林寺

在普寧菴西廣順元年建額普濟院大中祥符二年改額元祐七年庚申松巖法師重建至正初僧恩斷江增廣之且為化人壇至正末燬重建

龍華禪寺

舊名龍華寶勝錢王以瑞蓼園捨建有傅大士塔像拍板門槌今皆不存傅大士故漁人也遇嵩頭陀語曰我昔與汝於毗婆尸佛前發願度生汝今何時還兜率宮指令臨水觀影大士乃見圓光寶盖便悟前因夫婦雙修頓通佛法梁武帝召見壽光殿共論真諦大士曰息而不滅帝又請講金剛經大士揮案一拍而起帝不喻再請講大士乃索拍板升座唱四十九頌頌終而去

蘇子瞻大士像贊云　善慧執板南泉作舞借我門槌為君打鼓

宣德四年建傍有十景瑤華洞千官塔聞經臺法華池落日崖四顧坪望海松片雲石奇雲洞白龍洞舊為貫雲石別業有司馬溫公祠今廢山麓有宋臣齋宿題各隸書石刻今存

兜率菴

在四顧坪右古壁有小石佛三尊乃傅大士宴坐處僧佛石結菴於此傍為奇雲洞壁間詩有越山吳地半江分之句左又一洞內有石儼然觀音像因名山頂有圓池相傳有彌勒殿菴即理安寺下院菴傍有無塵禪師塔

永壽禪寺

在慈雲嶺舊名資仁後改上石龍永壽院吳越王建石壁上刻宋仁宗佛牙讚一名石佛寺左江右湖大堪振衣奇巖黝洞荒葛蒙罣萬歷間新築石亭議依石建閣以收大江全湖之勝工未就

上天真寺

在登雲臺梁龍德元年吳越王建成化年毒峰善禪師重建殿後石洞中即毒峰真身覆以缸龕古色凜冽有毒峰語錄十卷行於世板存寺中

天龍禪寺

在慈雲嶺之陽唐真覺禪師建宋乾德三年吳越王建以居鏡清禪師大中祥符元年改名感業建炎三年大火唯木觀音像獨存紹興十三年建圜丘以淨明院為齋宮以感業居從官從此僧徒漸散而寺亦圮元延祐間僧道平重建至正間南北兩山諸剎或毀或頹惟天龍僅存寺有堂扁曰天龍趙子昂書曰天龍深處俞本書曰山舟貫雲石書寺中有凝翠井寺外夾道植松王鼎書松關扁於谷口元泰定平大道貴無用兩禪師重建嘉靖間燬明迪明壽重建萬歷二十三年寂時普鈺鼎新之有大雄天王觀音三殿東西隱

余士吉詩　龍飛鳳舞兩峯迴王氣纔銷梵宇開卓錫地侵行輦地雨花臺近拜郊臺草分野色緣城去風引江聲入寺來三百年過如昨日老僧猶說舊蓬萊

劉士亨山舟詩　高僧住處屋如舟臥穩渾無夜壑憂篙櫓不施隨地泊波濤已斷樂天游香飄半入蒼龍窟夢落多迷白鷺洲喚起酸齋狂學士虎溪溪上共夷猶

淨明院

郊壇齋宿有易安齋梅花巖高孝兩朝御和詩滿山皆樧椐舊有江月菴竹寫亭

天華禪寺

舊名千春龍冊天龍禪師說法於此因散天花名說法臺宋淳熙甲午鏡清禪師有傾軒妙音樓化生池即禁蛙池說法時叱蛙不鳴故名嘉靖間里人夏素菴捨山僧德隆重建

勝相寺

俗稱五丈寺萬歷間燬僧如准重建

程中書珉作寺記寺負錢塘就山唐開成四年建曰龍興千佛寺後西竺僧曰轉智冬夏一楮袍人呼紙衣道者走海南諸國至日本用五金鑄千佛塔以五百遣使頒日本使者還智附舶歸風鳴海洶舟且傾智誦如意輪呪俄見如意珠王相十首八臂度十丈風息遂濟智謀揭高梁可容十丈勝相以荅佛施時千佛寺乃僧光主之有閣高八丈以閣為殿主五丈之像者二合為十丈治平中改賜今額宣和間灰於臘寇唯勝相一閣屹然雲際不墮劫火紹興初光之孫曰清中興之清有孫性奕世經理乃克大備乾道間光堯皇帝聖子神孫三殿臨幸頒賚甚渥由是聲益振今師壽者性之法子清峻自厲壯耄一日架鐘繚廊宿仆盡起增光疇昔東朝帑賜之風動遐邇而舍予日至且有施田以惠亡窮者嗟乎見十丈無影之形而奪海航之人於魚龍之腹要為奇事至於動三殿之臨幸感東朝之恩錫豈偶然哉紹定己丑仲夏記

妙因菴

在妙因山有普同骨塔傍即吳越丈穆王墓

保和寺

在龍山下閘有鐵沙河水遶寺右流出官河宋寶祐甲寅建至正元年重建嘉靖三十四年僧圓珍重修萬歷二十七年僧寂誠重修

九曜寺

在擔水巷俗稱安家堂安家捨堂為寺故名相傳宋曹彬下江南時建至今奉彬為土神宋紹興中普明禪師開法席苦近地無水夜夢神從地見旦泉湧甚甘今稱龍山泉亦稱上井殿久圮嘉隆間僧上菴真定相繼重建

廣澤禪寺

舊名甘露晉天福六年吳越王建有泉一泓甘澄可愛若甘露然故以名寺宋治平二年改額廣澤洪武九年僧東明建正統間毒峰善禪師重建嘉靖十五年僧天祥真重建有甘露橋入徑度山課嶺有引路松數百株

定慧禪寺

俗稱虎跑寺唐元和十四年僧寰中建憲宗賜額曰廣福院大中八年改大慈禪寺僖宗乾符間加定慧二字宋末燬元大德間重建又燬正德十四年寶掌禪師重建嘉靖十九年又燬二十四年山西僧永果重建

宋濂虎跑寺碑記虎跑泉在杭之西湖南山大慈定慧禪院距城十里而近唐元和十四年性空大師來遊茲山樂其靈氣鬱盤棲禪其中尋以無水將他之忽有神人跪而告曰自師之來我等徼惠者甚大奈何棄去南嶽童子泉當遣二虎移來師無憂也翌日果見二虎跑山出泉甘冽勝常大師因留止建立伽藍宋蘇文忠公守杭日為之賦詩有虎移泉眼趁行脚之句盖紀實也大師諱寰中蒲坂盧氏子得法於百丈海一時龍象如南泉願臨濟玄趙州諗巖頭灥雪峯存無著喜欽山遂咸來咨叩道要則其德服鬼神彰灼靈異有不難致者於戲拔劍刺山水為之湧折腰拜井泉乃仰流武夫健將一誠之所格尚若此況大師心悟無際者乎洪武戊午冬十有一月濂朝京師道經山下今主僧定巖戒有道之士也要濂觀泉且被法衣率其徒同舉梵呪久之泉鬻沸而出若聯珠然已而微作湧勢濂心異之遂為作銘銘曰天一所形厥質乃凝潛行重淵與氣俱升至人來居地不愛寶誰信清泠生於虎爪山后川君與道為謀肯私一勺不師之留師既留止作泉為雨式沛且滂潤於千里幻此荒墟遂成寶坊羣生依之為正法幢命世大才猶龍類象來游來咨如山荅響代祀雖邈聲華弗虧至今草木尚被餘輝我於世緣逢觸輒礙泉特相知獻萬珠琲塵擾征驂風埃渺瀰有素者衣化而為緇願挹寸波如習禪定洗滌塵根一時清淨

蘇子膽詩　亭亭石塔東風上此老初來百神仰虎移泉眼趁行脚龍作浪花拱撫掌至今遊人盥濯罷臥聽空階環玦響故知此老如此泉莫作人間去來想　紫李黃瓜村路香烏紗白葛道衣凉閉門野寺松陰轉欹枕風軒客夢長因病得閒殊不惡安心是藥更無方道人不惜堦前水借與匏樽自在嘗

陳浩和詩　良二千石昔清香虎跑泉頭風露凉直將才華比賈傅徧歷山川如子長流傳玉局播千古脈絡銀河來上方清秋擬到三天竺自裹香茶來煮嘗

釋來復和詩　金沙泉湧雪濤香灑作醍醐大地凉倒浸九天河影白遙通百谷海聲長僧來汲月歸靈石人到尋源宿上方欲著茶經校奇品山瓢留待羽仙嘗

王世貞和詩　百草沾風蠶月香雙鳩喚雨麥秋凉過橋已覺世情少到寺始知僧日長拂蘚石留行脚偈掛瓢泉是洗心方良公更有茶瓜在禪悅能容取次嘗

方九敘詩　曲徑同尋大士家林嵐幽勝入煙霞清泉繞砌飛成雪紅葉含霜望似花欲托醉鄉憑魯酒漫辭水厄試僧茶幽棲況對求羊偶且向山中閱歲華寺後有幻居即幻居禪師塔有御祭亭有像宣德庚戌楊復撰碑銘　大化氤氳實生異人髫齔有志超拔莫羣誰當其師曷逾迦文矢出

於世肯混於塵飛空則龍瑞世必麟壯逢宗匠迺脫迷津青水不忝師道仍殷權實兼妙機用惟均幻見其居漚浮其身闡猷大慈陰物如雲起廢中竺嘉聲四聞繼登兩街天子日親坐承清問法要弘陳化度無外塵剎垂勛晚主靈谷聖眷尤勤褒進慧濟實惟德尊錫衣之金分膳之珍道價以倍寒堂亦春二公讓席四夷歸仁孰謂季運轉此法輪涅槃為果般若為因見塔無縫乃知師真

襲慶禪寺

俗呼真珠寺舊名薦福院在樵歌嶺晉開運間吳越王建為清鑑禪師道場周顯德間殿中宮震位忽泉涌成渠擊磬則泉汎如貫珠宋景祐中名真珠泉至開慶元年賜額襲慶寺洪武壬申復建賜今額弘治十五年重建萬歷庚子僧德昭重修

六和塔

在月輪峯傍宋開寶三年智覺禪師建先是梁開平五年吳越王於仁王廢院掘地得大錢以為瑞應因建大錢寺設寶幢二座於寺門入宋寺廢智覺禪師乃即錢氏南果園建塔以鎮江潮高九級五十餘丈撐空兀突跨陸俯川海船夜泛者以塔燈為指南焉宣和中燬於方臘之亂紹興二十二年僧智曇募緣重建七級而止塔中有湯思退等彙寫佛說四十二章經李伯時石刻觀音像嘉靖三年燬塔下為龍山渡魚山渡隔岸剎中諸山歷歷可數塔之北為毛湫峪宋紹興間塔成萬歷間祩宏重修

曹勛記畧云浙江介於吳越一晝一夜濤頭自海而上者再疾擊而遠馳虎駭而龍怒猛如山立歗如電轉掠隄突岸摧陷田廬為臨安患久矣冥冥中若有神物典司其事錢氏有吳越時曾以萬弩射潮頭終不能却其勢後有僧智覺禪師延壽同僧統賛寧創建斯塔用以為鎮自是潮習故道居民德之宣和三禩塔寺俱燬赤地無遺而潮復為患紹興壬申天子憂之思所以制其害者在廷之臣首以復興斯塔為請詔賜可下有司計度庀工治材守臣擇可主持斯事者得僧智曇諭以詔旨曇口諾心然願以身任不煩官府乃勤渠化募而和義郡王楊存中居士董仲永首倡損貲於是蓮社樂施雲臻霧集雖遠在他路亦荷擔而來自癸酉仲春鳩工至癸未之春五層告成是年歲晚則七級就緒巍然揭立光動山海環壁刻金剛經及塑雜花五十三善知識備盡莊嚴凡所以鎮靜山川護持法界調伏魔境者莫不閎而存焉塔興之初土石未及百簣而潮勢已殺既成之後化為安流而瀕江之民恬不驚悸此則塔之為功而智曇之植福也

白廷玉同陳太博諸公登六和塔詩云　龍山古化城浮屠峙其巔開殿生妙香捫壁森貝筵應真儼若生倒飛青金蓮頭陀紺林叢道我丹梯緣

初猶藉佛日閎境儵已玄回頭失誰何叫嘯衣相牽且復忍須臾當見快意天嬌兒詫先登網戶相鈎連炯若蟻在珠九曲隨盤旋爛爛滄海開落落雲氣懸羣峰可俯拾背閱黃鶴騫奇觀興懦夫便欲凌飛仙絕頂按坤維始見南紀偏神京渺何許王氣停須躔舟車集百蠻島嶼通人烟一為帝王州氣壓三大千剛風灑毛髮鐸語空蟬聯紅放杏園花媿乏慈恩篇

張仲舉登塔詩　江上浮屠快一登里中烟火是西興日生滄海橫流外人立青溟最上層潮落遠沙羣下鴈樹欹高壁獨巢鷹百年等是豪華盡怕聽興亡懶問僧

孫晉登塔詩　闌檻倚雲漢身疑出上方乾坤一指顧吳越兩興亡海接空江白山分落日黃伍胥遺恨在秋草隔沙長

東坡六和寺送張吉甫赴閩曹詩　羨君超然鸞鳳姿江湖欲下還飛去空使吳兒怨不留青山漫漫七閩路門前江水去掀天寺後清池碧玉環君如大江日千里我如此水千山底

開化寺

即塔院也宋隆興二年建嘉靖十二年與塔俱火傍有金魚池噴月泉持正泉秀江亭鐵井欄[刻-人+亻]八卦以鎮水怪

僧仲殊登秀江亭南柯子詞云　金梵蟠龍尾蓮開舞鳳頭涼生宮殿不因秋門外莫尋塵世捲地江流霽色澄千里潮聲帶兩州月華清泛浪花浮今夜蓬萊歸夢十二瓊樓左塢有月輪菴

朝陽菴

在六和塔左進龍浦右近江小塢僧雲天明証建內有大石佛禪定處

五雲山真際院

山最高約百丈許周十五里五峰森列駕軼雲霞盤曲而上凡七十二灣俯視南北兩峯若雙錐朋立長江帶繞西湖鑑開帆檣隱見煙霧間若鷗鳧出沒宋時每歲臘前寺僧捧雪表黎明入城中霰猶未集盖其地特高寒云周顯德丙辰志逢禪師結茅開山師天台韶國嗣吳越王極尊禮之每攜大扇乞錢買肉飼虎虎迎載還山大將凌超創華嚴道場名靜慮菴延師主席宋乾德間吳越王召賜紫衣賜額真際院謚普覺國初燬正德十二年僧法堅重建寺內伽藍乃華光藏神杭人宰牲祈財無虛日有天井大旱不竭伏虎亭端敬亭五雲端亭方伯范涞憲副陳經濟建

錢思復登五雲山詩　普覺遺衣久不傳五雲故色尚蒼然斷崖蘿薜三千丈喬木風霜四百年龍井雨深泉獨響漁村潮上月初圓寶坊金碧紅

塵聚何似茲山更絕緣

林景初金日新會宿五雲山詩　山氣清如水林扉夜不扃月明苔徑白松暗水螢青幽蕙臨風辨孤泉過石聽何當凌絕頂萬里極滄溟

雲棲寺

在梵村天柱寺旁禪師袾宏伐茅建菴於此為遠近宗仰後掘地有碑即古雲棲寺也陶望齡董其昌有記

袾宏自為記云杭府治南連大江西引明聖二湖萬山繞湖而絡繹江浒遡江西上行三十餘里山名五雲先是山巔有五色瑞雲盤旋其上因以名山已而五雲飛集山西塢中經久不散時人異之號為雲棲塢宋乾德五年有僧結菴以居塢多虎僧至虎輒馴伏世稱伏虎禪師者是也吳越王錢氏為之建寺而雲棲於是創始矣禪師一號大扇和尚諱志逢初築室五雲之頂天禧中降勅賜真際院遂并闢雲棲天池二院而成三剎後治平二年改號棲真今曰雲棲者復古也雲棲居五雲之西徑曲林幽四山圍合蒼翠聳然東岡而上有壁觀峯峯下有泉名青龍泉迤[這-言+里]下中峯之旁復出一泉名聖義泉又下而西崗之麓復出一泉名金液泉筧引涓涓潔冽甘芳汲灌不竭獨以荒僻寥落人跡罕至非忘形死心者莫能居焉紹興初有余知閣者扈蹕南渡隱於寺側後捨宅歸寺聖朝弘治七年霖雨發洪廬宇經像隨水漂蕩僧稍稍散去頹耄者僦居民房而故院遂蓁莽父老過之傷感垂涕衛將軍玉溪楊公暨子念堂君雅嚮三寶時募僧重修而頻苦虎患居無何即引去隆慶五年袾宏行脚南還愛其岑寂孤形隻鉢趺坐圮壁間太學生陳如玉李繡等為之構靜室三楹而宏晝與野鹿主賓夜與鳴泉倡和悠然若將終身村之民怪其能久居也環村四十里歲傷於虎者不下二十人而雞犬不與焉宏乃發悲懇諷經千卷設瑜伽施食津濟之自是虎不傷人適歲亢旱禱於山偶時雨霪村之民又大悅而慶其得安居也相與纍纍然肩材木而至曰茲吾祖所植也荷鋤钁發其塵坌之礎磉而指之曰茲雲棲寺之故物也禪師福吾村吾願鼎新寺之遺址以永吾一境之香火由是百日而成蘭若外無崇門中無大殿惟禪堂處僧法堂以奉經律而已宏自惟迂踈陋劣寸長無稱抱病入山分與草木同腐頃值幻緣興此廢墜惡容坐食不思所以上報佛恩而下酬檀信乎顧生平尚真實而賤浮誇甘窮約而羞名利因共二三同志相砥礪力行古道盟而後進犯而必退大都主之以淨土而冬專坐禪餘兼講誦日有程月有稽歲有表凜凜乎使無賴者不得叅乎其間雖於法門無大裨益庶幾勅末學之弊以俟後之知識云爾宏沈氏子字佛慧號蓮池仁和人是為記

董其昌記并書杭之山自天目來帶苕水挾聖湖南盡於江折而東是為鳳凰諸山宋之故宮在焉遡流而西二十里是為五雲山循山麓而西四五里是為雲棲寺則今蓮池禪師之道塲也陂陀坻平巖谷幽密劃然野處

而不與湖山為羣境則變喧而幽土則去穢而淨一似遺世者山當江之三折海門濤頭雪湧而霆擊者至此蕩為平川洋洋瀰瀰怒氣消盡一似忍辱者由東岡而上有壁觀峯青龍泉出焉中峯之旁復出一泉名曰聖義泉西岡之下復出一泉名曰金液泉涓涓甘冽汲灌不竭一似利生者此非有道者莫能居而居之者亦於道力有助自宋伏虎禪師住山以至國朝雖天禧中稍闢為寺而遞興遞廢夷為慕莽久矣師以隆慶五年托鉢此村若有冥契曰吾骨人得骨山可以老矣縛茆三楹經禪宴坐有終焉之志環村四十里數有虎倀師以慈止殺虎不為暴歲旱禱雨雨澤輒應魃不為灾居人異之爭來作室度材於家山仍礎於故址民大和會焉師曰毘盧宮殿徧界徧空草昧經營無勤檀施唯法堂奉經律禪堂以處僧茲所急也既落成而百年廢剎遂復舊觀矣此雲棲之緣起也師之侍者以為古德破荒眾信積力不可泯沒請余記之余何知出世事而竊有感於法道盛衰之際也在昔唐宋時士惟薄將相不為者始去而為大僧以了百千億劫之生死故其成行之嚴宗風之峻直可感鬼神馴異類或為道俗所皈依或為帝王所禮敬名藍淨剎於是繁興矣蓋其盛也近以經術收儁士士所不收者方自引而食於僧是以赤縣神州列剎相望圓頂方袍聚廬而處者百十為輩即而求之所謂禪講律師如古尊宿者有幾假令大年削牘寂音操筆二百年來可應傳燈僧寶之選者又有幾則雖金碧土木之莊嚴崇之至於天而廣之至於十由旬何益蓋法道之衰相見矣師庠校名士始欲以祿養為孝既以弘法報恩為孝麟驥壯盛而龍象超忽最初發念固已卓然名聞利養之外矣龐蘊罄百萬而擲漢水僧紹冒三毒以開攝山豈足專美乎師自主法席以來既三紀行在梵網志在觀經標淨業則東村立清規則百丈析義疏則玉泉辨宗乘則慧日摧陰魔則板度空排戲論則秀鐵面雲棲雖幽迥荒率無諸莊嚴有具眼通者必曰先師塔廟在矣有具耳通者必曰水鳥樹林念佛法僧矣有具宿命通者必曰某古德再來矣毘嵐偃岳而不波大浸稽天而不溺是雲棲之興法道大有賴也夫師所著有彌陀經疏鈔緇門崇行錄禪關策進等書數十種鋟行於世師俗姓沈名袾宏字佛慧仁和人

陶望齡記昔世尊以五時彰教隱顯權實順布而不忒若溫緜凉簟隨候異設凡以逗機宜適根莖而已正法東嬗師資角立曰講曰律曰禪並而為三然軌轍同歸君臣遞用斯亦一代時教之遺也天目中峯師有言密部如春慈恩如夏南山律宗如秋教外別傳之旨如冬自祖燈輝三家替法久生濫藥療權施雖離言絕跡之塗而言跡具焉大智翊規則律該圭峯詮經則教設至永明天衣而降多寄指蓮邦默標心土持名淨念殆庶幾所謂密者然則少林一宗四序脩矣由是以觀一氣煥寒而歲成一音開遮而化闡莫不因宜而建之遇耳而通之離之以提宗合之以成務其致一也像季陵夷學者文言依通未嘗有古先生研幾極深之用在有以率情資空以護過而欲圓契法界密還心源此與兒嬉囈語何異嗟乎禪學盛而教律薄禪學衰而教律亡矣破器焦種道所不載猶讙於眾曰吾宗固然儀範弛解觀行

滅裂而菩提達摩單傳之教亦掃地盡澶漫流湎無甚茲時者昏衢積晦慧日乃升於是雲棲大師應期運秉慈願挺生於冠族飛藻於儒苑然後辭榮捐愛薙染登具荷包咨叩百城忘疲隆慶辛未歲始返錫武林五雲山之西塢宋伏虎遺剎在焉礎石就泐餘堵纔存而師蒙露戴星晏坐其下久之方刊灌莽成芟舍繩牀瓦鉢獨寤弗諼而已然薰之以戒德扇之以玄化慈戢猛獸誠感霖雨於是遠近甿庶順風爭趨輸材赴工如水投壑無何而役竣仍其始號曰雲棲禪院殿門不設庖湢具體惟禪室法堂制稍崇敞以奉經像集徒侶盖大師夙志也大師之教草偽正訛貴繩檢黜戲論一歸於真履底於妙悟謂綱紀道俗者莫大於行是故有緇門崇行之錄覆護羣動者莫尚乎慈是故有戒殺放生之文嚴淨尸羅兼資物我者莫廣於梵網是故有戒疏發隱之義頿超直指尅證靡濫者莫要於禪是故有禪關榮進之篇於後後世為大津梁於諸方便中出勝方便普被羣機橫絕三界者莫徑於淨土是故有彌陀經疏鈔之作嘗稱曰阿伽已疾如意雨寶總羣塗而一貫者其惟持名一心乎其進為行淨為律契為法究為禪以故師之唱演靡所不備而宗趣有在緇素之徒咸望大師為善導雲塢為極樂交廣庸蜀幽并冀朔之遠莫不繭足皈禮延頸嚮化與於籌室者不可勝數而師尤隱解顯行捲謙不居痛抑狂瀾躬為之隄岸終身退然處於學地雖凡衲單士通謁而至者咸與之均禮於戲非盛德何以臻此乎而昧者謂院以禪名宜杜塞岐徑獨蹈大方紹明從上以來單傳直截之旨若以是為師少者夫治水者撤堰而瀉之築防而居之乳兒者塗苦而禁之洗滌而養之惟其宜適也世降習偷邪師謬解如波如馳苟務泯相毀教等持犯均淨穢決竇於旱秋絕哺於饑子豈大士匡時應會起極弊振將絕之道哉俗善畫龍見龍而驚塗羹雜陳而笑耕稼者不亦舛乎是山形勝洎創建緣起詳載大師所撰記及董太史其昌碑中故不具具言師所以應化拯時有功宗乘者勒石講堂詔於無窮

天柱寺

在雲棲三聚亭里許即常樂寺宋開寶建

妙山菴

在妙山僧如寞建

白沙菴

在白沙塢通黃山天竺

棲真寺

在定北四畺有賛寧塔

定安寺

在定北二畺

定明寺

在定北三畺

金蓮寺

在定北一畺

妙靜寺

在錢塘縣定山北二畺宋元祐中投子義青禪師開山賜額明陽寺建炎四年法成禪師重建山門兩廊僧堂更名妙靜有偈曰選佛場開妙靜山直教千佛笑開顔圓成屋裏諸功德只在當人點首問慶元六年庚申歲紹隆禪師修元至正二十五年海悟禪師重修洪武六年太古羲禪師重修寺有古井

定南寺

在公館側

慈巖院

在楊村風水洞側舊名恩德洞洞中石子紅點如丹持出即隱置於舊如故

白樂天詩并序予到郡周歲方來入寺半日復去俯視朱綬仰睇白雲有媿於心遂留絕句　雲水埋藏恩德洞簪裾束縛使君身暫來不宿歸州去應被山呼作俗人

蘇東坡詩并序徃富陽新城李節推先行三日留風水洞見待詩云春山磔磔鳴春禽此間不可無我吟路長漫漫傍江浦此間不可無君語金鯽池邊不見君追君直過定山村路人皆言君未遠騎馬少年清且婉風崖

水穴舊聞名只隔山溪夜不行溪橋曉溜浮梅萼知君繫馬巖花落出城三日尚逶遲妻孥怪罵歸何時世上小兒誇疾走如君相待今安有

龍門菴

在龍門山頂四面石壁路屈曲而上如盤谷有僧結菴於此

光明寺

在定山北唐顯慶元年高宗勅賜光明禪寺明善導和尚說法開山師念佛一聲即有一道毫光從口出自十至百光亦如之勅賜寺額正統十一年惠辨初重建萬歷間寺產俱為豪猾侵漁尋復故地有龍池古井

王勃題光明寺南池幽景詩云　笑倚雕闌瞰碧流漾花天氣漸和柔日行東陸春偏早人在西園景自幽出水蒲芽纔短茁牽風荇帶欲輕浮綠波涵育羣魚樂不識江湖有釣鉤

武林梵志卷二

欽定四庫全書　武林梵志卷三

明　吳之鯨　撰

城外南山分脉(由湧金清波至十八澗)

靈芝寺

在湧金門外宋有浮碧依光堂為孝宗臨御之所

朱靜佳詩　黃金匝地小橋通四面清平納遠空雲氣常扶天子座日光浮動梵王宮殘碑幾字莓苔雨清磬一聲楊柳風沙鳥不知行樂事背人飛過夕陽東

褒親崇壽教寺

俗稱劉娘子寺宋紹興十八年劉貴妃建貴妃臨安人入宮為紅霞帔得幸累遷才人婕妤婉容尋進貴妃專掌御前文字工書畫畫上用奉華堂印然恃寵驕侈常盛夏以水晶飾脚踏高宗見之取以為枕妃懼自此少戢父懋恩金人南侵獻錢三萬緡以助軍費高宗嘉之遂令建寺以為功德有泉自鳳凰山而下注為方池命為鳳凰泉于湖張孝祥書額內有松雪亭觀音洞筆架池偃松交枝檜壁間舊有陳公儲畫龍甚奇弁陽翁詩　翟羽鸞綃事已空奉華遺寺對高松宮欹鳳去無人見且看門前粉壁龍

秦少游詩　匹馬驕嘶石路斜觀音洞口踏煙霞普陀風景差相似只欠潮音小白花

周瑞臣詩　萬竹蒼寒擁寺門寺碑金字御書存榮華肯信當年事儀制空留後世恩影閣有聲塵網暗殯宮無月玉花昏見梅不敢輕攀折恐是春風水際魂

觀音菴

有觀音洞在慈雲嶺北

頭陀菴

在慈雲嶺下華津洞側本宋趙冀王園疊巧石為之者水石奇勝花竹蕃鮮有仙人棋臺旁為梯雲嶺石磴峻絕舊有水月寺元末燬有水月池靈固石

蘇子瞻詩　千尺長松掛薜蘿梯雲嶺上一聲歌湖山深秀有何處水月池中桂影多

香圓菴

在梯雲嶺西上有石洞出泉

淨慈寺

在南山周顯德元年建名慧日永明院太師改建賜壽寧院屬歲旱湖涸寺西甘泉出焉因鑿為井名曰圓照南渡時僧道容鳩工塑五百阿羅漢以田字殿貯之內有宗鏡堂為永明壽禪師造宗鏡錄後新建永明禪師舍利塔黃汝亨為記方伯吳用先為碑銘下有萬工池金鰻井神運井法華臺懺堂竹閣藏石刻金剛經羅漢松歡喜巖居然亭蓮花洞閎勝甲湖中後有文昌閣創於葛寅亮而仁和令吳光義成之寅亮為記淨慈自有志不盡載

蘇軾詩　臥聞禪老入南山淨掃清風五百間我與世疎宜獨往君緣詩好不容攀自知樂事年年減難得高人日日閒欲問雲公寬心地要知何處是無還

黃省曾詩　隱才抗貞步遶履存同調琴瑟心既開登捫與茲掉浼浼北潮屬窈窈南山眺雙情交遠襟晟論皆清詔蘭陽佐勝羽翠早延興笑靈紀倏攀仰表剎在瞻造金軀儼峩容寶宇廓層嶠五藥懸采掇八正期精邵雲林琅法鼓苕木鳴芳翻遨衷未云已盤迴盡西照

孫一元卜居詩　石上藤蘿對夕曛解衣長日坐來頻挽回滄海真無計領畧青山合有人養鶴似嫌雙口累為漁又過一生身相逢惟是南屏老獨樹柴門許卜鄰

王守仁詩　溪風漠漠南屏路春服初成病眼開花竹日新僧已老湖山如舊我重來層樓雨急青林迥古殿雲晴碧嶂迴獨有幽禽解相信雙飛時下讀書臺

王世貞詩　擁剎芙蓉欹欲翔岫雲雙結吐寒香十千乾闥婆天藥五百阿羅漢道塲未必應真超刼火還因勝地屬空王南園實傍珍珠墅指點烟蹤並渺茫

豐道生詩　千巖萬壑玉層層夜半山腰見佛燈竹影掃牕塵不到滿牀風雪定中僧

屠隆詩　西湖盡處是南山長日幽人晝掩關寶界門通霄漢外香臺路接水雲間不聞朝市風塵急自愛僧寮歲月閒叅得三明詮四諦茶烟初斷鶴飛還

雷峯塔

在淨慈寺前址宋郡人雷氏居焉錢氏妃於此建塔故又名黃妃俗以其地嘗植黃皮又曰黃皮塔

吳越國王錢俶黃妃塔記曰敬天修德人所當行之矧俶忝嗣丕圖承平茲久雖未致全盛可不上體祖宗師仰瞿曇氏慈忍力所沾溉耶凡於萬幾之暇口不輟誦釋氏之書手不停披釋氏之典者蓋有深旨焉諸宮監尊禮佛螺髻髮猶佛生存不敢私秘宮禁中恭率琲具創窣堵坡於西湖之滸以奉安之規橅宏麗極所未見極所未聞宮監宏願之始以千尺十三層為卒爰以事力未充姑從七級梯旻初志未滿為歉計甎灰土水油錢瓦石與夫工藝像設金碧之嚴通緡錢六百萬視會稽之應天塔所謂許玄度者出沒人間凡三世然後圓滿願心宮監等合力於彈指頃幻出寶坊信多寶如來分身應現使之然耳顧玄度有所不逮塔成之日又鐫華嚴諸經圍繞八面真成不思議劫數大精進幢於是合十指爪以贊歎之塔曰黃妃云吳越國王錢俶拜手謹書於經之尾俗稱塔鎮青魚白蛇讀吳越王記知所供惟佛螺髻髮耳

湖心寺

在湖中今亭即其遺址三塔俱在外湖三坻鼎立並係湖心寺皇明弘治間僉事陰子淑者秉憲甚厲時寺僧倚怙鎮守中官杜門不容官長以酒肴入陰公大怒廉其姦事立毀之並去其塔相傳湖中有三潭深不可測故建三塔以鎮之南宋舊圖從南數湖中對第三橋之左為一塔對第四橋之左為一塔第五橋之右為一塔塔形如瓶浮漾水中三潭印月詩有云塔邊分與宿湖船又云塔影亭亭引碧流俱實境也萬歷間開葑田數頃築隄植柳為放生池

惠因講寺

後唐天成二年吳越王建宋元豐八年高麗國王子僧統義天入貢因請淨源法師學賢首教元祐三年以金書晉譯華嚴經三百部入寺施金建華嚴大閣藏塔以崇之元祐四年統義天以祭奠淨源為名兼進金塔二所適蘇子瞻守杭上疏云自熙寧來高麗屢入朝貢兩浙騷然皆因奸民徐戩等交通誘引妄談庸僧淨源通曉佛法以致義天羨慕來朝從源講解淨源既死其徒復持真影舍利違禁過海以致義天差人祭奠兼進金塔探瞰朝廷受之則以貪示外夷計搆紛然朝貢踵接夷使所至圖畫山川購買書籍不惟中國受疲而邊防亦疎乞却金塔勿受絕其來意神宗從之寧宗書華嚴經閣理宗書易庵元延祐四年高麗瀋王奉詔進香繙經於此至正末燬國初重葺俗稱高麗寺中有轉輪藏後奉放光大士陸樹聲題曰妙應門伽藍殿設蘇文忠公像萬歷壬子建準提閣方伯吳公塑準提聖像右有華嚴

閣楞伽室文昌閣後為唐清涼國師塔銘唐定慧禪師傳法碑俱裴休譯寺外玉岑山理宗御書玉岑二字一刻石一題匾山上玉岑二字許采書遶寺為慧因澗筲箕泉鐵牕櫺洞口高數尺舊有蛟龍出入人畏焉鑄鐵牕櫺嵌於石槽以拒之水自牕櫺中出六月如冰過慧因寺前折西湖不竭秦淮海題名記濯足於惠因澗是也

六通律寺

舊名六通慈德院吳越王建延彥求法師演律法其中有辟塵爐非木非石扣之錚然纖塵不染嘉靖間垂廢僧玄公乞虞吏部為記募施尋亦棄去王子方伯浮渡吳公清復召僧性瑛給箚焚修瑛矢志恢復建山門二座六通律寺方伯題慧日重光錢塘令楊萬里題法地重開葛寅亮題圓通勝境錢養廉題

虞淳熙舊記略曰武林緜王鏐眾建仁祠兩邑湖山間梵唄剎光六通四辟矣顧臨水者迷於西子依山者壓於夔魈踞形勝者鄰於伏屍之宅惟茲六通律寺魔惱穢累所不侵王鏐倚為神通勝因者也幽淙靈石掩映精廬寶鼎辟塵塵踪竟絕禪者每持律證通也度長耳和尚於此咫尺袈裟地定多趺憩所證無漏留蛻千秋有由致矣日月邁徃漸以蕪圮波旬侵疆四履不得通至魔惱穢累倍於眾祠然金身在宮猶照徹無礙也犯者七日韋杵殞始竦然稍歸侵地而僧玄公視布金長者多在晉陵松陵數千里內便徃詣乞長者不惜有漏財於是崇宮恢土復徃六通矣

法相寺

俗稱長耳相宋范楷記碑漸蝕明王穀祥記甚核寺內有宗慧堂竹閣雲壑禪棲穎秀山房青蓮居種石軒夢化石近寺里許高竹青森非復塵界督撫甘士价平湖陸長庚倡緣築石逵甚整沿塢而上為定光菴古佛修證處陸長庚有記菖蒲缸錫杖泉聽泉亭蘇軾題又上為西生築鏡花閣古梅參差湖波掩映亦佳境也

明王穀祥記法相寺宗慧大師碑杭州西湖之南山最勝處為南高峯其陽則巖巒洞壑奇絕詭麗其陰則羣山紆迴壁石嶮峭逶迤入徑深木茂窅如與世隔為法相寺五代石晉時建故名長耳院宋易今名寺有宗慧大師真身崇奉焉祈嗣者徃禱輒應四方人士多於皈禮吾藕郡侯平陽頤齋徐公節嘗與穀祥述其嚴君月巖翁中歲舉子不育因過杭乞靈於法相果符灌頂之祥遂生公公既貴翁囑云若官於南尚無忘拜酬祠下自公為郡有事於杭凡再謁焉因訪大師事跡本末寺故有碑刻宋翰林侍講范楷所撰記也元季燬僅錄其文讀之亦失次矣公謂大師妙覺普應功出思議之表遺蛻宛具實係瞻仰苟不詳厥所自則傳遠易譌可乎哉乃命穀祥重為

譔述按大師姓陳氏名行修號性真泉南人也大唐景福元年正月六日母夢吞日驚寤而生長耳垂肩異香滿室家人已訝其非凡相迨七歲猶不言或問之汝非啞乎忽應聲曰不遇作家徒撞破烟樓耳人益奇之比長昭朗中涵湛寂無垢讀書過目成誦旁及內典竟契夙心徧閱三藏卓悟指歸乃幡然欲游方外脫屣塵俗躡屩名山至金陵瓦棺顧而樂焉遂祝髮受具戒品圓明律議精曉去叅雪峯存禪師得心印所謂髻珠衣寶已獲充牣再游天台國清寺用苦行力以廣資施蒔茗彌山谷從人采擇日巖畔猛獸巨蛇徃來左右馴擾不去後梁開平間至四明山獨棲松下說法則天花紛雨又趺坐龍尾巖結茅為蓋百鳥啣花飛繞經歲以為常所坐碧蒲當膝處成坳其跡猶在後唐同光二年至杭之西湖南山喜其後塢依石為室禪定其中乏水給飲乃卓錫啚際清泉迸出水源不涸山中人至今賴之大師功行具足崇事景赴凡旱潦疾疫以及求嗣者咸趨之即說偈應副靡不靈驗人或問師如何有是長耳即以手曳耳示之不發一語有僧來叩曰南峯頂難到麼師答云只為他會不過僧云到後如何師曰孤峯獨宿其開迷了義類如此後漢乾祐三年十一月二日吳越王以誕辰飯僧有永明禪師者亦異人也王問永明今有真僧降否永明曰長耳和尚乃定光古佛應身也王趣駕叅禮稱師為定光出世師默然但云永明饒舌少選跏趺而化其狀如生久之益膚草津澤爪髮復長月必三淨時有舍利後值金兵侵境刃傷之流血白色兵懼而退自是肌理失潤恐愈久而毀也乃以髹塗骸體南宋咸寧三年僧司以事聞賜之法號曰宗慧大師云

劉士亨詩　湖上招提信少雙翠微樓閣白雲牕耳聞古佛遺真像眼見真如竪大幢衲挂紫藤驚鼠竄鉢分滄海毒龍降懷香欲叩毘尼藏寸筵臨鐘不易撞　沈懋學竹枝歌平生性愛竹竹深無爾何凌霄一千尋比肩十萬个搖搖森珮環戛戛鳴玉珂晴梢上摩天靈根下窮河一碧寒侵衣寸陰淡澄波時坐清塵骨再坐除煩疴怪來成久坐清虛蕩天和最如風生凉恰似明月多月明風亦佳仙人忽相過授我餐霞方贈我採芝歌旁有洞簫使吹徹雙青娥娟娟捧霞觴灼灼顏微酡夜深山轉幽晨光動巖阿高峯一片雲催雨成滂沱陰晴倏異態况彼日月梭憶我昔來止足力猶自番經今逾九秋如願幾蹉跎依然對修竹憑將隻眼摩

徐渭游法相詩　蓮花不在水綠葉簇青山徑折雖能入峯迷不可還拂蒲看石活刳竹引溪潺莫怪淹餘日明朝恐未閒

屠隆詩　長耳原非相忘形始悟心一燈懸普照萬竹散清陰雲臥僧衣薄泉飛錫杖深未能蠲世事聊爾滌塵襟

豫章樊良樞己酉人日邀張魯叟聶純中遊法相詩　空由清寂迴藏春杖底風煙傍客身濟勝百年誰是主登高此日人逢人華龕雲蔭松谿冷石竇泉香竹閣新且欲從君歸白社何妨載酒徃來頻

錫杖泉詩　盤迴磴道碧苔封忽轉幽岑澗水淙人自安禪留卓錫泉因說法解聞鐘清瀾刷影巢窺鶴定水搖光鉢幻龍便欲枕流來此住坐看

雲石漱孤松

胡來朝詩　野心不羨貴人珂結得山緣向晚過澗水遶流茶竈沸暮鴉知暑竹陰多何年蒲坐僧歸定今夕雲棲翠入蘿却愛空門有實際繁華滿眼竟如何

大仁院

在南山石屋洞吳越王建宣和三年改賜今額咸淳二年建觀音諸天寶閣洞如屋高敞虛明迄二丈六尺鐫羅漢像五百十六身佛像題名幾遍俗呼石屋寺其底還窄通幽下有泉

仇仁近遊石屋詩　誰擘空青露石坳游龍伸臂下南高鬼神穿鑿地脉碎風雨支撐天柱牢峭壁蒼苔侵佛髻懸崖滴乳濕僧袍伽藍聞是香山叟燈暗祠荒沒野蒿

大慈菴

司禮孫隆建

滿覺院

在滿覺隴有法華泉金蓮池萬歷戊戌僧海龍重建深澗茂竹漸與世遠八月桂花盛時游人甚盛隴頂有波羅菴

歸雲菴

宋寧宗時有永清禪師坐石窟中聞高峯鐘聲悟道萬歷壬子僧海龍築靜室其址改稱護雲菴

烟霞寺

晉開運元年僧彌洪結菴洞口遇仙人指山後有勝蹟洪徃忽見羅漢六尊題像石壁若鏤成者未幾洪卒吳越王夢僧告云吾兄弟十八人今方有六王其聚之遂補刻十二尊以符所夢今洞口所刻相傳為南宋宰官數百人像洞後為清修院左有普同塔臥雲塔劉公泉石佛接待菴西有烟霞嶺北有九峯巖洞傍為象鼻峯普賢塔舒嘯亭上方井佛手崖落石崖東坡留題尚存寺久圮町畽鹿場蠶食者過半萬歷己亥司禮孫隆重建寺未有僧禪師宏學持戒習靜不下山十五年給箚延入為住持學復傾衣鉢成之

大雄殿地藏殿左右雲房漸集廣潤復拓地為華嚴堂學弟子雄鑑嗜奇博古善詩畫號瘦石今埋骨象鼻峯下

周紫芝詩　瀕湖兩峯高屹立曉相望蒼凉昇海日骯髒露千嶂羸驂絕坡陀巖谷飽追訪緬懷洪荒初蘊畜含萬象渾沌久已死倏忽真巧匠誰令鑿空手出此奇嶮狀中虛納遊雲谷靜答幽唱暗穴下無底濤聲相悲壯十八志聲聞附石出遺像誰其架修椽置屋雲雨上青山不知數繞屋森百丈忽於兩峯間萬頃見烟浪澎湃海潮聲徃徃入藜杖天公愛此山令我拜嘉貺渺焉隔仙凡欲徃謾惆悵便當學枯禪綺語蠲宿妄自足伴周游長年此遐放

淨心院

在水樂洞舊為錢氏西關宋淳熙以其地賜李隶仍建佛宇巖石盤峙有洞虛窈泉味清甘聲如金石

東坡水樂洞詩　君不學白公引涇東注渭五斗黃泥一鍾水又不學哥舒橫行西海頭歸來羯鼓打梁州但向空山石壁下愛此有聲無用之清流泉無絃石無竅強名水樂人人笑慣見山僧已厭聽多情海月空留照洞庭不復來軒轅至今魚龍舞鈞天聞道磬襄東入海遺聲恐在海山間鏘然澗谷含宮徵節奏未成君獨喜不須寫入薰風絃縱有此聲無此耳

榮國禪寺

即南高峯塔院宋寶祐五年福王與芮建咸淳六年安撫潛說友創華光閣五顯祠峯在南北諸山之界塔舊址居峯頂晉天福間建宋崇寧乾道兩度重修元季燬七級為五級嘉隆間有戎帥某惑青烏家言賄僧移塔於前塔頂不及上而罷今塔漸圮而寺亦衰萬歷壬子六月二十四日申刻震雷繞擊磚石俱碎識者言會城關係亟宜恢復俟機緣到則舊址及鐵頂現存也田藝衡稱塔中四望東瞰平蕪烟消日出盡山之景南眺大江波濤洄洑舟楫隱見杳靄間西接巖竇怪石翔舞洞穴邃密其側有瑞應像巧若鬼工北矚陵阜陂陀曼衍箭櫪叢出麪麥連雲山椒巨石屹如峩冠者名光照壇相傳道者鎮魔之所頂有鉢盂潭白龍洞語若寫照云

最上菴

在高峯頂畔吳之鯨題僧圓松建平湖千頃胥江三折俱在几席間子夜看漁燈離合如星陣

胡胤嘉贈松上人詩　上人家在白雲裏左瞰明湖右江水縠紋湖上碧千層練色江波萬餘里落日江皐一鴈飛薄寒初欲上征衣此時相憶重

回首遙見白雲天際微

覺照菴

陳禹謨題在最上左僧大繼建

吳之鯨贈德宗繼公詩　繙經入蒼渺晴旭射孤峋策杖穿新竹相攜共石隣

綠蘿菴

僧大善建在覺照左傍有潁川泉大旱不涸

演福菴

在高峯無門洞之陰俗稱南天竺山下有演福寺舊址有夕佳樓白蓮院隋開皇建今廢菴即寺之下院隆萬間三際禪師諱宗通山東人棲無門洞立禪苦行二十餘年後建菴於此忽一日辭眾沐浴禮佛撫石面西說偈立化偈曰六十二年住世不染紅塵雜事如今立化歸西親見彌陀受記歸塔於洞側丁丑僧廣先宏珂濟明重建有香巖室葛井琳琅泉志又稱辨才法師塔在演福院東坡銘老龍井復載辨才塔未知孰是

吳之鯨琳琅泉銘由南峯之陰曲磴右折穿石為戶松竹映薄幽扃乍啟為演福山居余自甲午七夕至此樂不可言因留寓時巖際荊花忽發一枝紫葯鮮耀禪師臥雲孫瘦石相與奇之尋訂方外久要及臥雲移錫烟霞瘦石歸葱嶺余亦久不復過矣今年冬仲偶來避喧則臥雲法兄雪崖年六十方坐關修禪定孫光中愿而朗語默宜人余復喜為留寓乃拂容雲藏煥然新燦山若增勝云殿旁有小閣閣前後俱竹竹中俱琪石光中疏剔竹根剷土踰丈許石骨盡現忽函中小湫泓然澄冽光中驚喜以為不煩鎚鑿而驟得甘泉不可無紀余又適與相值亦一數也因在竹石間號曰琳琅泉而系之以銘銘曰清莫如竹蓓蕾貯妍與石為隣蒼翠便娟乳竇忽通遂據其全雖然自有此石即有此泉豈先有竹而余和以三緣為之結好於百年乃余撫石壁之青芊覩竹影之檀欒吸以瓔瓠吾陶吾天而稱之曰琳琅不過偶然

延恩衍慶寺

俗稱龍井寺唐乾祐二年居民凌霄募緣建為報國看經院宋熙寧中改壽聖院蘇子瞻書額紹興三十一年改廣福院淳祐六年改是額元豐二年辨才禪師自天竺歸老於此不復出入與蘇子瞻趙閱道友善後人因建

三賢祠祀之東坡竹石廉宣仲枯木楊次公詩存焉歲久寺圮萬歷二十三年司禮孫隆命僧真果重修構亭軒築橋梁甃浴麟池刱霖雨閣舊有歸隱橋方圓菴寂室照閣閒堂訥齋潮音堂滌心沼神運石薩埵石辟塵爐片雲亭過溪亭沖泉諸天閣

秦少游龍井寺記元豐三年秋後一日余自吳興道杭東還會稽龍井有辨才大師以書邀余入山比出郭日已夕航湖至普寧遇道人參寥問龍井所遣籃輿則曰以不時至去矣是夕天宇開霽林間月明可數毫髮遂棄舟從參寥策杖並湖而行出雷峯度南屏濯足於惠因澗入靈石塢得支逕上風篁嶺憩於龍井亭酌泉據石而飲之自普寧凡經佛寺十五皆寂不聞人聲道旁廬舍或燈火隱顯草木深鬱流水激激悲鳴殆非人間之境行二鼓始至壽聖院謁辨才於潮音堂明日乃還孫太初詩　眼底閒雲亂不開偶隨麋鹿入雲來平生於物原無取消受山中水一杯

虞淳熙詩　龍臥梯仙國風霞冷玉壇伊人歌夜澗若士障秋瀾儒摘五星落禪依十地安片雲爭出岫留石借君看

屠隆詩　藕花菱葉傍輕鷗路入南山景更幽赤日未消團扇暑青蘿先到寺門秋風前萬樹蟬鳴急雨後千崖水亂流好士秖今劉尹在身慙玄度得同游

黃猷吉一片雲詩　南朝四百八十寺何寺能藏一片雲避暑偶來依石坐啜殘青茗日將曛

鉢池菴

在寺右山傍有洗鉢泉德周果師棲隱處寺重興其力居多塔在寺之龍山吳朗士為之銘

老龍井

有水一泓寒碧異常幽僻清奧過風篁嶺非復塵剎矣其地產茶為兩山絕品郡志稱寶雲香林白雲諸茶乃在靈竺葛嶺之間未若龍井之清馥雋永也再上為天門可通靈竺徑道崎嶼草樹蓊鬱人烟曠絕山名暉落塢僧如瑛買山築室三楹數年屋成得泉一泓味甘色白老龍井基側有辨才塔今毀

方圓菴

在龍井山詳米芾記中

天竺辨才法師以智者教傳四十年學者如歸四方風靡於是晦者明窒者通大小之機無不遂者不居其功不宿於名乃辭其交遊去其弟子而

求於寂寞之濱得龍井之居以隱焉南山守一徃見之過龍泓登風篁嶺引目周覽以索其居岌然羣峯密圍灌木蔽翳四顧若失莫知其鄉逡巡下危磴穿深林得之於烟雲髣髴之間遂造而揖之法師引予並席而坐相視而笑徐曰子胡來曰願有觀焉法師曰子固觀矣而又將奚觀予笑曰然法師命予入由照閣經寂室指其菴而言曰此吾佛亦如之使吾黨祝髮以圓其頂壞色以方其袍乃欲其煩惱盡而理體圓靈慧修而德相顯也蓋溺於理而不達於事迷於事而不明於理者皆不可謂之沙門以制禮樂為衣裳至於舟車器械宮室之為皆則而象之故儒者冠圓冠以知天時履方履以知地形蓋蔽於天而不知人蔽於人而不知天者皆不可謂之真儒矣惟能通天地人者真儒也惟能理事一如向無異觀者其真沙門歟噫人之處乎覆載之內陶乎教化之中具其形服其服用其器而於其居也特不然哉吾所以為是菴也然則吾直以是為蘧廬爾若夫以法性之圓事相之方而規矩一切則之所以休息乎此也窺其制則圓蓋而方址予詰之曰夫釋子之寢或為方丈或為圓廬而是菴也胡為而然哉法師曰子既得之矣雖然試為子言之夫形而上者渾淪周徧非方非圓而能成方圓者也形而下者或得於方或得於圓或兼斯二者而不能無悖者也大至乎天地近止乎一身無不然故天得之則運而無積也地得之則靜而無變是以天圓而地方人位乎天地之間則手足具二者之形矣蓋宇宙雖大不離其內秋毫雖小待之成體故凡有貌象聲色無巨細無古今皆不能出於方圓之內也所以古先哲王因之也雖然此游方圓之內者至於諸法同體而無自位萬物各得而不相知皆藏乎不深之度而游乎無端之紀則是菴也為無相之菴而吾亦將以無所住而住焉當是時也子奚徃而觀乎嗚呼理圓也語方也吾當恊言與之以無所觀而觀之於是嗒然隱几予出以法師之說授其門弟子使記焉元豐癸亥四月九日慧日峯守一記不二作此成過予愛之因書鹿門居士米元章撰并書

波羅菴

在錢王灣僧性桂建獨居苦修境地幽勝右有鹿耳洞

報恩寺

唐貞元間建在萬松嶺西內有舞鳳軒萬菊軒浣雲池銅井元至正間築城移建大井巷國初吳山崩水壞暫併海會寺成化年仍徙故址弘治十年叅政周木改寺為萬松書院僧寂源於萬歷壬子建南山楊梅嶺下名報恩菴以存古蹟

白樂天詠浣雲池詩　白雲本無心舒卷長自潔影落一鑑空可浣不可涅鳶飛魚躍間上下俱澄澈此意難與言覽之自怡悅

蘇子瞻題萬菊軒詩　一軒獨為黃花設富擬人間萬石君佳本盡從方外得異香多在月中聞引泉北澗分清露開徑南山破白雲此意欲為知者道陶翁猶自未離羣

理安禪寺

亦名湧泉院在九溪十八澗南通徐村北達龍井七峯環繞雙澗合流境地幽勝視兩峯三竺又一奇矣弘治四年六月念四日寺廢於洪水頹崖深谷無過問者萬歷戊戌僧契靈字仲光掛瓢巖壁僅可容膝掘土丈許石磉柱礎舊址儼然洞室覆泉細如噴珠復下注為二池石甃六方施生臺石塔半座刻涅槃經偈右石壁間有大佛字縱橫丈許俱舊物因築土填谷藩以竹樹有萬歲石牌涌泉龍王石碑皆掘地得之者於钁頭邊二十餘年發明向上事皈依漸眾辛亥臘月方伯吳用先竇子偁捐助郡人黃汝亨吳之鯨為勸貲重建禪堂五左右佛廊麤備有微笑堂松巔閣挂衲齋白舫與老亭寺旁有靜明禪師塔普同塔寺前後山百餘畮吳方伯給帖歸寺并題理安禪寺額邑侯樊良樞有疏有法雨泉涌泉過溪橋螺髻峰月輪峰迴象峰大人峰白鶴峰大慈峰八覺峰鹿臥洞吼獅巖合掌巖佛石巖

吳之鯨澹社序由石屋沿水樂洞度嶺為十八澗山勢峭逼曲澗蜿舞樵語炊烟間隔數里乍入其中真如雲井化城都未經見忽然溪窮山盡暫欲小憩谽谺復豁別開一境層梯碧映巖壑奇杳佛石戲呼小武夷余謂極似嚴陵七里瀨此最幽最勝南北諸山所絕少者也地幸荒蕪既無紺殿華林之設又無行人可為嚮道客至急無所調其饑渴以故游屐亦絕少佛石靈公喜甚遂乃依阿團茅枯鍊於此蒲簷無瓦高不過眉雨至戴傘坐室中或時凍雪三日瓶儲俱空有好道者賫升糧挾燧石往訪之發火煨粥陶然清傲遂不復入城市今五年所矣居傍有一池水甘冽出虎跑錫杖上危壁蒼蘚蒙護其下游魚翛沒噴如雨花余每與佛石踞坐池上竟日無一言神氣淒肅不復知在塵世亦不願塵世人聞聲雜至會明殊鑑舊從余游文弱有志頗習韻語客子為築白舫與佛石隣而余亦有曲溪小閣在湖上近不越五里因共訂澹社為無言清坐之會友人胡休仲卓去病聞而樂之趣來同事並集有韻衲子每月一會茗供寂寞隨意談楞嚴老莊間拈一題為詩後期薄罰以督之每會必選湖山最勝處及佳風日而馮開之太史實來主席溪光山翠俱赴杖履此社遂幾與廬山爭勝余因語佛石太史今之坡公也密殊琴聰都不足道龍泓一派清響與澗相接願毋相負如不佞與胡卓諸君隨意稱无咎魯直何不可矣

張光弼詩　春山縹[緲-目+耳]白雲低萬壑爭流下九溪擬遡落花尋曲徑桃源無路草萋萋

馮夢禎澹社詩　寒隨早梅放春氣動林泉到此人青眼相期社白蓮清音茅屋下明月竹牕前澹意息心在都忘俗慮牽　得與遠公近無將陶

謝分去喧聊避世集苦自逃羣曲澗移時汲深松靜夜聞空山門不閉遙度九溪雲

方伯吳用先公餘同右轄竇淮南年兄赴貞父黃儀部理安之約訪佛石方丈詩　収印出城郭行行入白雲泉聲迤竹響鳥語隔松聞曲澗迴峯合空門野逕分平生蕭散意獨喜對僧羣　招尋豈憚遠九轉聽溪流徑僻風烟靜山深林木幽青蓮覓淨侶白社愜良游無限登臨興斜陽不可留

鄒迪光贈佛石禪師詩　紅塵曾不遠太古若為鄰面目非凡品鬚眉亦眾人結茆藏寶帙刳石奉金身小坐維摩榻巖花滿葛巾　九折溪流漱石根芙蓉稠疊欵禪門六時常許猿聲報一室惟留虎跡存咒得山祇來侍食要將林鬼為司閽烟霞口角菩提相似爾何慙兩足尊

王穉登詩　廢寺荒蕪已百年師今結屋更安禪林如支遁堪棲鶴社似廬山喜種蓮巖畔伐薪常易米石邊接竹每供泉詩成盡是雲霞色不數清江與皎然

黃汝亨詩　短日優游亦小年不須薙髮竟安禪澄澄水白杯停雪片片峰青座擁蓮僧自開山同慧理客來漱石號寒泉陶公莫作攢眉態日飲茗茶已霍然

陳繼儒詩　山中樵子不知路世上俗人誰識名何當老我松巔閣燒木蒸藜過此生

胡胤嘉詩　十八澗名古君今第幾重屋欹三尺雪門抱萬尋峰抽笋防羣鹿懸松鬬老龍名山終自戀有累尚周顒　到此開心地應消歲月長匡牀流作枕阿閣石為梁魚浸榴花赤茶分荳子香不須談妙義白坐到羲皇

僧完璞十八澗早行詩　雞唱曙光分溪行見鹿羣草寒棲玉露衣濕帶朝雲殘月林間落疎鐘嶺外聞山家少人事晨起亦紛紛



總校官庶吉士(臣)朱鈐
校對官中書(臣)吳甸華
謄錄監生(臣)朱紱
詳校官太僕寺少卿(臣)李廷欽
編修(臣)程嘉謨覆勘

欽定四庫全書　武林梵志卷四

明　吳之鯨　撰

北山分脉(由湖墅至皋亭山)

香積寺

在江漲橋北宋太平興國三年柯氏捨宅為寺舊名興福大中祥符間賜額香積門臨官河帆檣往來者日千百計秉燭猶喧一徑蛇行茂林蔭密隱然城市異數也

妙行寺

在夾城巷宋徽宗時有僧思淨者姓喻工畫佛人稱喻彌陀遂棄家學佛捨宅為寺以接待雲水二十年間往來者三百萬眾故俗稱接待寺方臘之亂思淨語賊乞以一身代一城之命賊為少戢元季燬宣德二年重建寺南為望佛橋寺內有布袋和尚像親筆題贊書法遒古

張九成喻彌陀塔銘錢塘喻氏子生不茹葷少好畫學吳道子臻其能後專畫阿彌陀佛無為子楊次公喜之呼為喻彌陀世因以稱焉年三十五歲棄家學佛名思淨初禮開化定公為師次依靈芝照公祝髮二公皆有戒行而師所志甚遠不自以為足也即北城之外僦舍飯僧期以百萬日持鉢乞食不避寒暑心念精一人天歸焉不為經藏為毗盧大閣百鏡四垂互相攝入莊嚴雄飾儼若天宮庖湢井廁莫不備具郡移妙行院額以旌其勤屬方臘陳通之亂煨燼之餘妙行巋然獨存蓋雖賊不敢犯也至金人入寇始焚之臘之來也師徑造賊壘願以一身代一城之命誠心感動賊悚然為之少戢每賊退師輒収聚遺骸大作佛事香花熏沐冢而藏之其志堅確表裏如一積久純熟不見間斷至於隨機響答自然殊勝有部使者問師能畫彌陀何不叅問師即答曰平生只解畫彌陀不解叅禪可奈何幸有五湖風月在太平何用動干戈師為兒時游西湖多寶山輒作念曰異時當鐫此為佛其後遂為彌勒之像欲及百尺使水陸往來得以瞻仰門下侍郎薛公問彌勒見在天宮為諸天說法公於此鐫頑石將奚以為師曰咄哉頑石頭全憑巧匠修只今彌勒佛莫待下生求其他發揚應接徃徃如是嘗以般若心經句為一頌其所自得蓋不可以常法論也紹興七年十一月二十四日趺坐而逝年七十其徒葬於院之法堂之右前此僧有夢窣堵坡墜於地者有夢白龍升天者有夢眾神禮辭者噫此豈常人也哉度弟子二百八十一人師常以院宇未復為念既而弟子行超以判府丞相呂 公之命甲乙相繼主院事行蹈建大藏水陸堂行速建僧堂二十間行全建法堂方文巍峩蔽虧觀

者動心其盛矣哉余錢塘人也知師為詳竊嘗悲學佛者比比而務實者何其寡也學律者以變古為長學教者以好勝為務學禪者以破戒為通其失佛意甚矣而師惟實是務不事虛飾搏空手齋三百萬僧架空地為大剎宇鑿空山為佛誓以有成不自有其善不自矜其能故人無不信者茲可尚也已行全來請銘銘曰　大道不明誰辨西東卑者眩俗高者譚空課其實效繫影捕風偉哉法師唯實是務飯無量僧建大剎宇捐軀贖命指石為佛厥志未已厥身已沒誓千百生終底其成粵有法子克肖其父殿堂樓閣庖湢廊廡後先出沒為一佛土咨爾子孫勿墜其緒

張浚贊喻彌陀掩遺骸詩　刀兵劫海苦漫漫原野遺骸葬若干盡大地人須薦取眼睛突出髑髏寒

趙鼎贊喻彌陀詩　骸骨鱗鱗曠野昏天陰雨濕向誰論縱然有樂踰南面爭似無為實相門

清了贊喻彌陀詩　城市鄉村隨處走落花流水幾番春揚眉一笑憑誰薦四百萬僧齋主人

蘇試水杓頌喻彌陀用以化緣其徒寶之杓柄長多少西湖水淺深本來無一物非古亦非今

張商英贊喻彌陀畫丈六佛詩　丈六金身毫端三昧精妙入神充滿法界善知眾藝得大自在游戲神通一切無礙恒河沙劫金剛不壞萬象森羅影現中一顆圓光非內外

史浩喻彌陀偈　攪翻十里西湖水化作四方八德池淨洗眾生煩惱垢人人見自性阿彌

法雲寺

在武林門北七里許歸錦橋西餘杭塘之南草營巷五代晉天福五年吳越王建請餘杭安樂寺治禪師開山賜額法因寺宋英宗治平二年圓通秀禪師重建改賜今額寺內有宋駙馬都尉武勝軍節度觀察留後張敦禮捨鐘萬斛蘇東坡作銘內殿崇班馬惟寬捨拜石東坡作記元至正兵燬洪武九年善人沈勝請雙林寺鐵菴愚蒙極禪師重建正統間燬寺僧文珩圭璋白和尚重新殿宇嘉靖間倭夷入寇兵燬萬歷二十二年僧明慶智昂重建寺右有愚蒙極塔

蘇軾法雲寺鐘銘并敘元豐七年十月有詔大長老圓通禪師法秀住法雲寺寺成而未有鐘大檀越駙馬都尉武勝軍節度觀察留後張敦禮與冀國大長公主唱之從而和者若干人元祐元年四月鐘成萬斛東坡居士蘇軾為之銘曰　有鐘誰為撞有撞誰撞之三合而後鳴聞所聞為五闕一不可得汝則安能聞汝聞竟安在耳視目所聽當知所聞者鳴寂寂時鳴大圜空中師獨處高廣座臥士無所著人引非引人二俱無所說而說無說法說法雖無盡問則應曰三汝應如是聞不應如是聽

蘇軾法雲寺禮拜石記夫供養之具最為佛事先其法不一他山之石平不容垢橫展如席願為一止具之用晨夕禮佛以此皈依當敬禮無所觀時運心廣傳無所不在天上人間以至地下悉觸智光聞我佛修道時芻泥巢頂霑佛氣分後皆受報則禮佛也其心實重有德至是禮也願一拜一起無過父母乘此願力不墮三塗佛力不可盡石不可盡願力不可盡三者既不可盡二親獲福生生世世亦不可盡今對佛宣白惟佛實臨之元祐八年七月中旬內殿崇班馬惟寬捨

定光寺

初名福慶菴創自大梁貞明二年丙子杭州都督府錢塘縣節度討擊副使方銖同眾共造石幢一具鐫大佛頂尊勝陀羅尼咒於上其文略曰布金設象寶剎交輝土淨曇生宛如佛國現存後唐天成二年大為增創復昌於晉天福四年蓋吳越王因長耳和尚來居於此顯定光古佛化身遂改為定光禪寺在武林門外清湖中閘上關門巷內洪武五年天台僧惠珙重建至正統景泰間僧佛海昌昇等復建翰林侍講蔣廷暉書其額萬歷間水旱相仍竟為荒墟三十三年乙巳七月間黃汝亨倡緣重新之前後大殿鐘樓兩廡禪堂方丈鑄鐘設像汝亨有碑記殿前存古羅漢松栢各二株古井名夢泉石欄存偈天王後殿并東廢塔院古栢七株大槐樹一株冬青樹一株皆七百餘年物

黃汝亨重建定光寺募緣疏定光寺去予家百武而近自梁唐歷晉宋代興稱吾里最勝覺地昔予垂髫讀書其中殿宇敞朗古松修竹掩映僧舍佛降生日士女香供禮拜紛集如雨今予折腰官下回憶讀書時僅三十年而雄殿惟餘荒臺叢林踐為豐草殘僧數眾敗屋幾椽古佛道場倏焉寂寞稱佛子者不無黍離之歎追惟我等均此覆載而或高樓廣廈擬於仙居或風雨飄搖草棲露宿是誰所種而受報爾殊俗人不思其故遇可修為尚生慳吝可悲已夫長耳和尚為定光古佛化身天成間自天台來卓錫錢塘後居南山法相寺常募人作福或問和尚作福有何形段答曰能遮百醜由此言之醜於何作貪慳即是福於何生能遮即是減醜增美造自一念耳即以長耳和尚片言作定光導師可也我等賢愚貴賤信受斯語頂踵可捐何況錢幣是古佛寺不日成之于是寺僧方理捨念投體稽首行乞屬予重宣而作偈言稽首古定光普同十方眾是佛無古今還現於本人是福無形段遮醜即名福醜亦不自形慳貪即為醜願以無量光照破慳貪種一切諸佛相喜捨心所成如以長耳相莊嚴定光佛古佛所現處梁晉宋無二我願十方眾自信等信佛頂踵而可捐何况金銀粟寶山空手回百醜於何滅奉持斯語者親見古定光

永慈寺

亦名萬壽庵在烏盆橋路口僧宗宴慶秀募開義井建茶亭佛宇以濟往來寒暑不輟杭嚴道費公堯年題額晏秀徃京師以慈忍堅苦聞於上召對賜滲金毘盧遮那十佛寶蓮座金像一尊並千佛旛紫衣袈裟五佛冠勅賜護國永慈寺額以歸建大殿供滲金佛八角亭供大士像並天王殿山門禪室慶秀復拓基為永遠之計云

化度寺

在江漲橋梁天監間朱异捨宅為寺名眾安隋改眾善唐改重雲再改承雲宋治平二年改今名旁有崇善王廟元至元間燬至正間僧若金復建

寶覺豐樂寺

名豐樂院在西馬埲內宋乾德六年僧雪巖建治平間改為寶覺豐樂禪寺嘉靖間兵燬萬歷三十年僧寂學重建前有金沙橋左右有八角琉璃井後有銀沙橋阿婆蕩小土山茂竹

顯教寺

在武林門外東去里許宋顯仁太皇后韋氏紹興十二年自北歸至是卒未二十二年十月於杭州皐亭山建新寺成額曰崇先顯孝寺明年復於北關門外清湖閘東傍大河建菴曰華嚴以為別院乾道五年仍奉敕改今額後徙在城金剛嶺嘉熙間燬寶祐年間徙今所元末燬洪武初重建未幾又燬至弘治己酉僧智福復建萬歷庚子又燬後十年僧廣詢慨然有興復之志儀部黃汝亨為倡募誅茅拓地經營木石不輟寒暑者三載至壬子落成寺幽僻深邃若谷南北湖山隱映林樾清流四面小橋古路宛有東林虎溪之勝於北郊諸蘭若中獨稱幽絕殿之外去百餘步黃汝亨建亭書華嚴經又以妙嚴二字題其居宋應昌題深省二字贈之後有池一泓澄注上有修竹古藤鬱翠如畫汝亨構三楹其下題曰得聽居詢樸真嚴於戒律善講所至法席充牣尤於妙法華經得三昧四方學人咸稱明法華云所註有觀所緣緣諭釋義九喻詩諸游覽詩並偈頌若干首並行於世

黃汝亨建殿募疏武林門外清湖閘中舊是華嚴之菴今名顯教之寺閣橫山色何殊龍井之雲徑列松陰不減虎溪之渡自宋紹興而遞遠迨我洪武而重新諸佛之所照臨妙華於焉錯落萬歷庚子再罹劫灰十載星霜竟湮蘭若諸天佛像淋漓風雨之場四壁僧伽殘破荊榛之地寺之不存教於何顯嗟古路之入幽谷豈當世而無善根茲幸詢禪師卓錫此間義闡華嚴之藏揮麈其上音傳寶樹之枝開晦以明居今作古發鼎新之至願為眾信所皈依弘道則覆十方布金僅需五百敢告聿來檀施成茲最勝覺場一

人一合萃眾寶於香林出力出財叅微塵而山嶽俾夫大方廣佛從一切願海而交通蓮座香臺與億貝心珠而並耀見在勤修之德分明作福之形各破慳心咸歸淨業謹疏

劉曰寧送詢禪師歸武林顯教寺詩　去去東林社還從天目遊佛燈螢火夜別語樹間秋野葛諸方論飄蓬半世愁中原誰法眼駒識本南州

虞淳熙贈詢禪師詩　梵林綠雪駐雙輪似有神光隔玉塵門拂桐花迎白鳳塢飛桃葉駕青鱗少陵競採千金實望帝遙思萬樹春更莫經臺搖塵落橫山明月正留賓

曹學佺宿顯教寺詩　橋頭山渺渺柵口水漸漸月沒來時盡霜濃坐後添教原分顯密徑自入華嚴今日遊仍處能於勝地兼

釋廣詢得聽居歌詢也平生怒浮俗拄錫如鑊鬼神哭曾把淒清風雨竹種成个个臨池玉黃郎自是靈山囑為護空門就林宿月明半在山之麓醉歌竹枝露如沐歌罷支頤仍瞪目責予不縛林邊屋詢也日中食不足那有餘藏趁餘欲黃郎知我同骨肉為結幽居對深綠涼風不使羲皇獨天花粉散琳琅馥靜聽心與虛空觸虛空發聲晤高躅

福壽寺

在西馬塍望佛橋西南俗呼為東隱齊梁朝有神僧寶掌禪師飛錫過汴游浙見林深地僻景勝形奇即插竹為精藍之始唐貞觀七年少卿夏公恢宏梵宇題曰東林五季末殿宇寥落宋嘉定間復為鼎新元復燬皇明鎮江南峰義禪師杖鉢游此重建成祖文皇帝有贊其略曰緇門總卒樂以優優至成化丁酉歲姑蘇半塘寺僧大章捨資建天王殿嘉靖乙酉山西老衲鼎建西方寶殿

陳秋閣新秋宿東林詩　閒來棲野寺涼思快高情露冷絺綃薄天秋枕簟清蒲揮逾玉塵蓮飲勝金莖翠竹搖詩榻孤眠憶友生

陳寄南過東林詩　生平躭寂樂曳杖入東林寺外青山繞階前黃葉深浮雲知世態澄水見禪心坐覺塵紛遠唯聞鐘梵音

大覺禪院

去武林門北可十里在北關德生巷唐憲宗元和二年弘辨法師建額曰大覺禪寺檀越蔣安王諒捨地計一十六畝五代周顯德間燬元武宗至大三年詔舉烏石山僧世愚重建正殿天王殿法堂等後柳塘和尚拓以禪窟方丈僧寮修觀演義養老涅槃諸堂春秋開講冬夏坐禪四方宗之靡不風嚮元季燬於兵燹洪武十一年用環璩法師欲崇奉大圓鏡光普門像復作大閣雄麗壯峙工與像稱都人作禮因敬生悟俗稱大覺院亦名觀音院成化間僧無心道鑑重葺嘉靖間島夷入寇廢僧德明尋又恢復迄萬歷三

十三年歲癸卯僧圓神重建戶部主事晉江蔣光彥助緣落成撰文樹碑寺舊有東坡鼎趙松雪手書十可山房叅寥子手書覺路元僧柳塘手種長松百八株並廢於嘉靖間惟大佛三尊諸天等像皆呂侃屠玉瓚名蹟及大圓鏡光觀音鏤像雖屢經劫燒而巋然獨存

唐憲宗御製贊朕聞天之為大也上下之容可紀地之為大也縱廣之數可推則知無去無來不生不滅拯沈淪於沙劫救焚灼於塵區毒龍懼其威光強象憚其神力其大則包於宇宙其小則隱於毫芒七十二圜先有陶鈞之內萬八千載即為俄頃之間漢日載其通輝周星彰其降誕鷲頭峰下演金口之微言雞足山前舒玉毫之瑞相干戈不用梵志摧鋒甲冑無施波旬潰弧闢圓明之淨域啟方便之禪門慧晷耀於昏衢慈雲清於杇室無得而稱其惟大覺乎

中峰大圓鏡像贊　心鏡光明皎如月聖人智體無生滅一念纔興即現前古今凡聖相融攝

唐宣宗皇帝問弘辨法師機緣帝曰禪宗何有南北之名對曰五祖弘忍大師在蘄州東山開法時有二弟子一名慧能受衣法居嶺南為六祖一名神秀在北揚州其所得法雖一而開導發悟有頓漸之異故曰南頓北漸非禪宗本有南北之號也帝曰云何名戒對曰防非止惡謂之戒帝曰云何為定對曰六根涉境心不隨緣名定帝曰云何為慧對曰心境俱空照覽無惑名慧帝曰何為方便對曰隱實覆相權巧之門也被接中下曲施誘迪謂之方便設為上根言捨方便但說無上道者斯亦方便之譚乃至祖師玄言忘功絕語亦無出方便之迹帝曰何為佛心對曰人有智慧覺照為佛心心者佛之別名無形狀非青黃赤白男女等相在天非天在人非人而現天現人能男能女非始非終無生無滅故號靈覺之性如陛下日應萬幾即陛下佛心假使千佛共傳不會別有所得也帝曰祖佛既契會心印金剛經云無所得法如何對曰佛之一化實無一法與人但示眾人各各自性同一法藏帝曰何為頓見何為漸修對曰頓見自性與佛同儔然有無始染習故假漸修對治令順性起用如人喫飯不一口便飽是日辨師對七刻賜紫方袍號圓智禪師仍勅修天下祖塔各令守護

錢德弘懷大覺上人詩　借得僧房一榻眠凍雲晴日照寒氈已知有像俱成幻悟得無生始是禪碧眼比丘能佞佛白頭居士且譚玄懷人只隔西湖水沙上鳧鷺自洒然

李日華題覺海上人宴坐處詩　一漚復一漚起滅何時休風靜孤月現空寒萬國秋

鄒迪光十可山房題壁縱橫不如李子宛轉頗似模稜今日一椽為蓋他年五嶽擔簦

智果院

在武林門外東關六里舊為宋東山萬壽寺寺敞可容數百僧四面環水蓮花盛時香聞里許有亭臨其上曰白蓮亭外有涵虛鏡水二閣中有白蓮橋米芾題且喫茶匾元末兵燬其地盡入民居洪武三年智果僧文[王*斥]於舊基得觀音像一座三焚而不燬者未辨為幾百年所遺因建殿為供匾曰智果下院俗為觀音菴萬歷七年僧明繡拓基以廣其制創大法堂萬[厂@(林/心)]戌申僧海成照心復捐資闢地濬池種蓮作亭以追舊蹟路建大山門曰萬壽遺踪

王穉登過訪詩　禮佛歸來道路賒海雲猶自濕袈裟鰲身駕海千尋雪蜃氣成樓五色霞月滿吳門聊駐錫秋深作伴好還家門人若問南游事魯見支那小白華

永寧菴

去武林門十里芳林鄉沙河關萬歷間雪浪法師建接待十方雲水檀越陸雲捨地中貴劉成為護法里人沈文助建翰林吳應賓題曰慧海津梁

西方菴

在艮山門外五里餘雲棲寺僧廣明卓錫於此飯僧十萬復捨己地以擴充之本師手書其額晝夜持佛號不輟口四方衲子藉為依焉

廣教寺

在北新橋東晉天福六年有肇法師始創吳越王建舊名傾心宋大中祥符間改今額慶元六年密印法師重修有雨花堂說法臺元季燬洪武四年僧智海重建基址寬敞前後印堂田八十餘畝寺徑松林六十四丈後有土山三層上苦條樹大可五十圍出武林門先見此樹景泰間僧覺徵潛心文墨博通經史註纂百忍箴行於世其板今存府庫以鉢資築江漲橋華光橋塘棲跨塘橋朱鏞書碑嘉靖年被倭患日漸侵廢萬歷間查理廢寺產額保里舉僧正祈承業惟跬地破椽而已祈贖置基地二畝建佛殿三楹萬歷丁未孫通曙重建千葉寶蓮大佛周圍小佛千尊僅延香火云

陳璇徵法師像讚貌古而神清膽雄而志宏其存己也活活落落其行事也烈烈轟轟其學博也則因百忍箴而見其功顯也則造五道橋而稱律法條章講論而明聖賢義理遵守而行在當仁而不讓但有為而必成禪講叢林之寺院倚之而紀綱益振衡台宗門之教法得之而箕裘克承是不忝從佛國出古庭而受經抑不愧為大報恩重開山一代唯菴之上足續傳世之真燈也

陳璇詩　三生石上長青苔春日誰登般若臺痛殺湯休從此逝不知惠遠幾時來風清浙水空杯渡雲斂英山寶地開綠竹青松猶滿眼可憐消息斷蓬萊

毘陵胡潨源詩　歲暮因過水際村維舟重過舊游門點頭頑石依然在說法高僧已不存夜榻自來明月影春庭空見綠苔痕我來多少傷懷事留像挑燈與重論

苕溪徐祚詩　雨花樓閣化烟霞甘露泉頭即是家簷蔔結成霜後果枇杷開到雪中華也知寂滅纔為樂始信浮生自有涯寫得舊時行道影不教塵土涴袈裟

昭化寺

去城北七里潮王橋東南唐長慶三年建舊名龍龕吳越王復建於後周顯德二年宋大中祥符間改賜今額舊在芳林鄉河北中界紹興二十三年官以其地建倉屋遷寺於茲地傍有潮王廟元至正十九年兵燬洪武四年重建二十四年立為叢林永樂九年復燬十年重建松江府推官段天祐撰碑記成化十二年少保于公給事張晟捐資重建隆慶二年張中復張一陽重修金臺王玘書昭化二字萬歷二十八年本寺僧圓會重修殿後存唐朝松栢三株

鎦英詩　風軒話久覺清涼白藕花開近石塘老去詩名慚沈宋古來佛法重齊梁坐臨流水心方淨吟愛青山夢不忘休得沈酣便歸去欲將小品問支郎

沈宣詩　六月野風村路涼小橋行過又陂塘人懷淇澳居栽竹僧污袈裟燕渡梁共說五湖閒更好豈知一醉慮俱忘俞君寫得坡仙句只恐當筵笑郭郎

倪宗正詩　萬竹青青隔石橋薜蘿恍若護芭蕉眼前春色俱消歇定裏禪心忘寂寥雲意依微生畫壁月光溶漾破烟霄一聯清影今分我幾度風霜不受凋

蕭鳴鳳詩　萬縷千條湖上堤蘇公去後歇芳菲獨餘寶地春陰在抱膝相看一鳥啼

崇興寺

去城北一十五里芳林鄉北新關後元至元間普慧和尚建至正末兵燬洪武初僧照心禪師重建二十四年立為叢林正統四年本境居士盛本忠施財修建大雄寶殿大藏經閣普慧法堂鐘鼓樓並假山一座在寺殿後灰燼於隆慶五年七月十八日本年十二月二十六日佛廣建立小屋三間

供奉萬歲龍牌萬歷十三年六月十三日真宣重建佛殿山門栽種千頭奇栢一株壬子黃汝亨倡緣真宣海雲復建大雄寶殿天王殿並普慧法堂

崇先顯孝華嚴教寺

在皐亭山之陽宋紹興十九年建二十八年賜崇先顯孝禪寺額寧宗改禪為教御書皐亭山三字及崇先顯孝華嚴教寺八字以賜元末燬洪武十二年重建二十四年歸併崇興寺有無盡堂萬工池東翰堂桃花塢即韋后墳攢所毘盧閣龍游洞雲錦亭圓音堂

普潤寺

在武林門外西下扇一畐宋淳熙元年成太師捨地為寺賜今額元末燬於兵萬歷戊申圓泉禪師募化重新詳虞淳熙記中

按錢塘志故有普潤寺去會城之西不二里許前臨桃花港後接東隱寺開山於宋淳熙間國太師成公捨地為寺延師居焉寺名普潤者時方盛行天台之教除淨慈昭慶稟禪師之外若天竺三山及普福而下若院若庵咸遵其化普潤葢以性具之教命名也或者曰論不云乎名無得物之功功無當名之實普潤之名為之奈何曰夫天台智者大師以靈山親承大蘇妙悟獨點法華一經為諸經王開本跡之雙妙會權實之一致色香中道世間相尚後賢一踵其芳猷烏得以附通之名圓頓之名哉曰如居士所指名必得實敢不仰信於心然實必符名抑何者為普而為潤耶曰若未聞法華一雲一雨三草之無私澤乎葢喻眾心地為煩惱所亢道芽之莫生也故如來以大法音倡戒善滋三塗而濟之於人天倡諦緣滋二乘而濟之於菩薩以圓滿菩提滋菩薩而濟之於如來究其指歸如經云如來說法一相一味皆悉到於一切智地當知下而眾生上至菩薩無所不該者非普也歟始自貪嗔癡以至塵沙住地莫不受滋者又非潤之謂歟或者唯唯又曰不慧嘗原是寺自宋以還其間興廢固不可考然成公之後寥寥若無一僧之可稱述孑然至今杲公乃能遠舉先蹟寧抑有說乎曰古今人物之著否有幸不幸何獨一寺然也若知寺名普潤在於利澤僧名圓杲在於朗照觀如來名大雲亦名麗日者又寺之待僧豈無宿因哉或又言寺微古跡曷以名剎曰子獨取夫古乎有人於此欲舍今日之今第求古日之古不知今既不處古云何有念念代謝交臂非故若將以方伯公諸長者為見在護法耶在即無所去脫漸去那得復稱見在在耶總藏去於去則寺之與人稱今可也稱古亦可也或者唯唯遂以為寺記頌曰會城之西爰有招提成公捨宅普潤是題火宅燄熄法雲蔭低聖凡雖異為滋且夷宋迨勝國故址欲迷有僧圓杲以拓以棲方伯吳公給箚護持考其功德成公肩齊誰能證此請自牟尼

普化庵

近香積寺係香積下院僧無為重建

治平寺

在城北永和里唐天成間建宋治平改今額元至正間重建元末燬而復建洪武二十四年併香積寺

寶嚴寺

在肇原鄉義溪村名寶勝院宋乾德六年郡人錢仁暉捨地建治平中改今額建炎四年金兵犯境院燬而大士殿獨存金眾駭異奉泥金法幢佛牙舍利謝罪遁去而院旁十里民得無恙紹興間建元至正十九年燬洪武初復建二十四年併香積寺

興化菴

在城西北謝溪村西宋咸淳間建元末燬洪武十九年重建二十四年併香積寺

真如寺

在江漲橋東宋韓蘄王捨宅為寺構重閣安奉金書大品般若經智度論於其上元至正二年燬洪武十五年重建

覺圓寺

在武林門外五里皇慶元年僧慈濟建元末燬洪武十年重建今併昭化寺

鐵佛普明寺

去西湖可四里許在西馬塍宋紹熙元年建菴曰普明冶鐵為佛嘉定十三年請額得古廢寺普明之額偶與菴同遂移賜之改菴為院元末張士誠據為敵壘毀佛為軍器院廢正統四年僧宗浩重建天順二年請賜舊額甬東徐恕記俗猶稱鐵佛寺萬歷辛巳火祠部黃汝亨勸募僧朗重修

永慶寺

舊名清心在西馬塍清泰二年吳越王建名湧泉院宋治平二年改額泉從石罅流出折入黃山橋泉味極清美高宗愛之常取以瀹茗

永興寺

在靈竺山後唐貞觀建今重修

武林黃汝亨為寺碑記曰西溪有名剎曰永興寺當靈竺之後山唐貞觀間悟明尊者開山宋鐵牛印禪師重建濟顛復壘石為安樂橋不數武而當水嚙處嶔碕欲墮乃夏漲秋灌勢甚衝決而巋然獨存真聖蹟也村民將食螺螄已斷其尾顛乞放之池中遂活至今螺無尾寺中廢嘉靖間復興失其東偏為萬氏祠而祠又屬趙氏馮祭酒開之倡緣以七十緡贖還於是永興東境始復僧真麟居禪堂舊址焚修不懈禪房三間在池左高榆修竹間碧琅綠雪翛然可人池右種梅百本霏霏晴雪芳馥林表馮公因屬麟上人並佛宇一新之馮公數徃來此寺嘗歎曰此寺非惟地居幽絕僧朴真無綺妄非諸山等即十八里梅花春時山家焙茶香聞十餘里亦清勝冠諸叢林矣因題曰二雪堂永興有緣不滅蘇學士三過矣寺後有方丈名安樂松軒是不佞所書厨下井名聖泉雲間陸尚書樹聲有淨界莊嚴題中江莫如忠所書俱名筆足與寺千載宜記

佛慧寺

在履泰一畐晉天福七年普覺明一禪師開山有碧沙泉今在山門左為法華祖師道場因名法華山永樂間比丘本源文達禪師重建正德間燬都督萬鹿園為外護圓杲祇園法師闡揚宗教皈依雲集請龍藏水鎮梵剎建閣修葺煥然一新月溪圓朗相繼薰修下院名圓通菴在六寶村別院名白業堂

文徵明詩　法身曾趁木杯浮又駕慈航月下游出世不求千歲藥汎溪長載一輪秋桂香飄處清禪夢兔影低時歇棹謳物色由來總虛幻何須重看海中漚

王世貞詩　吾師福慧悟來深萬字從胸眾所欽趺坐俄成水月觀繙經忽動海潮音塔因聽法名多寶田為酬恩字布金功德總高何所冀翛然一鉢下叢林

皇甫汸詩　開教逢鳩什談經得馬鳴坐中窺有相言下了無生法雨和香氣天花落梵聲歸時多寶就刊石為垂名

王問詩　臺殿參差映海霞黃金高座禮袈裟一燈散作千燈影到處人傳講法華

文彭詩　貝葉西來今幾年何人解悟得真詮老僧說得天花墜寶塔騰光法鏡圓

張鳳翼詩　支公說法處寶塔夜光懸蘭若千峰雨香臺一縷烟慈航超苦海蓮火照迷川我欲聞鳴磬來修靜者緣

薛應旂詩　人天無住著究竟有真詮面壁應難悟繙經孰可傳徧尋何處遇普渡亦須緣憶在吳門別重逢不記年

陸樹聲迎月溪法師升座講四十八願偈　盡十方世是彌陀願盡眾生心是法界海眾生念念入佛復念念不屬眾生是彌陀願滿入法界海竟

王世貞白業堂記白業堂者故講師朗公所立也朗公之同母兄曰祇園俱少而離俗負大智慧三藏經論總持若橐復相與叅五臺伏牛諸耆宿為秀法師上足尋駐錫於杭之碧峰山當是時祇園振法席而朗公佐之塤篪倡和不為異宗方之世親之始殆有間矣祇園示寂法席愈盛諸襯施雲集朗公不以充衣食供而買地碧峰之址大約畝三十而微剪棘夷塊中為堂五楹左右淨翼之後為齋厨浴湢四周高墉曠潔靚深竹樹匝列陰森蔽虧結夏解夏無非安地時郡守新都吳君請公室而樂之顏其楣曰白業志淨土也夫業不過二端淨穢而已諸淨行種種深淺不一而皆歸之淨諸穢行種種深淺不一而皆歸之穢淨而至於白所謂純潔無疵淨之至者也然猶得以白而擬之以業而證之即令不思善不思惡了悟妙明本性無法可修無佛可作何白可擬何業可證哉朗公未五十而示病現化其門徒真相如蓮性印奉遺體瘞於堂之前而塔焉因介王徵士百穀來請記余舊嘗識公頎晳而長面若滿月每升座說法巍巍金山海潮之音聽者驚悚密意殷勤惟余是屬余今安敢辭第朗公之業余不能深窺其趣而為之弟子者羯磨精進勿替朗公之志以無業為白業可也夫堂則一幻地而已矣

報先寺

在西溪履泰一啚又名明覺院吳越王建歲久傾隤萬歷間重建殿佛并像有恒如禪師習天台教三十年不出山誦法華六千部

真覺院

在錢塘履泰三啚地名桃源嶺山向盤旋地臨邃寂古蹟桃源居嘉靖三十八年間僧真龍號伴雲捐資建孫淨源性良性純海月重修俗稱伴雲菴亦稱桃源居改名真覺院

豐禾菴

在仁和縣二十三都一畾董公莊西梁貞明間柳明王捨宅為菴保一方風調雨順五穀豐登故名豐禾菴柳明王即為本菴護法一境土穀遺像巍然在焉萬歷十五年風雨傾圮本境士民請僧行洹建造佛殿並華嚴樓金中丞馮司成俱題額

慈嚴寺

在安吉三畾雲泉山下晉太平年建

慈泉寺

在長壽一畾

廣福寺

在長壽二畾

寂福寺

在長壽四畾

定安寺

在定北二畾

定明寺

在定北三畾

金蓮寺

在定北一畾

棲真寺

在定北四畾

無諍寺

在女南一畐元時建

禪智寺

在女南四畐宋時建

法性寺

在崇化八都下九畐吳越王建

真寂寺

在八都下九畐宋寶慶間建萬歷甲寅僧廣印移建缾窩接眾印字聞谷叅悟堅猛真禪那也

大雲寺

在奉口唐貞觀間建

重興寺

在靈芝三都宋徽宗建

荀山寺

在靈芝三都八畐元至順中建

廣化寺

在萬松山相傳寺側有沈約墓

聶心湯重興萬松山廣化禪寺碑云萬松山誌載鳳泉山在宋為圓通大覺璉禪師駐錫處有錫田碑勅至元間妙明廣濟普福大師淳紹由正續院來住茲山構大伽藍聞於朝賜今額勅碑四襲其二剝蝕不可讀其二與寺記塔銘皆可攷寺所緜來者遠而其所部轄尤夥不獨一正續也餘杭武康長洲崑山比比咸有獨正續介在步雖沒民間基址具存去山不二里又有金龍山淨安院宋白雲覺禪師道場僧廣隨居焉隨雲棲弟子宗教無不圓暢遠近稱仰里人謝君錫等請隨住持徒眾叢集以舊居湫隘不可容樵蘇不給宋司馬馮司成及其師蓮池各助金為倡贖山田若干畝給帖蠲其

役次創法堂禪堂齋堂方丈庖湢稍稍建置浸假而增益其所未備焉夫以宋元舊剎向之銷歇沈淪於民間者不知經幾年歲今幸一旦巍煥聿新臺殿碑幢復還舊觀廢興豈不由人是為記

淨安院

在金龍山宋宣和覺禪師始創白雲菴毀嘉定四年僧智雅建紹定五年請今額又毀萬歷己卯僧廣隨重建錢塘令美召有碑記

正續寺

在常熟鄉宋無準範和尚開山聯溪紹禪師重興光宗御書額曰萬年正續元黃溍撰聯溪塔銘

寶慧菴

在龍鳳山金龍山之陰宋紹興建景定重建賜額有碑記禮部出給公據又臨安府帖碑

圓覺菴

在游漾塢鳳泉山北宋朝賜額有碑記

東明寺

在安溪大遮山前建文君為僧至此有遺像

長慶寺

在女北唐光化初建

寶林寺

在崇化七都四啚吳越王建

東蓮寺

在崇化七都五啚宋時建萬歷三十五年重建

聶心湯碑云太璞山之南有蕭剎焉其始翑者南宋時僧智深也僧本郡人受法於常州華藏元禪師後歸覲結菴茲山沙門雲集遂拓為寺日與談宗旨見為獨利上根弗普弗徧非西聖接引意也復建彌陀殿約諸善信同修淨土效晉遠公東林蓮社故號東蓮云由宋入國朝晨鐘夕鼓香雲弗絕迨值繇役繁重緇衣染公府之塵叢林苦吏胥之擾產蕩僧散猿啼狖嘯風雨之所漂搖僅見落葉荒苔數椽朽屋而已里中朱廣文等惻然動一笠之想圖恢復計聞皋亭悟空塔院僧淮者有戒行雅負幹才禮請卓錫而望殘燼復然可不謂盛舉乎淮懼緣難驟結閉關以待然而眾樂為助布金施粟不脛而至因命衲子性弘德等庀材鳩工鼎建佛殿前為山門左齋堂右禪室厨庫湢浴鱗次一新進惟東蓮絡繹奔赴歷世墜緒不三稔而還舊觀何其易若承蜩也予思政虎賦蛇朘脂豽肉即名閥鉅姓箕裘漸見霣零矧琳宮梵宇聚散摶沙者邪有人焉為之軫念倡義捐資勰謀起廢則嚮之鞠為茂草者煥然金碧輝煌矣遞廢之故縱曰劫數詎非人事哉噫產叢具在去珠復還願後之人有增無損不至翦焉荊棘不亦慈悲宏願功德無量也乎用紀顛末以昭勸戒

妙智寺

在八都上四畾俗呼杜甫廟宋大觀建

智勝寺

在下扇三畾寺左有白兔泉味清冽異常內泛白星觀者相汲不絕

黃汝亨贈伴雲詩　衣帶南流水風波去棹遲雲光沈梵閣山色澹江湄寺有高僧偈詩慙學士題漫云無可坐空際白雲期

吳之鯨兔泉浮白詩　短篙撥烟汀沙曲驚鳧鷺茂樹跨丹虹步屧支青藜甘泉出乳竇玉友勤提攜荳香猶帶露笋滑初穿泥采真貴恣歡齊物悟幽棲吾生盡如此浮湛胡足稽

廣福寺

在北隅一畾東晉建

觀音寺

在餘杭塘北舊名觀音妙智院宋開寶間張彥捨宅建

正等寺

在調露二畐唐天寶間建

仁壽寺

宋建

報福寺

俱在調露鄉

佛日寺

在皋亭山北為明教嵩禪師道場近桐叩寺前有渥洼池徑下有大松二株皆唐宋舊物寺廢土人斫伐時見幞頭紅袍者惶怖走避至今存萬歷間重建亦名佛日塢溪流屈曲叢木交映水底怪竇如瑪瑙色細蒲翠滴至此竟日忘返塢盡處有大洞如屋亦仙境也

天王寺

在仁和縣東一百里宋高宗紹興年間建名永寧菴理宗淳祐四年法雨講主請勅賜額天王院元末兵燬洪武初復建更名曰寺

保江寺

宋乾道年間建元至元間燬洪武二十年重建西隱寺離城八十里宋乾德元年建元末兵燬洪武十四年重建

慧日寺

晉開運元年建名光照寺在孤山南宋祥符八年移至博陸改今額元末兵燬洪武十四年重建

純一院

宋嘉定年間勅建元至正兵燬洪武二十四年立為叢林有下院曰慧林菴

萬壽菴

在博陸村萬壽橋側

慧日天王保江西隱諸剎跂峙博陸皆創於宋燬於元復興於明惟慧日則建自開運然從孤山下遷易今名亦自宋始也資慶由長壽村移博陸不知何時載復載圮已沒於蓁蕪瓦礫矣而僧如圓改築西水儼如雙林廢興非獨人事亦有緣感矣武林襟帶之水至博陸而與攜李代迴環盤礴鬱秀之氣若聚固宜諸剎鱗起也胡胤嘉題

資慶院

宋建炎間創元末兵燬景泰三年重建嘉靖四十五年復燬萬歷三十一年間上院僧守廉請禪僧如圓移築塘棲

胡胤嘉募造大雄殿疏云資慶院之廢土人幾不能舉其名至圓公始復之佛無莊嚴之殿僧無老疾之堂與余謀之三年未飭材也辛亥仲春來謁余疏余曰何遲遲也曰凡吾所謂緣實難鳴鈴擊柝以號眾借縉紳先生之薦牘甘言以市人不可知之人余勿能也余為其信者而已余歎曰非獨子有不能佛亦有不能佛能度無量有情而不能盡眾生界能知羣有性而不能化導無緣以佛之不能加子之不能毋怪其難也雖然子為其信矣信者超死生之根本也何論緣事阿含經曰補理故寺二梵之福此曲誘下機之語真具上根信者斷臂刺血亦無所愛豈福利之足言即余今為子作疏如不具信力而言其所疑縱舌繡筆花不免於六十四種中軟語綺語之業況以導人之信哉子既為其信矣子可無疑於緣矣有普同塔放生池

清流禪院

在塘西里仁橋北元至正年建清流亭奉議大夫兼翰林院侍書蔣暉為天竺傳天台教觀住持閒中叟無相立正德年僧大一募贈方伯沈存濟地建祈堂觀音閣藏經函閣中萬歷間經軼閣圮僧海潮立募三年闢為叢林飯僧無數易今名太史董其昌額其堂曰梵網珠又題曰有禪淨土祈堂舊宇則僧同涵居也

普濟院

俗呼觀音娘娘殿居棲水之西市世愚悞稱泰山娘娘非也嘉靖間有倭警火及於殿見白衣大士合堂演咒出梵音以是垣堵無恙其靈現從來久矣華亭袁福徵記

德雲菴

初不知所自始天順間僧志詳莊嚴遺像於座下得書一緘云宋末元初戎事始定西天目山中峰祖師舉棹江湖船居十載南抵錢塘北游蘇秀乘此光風霽月鑑水平波優游涵泳而樂道也因泊船唐棲鎮下鄉耆李誠從師慕道乃於隴右平區修築幽居以為祖師祁寒盛暑燕息之所子昂趙公相與徃還論道偏曰德雲菴有詩云舟停蘆月渚僧憩德雲菴之句又云伽藍基址佛殿僧堂乃是聖朝土脉古德嘉猷昭於千載之久福裕斯民者也後嗣宜遵先訓緜福祉於不朽庶幾不昧其肇矣乎按書是居士李誠為中峰祖師創以供游息者也書不知何人筆亦元時住持此菴遺訓後來者今僧如曉熏修其中在塘西南介河去市五里

永清禪院

在塘西北三分村宋紹興間延法師刱元末兵燬洪武初復建玉音實錄見存

大圓菴

去塘西十里許在龜馬山之間

古林講師塔銘畧云師諱曇茂字古林於西石崗開治平壙建觀音殿周以房屋竹木雲翳昔之殿宇門廡煥然一新今春秋八十宛若少壯度徒一十人預營師歸藏石塔於菴後師曰達摩老子強要東來使我如何又要西去去則去且留此骨權作話頭後有幻人道古林禪師在此予愛其言而銘之銘曰　生八十年作千萬善心心菩提種種方便釋迦老子只此一念持此一念四海周徧雖曰周徧又不可見有可見者藏骨之塔示未來者尚其有覺成化　己亥秋九月進士張天錫撰

化城菴

古井尚存井欄刻淳祐元年四月上旬惠塔主置門榜化城深處趙孟頫題

泗水菴

西水胡胤嘉撰重修泗水菴緣疏云余家西水不堪近市之囂雜每棹小槳攜茶竈泛葭葦荇藻間終憩泗水焉若超陟之顛迤邐入皐亭尋黃鶴則又以泗水為推輪矣其水為泉規之若井其下穹然不知其方廣也履其上穹然者如鳴箏撥阮鏗鏘而應汲瓶落手蕩激以去非綆繘可繚而得水味不敵錫之慧金之中泠澄之以清和有韻不敗茗色背負小阜連岡突石

可眺可遊接阜以徃中斷為峽林木陰蔚紆杳而入恍異人境若夫鳩鳴夜月雪霽冬松花濃葉赤人寂徑清即謝有東山之勝陶愛匡阜之幽亦足埒矣然余於是更有感焉字水以泗其山為龜為馬峙於左右東魯河浴之遺事也此必有人焉慕其風而錫以嘉名以為隱學棲槃之處碑沈志逸不復可致此一感也水為名泉邵康僖諸老煮茶賦詩以板其上先哲勝風慨焉可追又一感也中之佛宮高敞樸質自徃代禪誦薰習能發人志意又一感也余徃時與卓去病兄弟捐資葺其圮樓後為惡僧醉飽所敗廢置踰時戊申之秋始延鑑如上人來主其菴鑑如文弱有行力收遺椽而整之則葷穢之塲可還舊貫向所云碩儒企東魯之踪韻士理鴻漸之訣法侶開蓮花之社皆於是菴趨徃焉非止一福田利益之事而已余故手書疏語以告四方同調之士共發誠願並告鑑如至心勸成勿生疑怠

邵銳詩　棲溪老人鬢欲華杖藜方外謁袈裟雲端度嶺青天近松下乘風白幘斜峭壁坐禪飛錫杖空堂演法雨天花明年此興遲今日重到南山看採茶

丁養浩詩　絕頂清新遠物華一塵飛不到袈裟松高百丈穿雲出竹壓禪關帶月斜野鶴有時閒教子老梅無語自開花相逢莫問人間事紗帽籠頭且吃茶

廣濟菴

在唐棲長橋弘治間太皇太后周及武宗皇帝欽賜御寶無量壽佛並帑金四百五十兩建尚書屠滽修撰錢福有碑記萬歷癸未重修殿傍建普同塔先後僧方毓顯林募成

崇勝寺

在奉口峨嵋山南宋淳熙建元至元初燬至正十二年重建元末又燬洪武十年復建二十四年立成叢林

寶華寺

在芳林鄉會安村宋乾道間馬宗浩捨宅為菴名為寂慶寺嘉泰間重建淳祐七年移請今額元末燬洪武十六年復建

普濟寺

在大雲鄉獨山西宋治平二年建元末燬洪武初重建

崇覺寺

在城西北泰溪村元至正初建十三年燬洪武三十四年重建

興福菴

在城西北仲溪鎮北元至正初建十六年燬洪武元年重建二十四年俱併崇聖寺

普寧寺

宋朝勅建天順二年于忠肅公聞於朝勅賜萬歲龍牌清鼎供器一副金字大普寧禪寺匾後寺頹僧絕萬歷戊子吉祥寺僧真實重建講師葦杭說法其中二十餘年師金陵人朴真和朗為遠近所宗馮夢禎為像贊黃汝亨為銘記塔在奉口廣化寺

普濟院

乃普寧下院普寧飯僧渡河寒暑濟舟為難僧海珵於南岸修造鴨欄橋於橋下建菴飯僧徃來便之

昇平廟

在橫里保係虎林玉泉寺下院分僧焚修其中

圓通菴

在鼎湖之南宋朝創元時燬嘉靖二十二年重建復圮萬歷丁酉僧大潮募修

泰清菴

在皐亭山南丘家橋萬歷戊戌雲棲僧大柔建

定心菴

在黃鶴山南海塘萬歷甲辰越僧性海募建

資福菴

在黃鶴山南張巷村萬歷癸巳僧廣智募建

普門菴

在黃鶴山南馬家埠萬歷甲辰歲僧如山募建

膝泉菴

在皐亭木塢左僧海澄實真構室於此錢王鏐以膝跪地泉即湧出故名

黃龍菴

在黃鶴山大宋黃龍禪師開山元時兵燬隆慶年圓澄禪師構茅屋以居四世下僧如謐號超然叅悟其中題其閣為惺惺閣嘗與高攀龍吳志遠輩坐玉如潭七日而悟拈題即能詩詩多不具載募造佛殿方成而沒沒一朞而其徒無淨毀賣於民家古松翠竹一時俱盡

僧如謐秋日山居詩　日日生涯谷口柴村童負米去還來種園野外留花木接水空飛下石臺崖上翻紅楓葉老江中吹白荻花開平生獨有滄浪興欲作狂歌愧短才

秋日懷胡休復詩　君去寂寥在秋來黃葉深溪清寒客思境淡養人心古樹依山瘦飛霞落水陰斷橋一片石孤影獨相臨

龍珠菴

去郡城東北三十里在龍珠山之陽唐宋古剎傾廢難考惟故址猶存左有古松右有龍珠泉雲棲僧成意於萬歷庚子重建

大覺菴

在黃鶴山之陰青草塢僧大賢於萬歷戊申歲卓菴以居

巧山菴

去城北三十里係古剎宋高宗七夕駕幸其山因命名曰巧山

林雅菴

在黃鶴山之陽僧義蘗於萬歷丁未歲建

圓通菴

在黃鶴山之陰青草塢僧應堂於萬歷丙午歲建

永慶禪寺

去城東四十里在黃鶴山之陽今稱龍居灣唐清泰間建元初年燬萬歷間安隱寺僧如良等十人買故址構禪堂殿宇前有沼後有泉計百五十畝方伯吳公賜永慶禪林額朱國禎詩有序

自天目而東最尊者無若皐亭之黃鶴峰直黃鶴稍曲而菴者曰龍居面海臨谿舟騎絡繹雲游荷擔者尤多菴燬於倭茲再建居士偶尋山過之風雨停一飯作三詩　其一曰名山游已徧此日到皐亭鶴下棲雲白風高望海青僧歸老祇樹客遠舊禪燈莫問朝來雨還堪夜摘星　其二曰誰是歸依地青山合有緣風聲調石磬雲氣落松烟不語僧持咒從空佛結蓮今年老居士投足近諸天　其三曰冒雨來投此蒲團正可依山深非寂歷燈影自光輝雪嶺看河近天花對雨飛一聲黃鶴下夜半有僧歸　僧知其宰官也持冊求文凡五月未有以應茲來索不得再辭又作一詩歸之此亦方便法我輩老年應法只宜爾爾　皐亭峰勢倚層霄臺殿陰陰路轉遙山色烟籠禪喜窟海波時漾虎溪橋秋風遠水來新客明月長廊隱舊寮自有象龍圓法相不愁檀越驟難招

李流芳冬日過皐亭龍居灣宿永慶禪院同一濂澄心恒可諸上人步月二首歸裝出西湖間道向黃鶴屢愆桐塢期偶遂龍居諾輕舟凌晨風遙山滿晴郭丹林尚可數寒條紛無託披松指微徑聽水捫暗壑新構爭遠勢平臺攬搖落霜後山容淺天清海氣薄暫歇塵勞心始知寂滅樂每多方外遊見僧即如故燈明一龕下夜長愜深晤不知山月上千林已流素出門尋舊溪愛踏松影路氣和空宇澄寒魄如春露去寺不數武回矚驚莽互幽泉洗我心微鐘杳然度

大悲妙心菴

去城東三十里在安仁鄉僧如慧於嘉靖戊申募建

薔薇菴

在黃鶴山之陰薔薇塢僧明通建

慧覺院

去郡城東北四十里在黃鶴山之陰建自嘉泰四年元末廢古木石橋故址俱存嘉靖間僧明證儒家子緝草結菴其內設關枯坐故俗稱曰草菴隆慶二年縣宰嘉其精誠捐資立額其孫如信精勤幹理感動諸檀越協助構殿擴山地以復今院右建證師塔院即設關處院前有滴乳泉半月池左有觀音洞洞上有海音二字

慈孝菴

在慧覺院側萬歷間李如德建奉母清修

龍峰菴

去城四十里在黃鶴山之巔有白玉泉峰高千丈泉飛百尺嶺峻而人跡罕到故俗呼為雲梯嶺萬歷庚戌歲越僧真茂重建

大雲菴

去郡城東四十里在黃鶴山苦竹塢蜀僧性彬性澄於萬歷丁未重建彬字文若通楞嚴圓覺大義

梅石菴

去城五十里在黃鶴山之陰晉天福七年佛日禪師淨業堂舊址向為衛允讓久踞萬歷辛亥歲郡城佛惠寺僧如誠徒普氤償價復故地左有洗鉢池右有仙姑洞深莫可測洞口多怪石石上有老梅郡人虞淳熙因題曰梅石菴並碑銘勒石

聚石菴

蓮花塢有故址安隱寺僧海文先年以亂石為窩萬歷戊申山中父老咸仰其德各捐金構庵故稱聚石菴

俪伽菴

在龍洞口萬歷丁未僧性月建菴有石臺梧桐數株前溪環帶

功德院

在黃鶴山之陽係唐宋舊名國朝改名西勝安寺成化間火基方十畝四圍古木俱存萬歷戊申僧如海捐資築基新設數椽焚修郡人張一陽仍額功德禪院舊名苕溪平涵朱公作功德院記

圓教禪寺

去城東五十里在丘山之陽年久傾廢止存殿基二十八畝方泉放生池安隱寺僧性美慧淵於萬歷庚辰重建

普慈菴

在黃鶴山之陽有故址湮沒年久萬歷己酉僧性玉重建有石崖龍潭之勝

靈花菴

去城三十里在黃鶴山之陰花桐塢有古靈花菴基存焉有靈瑞泉吳郡僧大韋於萬歷丁未歲重建

臥龍菴

在黃鶴山之陰佛日塢僧慧鏡萬歷辛亥建菴多怪石石下古有龍牀故曰臥龍菴

白蓮菴

去郡城三十里在黃鶴山之陰桃花塢僧如蓮焚修

定慧菴

去城三十里在桃花塢萬歷丁未僧容亮建

法華菴

在竹塢萬歷甲辰僧悟真建

烟石居

在桃花塢山之巔萬歷壬寅僧本祥卓菴於石崖下

翠微菴

在桃花塢三塔之上萬歷戊寅僧真海性通建前有石坪石池水清味甘不竭

秀水菴

在花橋北入古誌萬歷甲戌俞居士復捨基構菴僧廣德焚修

吉祥菴

在黃鶴山褚塢萬歷戊申僧如林重建
觀音大悲菴在桐扣南王陵山頂萬歷戊子歲僧廣量重建

西向菴

在仁和縣廿三都江姓捨地創建延僧大澄於此十方雲水時依棲焉李流芳名其額

華藏菴

去城五十里在黃鶴山右萬歷戊子歲僧雲川建右有乳泉古松栢列於道傍

永福菴

在黃鶴山西首鮑家灣

般若菴

在黃鶴山北面楮陽塢山上

徧福寺

在城東北三十五里赤岸舊名眾善晉天福七年始祖慈航建佛殿賜子觀音殿天王殿宋治平二年燬天順七年從真法師請賜名徧福而殿址俱廢前有潤玉亭丁蘭井眾善橋放生池至今存萬歷辛亥里人俞思沖丁周倡建賜子觀音殿方伯吳公書龕斯廣應額

茶湯寺

古覺仁院去城東三十里湯鎮塘有古楂樹一株地名楂塘灣唐天寶二年住持洪深始建大雄寶殿二座千佛閣藏經宋治平二年重額覺仁院乾道三年燬寶慶三年重建洪武二十四年立為叢林永樂十四年江潮沖沒移建皋亭山嘉靖十一年僧懷悰鼎建俗稱茶湯亭

長壽寺

即留茨菴在城西北三峰山大雲鄉元大德年間建永樂間里人夏誠移請長壽寺額永樂五年十月十五日有敕一道御賜轎一乘　勅諭天下赴會僧眾朕惟佛氏之道清淨慈仁宏深廣大包含萬有貫徹妙微利益幽明功德無量比者仁孝皇后崩逝舉薦揚之科起無遮之會廣集僧伽諷演經典百日之間嘉禎翕集慧燈降於金剎法雲覆於紺園繡絢五紋輝燦諸品毫光累現眾彩畢呈天花雨空滿祇林之寶樹縞鶴飛舞繞碧落之旛幢佛之舍利或流輝於梵宮或騰耀於寶塔開照空之荅菡爛湧地之摩尼動若驪珠炳煥午夜晃如虹彩燭影丹霄寶殿之前圓結金梅之果長干之境秀產瓊芝之祥若斯顯靈難以悉舉皆由爾眾毘尼克謹梵行清修瀾翻八藏之文悟解三乘之旨秉至誠以奉朕命攄精意以叩佛慈其中亦有至人道化高妙飛行變化隱顯莫測感朕誠心來臨法會證明善功朕德薄有未能知藉茲眾善遂致感通睹瑞應之蕃臻想神靈之濟度超遊極樂信有明徵朕實歡愉特加褒獎夫觀百川之流者必至海乃止虧一簣之功者則為山不成爾等益勤精進庶永謝於塵緣究竟真空期早登於覺地利生助化翼我皇家欽哉故諭

上塔伏虎禪院

伏虎禪師原居江干五雲山每到城必騎虎出入回山化錢買猪首飼虎忽一日回山遲偶傷一人禪師倚杖責之虎悲哀悔伏師徃皋亭結菴於興教寺後圓寂今上塔即伏虎禪師塔院

中塔悟空禪院

即真歇清了塔宋紹興勅賜悟空禪師塔名靜照天重覺禪師為之銘淳熙僧德輔重立石紹熙改元太師王藺留詩并序　予前年自江西召還以十二月六日抵修門雨後微雪宿接待院今得罪去國復以是日雪中來明日過皋亭見福公長老言及相與歎息因留三絕重到招提却兩年北牕風雪接衾眠客來休說邯鄲夢世事端知不偶然富貴危機豈獨今且從麋鹿逐山林只慚莫報君恩重敢廢惓惓畎畝心皐亭回首軟紅塵晴日僧房暖似春禪老眈眈如臥虎相逢一笑問來因　院有古松數十株列道金鉤銀杏樹四株覆屋中有石池石為石蠏所蝕玲瓏如雕

下塔月明菴

即清杲禪師塔院宋紹興間建國朝燬於兵燹僧雪峰誅茅重建其徒如月習苦積功啟大雄殿山門鑄巨鐘濬放生池居士王宇春黃汝亨沈守正為倡緣經年落成仁和令喬時敏有月明禪院額

朗士吳之鯨有碑皋亭山在武林東北隅烟嵐晴靄供明聖湖遠眺孤秀可挹古德耆宿徃徃托跡於此而上中下三塔最著上塔伏虎禪師真藏中下二塔則真歇清了月明清杲二師滅度處也二師俱左緜人同嗣法於丹霞淳公宋紹興二十三年丁卯朔白了呼首座曰吾行矣跏趺俄頃而逝杲時方作務聞之亦呵呵伏樹而寂兩公生同俗長同師不殊天親無著而去住無礙又似龐居士父子奇哉事聞於朝命使臣建塔於桃花塢即今處藩以禪室焚誦不廢入國朝厄於兵燹成化間復建獨下塔在山址樵蘇蹂踐榛莽迷離幾與丘垤讓卑矣禪師雪峰與徒冰輪俱杭人天性朴誠戒律精肅初遊五臺叅名嶽歸訪杲公遺蹟慨然有興復志誅茅編屋不堊而堅入其門新潔莊嚴能斂人志而發皈依瞻仰之願依山以居者遠邇趣役累黍可積駸駸拓大而雪峰已化去氷輪愈厲苦拮据矢成未竟之業一以樸誠動人遂復構殿三楹前後廡宇鱗次繡錯香燈梵花法幢建鼓鐘磬之聲晨夕達數里而百年來荒墟遂成珠宮琳宇矣徃歲辛卯余不佞與俞似宗讀書興教寺欽雪峰高行時過叅訪師一日指侍者曰此初懺皈誠者也昨日夜叉頭今朝菩薩面夜叉與菩薩只隔一條線聲音朗徹余聆之恍然心境清沁若有所會是歲似宗預計偕即成進士因與皋亭結久要而余南北分馳遂虛舊游顧夙企冰輪之能成師志而構茲勝果也非特法門龍象抑亦古剎棟樑歟頃左方伯桐城吳公廉其實與銘不朽而仁和邑侯海上喬公嘉與更新題曰月明禪院以標其額儼然月明杲禪師與山靈並曜法席之盛當世世傳燈未艾矣不佞因為述其詳而系之以銘銘曰　曹溪肇源清原分派提心為宗何等無在慧筏渡迷金[鎞-囟+(奐-大)]撥碍杲師受衣空明洞解現示游戲大千同界遺蛻奚存真性不壞雪峰上首璞中圭

外如月紹林堅忍于邁猊座揚輝紺宮映帶杲師何心成毀嗔愛以覺有情功隆埏載名山護持竹香松籟

法華菴

為月明下院近萬緣橋僧性廣建

柳翠菴

在下塔側有柳翠塔

興教寺

晉天福四年錢氏捨名興善寺伏虎歸禪師為開山之祖元末兵火煨燼勗法師重建名為興教

華嚴菴

在皋亭桃花塢興教松隱靜室也俞思沖題額僧清學焚修

金佛寺

宋嘉泰元年璋法師創業師湖州武康人父姓金母夢僧持花入室而生師自幼辭親出家叅訪知識勤修淨業士庶皈禮開禧三年寧宗召問佛法賜金佛寺額元至正六年燬洪武初僧正福重建至二十八年正福善能二師鼎建佛殿寢室雕裝三佛二菩薩諸天有靈芝花二盤古窯青瓶一對貫雲石書淨業匾元時銀杏樹左右一株二合俱存永樂間福精修戒行晝夜禮彌陀淨土期懺忽聞異香滿室告眾云四十八年住世猶如嬰兒游戲世間萬事皆空明月清風歸去書偈而逝

無垢院

在城北大雲鄉宋淳熙元年建元至正燬洪武初復建萬歷乙亥重建憲副林梓題額兩刼真修其序略云誌載宋淳熙間坦禪師奉勅建造至三代孫祖心者一修葺焉迄今盡圮僅存殿宇而已地方耆善訪瑪瑙寺有行僧亦號祖心謂為前祖心之後身也請住守焚修余自掛冠歸隱湖莊日與方外交遊而惟祖心師誠實可嘉是以為贈

善曇寺

去城東五十里在鼎湖西葡萄畈原葡萄寺廢經數百年其故址宛在萬歷戊戌僧如顯募眾縣宰豫章劉公嘉其德捐俸以助邑人胡心得沈朝煥沈朝爆丁周助建長河環帶古木圍蔭有石橋鉢盂泉

鼎湖寺

去城東六十里在鼎湖中亦名東湖廢久無考湖大三千餘畝萬歷庚戌司道清復里人虞淳熙為倡構室以居僧海淵等將興崇殿以復其舊湖跨仁和海昌二邑于南西湖若鼎峙焉

安隱寺

去城六十里在臨平山南唐清泰元年吳越王建名安平有安平泉宋治平二年改今額元至正末燬永樂初重建其後即臨平山地生曲竹相傳丘隱士羽化棄杖於此其竹皆曲寺有寶幢歸併於此曰報慈曰圓滿院曰寂照菴

蘇軾題安平泉詩　聞說山根別有源撥雲尋徑興飄然鑿開海眼知何代種出菱花不計年烹茗僧持甌泛雪煉丹人化骨成仙當年陸羽空収拾遺卻安平一片泉

勝安寺

在皐亭山北

胡胤嘉記云皐亭山清澹渫杉松插翠潭壑瀉注味韻清美予棲遊久之晉宋以來悟證者若而人黃龍伏虎月明諸古德影堂瘞塔保而禪誦其間者迄今不衰其餘岐峰邃澗或綴一瓢或卓一錫皆有拔俗絕塵之想勝安介在諸剎中創自後周顯德勅名寶勝宋之乾德郡人錢仁輝葺而廣之法侶道崇夜見白衣人來謁始立大士圓通道場建炎四年燬於兵手其殿竟無恙眾大駭異奉泥金法幢佛牙舍利供之紹興二年始易今名已不知其所由廢矣僧寶有麥秀之歎謀之兩世再起再罷其孫性乾少年精警跣足行募不踰朞而岩嵓燀燦幾與層巒爭勢矣

廣嚴寺

在臨平鎮西前挹鼎湖後踞丘山水木清茂煙雲晻靄雜與氓墨賈區相接而諠囂不聞按圖志舊名華嚴院晉義熙十二年法師通所建以奉華

嚴者隋大業末燬於兵唐高祖時玄覽法師始即其地而恢拓之鑄金銅像三百五十軀書金字涅槃經二千餘卷尊奉度置咸極莊嚴法師俗姓褚氏左散騎常侍舒國公無量之弟舒公少常讀書湖上有龍起之異既顯以太夫人年高歸覲其鄉時從冠葢出游山中敘昆季之好人以為榮法師因請湖為放生池刺史袁仁敬禁民六里不得入網罟司馬楊敏言復禁十里魚鳥涵泳士民嚮風遂為一方之盛開元二十二年法師化去學士徐安貞為之碑會昌中寺燬碑亦堙沒大中十二年寓士陸同芳濬井得石函華嚴經六十一卷遂名華嚴井捨宅為寺建塔以藏焉宋治平年中賜今額建炎罹兵燹其地沒為民居邑人姚成率好事者復之乾道五年僧行杲始營佛閣鐘樓元大德七年僧如岳增建前殿而門廡稍存其制元貞乙未平山林禪師棄家於茲受具戒遍叅諸宿歷主名山藏楊宗乘為東南之倡由是寺之名益著元末兵亂尋廢正統十年節菴貞公與其徒日初昇合謀協力鳩工簡材撤而新之弘治丁巳日初徒本浩復葺其圮壞云

淨惠寺

晉天福七年吳越王建號佛日院宋大中祥符元年改今額

范成大詩云　帆掠楓橋意欲飛西山雲物遠依依回思客路豈非夢乍聽鄉音真是歸舊事懶從年少問故人稍覺座中稀不須更說桑榆晚杭稻鱸魚也自肥

蓮華窟

在佛曰塢蓮華峰之左脇僧大慧累石為基編茅為室因峰得名故名蓮華窟有石翼然如飛雲之狀名片雲巖有泉瑩淨潔白從石底細竇湧出味如醴蜜名天乳泉有池形如泮名半月池

明覺院

即明教嵩古道場也元末燬其基沒於民間僧性澄於萬歷間清理六畝山形狻猊名獅子山有石龍在溪左右頭口相對而出泉從口流晝夜如吼名石龍又名雙龍泉有石窩其中可容二人趺坐名石龕有石在澗底牽如被幅長五六丈名交崖石

龍興寺

宣和七年因東湖水濤洶湧建寺名妙華菴立普同塔鎮壓水勢紹興六載高宗建都杭州太后駕幸本寺賜額龍興元末兵火額石俱焚

大安寺

在臨平山北小林鎮梁貞明二年吳越王建定慧禪師為開山祖元末燬洪武重建二十四年歸併廣嚴寺改額為大慈院

驀直菴

在仁和念三都十畾僧大仙童真入道眾信歸仰丁姓捨地募建禮請焚修給事洪瞻祖顏其額

彌陀菴

在履泰鄉五畾嘉靖四十年里人李陽割地創建延僧如性卓錫其中嚴淨毘尼精誠念佛以荁為記滿四十八石臨終天樂迎空彌陀接引人遂以彌陀名其菴萬歷間孫海雲立禪三載刺血書經李應科捐貲重建司馬陳學易有記

龍華菴

在履泰鄉五畾萬歷十八年陶曉施地建延僧性曉焚修不涉文字惟勤禮佛司馬陳學易顏其額



武林梵志卷四

總校官庶吉士(臣)朱鈐
校對官中書(臣)吳甸華
膳錄監生(臣)朱紱
詳校官太僕寺少卿(臣)李廷欽
編修(臣)程嘉謨覆勘

欽定四庫全書　武林梵志卷五

明　吳之鯨　撰

北山分脉(由錢塘門至三天竺)

菩提院

本錢惟演別墅也捨以為寺有白蓮綠野等堂碧玉四觀披灝等軒南漪迎薰澄心涵碧玉壺雪氈瑜等亭後併入昭慶寺

真覺院

即隱菴

法濟院

舊名觀音院有明軒爽軒

妙因院

即慈光菴

寶嚴院

俗呼九曲院

昭慶律寺

晉天福間吳越王建宋乾德二年重修太平興國三年建戒壇於寺中每歲三月三日海內緇流雲集於此推其長老能通五宗諸典者登壇說法敷陳具戒其徒跪而聽之名曰受戒至今行之天禧初有圓淨法師學廬山慧遠結白蓮社搢紳之士與會者二十餘人運使孫何為之記南渡後以其地為策選鋒軍教場尋復為寺元末燬洪武間重建成化間燬雲水僧廣慎復營之嘉靖間燬于海寇都御史胡宗憲重刱殿宇隆慶間復燬新都汪道昆募建萬歷二十五年勅賜銀一千兩助建內有萬善戒壇藏經閣千佛閣綠野堂觀音井碧玉軒四觀堂看山亭臥牛石放生池

宋陳堯佐詩　湖邊山影裏靜景與僧分一榻坐臨水片心閒對雲樹寒時落葉鷗散忽成羣莫問紅塵事林間肯暫聞

王元之詩　夢幻吾身是偶然勞生四十又三年任誇西掖吟紅葉何似東林種白蓮入定雪龕燈焰直講經霜殿磬聲圓謫官不得餘杭郡空寄高僧結社篇

大佛寺

舊傳為秦始皇纜船石宋宣和中僧思淨者當兒時見之作念曰異日出家當鐫此石為佛及長為僧妙行寺遂鐫石為半身佛像餘以黃金構殿覆之遂名為大石佛院淨即喻彌陀也元至正間院燬佛像亦剝落永樂間僧志琳重建勅賜為大佛禪寺弘治四年僧永安重修寺畔有塔俗稱壺瓶塔宋諸帝原葬紹興府寶山此山又名上山又名攢宮山自西僧嘉木揚喇勒智發其塚將諸帝骨雜以牛馬犬羊之骨併而葬塔于江干號為鎮南塔俗則呼為白塔至今相傳其地為白塔嶺未幾被雷火所擊杭人驚異且哀諸帝之不幸也共收餘骨葬寺東造塔其上號壺瓶塔事見山陰唐之淳懷古集旁即沁雪泉張太尉總宜園德生堂理宗書扁泳飛亭放生亭天禧四年王欽若請以西湖為放生池禁民採捕故構此亭放生碑郡守王隨記

李攀龍詩　西湖斜日淨風烟北嶺岩巉出半天磴道半從空外轉樓臺已入鏡中懸塔分西域銅鮒勢石紀秦王錦纜年白社但須彭澤酒青山不用華家錢波搖玉樹堪雙映月上珠林好獨眠我輩自狂君莫訝平生未敢謬周旋

昔太學生所作風入松詞　一春常費買花錢日日醉湖邊玉驄慣識西湖路嬌嘶過沽酒樓前紅杏香中簫鼓綠楊影裏鞦韆暖花十里麗人天花壓鬢雲偏畫船載得春歸去餘情付湖水湖煙明日重携殘酒來尋陌上花鈿時

帝微行見此笑曰詞斯美矣但明日重携殘酒終帶儒酸不如改為明日重扶殘醉次日召兩官之

金輪寺

在保叔寺山門之側周顯德二年吳越王建

楊蟠詩云　首出羣山內推開幾度看不因風雨折欄檻滿溪寒

保叔寺

古名崇壽院一名聖壽禪寺在寶石山上山名壽星瑤石山又名巨石山又名石甑山山高六十餘丈開寶中吳越相吳廷爽建內有九級浮圖名

應天塔後燬咸平中僧永保重建去其二級人呼為保叔塔嘉靖元年燬二十二年山西僧永杲募緣重建或云南宋為保所塔張即之湖山勝槩門扁僉事焦煜寶石門扁羅隱封山記徐一夔碑記梯雲嶺巾子峯一名獅子峯錢王箭臺永保岩一勺泉甘泉天然樓乳泉井在山北其色白如乳汁石屏風古名此寺為屏風院墜星石一名落星石一在山上一在山之北原學士軒元學士黃文獻公嘗寓此看松臺開化方豪建獅子巖在看松臺之上覽勝樓極樂菴錢湖龍君廟碑陰陽池在塔下水月園在大佛頭之西宋紹興中高宗以賜和王楊存中為書水月二字門扁水月亭玉琳堂俱在水月園內宋樞密童棨墓

錢思復詩云　金剎天開畫鐵簷風語鈴野雲秋共白沙樹晚逾青鑿屋岩藏雨黏崖石墜星下看湖上路歌吹正沉冥

林和靖詩　巾子峯前烏桕樹清霜未落葉先飛如何天竺林間路猶到秋深夢翠微

一勺泉詩　絕頂盤峯秀蛟宮湧地蓮塔棲南斗下僧問劫灰年鬼谷摧堅石神功琢湧泉派疑銀漢瀉溜訝玉龍穿沆瀣雲根滿分明琬琰鐫一泓通海眼孤浸立山巔正正沉華月亭亭蘸碧天味香流乳滑嵌洩濺珠圓魚躍金梭見虹垂寶帶懸洗甌僧淪茗供佛客擎錢幾許詩脾沁寧當俗慮牽靜為仁者學湛若定心禪渴想[(奭-人+大)*斗]瓢飲酣宜漱石眠何人識恬澹終日愛潺湲莫怪頻來此煩疴頓覺痊

劉賓山閏九月登山詩　一年難遇兩重陽且復登臨到上方佳節不隨秋去早山林應笑客來忙白衣人遠誰供酒黃菊花殘強傲霜莫遣西風吹落帽鬓毛林葉共蒼蒼

又同沈石田登寶峯詩　僧樓重會沈休文把酒看山興絕羣一道泉聲池上落兩湖春色坐中分苦吟野鳥如憐我不飲山花亦笑君湏把老懷傾瀉[書-曰+皿]毋勞別後賦停雲

相嚴院

晉天福二年錢氏建有十三間樓樓上貯三世佛一尊蘇子瞻治郡時常判事於此

智果禪寺

舊在孤山吳越王所建宋紹興間徙築于此先是蘇子瞻守杭州與智果禪院師參寥子善名其所居泉曰參寥泉寺既徙北山有泉適出寺後好事者仍名參寥泉以志舊蹟元末燬洪武初僧可祥惠炬重建徐一夔作記其梁題云元祐五年歲在庚午二月辛卯二十五日乙卯上梁盖子瞻手書自孤山移置者昔東坡在黃州夢與參寥子賦詩覺記兩句云寒食清明都

過了石泉榆火一時新後七年坡守杭參寥住持智果寺內有泉宜茶寒食日東坡偶過訪之因憶舊夢以參寥名其泉參寥子即道潛僧之別號也東坡夢中識之道潛平時有詩曰數聲柔櫓蒼茫外何處江村人夜歸又曰隔林彷彿聞機杼知有人家在翠微

偶經臨平道中詩　風蒲獵獵弄輕柔欲立蜻蜓不自由五月臨平山下路藕花無數滿汀洲東坡見之稱賞不已後得之于西湖智果寺一見如舊及坡移守東徐潛徃訪之於逍遙堂坡遣一妓前乞詩潛援筆題曰　寄語巫山窈窕娘好將魂夢惱襄王禪心已作沾泥絮不逐東風上下狂自是名聞海內

吳立夫詩　古寺湖水上寺門但菰蒲一泉湛如玉巖骨旱不枯粤從參寥鑿得與盖壤俱東坡或茗宴西嶺猶松竽人誰問詩侶世頗笑酪奴瓦甃縱然在木瓢知已無汲水宜汲深塵心非轆轤別禪勝別味俗舌空醍醐老僧久不識香池冷宿盂卓哉郡太守遺像擁眉鬚間來試我酌霧雨變須臾尚持金芙蓉便踏赤鱘魚

治平寺

初名錦塢庵僧法聰建有烟雲閣

壽星寺

在智果寺側有壽星石明遠堂垂雲亭寒碧軒一擊軒平秀軒東坡祠杯泉觀堂江湖偉觀扁趙與建

東坡次韻周長官詩　瑠璃百頃水仙家風靜平湖響釣車寂歷疎松欹晚照伶俜寒蝶抱秋花困眠不覺依蒲褐歸路相將踏桂華更著綸巾披鶴氅他年應作畫圖誇

寒碧軒詩　清風肅肅搖牕扉牕前修竹一尺圍紛紛蒼雪落夏簟冉冉綠霞沾人衣日高山蟬抱葉響人靜翠羽穿林飛道人絕粒對寒碧為問鶴骨何緣肥

明遠堂詩　十年不向此凭欄景象依然一望間龍蜃吐雲天入水樓臺倒影日銜山僧於僻寺難為隱人在扁舟未是閒孤鶴似尋和靖宅盤空飛下復飛還

朱繼芳江湖偉觀詩　吳山表裏水為池百有餘年壯帝畿天目遠將雙鳳落海門近拱六龍飛胥濤白雪生秋思太乙紅雲駐夕暉江上沙鷗湖上舫柳邊風裏兩依依

寶雲寺

在寶雲山下一名千光王寺宋乾德二年吳越王建即瑪瑙寺東空園是也有靈泉錦塢澄心閣妙思堂南隱堂清軒月窟宋邳王墓抱朴子墓在寺側葛仙翁名洪字稚川抱朴子其別號也

蘇東坡雪後游寶雲寺詩　寶雲樓閣開千門林靜初無一鳥喧閉戶莫教風掃地捲簾疑有月臨軒水光瀲灩猶浮碧山色空濛已斂昏乞得湯休奇絕句始知鹽絮是陳言

薩天錫葛嶺詩　煉[舟-(白-日)]仙子渺茫間一夕乘風去不還火冷爐頭灰已盡雲封洞口嶺長閒千年瑞氣生瑤草夜半天風響珮環真境空明自今古烟塵依[雚/臼]隔瀛寰

秦舜友初陽臺詩　晨光凝遠眺寒露滴松風玉笛一聲曉萬山青翠空

瑪瑙寺

舊在孤山今葛嶺東一名寶勝院開運三年吳越王建宋治平二年改賜是額紹興二十二年徙于此有瑪瑙崖瑪瑙山居紫雲洞寶雲山高生閣僕夫泉初陽亭初陽臺煉丹井中庸子陶器墓乃法慧禪師也

張伯雨宿瑪瑙寺詩　一宿葛洪丹井上化為蝴蝶夢魂清湖田凉蛤四散吠烟寺曉鐘相遞鳴孤嶼橫生為玉几初陽煥爛似霞城拏舟又入水雲去還我風篁雪竇聲

登初陽臺詩　初陽臺上新亭好一曲笙簧石壁開驚去玄真狂道士步虛飛下玉清臺　葛洪嶺上訪真居一飲丹泉足自如拂袖莫嫌狂散甚子非知我我知魚

趙達夫白珽鮮于樞三人遊初陽臺聯句詩　巾子峯頭艤釣船初陽臺上坐鳴絃出雲高樹明殘日過雨蒼苔泣細泉絕俗誰能繼遐躅凌虛我欲挾飛仙還家政恐鄉人問化鶴重來知幾年

招賢寺

在葛嶺上唐德宗時郡人吳元卿為六宮內使棄官學道結庵于此後吳越王改為寺宋高宗葬欽宗神主于此寺後尉遲恭井梅泉東坡書扁

白樂天紫陽花詩序云　招賢寺有山花一樹色紫氣香芳麗可愛頗類仙物而人無識者因以紫陽花名之詩云　何年植向仙壇上早晚移栽到梵家雖在人間人不識與君名作紫陽花

嘉德永壽講寺

俗稱毛寺宋理宗時秦國夫人毛氏者皇后母也既老結庵于此就葬焉即庵為寺有芝產墓側因名芝巖前有放生池翔泳堂幻隱洞寶粧閣東有寶嚴院垂雲亭借竹軒西有定業院環峰堂襲夢軒神仙宮靈耀觀並廢

白廷玉翔泳堂酒中詩　環辭度得雪兒歌濃墨斜書碧玉柯醉折芙蓉薰酒盞裏湖凉似外湖多

鳳林寺

俗呼喜鵲寺唐長慶初禪師圓修居此四十餘年棲息松上有鵲搆巢其傍人遂呼為鳥窠禪師白樂天守杭州時常徃叅之曰大師居處甚險禪師曰太守險樂天曰弟子位鎮山河何險之有禪師曰心火相交識性不停得非險乎樂天服之宣德間僧如月重建勅名鳳林寺圓修骨塔存焉

僧來復詩　寶網金幢變刼灰瞿曇寺裏盖蒿萊鳥窠無樹山夔泣不見談禪太傅來

君子泉

本在定業院中亦鳥窠禪師道場也院廢而泉湮後人遂勒石于此寒冽而深會為方沼可氷鮮焉伴玄庵在瑪瑙寺側有葛翁丹井祭酒馮夢禎顏其堂曰白業墨僧性智焚修

妙智庵

一名報國觀音院在栖霞嶺上舊多桃花春時爛然如霞故名栖霞左有寶雲右有仙姑二山相挾嶺在其中如劍門故名劍門嶺有危松翠華如盖上臨賜為御愛松有紫雲洞栖霞洞金鼓洞靈芝岩烏石峯閣頭陀盛暑曝背其上改名悟石

護國仁王講寺

在無門洞詳記中

釋文石記略曰洞在西湖北山智果山居後初陽臺下紫雲洞前舊傳岩石峪岈懸巒匝地宋有高僧慧開字無門者居此故因師名云當淳祐理宗時召問法要稱旨命師求雨救荒得效賜號佛眼而師嗜靜隱於此山師法軀短小每登座說法必假重城學者竊掩口胡盧師因命工鑿後山成像約高丈餘且誓曰願後有身偉不減此師既遷化距宋景定四年歲癸亥十一月錢塘孫某婦李氏夢一僧持燈籠寄宿自云慧開道人翌日遂產男子異相非凡逮長身長九尺有奇出家受具是為中峰和尚於時咸識為無門

祖師後身斯像徵也洞之右出則從護國左出則由玉泉左向則烏石峰右上則金鼓洞入從右脇則前遶澄潭入從左脇則高藏像殿下為禪室庭除庖湢寮舍而已古跡既廢湮沒無痕復于嘉靖甲申年有高行沙門曰圓果厥號香林京口人也離俗既久操方有年遊歷至杭長行分衛夜宿三門時在仙林律寺檀信見其苦寒製新衣衣之送齋作供絡繹蜂聚果師厭之略不少受遁至北高峰絕頂假一席之地縛草為團瓢止觀其中主僧見其不出營食時時閔而給焉如是斂足已逾六載冬忽大雪旬有四日地積丈餘主僧甚念是必僵死俄城中善信不期而會至者三十餘僧相慰苦寒出郭何事咸曰夜夢關公提刀立馬厲聲告曰北高峰古佛餓困雪中幾及半月何不裹糧救旃此無心道者飯之勝恒河沙百寶上施施佛也彼此相訝夢不少差眾既寘師設供師怡然禪坐殊無凍餒之色作唄受齋舉皆懽忻眾因勸師下山師曰諸君早去每日未晡羣虎來集遶菴哮吼若遲返駕是必驚恐由是相送下山不覺行過積慶值一長人長可丈許師意必非凡人縱步逐之愈趨愈疾俄至斯洞長人景滅問諸薪者報云烏有而諸豎但拾瓦礫累於一礬石間師趺坐相對小憩良久石上恍然有光灼灼師撥去瓦礫頂相儼然爬搔砂土眉目盡顯諸童喜笑而去告揚城市現像所以城中男婦聚觀塞途禮像異師悉以衣裓手捧畚去其土須臾畢盡像因畢露師慨然喜曰將非緣在斯乎遂謀募構小殿蔽之并得斷碑復詳無門祖師像也是時杭有守備內相郭公設食濟饑以師道行延請為主是後兩山凡遇禪講咸以師篤實充為司庫四眾舉稱庫頭庫頭云師嘗見前峰松際披拂儼如黃絹不測幾長復作大雨堦庭[書-曰+皿]沒乃蟄其下遺坑一尋神臨尚在隔歲復歸清泉自出久之方止先是土人相傳為黃龍祠在昔禱雨靈應勅封靈濟侯護國神龍師得斷碑于斯有證夫龍之為物可巨可細可彌可密即令傾天倒地覆雨翻雲其性恒然凝寂三昧故云那伽常定無不定時果道人高行深修臥雪旬餘居山數載出則經新古剎處定動恒然之間在佛法季運利益眾生所度弟子若緇若素不下千計若今蓮池法主東暉禪師皆其叅學弟子夫山川洞壑由道見尊道在人弘弘必有所霞山定上人者跡雖棲棲而本實觧脫左司馬公雅與契悟亦一時道行懸絲未絕果道人之前豈無一人見豎隳興廢劫中遂泯然無考嗚呼文石感比世道行交廢如果道人者亦寥寥其人定上人能拾士大夫遺言集之紹繼前修廣幾斯文俟夫君子易檢討云

馮夢禎詩序云　辛丑九月十五日西湖放生事竣雨中從朱比部泰復潘太學景升游無門洞期而不至者為虞稽勳長孺俞徵君羨長分韻賦五言古詩余得金字薄雲引湖汎纖雨繼山尋所存在濟物觸事欣合簪吾生定有涯娛性賴丘岑遵塗始近隄歷疇帶豐林遂得化人居窈窕入谷深絕壁繡莓苔幽澗戛鳴琴崇像斷石幻神龍隨錫吟觀化卑語海撫徃希布金且饑伊蒲塞聊以澄煩襟　朱長春得瑟字朝搴芙蓉英暮采桂華實有期山中人從邁理孤策凉秋風云厲微雨既蕭瑟崇岡引載途陰溜啟絕壁

雀鳴空林中鼠走長松末洞門岌以幽古石白如雪言有黃龍游徃徃興雲窟感此化人居願言投偃息神仙何當期年徃如過隙無為飾人世蹙蹙使生迫　潘之恒得玉字同流況慈航咨此生生祝縱鱗悉還淵放翼仍棲谷豈伊曠山行不遑懷水宿湖氣溢涔沆嶺霧垂霢霂良友倘不俱玄賞將焉告衝泥入溟烟乘興匪由速到門桑竹清捫洞翠微觸封雲起瑤島鑿氷屑寒玉飛壁像飄雲巘然瞻丈六突兀霄漢間敷澤想靈沃池舒寶勝光林奏迦陵曲感茲出世因何願不詶復朔饑長莫辭鳧悲短莫續不忍蹣跚羞甘受輪轉辱誓弘般若力共接西方躅

虞淳熙得商字補詩　我昔驂黃龍逍遙青琳房豁落太無門聊與金僊翔手持綠玉杖驅龍出西方三翼開明湖蒼茫烟水長放魚戲蓮葉波動芙蓉裳雨花散珠宮香水浮鴛鴦回首渺丹崖洞壑滋瑤芳同舟二三客別我鄧石梁遙問昔所遊巖扉杳茫茫飛霞流錦石常蔭白毫光寒松鳴秋絃空翠天風凉長嘯拂紫髯爽氣凌金商葉落聞清聲片片龍鱗黃呼我出岫雲歸來向空王闇闔尚可排石戶徒相望窈窕入無倪極目笑長桑吾當握驪珠回光照石牀龍臥三千春銜日上高蒼

吳用光詩序云　萬歷壬寅夏五余憩聖僧菴上人霞山為余道無門石像之奇余意佛眼中峰香林名為徃來而實無徃來者提燈寄宿案礫放光祇為游戲三昧耳上人於此承當不因為賦曰　正法當秋晚津梁像教開化身留石壁瑞氣繞香臺象罔從誰覓玄珠不用媒無門千古意徙倚白雲隈

雙桐菴

在紫雲山棲霞嶺側新安許太史買山構庵額曰雙桐竹徑迤[這-言+里]岩[片*忽]幽寂可坐僧性慈焚修于茲

如曉游雙桐菴訪了元師詩云　挂鉢雙桐下巉崖屋半間庭陰留夜月堦色亂春山世念隨雲薄禪心共鳥閒相過話岑寂不厭啟柴關

淨性寺

宋乾德五年吳越王建名淨心院大中祥符改今額元末燬國初重建傍有青衣橋

淨業堂

在秦亭山為淨性下院僧圓禮築室數楹饒竹函峰阮公過題云君多直節出塵俗日與高僧相徃回雲集鳳毛清大夏春蟠龍角奮輕雷遂名萬竹淨業堂孫克弘書額曰香光莊嚴

碧漪蓮社

在秦亭山下孫克弘書黃汝亨題曰旃檀窟普慈院在秦亭山嘉靖初建僧廣莫棲寂于此莫號仁安多著述晚年叅雲棲師皈心淨土嘗有頌云肘後神符殺百妖室中無復用吹毛太平天子頒新令不許門前更釘桃刺十指血書華嚴一部法華二十部寬地豎窆深臥其中董太史其昌為題石曰安法師墓

玉泉寺

舊名淨空院南齊建元中僧曇超說法于此龍王來聽為之撫掌出泉遂建龍王祠晉天福三年始建淨空院于泉左宋理宗書玉泉淨空院額以榜之祠前有池畝許清徹可鑑蓄五色魚數十頭遊泳如畫其前溉田千頃近者曰鮑家田吳越相鮑慶臣采地也宣德間置白紙局就池造紙淆濁久之局廢而泉復冽矣旁一小池水翠綠雖以白粉投之亦成綠色萬歷間錢塘令聶心湯重建有晴空細雨扁方伯竇公供書本藏經於方丈命住持僧性科等守之其藏經每本首葉有識云三吳大知識捐貲刻經徑山有送余者嘆非家物流照眾生藏山于山藏佛於佛玉泉古寺百千年幾廢興而名不改佛力哉將山河大地非待盡者有乎月高欲殿蓬杳擬宮飛來飛去意將何窮玉人呈相自西徂東生返樂土佛緣是空萬歷辛亥秋合肥竇子偶識又匾曰神龍撫掌處旁有題云初游玉泉寺雨氣在天登樓觀魚疑若出聽余以為樂方伯則曰此四族中苦海乎已臨小池細沸生花顧問僧不知所對歸而求之乃神龍撫掌處也是日驚蟄心愈勃勃然動悲夫山來雲外臺豈世中一點浮漚窮盡瀛涔方伯為誰桐城吳體中同年友也竇子偶題

王在晉碑錢塘山谷湖濆氷泉流涌穴竇可通破竹可引其勝最者為虎跑龍井沁骨澄心清堪飲啜然多自上下下明溜響滴水精融液凡山皆然吾聞蛟龍之所潛水深洞黑玄冥莫窮底裏杭之有玉泉介青芝塢石板巷九里松之間清冷湛澈方塘一鑑照人眉目魴鯉文鱗浮沉出沒悠然自適有客投餌魚即受餌汲水不驚觸人不避夏不知暑寒不知水魚之與水忘也見者亦忘其為魚與水也寺以泉名轉折而為方丈則甃石為平橋小礀噴珠飛沫滴如荷露灑如玉屑無雲而雨無雨而點點生於水面苔藻相染水入深藍與青旻一色徃自南齊建元靈悟大師曇超卓庵講經有老人于庵前撫掌泉自湧出泉名撫掌又曰細雨其來則自下上上滿而靡見其溢淆之莫能使淆神龍變化覆雨翻雲于鼓掌平地可成陸海巨浸可變桑田又安見夫大千世界自為升沉而乾嘆水澤不聽命于神物之呼吸耶點蒼溪上大雨野中烈日蔣山龐眉直令一沼沸出西域止存其七山龍玄妙點化種種見奇其在本山則浙都之秀異獨鍾淨空名院創于五代宋理宗皇帝御書玉泉淨空錫額寺重葺于咸淳間元末燬而本朝宣德重興歷年

二百所矣萬歷二十八年為織造內監孫公整其頹圮而住僧性科募金鳩工法宮梵宇益增而勝焉鑿水盂瀾洸洋淵漠若金波玉海毘盧遮那如來所都實報無障礙土溟涬誕宕罔測邊涯大根薩埵優游其處而與玄夷蒼水使者同宮左右顧而瞻忠魂義魄于橫塘望紫岫晴嵐于三竺鍾靈會景氣色神王池魚可化為龍霖雨澤物西湖滴瀝祗以供其一吸興歇變遷安徃而不入龐眉老人之掌上也則予又安知千百斯年青芝石板巍然隤然若至今存否也請以問之龍神曰有子之言不二余乃為記勒石志之

白樂天詩　湛湛玉泉色悠悠浮雲身閒心對定水清淨兩無塵手把青笻杖頭戴白綸巾興盡下山去我知是何人

吳廉靜過鮑家田詩　搖旆家家酒扶犂處處村草深迷井口槿密擁籬根綠水明秧本青山失曉痕多應忌蠶事畏客掩柴門

僧濟顛詩　千章老木冷涵秋今日重來話舊游一池寒水凝虛碧照出當年五百流中有神龍隱頭角為雨為霖蘇旱涸聖主垂衣風雨調龍亦安然在丘壑

王世貞詩　寺古碑殘不記年清池媚景且留連金鱗慣愛初斜日玉乳長涵太古天投餌聚時霞作片避人深處月初弦還將吾樂同魚樂三復莊生濠上篇

喬時敏晴雨軒詩有序　靈苑山之陽有泉涌焉其規可二丈許雖風日鮮美時恒似微雨滴瀝狀則細雨所由名也予惜其名不雅馴易為晴雨顏其泉上小齋而系以詩　湖光萬頃浮春空湖上老龍卑故宮謝遣雷師別雲吏跳身獨入潢池中戢鱗藏珠等尺蝘池水不波疑鏡融每當旭日正澄霽波紋衍漾如飛[雨/(蒙-廾+((並-(前-刖))-一))]耳邊曾未聞淅淅眼底輒復看濛濛信知此龍用不窮有為自妙無為功大能山海小盆沼變化良與真宰通卷舒潛見亦偶爾詎肯屑屑私天工我行泉閒習龍意為傳此語開羣蒙飽聞九土困焦灼終擬膚寸酬玄穹

靈峯寺

闢於晉太康中伏虎禪師所創一名鷲峰院新志稱吳越王時建非也俗傳為裴休墓院亦非也萬歷初僧散寺敗僅存殿宇邑人左布政陳善延僧通慧居之寺舊有眠雲堂今廢翠微閣洗鉢池妙高臺臺已廢址或云在背山之頂或云即右偏山椒今法禪居是也嘉靖末年有邑諸生張少嶽萬言者隱于寺中四十年不入城市為詩文有幽致通政周詩相與倡和為築聽泉亭於寺側居之詩有記今在亭中山人徃而泉石轉屬他姓荒僻岑寂游人罕至天陰月黑時聞倀嘯寒泉噴薄尚無恙云

蘇軾妙高臺詩　靈峰山上寶佗寺白髮東坡又到來前世德雲今我是依稀猶記妙高臺

許應元靈峰寺詩　空門傳不二令節届重陽看取蓮花淨無煩菊蔬芳沙虗喧候鴈露冷咽寒螿幽賞豈終已請看山月光

周詩早春入靈峰詩　杪秋經月杜門幽獻歲方為鷲嶺遊梅萼已看迎臘吐澗泉猶自帶水流雲蘿行樂風塵隔江海初衣歲月遒聞道山人思削跡尚嫌城市邇丹丘

周詩聽泉亭記杭郡西湖諸山以二高峰為望北高峰蜿蜒東行鬱起巖巒靈峰為奇峰左右泉源胥委禪林之南雨成瀑而晴如珠聽泉石為勝少岳山人栖跡靈峰披荊棘開蒙翳始得茲泉已又汰沙礫决汙滓而得茲所謂聽泉石者葢舊物也石厚盈尺方廣幾丈乃舉之層崖之下而置之懸流之上為命今名云山人於石西偏構草閣一楹日吟哦其中未幾余以病告來歸於山人月率三四過過率登石箕踞竟日忘去則謂山人曰峰以泉勝泉以石勝茲石之上可琴可奕可樽可茗可憑可眺可吟可嘯顧不當亭耶山人韙余言方是時郡中人士雅有丘壑之尚者多從山人遊石上聞余言則爭捐貲為山人命材鳩工之助甫浹旬亭遂告成諸君子則又載酒賦詩落之而請余記其事余惟山川靈秘在在而有其彰顯也必係之人靈峰之有泉石其來舊矣顧自勝國以前無從考者迨入國朝茲峰彰彰郡人耳目而泉石之勝尚湮滅無聞乃垂二百年得山人發之山人之栖是峰也又垂三十年然後亭之則豈偶然之故耶顧曩未亭也宜亭而輒虗迨其既亭無論士類即山樵野衲咸相視色喜以為若天造地設不可無此亭者夫徃者與山人遊凡幾曾未有及茲舉者乃余發之諸君子適樂成之則又豈偶然之故耶山人於世味殊淡而於世故一切不營乃茲亭之構則經營區畫靡所遺慮諸君子者不競心於紛華綺靡之區而獨於枯槁寂寞之地用情若此其雅致高韻胥足尚矣繼自今酒食徵逐之流城市腥豔之論其尚毋辱茲亭哉少岳山人張姓萬言名記之者則與鹿周生詩也

普福講寺

在九里松一名十方天台教院宋咸淳間天台僧明礪募貴戚鮑氏建凡八年始成穹殿傑閣諸剎罕倫飯僧至三千人易之巽為記有魏國公大普福扁趙子昂芝雲堂額國初猶盛今寥落將滅矣寺有十景芝雲臺綠雪坡藥澗橋思憶觀音葛翁泉辟支塔錫杖山瑞岡塢玉蓮池仙芝泉

鄧文原寄住持無公詩　淨土談玄屢欵扉平生我亦悟毘尼天台道在毘陵記廬阜神交惠遠師度嶺白雲飛錫處散花清晝說經時西南峰下龍泓路曾記山房舊賦詩

圓覺天台教寺

自唐開山為修證了義法師塔院宋南渡後重建高宗書天中萬壽圓覺寺額以賜時有僧守璋能詩所著有柿園集高宗嘗書其晚春一絕云草深烟景重林茂夕陽微不雨花猶落無風絮自飛　復親書圓覺經及製二詩賜之詩云　古寺春山青更妍長松修竹翠含烟汲泉擬欲增茶興暫就僧房借榻眠久坐方知春晝長靜中心地自清凉人言圓覺何曾覺但見塵勞盡日忙寺有歸雲堂三昧正閣清凉覺地皆理宗御書元至正燬

宋吳寶鏌詩　梵室飄香隔竹聞壁間舊賜寶奎文山深翠輦經行處猶臥從龍數片雲

黑觀音堂

在集慶寺東俗傳弘治間太監張慶遊山至此見青衣女子衝過匿入此菴索之不得見座中黑漆觀音禮拜而去香火遂盛此矇瞶之說也觀音豈真女子哉

白玉蟾觀音像贊云　柳絮多頭緒桃花好面皮夫是之謂誰東海比丘尼又云頂戴彌陀呈醜拙手持楊柳惹塵埃縱饒人得三摩地當甚街頭破草鞋亦游戲語

集慶講寺

宋理宗淳祐十二年貴妃閻氏建為功德院閻氏鄞縣人明艷絕倫後宮為之奪寵寺額皆御書巧麗冠于諸剎經始之辰內司分市材木于郡縣旁緣為奸望青採斫鞭笞追逮鷄犬不寧雖勳臣舊輔墓皆不得自保或作詩諷之曰　合抱長材臥壑深于今惟恨不空林誰知廣廈千斤斧斲盡人間孝子心　其後恩數漸隆雖御前五山亦所不逮一日忽于法堂鼓上得大字一聯云淨慈靈隱三天竺不及閻妃好面皮於是行天下緝捕其人終不得有三池九井月桂亭金波池善法堂並廢猶存理宗御容一幅燕遊圖一輻後改額顯慈集慶講寺列天台講院第一剎正統間廢嘉靖年中貴鄧文鎮召僧焚修至今

仇仁近詩　半生三宿此招提眼底交游更有誰顧愷漫留金粟影杜陵忍賦玉華詩旋烹紫笋猶含籜自摘青茶未展旗聽徹洞簫清不寐月明正照古松枝

靈隱禪寺

晉咸和元年僧慧理建山門扁曰絕勝覺塲相傳葛洪書或云宋之問書寺有石塔四皆吳越王建宋景德四年改景德靈隱禪寺元至大元年僧慈照重修覺皇殿至正間燬國初重建改靈隱寺宣德間僧曇纘建三門面

壁軒良玠建佛殿殿中有拜石長丈餘有花卉鱗甲之文工巧如畫正統間珓理建直指堂堂扁張即之書舊有百尺彌勒閣蓮峰堂千佛殿延賓水閣望海閣巢雲亭見山亭白雲菴松源菴及宋理宗御書覺王寶殿妙莊嚴域並廢隆慶己巳罹祝融煨廢殆盡萬歷壬午寺僧德明圓輔圓寧延法師易菴通公主席太宰張瀚為之護法倡緣建殿宇廊廡凡百楹塑諸佛聖像鑄鐘豎鐘樓重建慧理永安普同等塔悉就辛亥僧性證重建禪堂方丈廻龍橋方伯浮渡吳公復捐俸百餘金建橋亭題曰覺路津梁上供準提佛題曰密因閣又為複閣曲軒以對溪流扁枕石漱流及雲松巢額壬子延介如石公講楞嚴義海於寺尋葺方等懺堂集三學精通禪者修方等懺法寺門原有五亭今止存冷泉由冷泉亭而上為翠微亭韓蘄王布袍跨驢日夕行游其中口不言兵今尚有故址

宋之問遊靈隱寺詩　鷲嶺鬱岧嶤龍宮鎖寂寥樓觀滄海日門對浙江潮桂子月中落天香雲外飄捫蘿登塔遠刳木取泉遙霜薄花更發氷輕葉互凋夙齡尚遐異搜對滌煩囂待入天台路看余度石橋

張祐飛來峰詩　西南山最勝一境是諸天上路穿巖竹分流入寺泉躡雲丹井畔望月石橋邊洞壑江聲遠樓臺海氣連塔明春嶺雪鐘散暮松烟何處去猶恨更看峰頂蓮

白居易題冷泉寄唐林夫詩　靈隱前天竺後兩澗春淙一靈鷲不知水從何處來跳波赴壑如奔雷無情有意兩莫測背向冷泉亭下相縈廻我在錢塘百六日山中暫來不暖席君今欲依靈隱居葛衣草履隨僧蔬肯與冷泉作主一百日不用二十四考書中書

賈島靈隱寺詩　峰前峰後寺新秋絕頂高窗見沃州人在定中聞蟋蟀鶴于棲處挂獼猴山鐘夜渡空江水汀月寒生古石樓心欲懸帆身未遂謝公此地昔曾遊

蘇子瞻遊靈隱寺詩　君不見錢塘湖錢王壯觀今已無屋堆黃金斗量珠運盡不勞折簡呼四方宦遊散其孥宮闕留與閒人娛盛衰哀樂兩須臾何用多憂心鬱紆溪山處處皆可廬最愛靈隱飛來孤喬松百丈蒼髯鬚擾擾下笑柳與蒲高堂會食羅千夫撞鐘擊鼓喧朝晡凝香方丈眠氍毹絕勝絮被縫海圖清風徐來驚睡餘遂超羲皇傲几蘧歸時棲鴉正畢逋孤烟落日不可摹

林逋同運使陳學士遊靈隱寺詩　山壑氣相合旦暮生秋陰松門韻虛籟錚若鳴瑤琴舉目羣狀動傾耳百慮沉按部既優游時此振衣襟泓澄冷泉色瀉我清曠心飄飄白猿聲荅我雅正吟經臺復丹井捫蘿嘗徧臨鶴盖青霞映玉趾蒼苔侵溫顏煦槁木真性訝幽禽所以仁惠政及物一一深洒翰嶙峋壁返駕旃檀林回睨窣堵峰天半千萬尋

陸務觀冷泉放閘詩　泉聲飛出閘逶[這-言+里]綠雲間此地原無暑多時不入山草欹疑石墜水定見魚還誰得同龜鶴遊吟半日閒

僧契嵩冷泉獨賞寄冲晦詩　南風掠波溪水滿山中遊人來洗浣獨立溪傍清興款更愛泉流芳草短平生幽計貴蕭散世道紛紜何足算人間五月夏雲煩相約歸來君莫緩

張商英見山亭詩　簾捲疎烟醉眼開浮雲飛盡見崔嵬苦嗟霖雨遮藏久深謝清風引致來丹桂有時明月滿舊山無路白猿哀禪師指我真空理心火茫茫一夜灰

王守仁遊靈隱寺詩　靈鷲高林暑氣清竺天石壁雨痕晴客來湖上逢雲起僧住峰頭話月明世路久知難直道此身那得尚虛名移家早定孤山計種果誅茆却易成

張瀚遊飛來峰詩　長松十里晝陰重引入飛來第一峰洞裏紫霞明日月天邊青靄插芙蓉小橋不斷橫溪路古寺先聞隔樹鐘戀賞頓忘城市遠歸途幾處暮雲封

夏言遊靈隱和楊邃老詩　捫蘿詰曲歷崔嵬玉削芙蓉回面開白日老僧初出定仲春有客到山來林深秖樹雲霞遶地迥諸天日月回世上宰官元是佛洞門猿鶴莫驚猜

補樂天詩　在郡六十日入山十二回宿因月桂落醉為海榴開黃紙除書到青宮詔命催僧徒多悵望賓從亦徘徊寺暗烟埋竹林香雨落梅別橋憐白石辭洞戀青苔漸出松間路猶飛馬上杯誰教冷泉水送我下山來

李攀龍詩　武林臺殿敞諸天建自咸和第幾年纔到上方雙澗合飛來何處一峰懸梵音動雜江潮轉燈影常含海日傳所以龍宮稱絕勝驪珠交映使君前

喬時敏邀蕭太史玄圃游靈隱期盡韜光諸勝雨阻有賦禪林遙上翠微重檻外蒼茫遠寺鐘雨色飛來雙鸑鷟雲光忽落秀芙蓉人如白雪吟偏壯座有青山濘未通自到龍門曾作賦肯教仙吏不相從

石佛菴在靈鷲山直指堂後梁簡文帝所造迦葉維衛石佛二尊萬歷間僧如[月*盈]持準提呪夢披荒莽中見石佛像身如芒刺募貲建庵庵後建準提閣前後皆竹湯煥書竹林精舍

覺遲居士沈淮疏石佛從名山湧出千載勝緣準提湏寶閣莊成一時善現良以眾生業重每苔斑蘚剝埋金剛不壞之身而佛母行深正鳥語花飛破鐵桶無明之相咒心性印多臂相嚴獨對山前朗朗不起于坐手援天下事事了自當身無垢無淨而摠持密因不二乘時乘人而建立勝果必圓況乎鷲嶺香飄下臨無地獅林風遠直指餘堂驚回澹士前生從此中來此中覿露喚醒伽藍幽夢應如是住如是布施三千界印證爾時十八咒傳持茲土篝燈夜讀茂才數月之緣著屐朝來居士片言之諾凡此有感有應有建立總之非因非緣非自然為是樂阿蘭那奉勸檀波羅密殿黑業造白業皈依無量光中辦信心印佛心供養窮未來際謹疏

[月*盈]以石佛未了因緣徵辭于靈山乞士復傳意于聖水矜人吳之鯨而為之偈曰馬祖面壁坐九年即成道石佛背壁坐百年未成庵云何

未成庵是庵非道故道成五葉蘆庵成五株筴若人金作土會見土成庵尋亦菴成道普願世間人共成石佛願庵成剎那頃石佛依然坐

陳繼儒偈曰　石佛出世準提又來若人彈指樓閣頃開效尼上人夢石佛得石佛今復欲建準提閣於庵後題偈倡之

西湖長豫章樊良樞疏效尼上人夢佛得佛澹游居士求子得子實相耶幻泡耶金剛經云不可見三十二相見如來凡所有相即是非相若見相非相即見如來上人建準提閣於庵後是謂信心清淨即生實相矣吳朗士陳眉公發三菩提心成是無量福德余不能以七寶大施喜其成而讚之上人但信是心不取于相如是不動荷擔如來如是莊嚴佛土布滿黃金將八百四千萬億眾生共來頂禮咸瞻實相上人為說準提神咒一遍散諸華香雨諸天花此閣成窣地光明藏矣

峋嶁山房

郡人李居士因寺寮為棲隱處即墓其上遺誡并祭田俱歸寺僧供祀事子孫不得干預萬歷間僧鬻田且欲售屋矣司理丁公啟濬斷歸寺判詞古典可誦第歲久荒圮辛亥方伯吳公箚令祗樹僧清茂焚修其中茂捐貲百餘金重葺

韜光庵

韜光禪師建師蜀人當唐代宗時辭師出遊師囑之曰遇天可前逢巢即止師遊靈隱山巢溝塢值白樂天守郡悟曰此吾師命我也遂卓錫焉樂天聞之遂與為友題其堂曰法安嘗以詩招之云　白屋炊香飯葷羶不入家濾泉澄葛粉洗手摘藤花青芥除黃葉紅薑帶紫芽　命師相伴食齋罷一甌茶韜光不赴報之詩云　山僧野性好林泉每向巖阿倚石眠不解栽松陪玉勒惟能引水種金蓮白雲乍可來青嶂明月難教下碧天城市不能飛錫去恐妨鶯囀翠樓前　內有金蓮池烹茗井壁間有趙閱道蘸子瞻題名

永福禪院

在天聖寺側與呼猿洞相對晉有上下永福寺刱自慧理法師前蓮花峰後形勝山左香林亭右幽雅軒中有雨華亭金砂池諸勝

空谷禪師詩云　聲名累動帝王家曾挽春風上海槎永福門開最勝處江山一望不為[賒-示+未]歷代久廢國初高僧宗詎建大雄寶殿尋燬萬歷癸卯苕溪潘龍翰捐貲買永福故地延講師耶溪若公修持其中若復建佛閣三楹禪堂香積十餘楹方伯吳公扁曰古永福禪院給帖永護

無著禪師塔

舊有無垢院因韓侂胄取以為壽地故遷院於靈石山下止存此塔後楊郡王復取為壽地遂起此塔乃陶翕也禪師容色如初髮垂至肩指爪遶身舍利無數留三日猶不壞竟荼毘之

僧肇淮海有詩云　一定空山五百年不須惆悵啟頹甎路邊多少麒麟塚過眼無人贈紙錢

鄴公庵

杭守祖無擇愛此山之勝結庵於此以公所封名之自詠云松下門開入翠微草香花氣襲春衣山中深僻無人到自有閒雲共鶴飛　形勝山前感物華却乘清興過僧家樓臺消廢無人問今古傳聞只自嗟雲擁斷崖埋石笋泉冲凉雨落金沙憑君識得尋幽趣只管高譚至日斜

白衲庵

在靈隱西塢

僧明殊過白衲詩　衲僧深隱處麋鹿自成羣曲逕依山轉鳴禽隔竹聞澗飛晴日雨嵐散霽時雲坐久不知去長歌逗夕曛

大桐庵

在大桐塢萬歷間僧徹堂重建

薦福寺

晉咸和中建于下天竺基宋紹興間遷于此為徽宗吳太后塋所高宗書額太后手書金剛經置塔中有宜對亭通雲亭天池樓雙珠亭萬玉軒湖山至此幽邃極矣元至正末燬國初重建復燬墓前有二石馬琢刻如生舊傳夜輒馳驟鞦轡光瑩如玉

張伯雨天池樓詩　天池一樓小如架擎出半天天雨華山圍大石獅子座寺屬三朝母后家時呼白猿聽奇句亦許飛仙飡紫霞我來把斷朗風口只留牀角置袈裟

下天竺寺

坐靈鷲山麓亦晉僧慧理建隋開皇十五年有僧真觀者錢塘人操行高潔掌有仙文與禪師道安頭陀石室檀越陳仲寶拓而修之號南天竺寺五代時號五百羅漢院宋大中祥符初改靈山寺天禧四年復改天竺寺天聖中僧遵式重修有薝蔔堂慶元三年改天竺靈隱寺三竺之勝周回數十里而巖壑尤美者廻聚茲區自飛來峰轉至寺後巖洞玲瓏瑩拔清朗如伏虬飛鳳層花絫蔓皺縠疊浪妍態怪狀不可縷陳其材木皆自巖骨擢起蒼翠蔥鬱不土而茂傳言茲山產玉故腴潤育物如此舊有御書閣藏仁宗中興五朝御書七寶普賢閣僧善照以七寶塑普賢像

張仲舉遊寺詩　石梁濺水濕蒼苔陰洞傍穿澗底回殿閣金銀從地湧山林圖畫自天開龍隨僧到分雲住猿認人呼下樹來遊興未闌斜日盡馬頭呼酒尚徘徊

白樂天題香林洞詩　西湖之西天竺深天香滿風多桂林老猿引子下高樹流水與雲來遠岑上方已變劫灰黑古洞長帶秋嵐陰清輝娛人且歸去後夜月明重來尋

白廷玉詩　山轉龍泓一徑深嵐烟吹潤撲衣巾松蘿掩映似無路猿鳥徃來如有人講石尚存天寶字御梅嘗識建炎春城中遮日空西望自與長安隔兩塵

唐圓澤和尚居慧林與洛京守李源為友約徃蜀峨嵋禮普賢大士師欲行斜谷道源欲泝峽師不可源強之乃行舟次南浦見婦人錦襠負甥汲水師見而泣曰吾始不欲行此道者為是也彼孕我已三年今見之不可逃矣三日浴兒時願公臨門我以一笑為信十二年後錢塘天竺寺外當與公相見言訖而化婦既乳兒源徃視之果笑尋即回舟如期至天竺當中秋月下聞葛洪井畔有牧兒扣角而歌曰三生石上舊精魂賞月吟風不用論慚愧情人遠相訪此身雖異性常存源知是師乃趨前曰澤公健否兒曰李公真信士也我與君殊途切勿相近唯以勤修勉之又歌曰身前身後事茫茫欲話因緣恐斷腸吳越江山尋已遍卻回烟棹上瞿塘遂去莫知所之贊曰京洛有約袂嵋是行機先一語洞達三生汲甥事異扣角詩清永懷陳迹山空月明

三生庵

在三生石側方伯吳公捐貲贖地屬戒僧廣昆守之錢塘令楊萬里助貲建庵

姚鉉題繙經臺詩　康樂悟玄機端坐此中息經繙貝葉文臺近蓮花石

江元禧登謝康樂繙經臺詩　竺國來靈詮震旦弘教典貝梵傳方言辭隱義莫辯隔以懸觧通昧為慧心顯尋究理事融研對文字善澄慮憩靜區屏迹就曾峴蓮蓧翫烟霏虬姿娛仰俛今古晨昏遷何澤竟獨衍撫茲停

白雲終然峙蒼蘚道勝據必超姥深樹無剪凌遡欽緬蹤容貌儼在眼人自永玄情豈伊石難轉

中天竺寺

在稽留峰北隋開皇十七年僧寶掌以唐高宗顯慶二年住浦江化去自稱度世一千七十二年故茲山中尚有千歲巖吳越王改崇壽院政和四年改曰天寧萬壽永祚禪寺南渡初有摩利支天菩薩像淳熙間建華嚴閣元天歷間有僧大忻得幸于文宗改天歷永祚禪寺洪武初賜號中天竺寺山門三字為魏國公署額正德間燬嘉靖二十五年僧惠鏞清琦清琳等募建殿剎聖像并建白衣觀音堂

千歲寶掌詩　偶居天竺經年久惟有山靈稱野情皓月徘徊庵內燭青山圍繞枕邊屏又云戶外白猿時獻菓堦前桂子落紛紛他年吾道重興日枯木生花別是春

白樂天詩　雜芳澗草合繁綠巖樹新山深景候晚四月有餘春竹寺過微雨石逕無纖塵白衣一居士方袍四道人境是佛國土人非俗交親城中山內客來徃亦殷勤

參寥子詩　夕陽山氣靄蔥蔥路轉松陰覆幾重行過石橋人未見數聲先聽寺樓鐘稽留峰北好林泉珍重幽棲得所便栢子香中能宴坐想無餘習可攀緣霜壓簾櫳雪泫條銀河初轉斗垂杓清言共失三更夢錯恨芙蓉漏易消

王元章送僧歸天竺詩　天香閣上風如水千歲巖前雲似苔明月不期穿樹出老夫曾此聽猿來相逢五載無書寄却憶三生有夢回鄉曲故人頻問信孤山梅樹幾番開永清塢之背即為龍井正德中陳氏建庵塢中名永清庵心庵正德間寶珠禪師建有白雲巖玉液泉

上天竺寺晉天福間僧道翊結庵山中一夕見瑞光發于前澗就視之得奇木刻畫觀音大士像後漢乾祐間有僧從勳自洛陽持古佛舍利來置頂中妙相咸備晝放白光士民崇信吳越主嘗夢白衣人求葺其居寤而有感遂建天竺觀音看經院宋咸平中浙西久旱郡守張去華率僚屬具幡盖鼓吹迎觀音而禱霪雨濡足自是有禱輒應蘇子瞻雨中遊觀音院詩云蠶欲老兮麥欲黃山前山後雨浪浪農夫輒來女停筐白衣仙人坐高堂盖有望于祈晴也南渡時捨施珍寶有日月珠鬼谷珠猫睛等雖大內亦以為罕見嘉祐中沈通治郡謂觀音以聲音宣佛力非禪那所居乃以教易禪命僧辯才元淨主之鑿山築室幾至萬礎治平中郡守蔡襄奏賜靈感觀音殿額元淨乃益鑿前山闢地二十有五尋殿加重簷建炎四年烏珠入臨安高宗遜于海烏珠謁天竺問知觀音本始乃舉之輿中與大藏經併徙而北時有比丘智完者率其徒以從至燕舍于都城之西南五里曰玉河鄉建寺以奉天竺之僧乃重以他木刻肖前像詭曰藏之井中而出之至今稱觀音

出現井其實非故物也乾道三年建十六觀堂七年改院為寺門扁皆御書慶元三年改天台教寺元末燬國初重建累朝代有宣賜金帛及寶旛之屬正德時聖母張進古銅塔一座滲金觀音像並供後殿錢塘戴文進畫羅漢一十八軸萬歷癸丑冬東宮進滲金大士一尊并金犾金念珠一串現存大悲閣大學士商輅鐘樓碑記學士黃縉觀音殿碑記寺有白雲峯乳竇峯中印峯獅子峯雙檜峯白雲堂兩峯堂中印堂雲漢閣應真閣延桂閣秋香閣伴雲閣雙桂軒清華軒靜處齋植杖亭謝屐亭夢泉亭流虹澗金佛橋琮老橋凝翠泉觀音泉水月池西方殿有撤骨池以鎮火灾雲液池池上有辨才手植山茶花並廢唯白雲堂尚存

宋孝宗觀音像贊　猗歟大士本自圓通示言有說為世之宗明環無二等觀以熙隨感即應妙不可思

理宗觀音像贊　神道至妙兮隱顯莫測功德無邊兮感應甚速時和歲豐兮祐我生民兵寢刑措兮康此王國

李太白與從姪良游天竺寺詩　挂席凌蓬丘觀濤憩樟樓三山動逸興五馬同遨遊天竺森在眼松風颯驚秋覽雲測變化弄水窮清幽疊嶂隔遙響當軒寫歸流轉成傲雲月佳趣滿吳洲

白樂天詩　一山門作兩山門兩寺原從一寺分東澗水流西澗水南峯雲接北峯雲前臺花發後臺見上界鐘清下界聞遙想吾師行道處天香桂子落紛紛

李綱由上竺赴洞霄宮詩　山谷投閒日乾坤版蕩時秦庭徒痛哭漆室竟誰知欲仗空王力潛開聖主疑奸雄俱掃盡談笑定華夷　岳飛過上竺寺偶題強胡犯京闕駐驆大江南二帝雙魂杳孤臣百戰酣兵威空朔漠法力仗瞿曇恢復山河日捐軀分亦甘

朱熹春日過上竺詩　竺國古招提飛甍碧瓦齊林深忘日午山迴覺天低琪樹殊方色珍禽別樣啼沙門有文暢啜茗漫留題

張栻詩　上竺諸天近中林萬木低迴超塵世外恍入雪山西忽漫叅龍象行將混鹿麚何年釋簪紱于此獨幽棲

真德秀詩　世事不可了還須是入山遙尋黃葉路迴出白雲間淪茗止煩渴談空得笑閒飄飄有餘興歸去掩柴關

魏了翁詩　風波滿平地世路繞羊腸急欲逃塵網遙登選佛塲雲深午猶暝竹密夏生凉興逸忘歸去高眠借石牀

東坡蘇軾聞辨才再住天竺詩　道人出山去山色如死灰白雲不解笑青松有餘哀忽聞道人歸鳥語山容開神光出寶髻法雨洗浮埃寄聲問道人借禪以為詼何所聞而去何所見而回道人笑不答此意安在哉昔年本不住今者亦無來此語竟非是且食白楊梅

倪雲林秋夜宿上竺詩　禪月湛高秋金天夜色幽珠林星彩動碧殿露華浮蓮漏忙催酒松濤怒撼樓清凉徹毛骨吾欲喚貂裘

大士鴛鴦殿前楹僧道福如淵重建後殿僧平澗重修鐘鼓樓如淶如淵重修天王殿祖玉重修香山殿道福建圓通門道律建張仙祠德洪建伽藍殿道霑建普門圓逕建彌陀殿道霑建普同塔方誌為首鼎建心安兩山居德霖建白雲峯山居海堅建上天竺三門圓逸重修

武林外史邵常生撰上天竺寺靜庵讓法師擬號正定塔行述師禹杭人俗王姓十五出家上竺禮進公為師幼時性喜合掌人以天香童子目之既祝髮和平撙節既四十慨然以家事付徒如貴曰余世事畢矣因受戒雲棲寺寄名廣行持戒精切認真毫不肯苟平日傷末法陵夷每興善業必躬必倡慨寺風不振直諒必歸正持身其肫肫樹教之意可方遠錄公其懇懇公廉之心無媿都僧正者萬歷辛亥七月二十五日示疾令具薰沐更衣見目下有紅光端趺西坐兩手高擎十指作掐數狀忽有醉僧來叫哭師不悅遂不瞑次早小子與訣見其身倚而掌合亦常視與合掌中間勞苦之者或強抑就枕稍知道者或勸逸吉祥時師幻身既展轉非已而靈臺能主宰惟示不豫色然既瞑而禪僧貫如來誠求其故曰師得無欲坐乎忽發聲曰諾眾始驚扶起坐既坐足蹜蹜而已僧又曰師得無欲趺乎顧而笑因與結始欣然首謝眾遂以彌陀為飯含梵唄當眾臨圍繞躃踴達旦甲子正午而寂僧性田與沐頂煖如火年五十甫一法臘三十有五蓮池師聞之讓窑龕使瘞於是斂幎藏金避木韜釘蒲圌置褥白茅廢衾塗香末香既潔且勻塞蜆蘊之小大式均懷其幽隙苴其寬深幾不滅頂及肩而盈既不使其金鎖之杌亦不礙其爪髮之生凡此見山中之創見惟貫如之力存焉小子見山之僧欲借跏趺為重徃徃痛楚綢繆業緣局促雖夾輔以多方奈四大之傾仆盖欲坐而不能師乃能坐而不欲可歎也亦可喜也向使師出世熏習之場則不必加年自有金臺寶池之兆向使寓身寒苦之地則清明在躬必有謝三緣見道之辭今雖止乎此又向使當彌留[務/心]亂而奄忽於情見之中則與六十年小子見聞擾擾者何以異哉經所謂無諸痛苦一心不亂斯其人矣因請之蓮池師及世之有菩薩行者擬以正定名其塔焉是辛亥十月朔日小子時年七十有五書



武林梵志卷五

總校官庶吉士(臣)朱鈐
校對官中書(臣)吳甸華
謄錄監生(臣)梁鳴岐
詳校官太僕寺少卿(臣)李廷欽
編修(臣)程嘉謨覆勘

欽定四庫全書　武林梵志卷六

明　吳之鯨　撰

外七縣梵剎

海寧縣

太平廣福寺

在縣東五十里黃岡市唐齊安寺基宋建隆中有僧結茅棲止歷四十年乾德二年額曰太平庵熙寧元年賜今額歸併于此曰慶壽永寧寺(在縣東二十四里)曰南觀音院(在縣東二十一里新江塘南)

僧弘道太平廣福寺詩　招提古意饒誰復記前朝五季重開拓三災不動搖珠林花氣合紺殿蘚痕消更上危樓望當門見海潮

崇教寺

在縣東六十里妙果山之前舊圖經五代成夫人捨園為寺名妙果宋季廢弛元至順四年重建歸併于此曰圓明庵(在縣東六十里遊佛墩)曰東林庵(在縣東六十里)

真如寺

在縣東七十里黃灣菩提山東晉干寶公捨宅為寺周顯德二年建輪藏宋治平二年賜今額歸併于此曰寶嚴寺(在縣東六十里)曰接濟院(在縣東北三十六里)曰延聖妙智院(在縣東北六十里)曰闔濟院(在縣東北六十里)曰北永寧院(在縣北四里)曰上方延壽院(在縣北十里)曰接待朱何庵(在縣西一里)曰積寶庵(在縣西北十五里)曰西觀音庵(在縣西北二十五里)曰雪峰雙桂庵(在縣北十八里)曰惠照庵正覺庵(並在縣東北六十里)

張諤真如寺詩　旗鼓初從海上回天風吹我上雄臺甲披雙木關西將馬驟羣峰冀北材塵世俯窺飛鳥去軍聲俄逐晚潮來誰人為我書巖石他日重遊掃綠苔

真相寺

在縣東北六里橫塘北宋寶祐二年建元末燬洪武六年重建歸併于此曰雪峯廣福院(在縣東北七里)曰淨信院(在縣東北一十八里)

崇惠寺

在縣東北六十里硤石紫微山東麓元至正間建洪武十八年重建歸併於此曰四果華嚴院(在縣東北七十里)曰勝果院曰圓覺庵(並在縣東北六十里)

西山廣福院

在縣東北六十里硤石紫微山頂宋天禧五年邑人宋坦捨宅建熙寧元年賜壽聖額隆興元年改今額兵燬元大德間重建歸併于此曰崇福寺(在縣東北六十里)曰瑞應觀音院(在縣東北三十里)曰東山廣福院(在縣東北六十里)曰黃坡庵(在縣東北三十里)曰永平庵(在縣東北五十二里)曰興壽庵(在縣東北六十里)章孝標西山廣福院詩　野寺孤峯上危樓聳翠微捲簾滄海近洗鉢白雲飛竹影臨經案松花點衲衣日斜登望處湖畔一僧歸

楊璿崇福寺詩　艤棹青山下來尋蘇子家人魚皆靜樂水木亦清華樹老欲成蓋菊寒殊未花何須覓勾漏此處有丹砂

顧況崇福寺詩　家在雙峯蘭若邊數聲清磬發孤烟山連極浦鳥飛盡月上青林人未眠

永隆廣福寺

在縣西一十里馬牧塘北宋紹興十八年建興廢不一歸併于此曰水陸院(在縣西南四十里)曰出塵庵(在縣西北二十五里)

金佛寺

在縣西一十二里松林舖東宋紹興年間名上乘院乾道間改今額元末燬重建歸併于此曰超王院曰淨居院(並在縣西五里)曰惠明院(在縣西八里)曰戒壇院(在縣西南三里)

永寧寺

在縣西二十里宋嘉泰間建歸併于此曰壽昌院(在縣西北五十里)

薦福寺

在縣西三十六里蕭齊永明二年建名安善唐會昌五年廢大中十三年重建宋大中祥符元年改今額元末兵燬洪武初重建歸併于此曰開福寺(在縣西三十五里)曰觀音聖果寺(在縣西北四十五里)

安國寺

在縣西北二百五十步唐開元元年建名鎮國海昌院會昌五年廢大中四年復置名齊豐宋大中祥符元年改今額寺有大悲閣宋理宗御書妙智之閣賜之元至正二年重建歸併于此曰興慶寺(在縣北十五里)

宋蘇軾大悲閣記羊豕以為羞五味以為和秫稻以為酒麴蘗以作之天下之所同也其材同其水火之齊均其寒暖燥濕之一候也而二人為之則美惡不齊豈其所以美者不可以數取歟然古之為方者未嘗遺數也能者即數以得其妙不能者循數以得其略其出一也有能有不能而精麤見焉人見其二也則求精於數外而棄迹以逐妙曰我知酒食之所美也而略其分劑捨其度數以為不在是也而一以意造則其不為人之所嘔棄者寡矣今學者之病亦然天文地理音樂律歷宮廟服器冠婚喪祀之法春秋之所去取禮之所可刑之所禁歷代之所以廢興與其人賢不肖此學者之所宜盡力也曰是皆不足學學其不可傳於書而載于口者子夏曰日知其所亡月無忘其所能可謂好學也已古之學者其所亡與其所能皆可以一二數而日月見也如今世之學者所亡者果何物而所能者果何事耶孔子曰吾嘗終日不食終夜不寢以思無益不如學也由是觀之廢學而徒思者孔子之所禁而今世之所尚也豈惟吾學者至於為佛者亦然齋戒持律講誦其書而崇飾塔廟此佛之所以日夜教人者也而其徒或者以為齋戒持律不如無心講誦其書不如無言崇飾塔廟不如無為其中無心其口無言其身無為則飽食遊嬉而已矣是為大言以欺佛者也杭州鹽官安國寺僧居則自九歲出家十年而得惡疾垂死自誓於佛願持律終身且造千手眼觀世音像而誦其名千萬聲病已而力不給則縮衣節口三十餘年銖積寸累以迄于成其高數仞為大屋四重以居之而求文以為記余嘗以斯語告東南之士矣蓋僅有從者獨喜則之勤苦從事於有為篤志守節老而不衰異夫為大言以欺佛者故為之記且以風吾黨之士云

延恩寺

在縣西北二百六十步舊安國寺藏院宋元祐四年賜今額歸併于此曰慶善寺(縣西南二百步)曰常樂寺(縣西南二里)曰佛牙寺(縣北一里)曰淨明院(縣西南八十步)曰正法壽寧院(縣西北十五里)曰觀音庵(縣東北一百五步)

東岡廣福寺

在縣西北二十五里東晉德法師開山後燬宋乾德元年重建紹興三十二年賜是額永樂十四年潮坍無存十五年移額于四都觀音庵歸併于

此曰圓明院(在縣西北三十五里)

覺王寺

在縣西北二十五里長安鎮西唐長興四年建名正覺宋治平二年改今額元末兵燬洪武初重建歸併於此曰定香寺(在縣西北二十五里)曰南禪福嚴院(在縣西北四十里)曰真如庵(在縣西北十五里)

淨妙寺

在縣西北三十里宋嘉熙間建元末兵燬洪武初重建歸併于此曰旌忠寺(在縣西北二十五里)曰雲龍寺(在縣西十五里)曰惠泉院(在縣西北二十五里)曰吉慶庵常樂庵雙林庵(並在縣北十五里)

興福寺

在縣西北三十里駱家舖東北宋開寶二年建三年賜額歸併于此曰彌陀院(在縣西北十五里)曰惠明庵(在縣西北十五里)

資勝寺

在縣西北四十里晉天福七年建名資壽宋治平二年改今額歸併于此曰報國寺(在縣西北四十八里)曰資福院(在縣西北四十里)曰海雲庵(在縣西北四十六里)

吉祥寺

在縣西北四十八里許村舖北名齊明宋建隆二年改名迎祥治平二年改今額元末兵燬歸併于此曰普安寺(在縣西四十里)

菩提寺

在縣北內有張子韶讀書臺基存

惠力寺

在縣東北六十里硤石紫微山下晉寧康中尚書張延光捨宅構寺賜額曰志願唐乾元元年勅支本縣稅錢修飾唐季兵燬宋乾德間重建大中

祥符二年賜今額宋季兵燬元至正二十年重建

僧弘道遐觀樓詩　紫硤山前百尺樓憑高懸象入冥搜滄江直到水窮處白鳥忽飛天盡頭一氣鴻濛開禹甸兩峯縹緲接瀛洲胡牀坐對銀河近擬欲乘槎上斗牛

淨信寺

在縣西南六十里晉天福二年僧淨建元末兵燬洪武初復建

類列　定惠寺(在縣東北十三里)寶林寺(在縣西二十里)瑞像院(在縣北門外二十里)白蓮花院(在縣東十五里)普信院(在縣北二里)尹墅廣福院(在縣西北二十五里)西庵(在縣西門內)大通庵(在縣西三里)

富陽縣

法相寺

在縣東南三十里麗景村名報恩唐咸通十二年符禪師開山宋大中祥符元年賜額歸併于此曰靈巖院(在縣東南三十里)曰泗洲庵(在縣東南五十里)

葉士彥題法相寺虛舟亭詩　道人亭子號虛舟身與乾坤日夜浮高檻倚空山疊浪小池承溜雨生漚漁歌響荅穿蓬戶晚飯經行憶舵樓茶竈筆牀安榻畔江湖長任散人遊

姜文渭靈巖院詩　軒在靈巖第幾峯篔簹遶屋翠重重僧窻滴露全疑雨詩榻生凉半是風四座綠蔭侵戶暗一簾爽氣撲衣濃信知石上蒼苔合多為遊人去後封

淨居寺

在縣南四十里大源村石晉天福八年名淨福宋治平二年改今額宋末燬元至順間重建歸併于此曰崇善院(在縣南四十里)曰真如院(在縣東南一百二十里)曰禪寂院(在縣南八十里)

偃松寺

在縣西南十里馴雉村宋嘉泰四年建前有大松盤護因名元末燬惟殿宇及法堂存歸併于此曰永樂吉祥寺(在縣東北小隱山)曰淨土院(在縣西南三十里)曰靈巖寶山院(在縣西十里)曰大智院(在縣西二十五里)曰法雲院(在縣西二十五里)曰普惠院(在縣西三十里)曰真寂院(在縣西南三十五里)

姚愈題淨土院竹軒詩　勁節摩雲歲月深冰霜不改舊時陰靜浮香篆度幽逕冷滴翠光生茂林明月滿窓橫妙墨清風入指按黃金箇中領取西方意夢落人間何處尋

能仁寺

在縣西南十里太平村唐天成元年建名雲霄宋咸淳元年請今額元至正丙申兵燹洪武初重建歸併于此曰法門寺(在縣東一十五里)曰三學院真如院(並在縣西南三十里)曰寶林院(在縣西南三十五里)曰崇福庵(在縣西南二十里)

李靴三學院詩　遠岫朝來更爽孤雲徙倚長閒飛出偶成霖雨歸來依舊青山

寶林院巖香閣詩　花到清明際隨春渡虎溪勾牽木芍藥流落古招提獨喜孤芳在何妨眾草齊定知妃子意不解謫仙題

寶相寺

在縣西南三十五里慶護村洪武初創庵曰浦西十三年請移看潮村寶相寺額歸併于此曰寂光普照禪寺(在縣西四十五里)曰報恩禪院(在縣西南八十五里)

妙智寺

在縣西南五十里善政村永安山之陽唐太和元年僧會遇建舊名驪峰錢武肅時改名永安宋大中祥符元年改今額宣和間方臘之亂燬建炎四年邑人提刑李靴施財新之歸併于此曰妙巖院(在縣西南三十五里)曰萬春院(在縣西八十里)

楊廉夫贈妙智寺仁一初詩　一初闍黎諸法解吹得道人雙劒簫大道不如宗北秀看山直欲[書-曰+皿]南條探官時着楊梅帽勸客醉傾椰子瓢輕拂鞭稍踏春雨紫騮嘶過聖安橋

慈修護聖禪寺

在縣西五十步唐大中間建名保寧元至順間改今額元末兵燬洪武元年重建歸併於此曰西巖寺(在縣北三十里)曰淨明院(在縣北五里)曰蓮堂庵(在縣東南四十里)曰普潤庵(在縣西南五十里)曰通濟庵(在縣南五里)曰悟空庵(在縣東北十五里)曰大明院(在縣西北四里)曰淨覺院(在縣西五十步)

白居易西巖寺詩　千古仙居物象饒道成丹熟晝昇霄巖前寶鏡傳松韻洞口靈池應海潮崖折百花遲日晚鶴歸清夜唳聲遙登臨漸到希夷境平拂行雲度石橋

楊廉夫西巖寺詩　何代仙人跨鶴歸至今丹竈倚柴扉黃金布地開華藏白石撐空障翠微海內甲兵民厭久山中車馬客來稀僧窻轉午渾無事晴雪風鏖木葉飛

李白淨明院詩　天台國清寺天下為四絕今到普照遊到來復何別栿木白雲飛高僧頂殘雪門前一條水幾回流歲月

蘇軾淨明院詩　富春真古邑此寺亦唐餘鶴老依喬木龍歸護賜書連筒春水遠出谷曉鐘踈欲繼江潮韵何人為起予

大明院詩　長松吟風晚雨細東庵半掩西庵閉山行盡日不逢人裛裛野梅香入袂居僧笑我戀清景自厭山深出無計我雖愛山亦自笑獨徃神傷後難繼不如西湖飲美酒紅杏碧桃香覆髻作詩寄謝採薇翁本不避人那避世

永寧寺

在縣西一百五十步坊郭梁大同三年建名榮國宋大中祥符元年改今額嘉定壬申縣令程玭新之元末兵燬洪武九年重建歸併于此曰真覺院(在縣東五十步)曰淨因院(在縣東二十里)曰淨土院(在縣西二十里)曰長福羅漢院(在縣北十二里)曰大安院瑞相院(並在縣西北十八里)曰慶恩院(在縣北十八里)曰資聖院(在縣北十八里)曰慈雲院(在縣北二十五里)曰華盖仙山院(在縣東北十二里)

楊廉夫真覺院詩　禺陵雲氣近松翠護禪關只有客常到不如僧最閒春風浙江水夜雨富春山愛此清居趣長歌日暮還

蘇軾淨因院竹軒詩　前軒有竹百餘竿節節渾如玳瑁斑雨過風清談般若琅玕聲撼半空寒

楊廉夫詩　香巖一擊忘所知我無所知安可擊獨愛軒中可避暑萬竿瘦玉擁寒碧切莫伐作仙人杖亦莫剪作漁子笛准擬重來倚小窻細聽龍吟風雨急

龍景寺

在縣東十八里春明村唐大中元年建元末兵燬洪武十五年重建

真寂寺

在縣東南四十里靈峰村宋紹興六年建元末燬于兵洪武初重建

俞膺詩　平地湧招提諸峯自廻護石壁聽泉流溪橋見僧度松檜千年姿不受冰雪妬花卉四時春疑有神靈助景物良可嘉徘徊屢忘暮賢哉支許儔因之重懷慕

大雄寺

在縣西南五十里屠山村唐長慶三年吳越相國許明捨宅為寺遂即其人為名宋治平二年改今額元末兵燬洪武初重建

類列　惠出延壽院(在縣西五里)永壽院(在縣北二十里)惠濟院(在縣東十二里)瑞峯院(在縣西十五里)接待延壽院(在縣北一里)瑞像院(在縣北十五里)無礙庵(在北門外一里)聖僧庵(在縣西南九十里)

華盖仙山寺

在縣東北十二里舊名福慶院晉天福四年建洪武二十四年併永寧寺舊為民侵佔獨伽藍神數百人舁之不能動獨存萬歷十三年僧真德重建置田三十餘畝地二十九畝餘山七十四畝餘塘五分寺有大覺璉禪師遺墨有印空禪師塔師里人俗姓童氏有德行稱其徒一庵忠禪師塔在側

陶望齡忠禪師塔銘余嘗臨浙江憩西陵之茶亭衲子東渡者曳踵而至觧包坐則主人具茗飲齋時供蔬夕則敷具而臥如行者之詣家方春月日不下萬指前後無闕供曩衲子渡江率為舟子所苦至是寄載往來如其家私渡余異焉訊之曰此一庵禪師所為余謁焉師自稠人出衣垢敝體遝陋朴古語不出諸口余請焉曰師之所以能若是何也師徐曰此十方檀施德於貧衲何有退而訊諸其徒曰吾師之始末自虎跑願畢其髓腦供十方賢聖至則剖半菽而茹之展半席而休之諸師未食弗敢食未息弗敢息也溢而弗能居則已出而露處居無何仁風翔於吳越施者如胥溥之殷江也而師縛體束腹猶故師何心哉意其所以能若是者以此余聞而肅然於是每至輒造之後數年師出而於圃余亦從圃從容語佛法大旨瞭如也嘗為惡人所窘罄鉢囊授之乃免俄其人事敗所司引師証之師曰無有楚毒備至師怡然順受而已去而東又飯僧百官渡之廻龍庵規撫視西陵於是衲子渡娥江復有安次久之示寂焉世壽六十有三僧臘四十六其門人奉遺蛻歸於富春仙山福慶院院古廢址今規復之師曰吾亦將歸老於此弗克而化猶稱曰福慶院一庵禪師者師志也孫性昊述遺事請銘累年乃愈懇余感其意又服膺師德久其可弗許乃為次其本末而銘之師諱真忠孫氏子杭之仁和人年十七投天目山出家為印空禪師法嗣實寶峯師嫡孫也既受具勤苦叅學禮誦法華晝夜弗輟凡六載遍禮名山歸灌園於虎跑寺凡三年乃捨去飭僧兩江蕭山之新林天台之會墅嶺虎林之崇福庵皆有

蹟余習師飣僧事故於兩江獨詳銘曰南海大士天台應真僧之來殷其如雲師弗茫之投荒榛匪從師飣虛朝昏師云化矣德渠泯眙淛與娥兩江津

淨土庵

即淨土寺下院去縣十八里春明二畾東黃石公小隱處萬歷二十八年朱文元捨地僧德祺建

天鐘院

舊名崇福庵在太平里至正間僧道信開山嘉靖間僧明清建萬歷間僧如桂性美復增殿宇

吳之鯨碑記俶從富春登觀山望江以南峯阜蔚起若有寶雲卿靄籠護其上詫謂神囂仙的是宜建名剎為古德勝場而余門人周瞿父曰此天鐘山也有龍潭瀑布之奇不可不游逡巡未果偶友人俞似宗作令德化二三兄弟祖送桐君山時風日晴好余談及天鐘似宗欣然命棹抵岸可半里平疇懷新藉草喚觴又里許泉出自乳竇滴瀝堪寫漸上漸窄若鳥道而龍潭噴沫恍十二珠簾照映青壁寒氣濺人衣帶似宗與余各據峭石飛大白數斗不忍捨去及登殿暮矣展禮大士畢即促登舟寺僧供茗椀不及低徊而別恨未盡此地之勝今年秋在佛石澗中因識桂上人師弟則天鐘住持也亟詢建剎緣始山舊有古天鐘院廢為榛莽狐豹之區久矣嘉靖間高僧明清戒行精嚴焚修無間寒暑初結茅潭上僅一袈裟地耳忽猛虎夜午蹲其前清語曰若有宿業任爾一飡如來護法當為指點住處虎連唬數聲若先導者乃得舊基巋然古佛道場也遂移庵於此而歸附者日益眾遠邇雲集清稍拓地建大士殿設左右長廊香燈法幢燦宵旦有所禱其應如響而於祈子尤有奇驗於是江南北檀信重趼星馳咸稱為小天竺國而古蹟遂儼若靈山矣其徒如桂孫性美倜儻有志悉心協助禪誦聲振林木為居民敬禮續置田地山塘約一百三十餘畝用以供十方常住僧有遇飯一飡樹下一宿者流水膳供不絕薰修日進福施日廣而名亦日益振清師之法力偉哉先後令茲邑者徐公張公嘉其行給匾批照為久遠計昕夕祝延聖壽嚴淨毘尼佛日方升山魈永遁昔慧遠澄心而龍泉立現朗公撝杖而古像倏新精廬肇衍於三摩鹿苑驟開於十笏古剎之興實繇人造信非誣也不佞樂為宣[改-己+易]不自知不律之蕪拙矣寺之祖山為天鐘而鉢盂山為對左獅蹭右象伏峯曰觀音曰慧日曰法雲曰三台曰北極泉之最著者曰龍潭曰碧雲曰馬跡隱然馬跡現石上曰晶液曰玉音從山谷洞中出非但皈禮黃曇即探奇選勝安可不拈瓣香一徃哉

餘杭縣

永安寺

在縣東南二里元至元元年建至正二十四年燬洪武元年重建歸併於此曰法喜寺(在縣東半里)曰廣福禪寺(在縣西十里)曰天真寺(在縣南二十里)曰般若寺吉祥寺無相寺(並在縣北三十里)曰靜林寺(在縣東南十五里)曰金仙寺(在縣東南十五里)曰顯聖院(去縣治二里)曰興道院(在縣南二十五里)曰福嚴院(在縣東南十八里)曰善應院(在縣西南三十里)曰勝福庵(在縣南十二里)

王安石法喜寺詩　門前白道自縈迴門外青莎間綠苔雜樹繞花鶯引去壞簷無幕燕歸來寂寥誰共樽前酒牢落空留案上杯我憶故鄉歸未得可憐鶗鴂重相催

范仲淹顯聖院詩　登臨溪上寺遷客獨依依遠水欲無際孤舟曾未歸亂峰藏好處幽鷺得閒飛多少天真趣遙心結翠微

南山普寧禪寺

在縣東北三十里常熟鄉宋白雲通教大師翛庵以居隆興間改庵為院曰傳燈又改普安淳熙七年改今額元至正末燬洪武三年重建歸併于此曰慧照塔院(在縣東北三十里)曰定一院(在縣東北三十五里)曰松隱庵(在縣北七十五里)

慈聖寺

在縣東北四十里常熟鄉名靈嶽肇於唐五代天成元年復建宋治平二年改今額元至正末燬洪武間重建歸併于此曰永壽寺(在縣東北三十五里)曰安眾寺(在縣東北四十里)曰西教庵(在縣北三十里)

歐陽詢慈聖寺記畧杭州餘杭縣西北有鎮曰曹橋鎮走北十里得精舍曰靈嶽後漢建武二年有周閩越王無諸十二代孫搖氏捨宅之所建也

光孝寺

在縣間林東扇一畺

陶望齡光孝寺碑記光孝寺唐蔣山太平興國禪師建太宗勅額迄宋而寺貌幾灰矣端平二年住持法薰德力不減于初彬彬稱盛左右丞相咸為篆石迄我皇明而寺貌又幾灰矣幸正德元年無盡和尚禱雨龍門之山太白龍王獻白蛇于鉢內而大雨灌溉萬民繇是寺貌復興寶壽其別號也左通西溪勝槩右達赤松名林前有龍門峻嶺後有閒林幽村內不見寺外

惟見雲古井甘泉詩脾可沁萬歷間如清真聽重修建天王殿樹鐘樓置山贖田為永遠計誠大福地也

徑山興聖萬壽禪寺

在縣西北五十里唐代宗時僧法欽結庵於此永泰中有白衣士來求法度為沙彌欽指坐後石屏謂曰能開此乎曰可遂叱之分為三片今號喝石巖遂即剃度名崇慧如長安與方士競法既勝代宗問其師承對曰臣師徑山僧法欽召赴闕賜號曰國一禪師逾年辭歸詔杭州即其庵建寺曰徑山僖宗乾符六年改為乾符鎮國院宋大中祥符元年改賜承天禪院政和七年改徑山能仁禪寺開禧年間孝宗御書額賜徑山興聖萬壽禪寺由宋迄元為禪林之冠元末兵燬洪武間重建歸併于此曰廣化禪寺(在縣西十里)曰順慶禪寺(在縣北三十里)曰妙濟禪寺(在縣西北四十里)曰實際禪寺(在縣北二十里)曰雲福禪院(在縣東北四十里)曰圓覺庵圓修庵(並在縣東北十五里)

吳泳撰興聖萬壽禪寺記國家駐蹕臨安自西天目龍翔鳳舞舒岡布麓盤結而為帝王之都者錢塘也自東天目熊騰馬奔凌深拔峭發越而為梵釋之宮者徑山也山以徑名乃天目之徑路其地尊故鬼神不敢宅其境勝故凡庶不得居必也以大法力建大道場然後能儲精會秀覽光景而納于其中國一禪師卓錫于此興廢迨今盖四百餘年矣先是慶元己未冬龍王殿灾精廬佛宇一夕而燼僧元聰治故而復新之後三十五年夏再燬無準範師慨然曰曩在育王時曾夢一神人偉衣冠盛儀衛馳騎而前迎禱昔之夜又夢前神人者持念一寶珠以相授曰謹勿訝或謂夢中之人龍珠之數則火之日也豈住止成壞皆數耶師於是以精進心轉不退輪以勇健力撾無畏鼓披榛塞竅度材于山視昔所植可以為榱為梁為杗為桷者適飽厥用則鳩工聚糧命幹力之僧相其役一念纔起諸天響合上方頒賚甚渥公卿士大夫樂施捨南國之好善者不祈而助貨不命而助力越三年考成曰殿曰堂曰門曰廊曰樓觀棲客之廬齋庖之所庫庾井廐靡不畢具最是龍游閣居翠峰之頂畫栱璇題承雲絢日而虛欄之外曰凌霄之閣天空宇迥若與灝氣者游循而下曰寶殿曰寶所曰靈澤殿曰妙莊嚴閣宸奎麗榜殿寶鎮此山寔振古所未有舊兩僧堂幼學者居外久習者居內殆非不二法門今則統而為一楹七而間九席七十有四而衲千焉翼五鳳而閱離門之虛建萬佛而補艮山之闕皆以大用勝服之若夫乘金相水西秦異僧所云更不道也

王在晉游徑山記武林之屬多佳山水而餘杭之有徑山稱最勝東西兩天目山高插天水因山曲折浸為巨源若兩目然故曰天目入兩日以是山為徑路山遂以徑名余雅慕徑山而未有企及也歲在辛亥南湖告成功監司徃閱視余以鞅掌三路不得從諸大夫後會八月逾望三日徃吳興謁

臺使者畢歸由苕溪苕溪一帶天目諸山眾流環合遡流可達乃從吳興泛舟過德清渡雙溪雙溪之流一出天目一出高陸至雙溪橋合流入徑山港舟不得通舍舟登陸過化城接待寺化城為故宋佛日禪師宣公所刱踞徑山東麓宋時棟宇宏麗欽錫化城二字上創重屋尊而閣之殿寢門廂庖[序-予+票]湢浴靡不備具載郎官楊汝明記中我朝香火猶盛漸次廢棄寺田轉佃閭左豪右踞之然化城巷之名不泯馮司成開之創刻經之緣始于清凉之妙德庵地峻遠役匠轉輸工力費倍乃遷之徑山徑山雲霧罩籠藏板其中易朽腐始議復化城化城地坦無雲氣潤濕便藏板而易輸工力乃為屋十間以安經板處工匠而大士金身以草殿居之海內宰官居士布金恢復化城舊域捐資贖地而有子衿鼓眾跋扈必欲與沙門相角事聞當道屬予訊其事郡邑勘明予按法治其尤割地歸僧封畛不失而其間有墓塚者聽之以寧其穸宅佛處蘧廬中得重開法地以須十方大檀越之力予過化城而一二野衲邀入和南佛前稱善事周遭故址枳棘蓁蕪闢草萊而重新法王之宇西來白馬茲其為繙經演法之場乎過化城折而西北抵徑山山去縣五十里雄據乾位挺然為東目正幹宴坐朝陽天顯堆珠鵬[搏-甫+(十/田)]凌霄御愛七峯攢擁草木蓊蔓樹古而蒼地僻而野山門幽寂有老松婆娑可蔭十畝與木蘭交枝薄青旻翳白日松為數千年植而木蘭亦森發離奇匪深山無此異種參差白塔同虬木橫斜巢雲歸鶴竹松間雜景色清饒葱翠交睫入山而路轉深地轉奧無數篔簹霏烟濛濛新芊雄抜妬母高凌排崗直上各高十里層巒峻嶺長騫偉觀盤跚逶迤盡在竹間行路籜龍透地躡屐崚嶒一頭陀引導美箭蒙茸蘿葛糾縛時摩僧頂羣峯嶨嶨拱護靈嶽中豁平區坦壑去險而夷重巖滴水有洞空沏頭陀指為明月池其間小井為龍湫龍歲一來顧雷雨暗冥過洞行少許路遶屋後登崖叅大慧禪師塔明堂窒塞方伯吳公言塔前當介然闢之而成路僧苦去屋未果闢由塔崦而東為喝石巖唐時僧法欽結庵有白衣士求法度為沙彌欽指坐後石屏謂曰能開此乎叱之分為三片代宗召法欽赴闕賜號國一禪師辭歸杭即其庵建寺曰徑山宋開禧間孝宗賜額興聖萬壽禪寺東南勝道場無逾此者行過複嶺崇隆隱天有斐棻猗坎窔為池方塘一鑑湛潔如澄鮮漾碧僧曰放生池池邊刻經工匠排列鴈行伏迎道左已訪澹居上人所寓靜室治蔬為供清話移時片言點悟此不殊欽公三片石恨不如白衣士立度為沙彌耳別而登樓同餘杭令戴君進飯夕陽西沉遂促從者亟行余時有天目之興徑山直傳舍視之竭蹶而趨至無垢寺而宿焉是夜惺惺不寐取唐崔元翰碑籀文摩擬不能屬草乃讀東坡徑山詩擊節高吟與松濤林籟相為荅和殘月半窻莽烟伴榻無何而山鳥鳴鳴不覺東方之既白矣

吳之鯨徑山紀游庚戌浴佛日久雨乍霽與俞似宗佛石宿禹杭文昌壩亟呼筍輿沿溪行宿霧漸消山頂次第現如新粧出羅幌行可二十里飲溪邊酒家遙望舟枕巍然獨峙秀鬱可挹又三十里林漸深地漸高將逼雙

徑循趾攀巘委折數百重澗花飛灑俱成白練山形周環複叠如入谼中上下篠簜檀欒萬畮一色余隨輿偃仰覺日光澹射風細雲疏非若高峯軼雲蒼榦蔽景作鞺鞳之聲礹磹之狀也嶺甫半輿人告疲余顧佛石隔山小浮圖非即歇足處耶佛石指曲磴數坂曰此須遶而上耳既上嶺如馬脊左右懸削忽白雲覆他山飛捷於鳥細雨隨至余振袂度數盤沐佛聖水杉松環立平臺俯瞰則三山門巋然列矣視小浮圖又在足下遠峰嵣崒近峰嶢屼含澤吐霓倏忽殊態武林兩高龕赭一線俱在靉靆中余嗒然宴坐雲海蕩吾心胸覺生平寥廓之氣呼吸相應昔陶貞白志在冲舉每云指白日覩青天去此不遠獨於爾時有會已投松源山房古杉蒙茸方沼沉碧高樓十五楹邃潔可居僧冲宇供笋蕨煨漿不減白墮似宗糾以觴政甚洽月光初燦僅於密樾中作掩映觀耳晨起謁新殿制度宏偉未飾丹堊過妙喜庵禮大慧禪師塔眎龍湫舊蹟循左級而上觀放生池池圓如珪廣可盈畮惜無游鱗潑剌再上為寂照庵刻藏經處鐫工麕集室後供達觀甚肅令人轉思密藏忽緇衣籜冠過謁余詢知為門人通州崔叔錦為諸生不得意刳心大典棲遯於此兩月矣余携之出過喝石巖石枳為三昔中子山人乞國一師剃度以呪力護佛法賜號性空大師大歷中代宗遣內侍迎國一入京徑山之興實由於此訪雞兔二塚至今在岩下三白駒或寢或訛乃載經板出山者儼然雪山梵從也是日陰翳多廉瀸久益密叔錦別去返松源山樓飯後稍有霽色命輿從右級而上旋轉竹徑菖蒲田新秧離離澗水澄瀉石磴梳潔如鏡高岡礱密遙見炊烟一縷從修篁中出即知為雲房杳然無覓徑處余喜忘返翛然緱山烟客飡沆瀣佩九茚靈苗不復知有人世既過傳衣庵為萬松禪師傳衣處躡白雲庵攀蘿而上為凌霄峰浩淼如大瀛海何減泰岱新殿枕鵬搏山勢拱衛余謂此山幽曠非通都大邑而宸章御蹕後先輝煥故樓名五鳳閣建龍游南朝四百八十寺未有其比今山水依然未知八十一代傳燈何人耳返流止亭輿人告息各曳杖尋東坡放生池坡公游徑山二詩如欲看細字銷殘年靈水先除眼界花俱頌水德今濁甚亭碑幸無剝蝕及讀樓鑰百萬杉松雙徑杳三千樓閣五峰寒自是實境語矣似宗探藏錄許為刻高僧傳燈下各繙一編間拈以問佛石佛石各為宣說吐旨玄暢因曰宗門不立文字而微言奧義終古不磨猛志精求叅悟非遠今人根力未堅而遽稱文喜游戲彷彿而妄冀豐干正恐慧蕋乍枯慈筏罔濟耳相與嗟嘆久之余夙知有聞谷住徑山急欲一晤而聞其坐不語禪殊悵怏佛石為通信聞谷慨然曰吾素所願見者也曉訪之觀音閣時禪習者三十餘人而閣戶闃寂鳥雀不喧入左扉若無人者執事虔嘿惟謹聞谷坐余輩小閣色靜而氣融神理泓上發語簡遠真禪定士也余為肅容而別微聞谷幾虛徑山一游矣

蘇轍詩　去年渡江愛吳山忽忘蜀道輕秦川錢塘後到山最勝下枕湖水相縈旋坐疑吳會無復有扁舟屢到凌深淵今秋復入徑山寺勢壓眾嶺皆迷巔連峰沓嶂不知數重重相挹如青蓮散為雲霧翳星斗聚作潭洞

藏蛇蜒欽公未到人跡絕千里受記來安禪荒榛野草置茅舍坐令海賈投金錢至今傳法破煩惱飽食遇客宜安眠觧裝投錫不復去紛紛四合投烏鳶或言處此猶未遠海上人少無煩煎天台鴈蕩最深處水秀石瘦尤清便青山獨徃無不可論說好醜徒紛然終當直去無遠近藤鞋竹杖[目*夕*ㄗ]窮年

方九敘詩　雲裏五峰環紫翠空中一徑轉微茫黃花漸報重陽節白社遙尋古道場精舍更宜留謝客玄都何必訝劉郎高僧趺化千秋寺獨有靈鷄塚樹蒼

湯賓尹訪澹居詩　覓友尋師度會稽舍情千載不能啼閒從國一堂頭過一片香兒吊塚雞

拔天跳地穿黃嶽抱月廻風隱徑山著處盡成香國土單肩赤脚恣周還　半月東山水上行薰風南逗晚凉生從君叅得黃楊木大好隨緣斷佛情　格物何當物格殊子韶妙喜兩糢糊而今賸有關西首劍擊憑誰落畫圖

吳用先雨中登徑山與澹居上人夜坐詩　喝石開山意若何靈巖千載鬱嵯峨幾盤翠袖穿雲度十里青松帶雨過寶界烟蘿香氣裊珠林鐘磬梵音和清霄喜對支公話把臂中峰一浩謌

化城寺

在餘杭縣北四十里雙溪之上

馮夢禎議復化城疏引刻經之緣始于清凉之妙德庵地寒而峻遠役南匠轉輸工力費倍功半不得已而有徑山之遷徑山為東天目正幹五峰攢廻中間佛界我東南勝道場無逾此而雲霧籠罩十日而九藏板其中最易朽腐又不得已而有化城之議化城踞徑山之東麓去雙溪數里地坦平無雲霧既便藏板而輸工力事事皆宜因故址而新之先為十間屋令足以安經板處工匠而他役徐侯其後似無甚難舉今約同志以十緣倡之緣五十緡禎雖貧勉任一緣夫刻經大役自北而南而其南也又自徑山而化城三徙而後定而任事之人始于密藏繼予後予而終之者又未卜何人也因緣時節惟佛與佛乃能究盡而自刱緣以至未來凡于此事曾捨一錢半銖及一手一足之力已上福不唐捐直至成佛而吾等與焉豈不幸甚

方伯吳用先重興化城接待寺疏余從紫栢尊者游逾二十載所承鉗鎚錐箚罔所不至通身熱汗不知透出幾番矣末後以流通佛法付囑不佞唯唯徼天之倖承乏越中即悉心殫力求終刻藏之役茲功已過半緣成或有日矣乃謀藏板善地卜及化城化城故宋佛日禪師宣公所刱接待寺郎官楊汝明記之甚詳見徑山集中及我朝而香火猶盛漸次凌夷僧陡凋落遂以寺田轉佃於方姓者輾轉相侵盡為居鄰所剝蝕矣然其徑尚存化城巷之名至今在人口今年澹居上人圖恢復之而鄉紳王中泉公首倡義舉

願以其地歸寺於是左右聞風者響應乃澹居猶運慈心量其多寡各給其直余與吳下諸君子協濟之雖未盡復舊址從此誅茅建剎亦庶幾可觀矣然此非今日創議也盖自馮開之司成始矣而余又不知司成之原有此議也一日澹公過予持開之手卷見示謂偶從密藏棄篋中撿得之余展閱疏引即向時與藏公所謀卜化城以厝經板者也噫奇哉司成徃矣謀于十數載之前而余與澹公成于十數載之後不約而合無心而成九原可作當為鼓掌第勝地既復梵宇鼎新向後更有許多商量不無藉十方大檀之力余小子亦不敢不賈勇從事使道化重興法輪常轉誓頭目腦髓之不恤而遑恤其他時萬歷辛亥歲浴佛日

大祿寺

在縣西北九十里長安鄉晉永康年間建元大德年間重建元末燬洪武二年重建歸併于此曰光教寺(在縣北八十里)曰靈石院(在縣北六十里)曰慈相院(在縣北一百里)靈源院在縣東南十二里安樂鄉舊名龍泉唐咸通七年僧善本建宋治平二年改今額元末燬洪武二年重建歸併于此曰普濟寺(在縣東十五里)曰寶輪寺(在縣東南三里)曰澄鑑院(在縣東十五里)曰光福院(在縣東南十五里)悟真院在縣西北三十里長安鄉唐咸通八年僧法顯翀宋治平二年改今額元末燬洪武年間重建歸併于此曰石泉寺(在縣北八十里)曰大智寺(在縣東北三十五里)曰法華寺(在縣西北四十里)曰寶幢寺(在縣西北六十五里)曰寶嚴院(在縣北一百二十里)曰迎恩院(在縣西北四十里)曰大安院瑞相院(並在縣西北五十里)

王安石悟真院詩　野水縱橫漱屋除午窻殘夢鳥相呼春風日日吹花草山北山南路欲無

洞霄宮

在縣西南十八里漢元封三年建宮壇于大滌洞前唐弘道元年有潘先生者于洞下建天柱觀南向四維壁封三步禁樵採為長生林中宗時賜觀莊一所後有米法師改觀為北向乾寧二年錢武肅王與閻丘方遠相度山勢復改南向未納土時嘗改天柱宮宋祥符八年陳堯叟奏改今名賜仁和縣田一十五頃并賜鐘磬法具等歲度行童一人應天慶節設醮以祝聖壽天聖四年詳定天下名山洞府凡二十處洞霄大滌洞為第五政和二年都監何士昭陳乞賜度牒三百道方臘之亂宮燬紹興二十五年重建仍建昊天殿于東廡後殿左陽通明館乾道二年三月壽皇洎顯仁皇太后臨幸嘗以軍士守禦後奏罷以山麓民充佃夫防禦淳祐七年靈濟通真先生孫處道奏請賜錢益市恒產規制愈崇政和間援天柱觀例經尚書禮部給洞霄宮印記慶元二年以歲久漫滅重給宋初天聖節道場應本縣文武官僚

入山建散諸山僧咸至立班自南渡後惟道士就宮建散而縣官止於普救寺行事凡諸宰執大臣丐閒去位者以提舉洞霄宮繫銜咸淳甲戌冬宮燬一空元至元甲申後再新宮宇元末兵燬洪武二十三年重建歷二十餘年而後修垣鉅殿門廡室廬庖庾壇[王*遺]皆次第用完無改舊觀矣

王達記晉許邁稱餘杭山是洞庭西門潛通五嶽山陰至臨安名有金堂玉室仙人芝草左元放之徒漢末諸得道者咸在夫古者採真之士徃徃於名區奥壤穹崖邃壑留連忘返者何哉盖老氏之學貴清靜非名區奥壤穹崖邃壑不足以養其高致故名山大川瓌詭之觀人迹所罕至者必為其徒得之余嘗因邁之言而稽馬餘杭之西有山曰天柱自漢元封三年建天柱觀宋祥符間改稱洞霄宮仙吏謂之福地而天目諸峯遐邇羅列光靈勢氣與造化相為流通蓄奇孕秀莫可殫紀當雲行鳥飛之際一柱中立屹然摩空羣山四面俯拱自列而宮正踞其幽深峻絕之境丹臺紺殿瓊樓璇室烜赫心目為民禳禬動輒有應元步日窘四海鼎沸所謂丹臺紺殿瓊樓璇室一燬無遺大明昇天九有寧謐洪武庚午提點賈公力以恢復自任夙夜劬勩罄橐是營不三載賈化去副知宮事資深吳公暨希然龔公克紹厥職繚以修垣構以鉅殿至乙未門廡室廬庖庾壇壝次第用完丹臺紺殿瓊樓璇室視昔不異許邁所謂金堂玉室仙人芝草者宛然可徵漢末諸得道者其骨雖朽其神不死安知不與茲山之光靈勢氣相與盤旋於冥漠之間即夫置榮悴於兩忘齊天地為一指為道家之常事然數百年之規矱一旦而復之非惟其徒以樂清靜無為之教且俾一方萃嚮慕之誠致水旱禳禬之福明靈歆顧祥慶駢臻詎不密裨皇化為邦氓之利也哉其嗣法弟子周應常劉宗顯慮乎久而泯其績也來京師求余記余喜諸君子能翼其教也姑書此庸刻諸石後有記者尚考于斯

陳堯佐詩　娟娟紅樹碧峯前為愛桃花入洞天偶逐霓旌纔百步却憂人世已經年

谷口停驂上翠微五雲宮闕闢金扉不知何處朝元會却是龍鸞隊仗歸　一帆高掛出紅塵萬仞長歌入紫雲莫道仙游無別侶玉清冠盖許同羣

林逋詩　大滌山相向華陽路暗通風霜唐碣久草木漢祠空劍石罥花碧丹池水氣紅幽人天柱側茅屋灑松風

趙抃詩　龍穴藏身隱源泉撫掌清紅塵人絕慮白日世長生我分諳冲寂誰能顧利名夢中休指笑又作洞霄行

蘇軾詩　前生我已到杭州到處常如到舊遊更欲洞霄為吏隱一庵閒地且相留

趙公碩詩　里服蕭蕭入翠微虛亭高敞納晴暉仙歸洞府雲烟冷春入名山笋蕨肥緩引壺觴[目*夕*卩]自適暫捐朱墨便忘歸會當結屋山中住始悟人間萬事非

舊時曾此覓仙緣一別于今四十年白髮重來嗟老矣青山九鎖故依然肩輿直入松間路洗耳還聽澗底泉幽興未闌吟未就半峰斜日下平川

潘良玉詩　石壇風冷露華凝羣玉崢嶸簇畫屏水赤久[估-口+(田/寸)]丹作井山高時借翠為亭鶴迎仙馭迷三島雲入洞天朝百靈回首武陵歸去路碧桃零落晚風清

趙汝談詩　好閒謝塵事來作名山遊杖策西澗曲乞漿東家丘大滌古洞天仙人此藏修至今翠箬下半夜丹光浮山中舊相識置酒為淹留日移雲窻午水滴空林秋授我長生方揮麈談玄幽我髮亦已白赤霄莽何求業緣苦未斷一笑風引舟回首青天長身名兩悠悠

曹元翰詩　馬歸清曉破藍田一出紅塵骨已仙任鎖九重山下路終尋五處洞中天泉流碧砌常鳴玉跡隱蒼崖久蛻蟬人世歸時知變否樵夫猶記爛柯年

白駒任詩　桃花流水隔塵寰玉樹瓊林九鎖關飛閣太虛開紫府捲簾終日見青山無為自覺心源淨學道方知色界閒政滿不須瞻使節蹇驢瀟灑[聽-王]潺湲

張輿詩　登臨直到翠微巔晚向蓬山共醉眠雪後梅花溪影淡月中瑤草露華鮮千年石室琅函秘萬丈天峰玉柱懸此行不為長生訣要續遊仙第二篇

趙居仁詩　十里溪聲逐澗灣馬蹄[聽-王]入洞霄間左旋右折不知路九鎖一開都是山紫極宮高雲絕頂翠蛟亭壓水當關山中止說吳仙子獨抱真心鍊九還

(此係三十六洞天之一故附載)

類列　慈濟禪寺(在縣北六十里)善法禪寺(在縣東三里)安樂塔(在縣東三里)

臨安縣

海會寺

在縣西二里南北鄉梁大同年間賜額竹林寺會昌五年燬大中五年重建天福二年錢氏拓舊址建奇石浮圖二座宋大中祥符元年改今額天禧五年燬重建元至正十二年復燬洪武十六年重建歸併于此曰殊勝寺(在縣東十里)曰靈峰院(在縣東十五里)曰寶林院(在縣東三十里)曰法華院(在縣西二里)曰梵安院(在縣西二十里)曰精進院(在縣西二十里)曰勝因院(在縣西南三里)曰寶積寺(在縣西北十里)蔡襄海會寺記臨安縣海會寺梁大同中始作號竹林及五代貞明之初吳越王又新之王縣人也少嘗往來里中困甚已而跨有全吳名貴地大私念所從來豈非有陰相者邪竹林最得山水佳處因大治之益廣前制當是時吳中浮屠居雖百千數無是倫者宋大中

祥符間例易天下寺名遂賜今額天禧五年冬十月火通夕而墟其徒散去僧有明顧思憮然以興廢為己務每說於眾曰吾師之法或資於塔廟福報之來稱其所出今殿適謀始而大家力饒不能厚施異時名氏不齒篆載反索氣於後人其可乎於是盛仁俊張從實先輸而倡之從而和者數十百人度林礱石塹茨陛級之役積費錢三千萬役一十年而後已既成列像其下鼓鐘其中會而落之墟者復芘而散者復集錢氏以一國之資基之於前有明以一己之志繼之於後可謂能且勤矣

蘇軾詩　籃輿三日山中行山中信美少曠平下投黃泉上青冥線路每與猿猱爭重樓束縛遭澗坑兩股酸痛饑腸鳴北渡飛橋踏彭鏗繚垣百步如古城大鐘橫撞千指迎高堂延客夜不扃杉槽漆斛江河傾本來無垢洗更輕倒牀鼻息四鄰驚紈如五鼓天未明木魚呼粥亮且清不聞人聲聞履聲

淨土禪寺

在縣南二里南北鄉五代梁乾化二年吳越王捨基為寺請額光孝明因宋大中祥符元年改今額元末兵燬洪武十五年重建歸併于此曰護法院(在縣西二十五里)曰昭明院(在縣西四十五里)曰開化禪院(在縣南二里)曰善住院(在縣南五里)

蘇軾淨土寺詩　雞鳴發餘杭到寺已亭午叅禪固未暇飽食良先務平生睡不足急掃清風宇閉門羣動息香篆起烟縷覺來烹石泉紫筍發輕乳晚凉沐浴罷衰髮稀可數浩歌出門去暮色入村塢微月半隱山圓荷淨瀉露相携石橋上夜與故人語明朝入山房石鏡炯當路昔照熊虎姿今為猿鳥顧興廢何足弔萬世一仰俯

又開化禪院詩　落日岸葛巾晚風吹羽扇松間野步穩竹外飛橋轉神功鑿橫嶺巖石得巨片直度千人溝下有微流泫崗巒蔚回合金碧爛明絢緬懷異姓王負擔此鄉縣長逢跨下辱屢乞桑間飯誰謂山石頑識此希世彥凜然陰氣逼屹起猶聳戰他年萬騎歸父老恣歡宴錦繡被原野金珠散貧賤竇融既入朝吳芮空記面榮華坐銷歇閱世如郵傳惟有長明燈依然照金殿

方九敘昭明院詩　勝地傳浮玉前朝此布金龍湫懸雨急鳥路入雲深萬仞鍾靈炁三秋愜賞心塵緣促歸駕回首戀東啉

太平萬壽禪院

在縣東二十里靈鳳鄉唐天寶三年欽禪師卓錫於此天祐元年吳越王建賜額小徑山太平禪院宋天聖七年改賜今額崇寧元年重建元至正

十九年兵燬洪武九年重建歸併于此曰普慶福田寺(在縣東北三十里)曰蟠龍禪庵(在縣西十里)曰法海院(在縣西二十里)

陳度徑山下院太平萬壽禪寺莊田記臨安縣東二十里靈鳳山之腰喬木刺天修竹成林中有萬壽禪院者故吳越國武肅王錢氏所建太平寺也宋天祐二年更為禪居天聖七年始賜今額初縣人高君保與其子瞻自景德以來大新棟宇造殿塑像藏經鑄鐘百用具修又以田百有二畝與常住供僧君保瞻卒其子弟分財產欲奪前所予出交訴于縣縣沒入之平其估許其市崇寧元年住持等覺大師募檀越百餘人得錢三十七萬有奇詣縣請如本估市宰君嘉其請而歸之等覺刻檀越姓名于石以傳不朽屬無住居士序其事居士謂臨安地寡人繁富官田今日示價明日爭者盈庭高氏沃野膏壤竟四十年莫有市者豈神物護之乎抑亦有待乎且善惡一念至微細也長劫受苦樂報秋毫不差況予奪罪福之明著者等覺與十方來眾當其食時升堂展鉢上味妙供不念自至何用區區營此一頃田為盖欲與高氏子弟悔罪與諸人植無窮之福也當知是田本無去住於彼于此何得何喪彼此得喪兩忘則罪福安在哉故此山可傾此地可移此石可磨此福無有窮也他日大穫倉箱充溢禪子終朝飽滿元不曾破一粒米始知居士前語不綺宰君者霅上姚祐伯受以學行知名施于政事人安樂之等覺者法號慧源大通禪師之法嗣不惟道行高潔抑且才力過人無住居士者丹陽人陳度崇寧元年秋七月中元日

方伯吳用先重復太平萬壽寺田碑記太平寺在臨安邑治東靈鳳山間擅風林雲壑之勝肇基於吳越王至宋天禧中改為萬壽禪院邑有檀信高君保者父子相踵而護持殿宇像器各極莊嚴捐田百畝以充香積供四海苾芻當時叢林亦云盛矣及君保逝而後裔之為闡提者謀奪之訟成田沒入官欲購者聽越四十年而竟無購者豈非韋馱力耶至崇寧間有慧源為住持募錢數千緡自白於縣請得贖之然世代遞更漸次凌夷田復為比鄰所吞併矣寺僧零落三五輩無恢復志迄今有澹居者為達觀禪師高足以刻藏因緣來主徑山之席一日至其地徘徊久之追尋古蹟偶見石壁有小徑山三字知為徑山下院撫然歎曰是梵釋龍宮地有神呵護焉百畝之丘乃高檀所捐飭十方僧者若輩踞為己有入泥犁如矢迅耳曷若直而歸之為眾贖愆於是聚吳中善信貲僅贖其半半仍歸比隣盖運以慈心也邑令黃君寔佐成之噫此區區一彈九土檀化為魔魔化為檀來而復往往而復來亦何常之有總惟心所造耳心緣於般若則為喜捨為莊嚴是高君保之父子也是慧源澹居之恢復也心緣於無明則為慳貪為侵併是高君保後裔之反汗也是左右比鄰諸人之蠶食也爭讓祇緣識心人我了無實義談性則空有之不立論相則因果之難逃福緣瑞事隨善萌芽異類幽淪乘惡滋蔓夫人生如掣電飄風七尺軀殼受享幾何胡為乎貪執不捨甚至彊吞甘以有盡之身而釀無窮之業哉吾願後之人勿復垂涎此地自招業報也

玲瓏山大雄殿

從華石山徑過流霞橋登石門詘曲而上為三休亭九折岩風雨驟至屐下皆作小瀑醉眠石為坡公書字勢飛舞寺內設東坡山谷佛印像寺傍有琴操墓

蘇軾詩　何年僵立兩蒼龍瘦脊盤盤上倚空翠浪舞翻紅擺稺白雲穿破碧玲瓏三休亭上工延月九折岩前巧貯風脚力[書-曰+皿]時山更好莫將有限趁無窮

化城院

在縣東北一里南北鄉唐武德二年賜額羅漢院在縣城內會昌五年燬光啟二年賜額法華院後里人錢尚父重建五代唐同光二年遷于縣東北以鍾尚書府地建立宋治平二年改賜今額元至正十九年兵燬洪武六年重建歸併于此曰西明庵(在縣北三十里)曰慈聖院(在縣東南北鄉)曰觀音院(在縣東北二里)曰普淨院(在縣東北三十里)曰無量院(在縣西十里)曰淨梵院(在縣南十五里)曰興善院(在縣南四十里)

興教院

在縣東一十二里靈奉鄉唐天寶中賜額興善會昌五年廢天祐元年吳越王重建宋治平二年改賜今額元末兵燬洪武元年重建歸併于此曰瑞隆院妙嚴院(並在縣東二十五里)曰普澤院(在縣東南十五里)曰不二院禪定院(並在縣東南二十五里)曰吉祥院(在縣東南二十五里)曰真君院(在餘杭縣西南二十五里併于此)

淨應院

在縣西三十里金岫鄉五代晉天福四年賜額應祈里人錢尚文建宋治平二年改今額歸併于此曰無垢院(在縣西北二十五里)曰長清院西化城院普信院梵行院(並在縣西北三十里)曰等慈院(在縣西北四十五里)

雙林院

在縣西北一十五里谷昌鄉名寶林唐天成元年徑山寺僧景文望南山有祥氣遂廬於山巔大理評寺俞壽因捨山為寺於土中得金銅佛像三尊殿屋摧毀僧冲新之宋治平二年改賜今額元至正十六年兵燬洪武三年重建歸併于此曰真覺院(在縣東十五里)曰定安院(在縣東二十五里)

福勝院

在縣北二十里高陸鄉宋乾德四年賜額福全治平二年改今額元至正十六年兵燬洪武元年重建歸併于此曰圓明庵清輝庵(並在縣北二十里)曰極樂院(在縣東北十五里)曰惠民院(縣東北二十里)曰永昌院(在縣北二十里)曰大仁院(在縣北二十五里)曰崇覺院(在縣北三十里)

趙仲藏福勝院詩　千騎踏清霜東遊古道場雲籠山骨秀風引水聲長曉日依稀暖寒花取次香後隨吹管急空谷答宮商

類列　辟支塔(在縣東北三十里)

東天目山昭明禪寺

去臨安西四十里踰嶺即見若天鏡然其形蜿蜒下蟠于麓分二道左為龍王堂以木梁澗澗中多奇石進為白鶴坡則水石相激以成游者每不能至其上數里即所稱平溪苕之源也右峽入深三里許茂林鬱然曰昭明庵頗整治有徑可斜通山中由中麓上躐其脊憩且止亭望武林諸邑歷歷可指顧有瀑如白龍伏起多態抵垂虹橋則逼凌飛瀑濺珠衣袂間上磴多塔松大六七圍者數株歷三橋而抵昭明寺寺久廢黃毓鉉新創未竣有千佛閣以經火不燬為靈穴其背出度嶺詰曲而下至徑密處得黑驢庵宋希都禪師叱虎處徑左為平溪庵溪流至此忽平上有獻珠墩下有白龍池飛橋跨之四面壁立真若飛渡者其溪與白鶴玻近而徑險絕不通此東目最幽勝處由閣之右過迴光庵洗眼池在其後庵所由名出西磴見悟道松頂平如茵下可隱數乘上為白雲窩左轉為分經臺即昭明分金剛經處舊有三古松皆為雷火摧枯葛稚川曾修煉於此傍有小池可掬攀蘿分翠而上至二頂有石纍如青蓮華又上數里為大仙峯巨石如板築者數大則山之絕頂與西目相望云

老子說云欲度南極避水災天目海陵最為第一

太平寰宇記云山高三千九百丈廣五百五十里水因山曲折東西巨源若目故云天目東出臨安為大溪溢東流而為苕溪西趨於潛為紫溪合桐廬之水以滙於浙江

委巷叢談云杭州山脉發自天目有東有西東目之脉萃于餘杭結局于徑山西目之脉萃于錢塘結局于西湖故天目者杭之主山也王氣鬱葱帝王奠宅而錢氏偏霸宋室南遷兆不誣矣

陶潛問來使詩　爾從山中來早晚發天目我屋南窻下今生幾叢菊薔薇葉已抽秋蘭氣猶馥歸去來山中山中酒應熟

張羽登天目山詩　東西峰對峙麋鹿日成羣四月猶飛雪半山長是雲洞香仙藥遍天黑聖燈分千古錢塘勝登臨愜素聞

王在晉秋日登天目詩　莽氣飛揚不見山翠磐高聳水流潺煉將青白雲和碧點就紅黃葉作斑江海襟期開地局昊天眉宇出塵寰玄穹咫尺開閶闔吾亦翹瞻望玉顏

章嘉楨謁昭明庵詩　禪林天下稱蕭寺惟有茲庵真姓蕭地以分經成淨土池開洗眼在清霄層嵐叠巘圍寒翠竹韻松風共寂寥見說讀書臺幾處離離荒草野烟飄

西天目山獅子正宗禪寺

今稱獅子林去於潛北三十里而雙清莊居其麓莊右出太子庵掬泉洗目漱之而甘沿澗登響水巖初得奇壁前望巨石如覆舟至則如削成而方繡蘿蓋之名觀音巖左通活埋道循右穿眠牛亭古木盤鬱踰半山橋有寶樹三株與東目垂虹堪頡頏上真際亭則高麗王問法中峰所自署者登獅子岩藏蛻在口吻間秉燭始見複閣飛樓若凌虛而滅其趾曰舫室曰死關高峰所自命右抱象鼻水淙淙下者曰千丈崖越閣道行萬松間得玉柱峯中立夷曠高不及十丈而磊砢輪囷蒼古異常上覆兩松如擁華盖東為中峰斷崖二塔一杉五枝一杉雙榦俱大五六圍而五枝者在斷崖塔凌高阜尚埋其根而雙榦修挺入雲居然娑羅雙樹其下平行地即為正宗禪寺榜曰獅子林旁為幻住庵中雲庵稍上為貝林禪師華嚴庵繞屏風石踰金仙頂觀怪石斷者截者反者豎者若片片解而庋積於築室之場計其高與東目肩齊下瞰惟西南蓮華峰幽勝返幻住沿石壁為西方庵過天關為立玉亭危道如線趾半垂在外委蛇以行真若羊腸從立玉望西方半沒雲嵐中由西方庵峭壁中裂如隧道曰龍門從龍門下若霣虛山中之奇無以加此分徑北行美陰曲折漸露幻居之崖層構翼接觀益奇憩活埋庵陟香罏峯頂下沿觀音石凡所經高峰銅鉢繭衲如熏優鉢羅花開及中峯自題畫像皆世所未有烟雲萬變必身至始能領略云

白樂天新婦石詩　堂堂不語望夫君四畔無居石作隣蟬鬢不梳千載髻蛾眉長掃萬年春雪為鈆粉憑風傅霞作臙脂仗日勻莫道岩前無寶鏡月明依舊照夫人

僧靈一天池詩　昨夜雲生天井東春山一雨幾回風林花迸逐溪流去欲上龍山道不通

蘇軾雷神宅詩　已外浮名更外身區區雷雨若為神山頭只作嬰兒語無限人間失箸人

高峯禪師題鶴山詩　一山高突兀百里去城闉老翠掛清曉華滋積富春江空潮勢遠雲破月痕新對此忘情者林間有幾人

中峰禪師真際亭詩　高亭結構標真際體共雲林一樣閒山勢倚天忘突兀水聲投澗自潺湲伽陀迴出言詞外海印高懸宇宙間佇看凭欄人獨醒又添公案入禪關

幻住庵歌　幻住庵中藏幻質諸幻因緣皆幻入幻衣幻食資幻命幻覺幻禪消幻識六牕含裏幻法界幻有幻空依幻立幻住主人行復坐靜看幻華生幻果放還[(冰-水+丨)*夕]控勒幻繩幻騎牛時或住人萬幻塵俱揑聚時或眠一覺寧夢居四禪有時動幻海波翻幻山聳有時靜幻化光中消幻影可中時有幻菩薩來叩幻人詢幻法我幻汝幻幻無端幻生幻死幻涅槃淨名室內龜毛拂龍女掌中泥彈丸更有一則幻公案幻証幻修須了辨莫言了辨幻云無只此無無名亦幻學人未達真幻輸動輒身心自相反幻心瞥爾生幻魔幻翳忽然遮幻眼陽燄空華乾闥城天堂地獄菩提名有問此幻從何起雲月溪山自相委要見庵中幻主人認著依前還不是

吳用先贈貝林上人詩　絕頂空山寂惟將貝葉翻梵書窮本末密呪演朝昏世法了無染禪心終不言孤雲時獨往流水護柴門

王在晉乘夜登法雲塔詩　翠屏團裏勢嶙峋薄暮登臨不待晨樹抄飛泉分雨露峰頭明炬動星辰中峯塔下鐘初動立玉亭前酒一巡歸路已迷荒草合雲房深迴漏聲頻

喬雲將天目志成呈徐明府并序夫鈆刀不與霄影爭銛駑馬不與黃騶方駕矧章縫之下士當冠劍之鉅公徐使君威鳳祥麟白眉先喆牛溲馬勃青眼後生分璧潛州已最書屏之業探奇禹穴雅意名山之藏因天目之雄峰成公餘之新志涔蹄末學謬分編檢之榮琬琰宏詞不數已渝之響[目*夕*ㄗ]抒短什奉和雄篇平生不識天目山平生不識使君顏山即君即兩爭勝使我夢寐青巖間越中千嶂縈江碧茲山獨高八千尺日暖花飛古院紅雨晴泉掃陰崖白無峰不幻作蛟螭雲月烟霞紛繪奇客度松壇皆馭鯉僧歸瑤殿總馴獅憐予三載西湖客三載何會理山屐終年鎖閣擁寒紗一杯湖水如環璧使君新記來飛鴻開槭翠巘如巃嵸依稀海蜃吐朝閣彷彿江猿唫夜風此時矯首情無已坐卷雲蘿落窻几試令兼誦使君詩龍宮網割珊瑚紫世間好事爭紜紜携杖思穿麋鹿羣囊中但寶一編在只此見山兼見君

潘之恒兩天目論曰兩天目祖黃山而表三吳如縣鑑在上故稱天目或舉江南全體黃山為首天目為目五湖為臟腑金焦為足語雖太奇亦頗足據舊志言兩山絕頂俱有池一泓如天之兩目此學究訓觧何所從來即昭明洗眼池亦出俗諺其池不盈二尺東在廻光庵西在太子庵各祠昭明具王者冕服張崔兩相翼之皆能錫福於民者標以雙清莊近似若據此為天目何鄙如之又西頂有石如青蓮開敷東西二頂累石纍纍亦狀青蓮楞嚴經謂青蓮花目亦在佛面則寧以此受名猶嫌著相安有他說可易此者也其兩頂葢石如板可謂奇蹟至傅會仙人造梁無乃河漢而淺于鵲橋乎如果上真遨遊兩峯間呼吸可通帝座無煩五丁為伐持地為平此可勿論矣

天台傳教庵

在瓶窑妙峰真覺法師閱天台教觀處師苦心台教三十餘年所註經甚多塔于天台高明寺側

新城縣

普照院

在縣東十五里晉天福七年建名普光院宋治平二年改今額歸併于此曰多福院(在縣治東半里)曰總持院(在縣北十里)曰淨嚴院(在縣西三十五里)曰明寂院(在縣西七十里)曰萬壽庵(在縣南七里)

李浙普照院詩　青山遶屋嵐光重流水衝階碧蘚滋獨坐午窻誰晤語鷓鴣聲裏竹陰移

東白院

距縣一里許在鷄鳴山昔為唐給事中昭諫羅隱公宅溪流繞前山巒環後邑人共建為東白禪院江西益王賜額院前溪水一帶向為放生池久廢萬歷間邑令王巨槐命僧海金立石刻禁仍復其舊一時士民贖生至紛紛中有大士堂福民侯王祠祠之左為昭諫公遺像鄉民歲時伏臘于此每東顧上流又有許忠烈祠耿然並峙東安彈丸區也如羅之文章許之忠烈並可昭垂不朽題詠幾遍獨東海冒愈昌撫吊凄楚堪為二公擊節今錄之云千載人傳昭諫名空山無處覓先生已知霧豹南山隱恍聽天鷄半夜鳴遶砌薜蘿堪製服近簷花柳共為情睢陽祠宇還鄰近忠義何當共一楹

凌誌題云　題山詠水遍天涯誰識東安是舊家半畝荒基山寂寂夜深風雨落梅花

許廣淵詩云　廢宅百年後荒基一畝平獨憐新檜栢誰識舊軒楹閭里清風在溪山秀色明當時苦吟夜應使鬼神驚

黑山蟠龍庵

山在平地中陡然奮起仰視奇絕逶迤而上數百步許有崖兩石峰相對徑甚狹且迅再數十武復開見平地田地塘井可數十畝四逼山崗廻遶上見青天中有龍池半畝許大旱不涸有禱輒應常有祥雲覆其上遠方望氣者徃徃登陟觀閱皆以為瑞謂小麻姑洞也有大石二一名伏虎石在洞口儼然虎踞扣之有聲每天將雨輒潤登據俯眺可閱百里山水盡環遶拜舞于下一名棋枰石在前崗寬廣平直相傳葛仙翁與客對局在此臘月山花盡開至今惟此山巔有蘭花映山紅十二月即開中有泉水一孔冬夏不涸清冽異常昔有異僧來此跏趺數月不食烟火去之時曾題壁間有俊毫

千管秀翰墨一泓香松篁間竹韵另是一乾坤之句元時燬國朝僧智果募邑人潘檑鼎建有觀音堂文昌祠怡性軒外有亭名最高處人皆稱為真佛地昔蘇文忠姚次庵遊歷有韻明邑令林劍台以棹楔題贈至鄞入高明洲粤人張兢餘西吳蔡五嶽各有題詠其上

咽水洞

距縣三十里為廣陵村平坂中一山突出皆頑石前有一小洞洞口可容十數人站立人不問洞內外寂如也惟人向洞揖曰某來此要求仙官恩澤其洞內即閧閧作聲須臾水即向洞口瀆出蝦魚亦隨水而出跳躍水中直竢伊人再揖曰水足矣洞內即劃然有聲其水與蝦魚復返洞口儻再請如前洞之出納亦如前雖百請亦百應也鄉人每歲致祭洞外田疇千畝皆賴此灌溉無旱涸之虞昔有縣令范君者曾徃觀鳴鑼放炮至洞口作禮水不時出范留宿次早復請復不出范怒毆里胥言誣夜復宿中堂寺夢數老人皓髮黃衣行止翩翩叩門請見范與之坐問曰公何人斯老人曰予秦人也避亂於此向不習漢官威儀畏聞車馬擁呼聲長官何必恚報者倘不信姑試之次早屏騶從至洞口感驗如常范乃驚異為之題記刻石而返夫桃源記人疑其幻茲洞以水為吞吐自秦至今靈應不絕無能測其從來亦奇哉惜在深山盤谷中不獲標名宇內然觀邑令一夢又以無名為貴矣

寶勝院

唐天寶間建為魚池寺宋祥符元年改今額有葛仙翁煉丹井曰乳泉其白如乳

許仲蔚詩　青雲路在天煉鼎亦徒然九轉果何物一泓空舊泉競知丹可煮不悟骨非仙汲引殊無狀翻嗤葛稚川

許廣淵詩　葛公高隱處鑿井碧山前鍊就長生藥空餘白乳泉鼎藏今去水氣吐舊成烟午夜風雷作人疑羽珮旋

寶乘寺

唐上元二年建為靈遠寺初梓州刺史羅石朔掘地得銅鑄佛像俄失所在而新城人獲之野因建寺焉今有佛嶺由此也會昌中廢大中十三年復置為聖像寺吳越王迎其像入城宋大中祥符元年改今額有脫龍洞躍龍池噓雲亭妙香堂深靜堂大唐開山祖師名休糧

白居易贈詩云　三十餘年坐對山只將無事化人間齋時徃徃聞鐘笑一食何如不食閒

司馬標遊脫龍洞詩云　雷雨何如起蟄龍蒼痕天矯石巖空不緣嗜好尋劉累定向人間試葉公

錢朝隱鐫脫龍洞詩云　九骨何年脫洞巖真龍肯向此中蟠料應夜半凌空去雷震千山風雨寒

李處全題深靜堂詩云　鼎來朱墨苦難逃兩夕山中暫釋勞野岫擁簷青巖稟廻塘足雨綠週遭繙經深院心宜靜遠跡紅塵意自高謾把新篇供寫物么麼那敢說詩豪

葉衡題妙香堂詩云　巍巍畫棟插晴空時有芳馨四面通好為高禪叅鼻觀未應公子門熏籠簾前一炷沉檀韻窻外數番蘭蕙風信道杜陵佳句在心清渾賦此堂中

寧國寺

在縣南七里青巒山晉郭文舉常隱于此夜有虎為一金釵梗喉俯地作求救狀郭探手去之虎搖尾廻拜再三次早啟扉則有一死麋乃虎所銜置門外者咸和二年人為立祠禱祈必應晉天福八年吳越王因碧沼清澈遂命額曰碧沼寺

潘閬詩　五峯高插雲居勝覽景留題趣味長碧樹葉陰山骨潤白蓮花馥水池香鶴尋巢徑松千盖僧臥溪流石一牀閒翫不知西日落馬蹄歸去帶斜陽

王圻詩　高僧居處足清虛泉遶堦庭樹遶廬鬱密青巒垂薜荔渟湛碧沼映芙蕖客來尚喜紅塵隔僧住應知與世殊猶感支郎碧雲句使人繁慮頓然除

牛仙客詩　步步穿蘿入徑幽栢高松老幾人遊花開花落非僧事自有清流對碧流

裴極詩　一沼光涵四座寒夕陽回首更凭欄憑師蚤把香蓮種他日期來結社看

杜荀鶴詩　山半一山寺野人秋日登就中偏愛日獨上最高層有果猿搖樹無齋鴿看僧僧門日多事來此復何能

方干詩　深僻孤高無四鄰白雲明月自相親海中日出山先曉世上寒輕谷未春窻逼野溪聞唳鶴林通村徑見樵人此時惟有雷居士不厭籃輿去住頻

林杜詩　幽谷泉聲冷鳥啼僧定深好花叢古砌寒瀑發高岑遊者陸鴻漸居人支道林欲辭青嶂去臨去復成吟

釋智圓詩　一到無塵境相留靜話長秋聲歸古木月色滿空廊嵐氣侵衣潤溪泉漱齒凉終期整瓶錫來此掩閒房

邵輶詩　地勝千嵓秀名高萬古存丹崖紀靈躅紺宇蔽祇園樹老垂藤影池幽浸蘚痕會心多興趣隨意坐林樊

劉大綱詩　夜色清無滓虛凉月滿亭螢飛時度竹魚躍乍翻萍冉冉雲歸[書-曰+皿]霏霏露欲零劇談渾得趣相對兩忘形

類列　福光寺(在縣北十五里)多福禪院(在縣西七十縣)安隱院(在縣西三十里)瑞相院(在縣西七十里)通靈塔(在縣北二里)多寶塔(在縣西五十里)筆峰塔(在獅子山)

於潛縣

獅子正宗禪寺

去縣北四十五里嘉德後鄉天目山有獅子巖林洞幽深松石奇怪元至元十六年建延祐七年賜額後燬洪武九年重建歸併于此曰大覺正宗禪寺(在縣北四十里)曰善法禪寺(在餘杭縣東南三里)

寂照教寺

去縣南二里豐谷鄉舊名吳興唐大中五年改今額宋隆興初邑令葉衡重建寶慶初避御名改為此君軒元末燬洪武初重建歸併于此曰明智寺(在縣西十八里)曰治平寺(在縣北十里)曰常樂寺(在縣南五十里)曰布金院(在縣東二十里)曰廣覺院(在縣東二十五里)曰三學院(在縣南十五里)曰悟真院(在縣南三十里)曰淨勝院(在縣南六十里)曰妙樂院(在縣北七里)曰廣慈院(在縣北四十里)曰褒忠院(在縣北四十里)曰崇法院(在縣西南三十里)

昌化縣

治平寺

在縣西一里舊名忻平唐大中二年建開平二年改今額元末兵燬洪武十五年重建歸併于此曰法會寺(在縣南三十里)曰大明慧照寺(在縣西八十里)曰普濟寺(在縣西七十里)曰千頃龍興寺(在縣西北六十里)曰普向院(在縣南五十里)曰百丈廣福院(在縣西二十里)曰法興院(在縣西四十里)曰鷲峰院(在縣西五十三里)

吳珩法會寺詩　地占金山勝泉分銀漢流杉篁能護翠猿鶴似驚秋祇憶登臨晚寧辭取次游列峯饒遠秀不惜上高樓

蘇子由送無畏還慧照寺詩　身老與世踈但有世外緣五年客江西歸帆謝往還依依二三老示我馬祖禪身心忽明廣不受垢汙纏偶成江東游欲別空淒然緣散眾亦去飄若風中烟華陽本荒邑緇素明星懸偶然得老[尉-小+少]舊依育王仙璉公善知識不見十九年我昔未聞道問所以

入門告我從信入授我青眼篇冉冉百尺松起自一寸根南歸髮[書-曰+皿]白尺書今始傳不知鄰邑中乃有門人賢百里走相訪觸熱汗雨翻懷中出詩卷　清絕如斷絃我適病寒熱氣力纔綿綿空齊默相向欲語不能宣未暇答佳意歸錫鏘金環空有維摩病媿無維摩言

類列　明因院(在縣東三十里)福全院(在縣東北五里)清修院(在縣南四里)澄寂院(在縣南二十八里)南塔(在縣東南青山之麓今院燬而塔猶存)



欽定四庫全書　武林梵志卷七

明　吳之鯨　撰

天朝寵錫

天覆載之中浩蕩均洽帝力何有王仁無私而綸綍所及日月光華神鬼擁護士受一命且由泥蟠倏升層霄矧車書大同之日梵教章明禮樂刑政兼收並用而非藉簡命之隆何以宣[改-己+易]休美又況歷劫兵燹滄桑幾變空王臺殿巋然獨存豪舉無所施謀駢脅莫由展力則天朝之重奕世不磨者也詳攷武林梵剎大多肇於石晉盛於吳越王父子至南宋極矣元季漸蝕入皇朝次第重建其錫賚之大者如創寶剎賜莊田賜帑金賜鏒金如來像銅迦毘羅神銅深沙神金銅羅漢像紫衣玉玦金斕袈裟水晶數珠金澡瓶費或千百計而文字翰墨之寵則藏序偈說號諡銘讚賜額賜碑以及飛白羅扇一字一畫比於赤刀天球召對禮遇之寵則命坐賜茶諏訪溫諭以及御祭賜龕為存為歿不減莊嚴七寶志中所載大畧因寺以存複舉則駢枝詳列則襞積竊亦有尠見焉吳越擅魚鹽之饒建國都於斥鹵物力充牣金碧耀射多名功德院以侈一時之盛至今著稱鼻祖斯以隆矣南宋移鼎自汴龍鳳協祥然自太宗真宗仁宗神宗咸有勅額歌頌則契嵩宗本諸公實能感之高孝以下皆緣見聞作佛事若理宗為一寵嬪製七十二殿九井十三池何異阿房宮即惟我聖祖普賜天下叢林各有額錄僧司正副督其事容光必照正明等覺始無偏無側矣成祖召有行耆宿纂脩大典預甚盛者俱蒙異數以及列宗頒賚金藏葺寺鑄像所至頂禮發諸善心皆列本寺以彰隆遇不復析紀敬錄皇上寵錫勅賜瑞蓮觀音大士像一軸上有廣運之寶及御製讚一首惟我聖母慈以格天感斯嘉兆闕產瑞蓮加大士像圖寫流傳延國福民霄壤同堅萬歷二十八年護經藏勅勅諭杭州府淨慈寺住持及僧眾人等朕發誠心印造佛大藏經典頒施在京及天下名山寺院供奉經首護勅已諭其由爾住持及僧眾人等務要虔潔供安朝夕禮誦保安[耳*少]躬康泰宮壺肅清懺已往愆尤祈無疆壽福民安國泰天下太平俾四海八方同歸仁慈善教朕成恭己無為之治道焉各宜仰體知悉欽哉故諭

萬歷十六年皇上賜上天竺寺千佛旛二掛大士像一軸

欽定四庫全書　武林梵志卷八

明　吳之鯨　撰

宰官護持

昔世尊以佛法付國王大臣而宰官居士名碩鉅工能文章著經濟者無不究心內典皈禮香林夙業往因根葉自應非特若房次律蘇子瞻之以夢以徵表表著見也武林山水既勝車轍不虛先喆翰藻為禪林雍樹者盡唐宋以來諸公什且八九列之尺幅儘堪仰止而愚嘗謂前代有其人不善其事善而必不可廢者王欽若趙師睪之放生是也然飛泳德生宸章已先之矣有其人不善其事不善而必不能廢者楊髡之鑿石為佛是也然錢武肅宋宰臣已先之矣頃西湖勝蓮社雲棲大師建放生會歷二十餘年不廢自可延之永久而寶成一片石藉有三佛二詩遂不能湮沒其光輝則鐫佛亦有補歟至若一詠一歌令人於蒼烟綠草之中尚髣髴獅猊法座則護持之功要非淺也今即本郡名賢及流寓梵宇有交游有題詠者槩其生平纍括大節并紀禪嘉以供達人寥廓之賞以證堅猛參求之效如其未備以竢來者

陶潛

字淵明一字元亮為彭澤令之官八十日即解印去賦歸去來辭及宋受禪居柴桑門前植五株柳因以五柳自號焉閒靜寡言不慕榮利好讀書不求甚解開卷有得便欣然忘食見樹木交蔭時鳥變聲亦復欣然有喜常往來廬山天目間使一門生二兒舁以行時遠公為西方之社以書招淵明淵明曰若許我飲即往許之遂造焉嘗著搜神記多載佛之靈驗有天目詩

謝靈運

玄之孫家於上虞少好學博覽羣籍文章稱江左第一仕宋為永嘉太守襲祖父封爵故世稱康樂靈運負才傲世至廬山見遠公肅然心服即寺築臺譯涅槃經三十六卷嘗撰佛讚曰惟此大覺因心則靈垢盡智照數極慧明三達非我一援羣生理黮心行道絕形聲菩薩讚曰若人仰宗發性遺慮以定養慧和理斯附爰初四等終然小住涉求至矣在外皆去緣覺聲聞讚曰厭苦情多兼物志少如彼化城權可得寶誘以涅槃救爾衰老肇元三事翻成一道北山天竺有靈運讀書臺

范元琰

字伯珪錢塘人少通經史精了佛義以忍辱為究竟法嘗出行見人盜松遽退走母問其故對曰畏其愧恥故也齊梁間累辟不就

楊衒之

為期城太守達磨至魏請師開示宗旨師說偈曰亦不覩惡而生嫌亦不觀善而勤措亦不捨智而近愚亦不拋迷而就悟達大道兮過量通佛心兮出度不與凡聖同躔超然名之曰祖衒之悲喜交并曰願久住世間化導羣有撰洛陽伽藍記五卷為梵志之祖

褚亮

字希明錢塘人博學通圖史陳後主召見賦詩江總諸詞人皆服其工後仕唐為弘文館學士嘗與暹律師書云近於華嶽創立僧宇此山蘊蓄奇秘控接烟霞法師等學洞經典譽宣真俗仰願俯從微請降迹來儀則釋遠禪居遙踪可擬王珣精舍清塵不昧

褚遂良

字登善錢塘人貞觀二十二年太宗宣玄奘法師譯經流布遂良入奏曰佛教沖玄天人莫測言本則甚深語門則難入陛下擁護五乘建立三寶當叔葉而秀質間千載而挺生陟重險以求經履危塗而訪道見珍異俗具獲真文歸國翻宣若菴摩之始脫精文奧義猶金口之新開況天慈廣遠使布九州蠢蠢黔黎俱參妙法臣等億劫難逢不勝欣幸遂良博涉文史工楷隸多流布梵宇

賈島

字閬仙范陽人初學浮屠法名無本後舉進士為長江簿然始終依禪理不廢如寒蔬修淨食夜浪動禪牀竹陰移冷月荷氣帶禪關並非火食語後李洞慕閬仙之為人鑄銅像事島嘗念賈島佛有靈隱寺詩

駱賓王

義烏人七歲能賦詩武后朝數上疏言事徐敬業討亂賓王為敬業傳檄天下斥武后臯敬業敗賓王亡去不知所之或者乃謂敬業反賓王被誅謬矣太平廣記載之甚詳按記云唐考功員外郎宋之問以事累貶黜放歸江南遊靈隱寺夜月極明長廊散步因賦詩曰鷲嶺鬱岧嶢龍宮鎖寂寥第

二聯沈吟未就有老僧點長命燈坐大禪牀應聲曰何不云樓觀滄海日門對浙江潮之問愕然訝其遒麗遂續終篇曰桂子月中落天香雲外飄捫蘿登塔遠刳木取泉遙霜薄花更發冰輕葉未彫待入天台路看予度石橋僧所贈句乃一篇之警策遲明更訪之則不復見矣寺僧有知者曰此駱賓王也之問詰之答曰當徐敬業之敗與賓王俱逃捕之不獲將帥慮失渠魁臯且不測因求類二人者函首以獻故敬業得為衡山僧年九十餘乃卒賓王亦落髮徧遊名山至靈隱以周歲卒

李白

字太白成紀人唐宗室天寶初至長安往見賀知章知章見其文歎曰子謫仙才也言於玄宗召見金鑾殿賜食上親為調羹詔供奉翰林白嘗著西方淨土贊曰向西日沒處遙瞻大悲顏目淨四海水身光紫金山勤念必往生是故稱極樂珠網珍寶樹天花散香閣圖畫了在眼願托彼道場以此功德海冥祐為津梁八十一劫臯如風掃輕霜庶觀無量壽長願王毫光有游天竺寺游淨明院詩

李泌

字長源京兆人七歲知為文玄宗召見呼為奇童使與太子為布衣交後謁肅宗於靈武入議國事出陪輿輦兩京之復泌之翼贊居多初無妻不食肉代宗強詔食肉娶妻德宗朝進禮部尚書同平章事封鄴侯聞瓚禪師居南嶽人號懶殘泌往謁之聞其經聲先悲愴而後悅豫知其為謫墮之人不久將去候之良久匍匐問道師曰碎却筆硯方可談此撥火出芋食之泌至中夜復請曰終無一言見教乎師撫其背曰領取十年宰相至是泌用事為帝言其高行詔徵之使者至石窟宣麻瓚含涕垂膺凝然端坐不以介意使回以聞德宗益歎異之泌開杭州六井利賴無窮今祠孤山

虞允文

參政李泌見靈隱道祖首座一日為眾入室既畢復有僧問曰坐死到來如何迴避祖即屹然而去圜悟亟至其所連呼祖首座遂開眼圜悟抖擻精神透關去祖點頭便行此真坐脫立亡者於是嘉嘆久之各有序銘

楊綰

每見國一禪師而歎曰此方外高士也崔趙公嘗問弟子出家得否師曰出家是大丈夫事豈將相所能為趙歎賞其言一時名公如李泌徐浩第

五琦陳少游等凡三十二人皆稱門人問道以求決擇也

劉禹錫

為靈徹撰序後人稱之曰越之徹洞冰雪

孟簡

與僧標為塵外交有杭之標摩雲霄之句

白居易

字樂天年十七登進士憲宗朝極被寵遇時事無不言為當路所忌遂擯斥不得施乃放意文酒東都所居疏沼種樹架石樓香山鑿八節灘自號醉吟先生晚年好佛特甚至經月不茹葷長慶二年知杭州問道於鳥窠禪師見師棲止巢上乃問曰師住處甚險師曰太守危險尤甚曰弟子位鎮江山何險之有師曰心火相交識性不停得非險乎居易服其言作禮而退嘗問惟寬禪師何以修心師云心本無損傷云何要修理無論垢與淨一切勿念起又問垢即不可念淨亦無念可乎師曰如人眼睛上一物不可住金屑雖珍寶在眼亦為翳樂天從此悟入又諮心要於凝禪師得八言廣為八偈八言者曰觀曰覺曰定曰慧曰明曰通曰濟曰捨其觀偈曰以心中眼觀心外相從何而有從何而喪觀之又觀則辨真妄末後捨偈曰眾苦既濟大悲亦捨苦既非真悲亦是假是故眾生實無度者年七十五贈尚書左僕射宣宗以詩弔之既卒以其所居施為佛寺武林祠孤山有慈巖院報恩寺冷泉詩

王勃

字子安龍門人六歲善文詞麟德初對策高第授朝散郎數獻策闕下兄勔勮皆第進士有才名林易簡稱為三珠樹勃嘗撰釋迦畫像記維摩畫像碑如來成道記皆精金美玉豐贍周詳武林有詩

裴度

字中立聞喜人貞元初進士累官中書侍郎督兵討平淮蔡封晉國公因閹宦煽虐退歸集賢里日與白居易劉禹錫文酒相歡不問戶外事嘗訪道於徑山道欽禪師執弟子禮求出世法臨卒謂門人曰吾死無所繫但午橋莊松雲嶺未成輞碧池繡尾魚未長漢書未終篇為可恨耳

錢鏐

杭州臨安人生有異瑞膂力絕人有保障兩浙之志唐僖宗元啟三年黃巢李克用作亂屠戮萬姓公起自草野奮挺一呼誅滅董昌吳越安堵屢建大功立為杭州刺史尋進為鎮海節度使封吳越國王所向無前存活數億萬人射潮建都武林實其奠宇歷四世五王與五代相終始及孫俶以國歸宋祖仍舊封連姻帝室子孫奕世彌茂而大江東西鹿苑寶坊翬飛雲湧以千百計皆錢氏刱建蓋享數百年山海賦稅之饒而重民輕土捨別歸總壹意慈護世代守此不變亦於佛旨有夙契云

呂蒙正

字聖功太宗時舉進士第一累官參知政事封許國公少時寄食僧房得以安意書史後執政十年郊祀俸給皆不請帝問其故對以私恩未報帝詰之以實對帝曰僧中有若人耶賜紫袍加號以旌之於是恩俸悉推之寺僧以酬夙德公嘗晨興禮佛祝曰不信三寶者願勿生我家願子孫世世食祿護持佛法從子夷簡申國公每遇元日拜家廟後即焚香發廣慧璉公書一封展禮之申公之子公著亦封申國公元日發天衣懷禪師書左丞好問元日發圓照禪師書左丞之子用中元日發佛照禪師書其家世崇信如此圓照佛照兩禪師俱居淨慈徑山音問時不絕云

楊億

字大年浦城人累官翰林學士性鯁介尚名節文格雄健學者宗之謚曰文所著文集一百九十四卷公嘗自謂少時銳於仕進常若有物礙於胸中及學釋氏法其物暴然破散無復蔽礙而心泰然武林有題詠

王旦

字子明累官工部尚書同平章事贈魏國公謚文正天禧元年九月旦薨先一日囑翰林楊億曰吾深厭勞生願來世為僧宴坐林間觀心為樂常與昭慶省常禪師游因師刺血寫華嚴經淨行品結淨行社於西湖士大夫預會者百二十人旦為之首而翰林蘇易簡作淨行品序曰余當布髮以承其足剜身以請其法猶尚不辭況陋文淺學而有惜哉

王隨

字子正河南人天聖初自潤州徙知江寧府歲大饑時轉運使移府發常平倉米計口日給隨不聽曰民饑由兼并閉糴以邀高價耳乃大出官粟私價遂平民之全活者以萬計居嘗慕裴休之為人以御史中丞出鎮錢塘往興教寺謁小壽禪師未及寺去騶從獨步登寢室壽方負暄毳衣自若忽見之問曰官人何姓公曰隨姓王即拜之壽推蒲團藉地而坐語笑終日而去門人見壽讓之曰彼王臣來奈何不為禮此一眾所係非細事也壽唯唯他日王公復至寺眾橫撞大鐘出迎而壽前趨立於松下王公望見出輿握其手曰何不如前日相見而遽為此禮數耶壽顧左右且行且言曰中丞即得奈知事瞋何公機語契合自是履踐益深竟明大法與楊大年皆號參禪有得者先是大年編次傳燈錄三十卷公去其緐為十五卷名玉英集臨終書偈曰書堂燈已滅彈指向誰說去住本尋常春風掃殘雪

趙抃

字閱道氣宇清逸人不見其喜慍自號知非子宋至和中為侍御彈劾不避貴戚號鐵面御史居嘗以一龜一鶴自隨後以龜放汴水有龜放長淮不再來之句公在杭從淨慈圓照本禪師游有省又從大名大鉢寺重元禪師問心要師曰公立朝論政崇化明倫奚暇刻意於此公曰聞別傳之旨人人本有之事豈他能而抃不能耶願究明之師乃令看狗子無佛性語及知青州隱几公堂聞雷聲豁然大省有偈曰默坐公堂虛隱几心源不動湛如水一聲霹靂頂門開喚起從前自家底公帥越適亢旱大疫久禱不應時神智昇法師住興福公請師迎觀音像入府治懸禱一夕雨如霆疫亦息公奏於朝賜師所住興福曰圓通錫號曰神智元豐初告老退居衢州常與山僧野老游名所居為高齋以詩自見曰　軒外長溪溪外山捲簾空曠水雲間高齋有問如何荅清夜安眠白晝閒　元豐間忽一日徧辭親友其子岊見其形色異常問後事公厲聲叱之少頃語如平時趺坐而化法泉禪師以偈贊曰　仕也邦為瑞歸於世作程人間金粟去天上玉樓成慧劍無纖缺冰壺徹底清春風漯水路孤月破雲明　壽七十七諡清獻游武林與雷峯慧才法師最契有贈言又贊天竺辯才法師曰師去天竺空山鬼哭天竺師歸道場光輝

歐陽修

字永叔廬陵人仁宗朝為諫官論事切直後拜參知政事矢心匡弼與韓琦策立英宗熙寧初以太子少師致仕謚文忠公始不信佛如酬淨照詩云　佛說吾不學勞師空欵關吾方仁義急君且水雲閒　後守亳社有許昌齡來遊太清宮公邀至州舍與語忽然有悟居洛中時遊嵩山却僕吏放意而徃至一寺修竹滿軒風物鮮美公休於殿陛傍有老僧閱經自若公問

誦何經曰法華公云古之高僧臨死生之際類皆談笑脫去何道致之曰定慧力耳又問今乃寂寥無有何哉老僧笑曰古人念念在定慧臨終安得散亂今人念念在散亂臨終安得定慧公大歎服後居潁州捐酒肉徹聲色灰心默坐令老兵往近寺借華嚴經讀至八卷安坐而薨嘗與法遠禪師遊一日與客對奕遠坐其旁公請因棋說法遠曰此事與兩家著棋相似贏局輸籌即不問且道黑白未分時一著落在什麼處文忠大有省寤居潁州時有婢盧媚兒姿貌端秀口中嘗作蓮花香散越滿座人莫測其由適有一僧自蜀中來頗能洞人生前事公因語之僧云此女前身嘗為尼誦法華經三十年一念之誤遂至於此公未之信後見婢問曰曾讀法華經否婢曰某失身於此所不暇也公命取是經示之一覽輒誦如素熟者易以他經則不能也公於是始信修種之言不妄知杭州與參寥子交契名所居泉為六一泉富鄭公弼字彥國湖南人慶歷中與文彥博並相天下稱為富文封鄭國公謚文忠公熙寧三年以使相鎮亳州迎至潁州華嚴禪院證悟禪師修顒諮決心法及致仕居洛陽以頌寄圓照本禪師曰曾見顒師悟入深因緣傳得老師心東南漫說江山遠目對靈光與妙音仍有書曰弼留心祖道為日已久常恨不遇明眼人開發蒙陋雖久聞盛德而無由瞻謁昨幸出守亳州社與潁州接境因里人張比部景山請得顒師下訪相聚幾一月以慈悲方便之力令有悟處會結夏逼日四月初遽且歸潁其於揩磨淘汰殊大有功但衰病相仍昏鈍難入昔古靈師所謂不期臨老得聞極則事見之於弼今日矣天幸天幸弼雖得法於顒師然本源由老和尚而來宗派甚的必須成就更望垂慈攝受遠賜接引未至令至則為南嶽下龐蘊百丈下裴休也

范仲淹

字希文皇祐元年自知鄧州移知杭州十月加尚書禮部侍郎二年吳中大饑殍殣相望仲淹發粟及募民存餉為術甚備吳中喜競渡日出宴湖上自春至夏居民空巷出游又諭諸寺主守曰饑歲工價至賤可以大興土木之役於是諸寺工作鼎興又新倉廒吏舍日役千夫監司奏劾杭州不恤荒政嬉游不節及公私興造傷耗民力公乃自條敘所以宴游及興造皆欲發有餘之財以惠貧者貿易飲食工技服力之人仰食於公私者日無慮數萬人荒政之施莫此為大是歲兩浙惟杭州宴然民不流徙梵剎多其開建有法喜寺詩

蔡襄

字君謨興化軍仙遊人治平二年以端明殿學士尚書禮部侍郎知杭州為政精明吏不能欺游淨慈楷書遊記數十字於琴臺之左壁有吉祥寺

詩海會寺記祖無擇治平四年以諫議大夫加龍圖閣學士知杭州嘗作介亭於鳳凰山

司馬光

字君實夏縣人實元初進士累官端明殿學士上疏極言青苗法不便退居洛十五年哲宗初立召拜左僕射罷青苗法人謂公元祐相業有旋乾轉坤之功卒贈太師封溫國公謚文正生平著述甚多嘗作解禪六偈謂世之談禪者好為隱語以相迷遂廣文中子之言而解之其一曰忿怒如烈火利欲如銛鋒終朝長戚戚是名阿鼻獄其二曰顏回安陋巷孟軻養浩然富貴如浮雲是名極樂國其三曰孝弟通神明忠信行蠻貊作善降百祥是名作因果其四曰言為百世師行為天下法久久不可掩是名不壞身其五曰仁人之安宅義人之正路行之誠且久是名光明藏其六曰道義修一身功德被萬物為賢為大聖是名佛菩薩因蜀公論空相以詩戲之曰不須天女散已解動禪心蜀公不納復戲之曰賤子悟已久景仁今復迷又云到岸何須筏揮鋤不用金浮雲任來往明月在天心嘗游南屏山手書隸字家人卦中庸樂記二篇鐫於石壁

王安石

字介甫神宗朝拜相封荊國公一日訪蔣山元禪師坐閒談論品藻古今師曰相公口氣逼人恐著述勞神心氣不正何不坐禪體此大事公從之一日謂師曰坐禪實不虧人予數年欲作胡笳十八拍未就忽於夜坐間得之師呵呵大笑公讀書定林嘗問元公祖師意旨元不答公益叩之元曰公於般若有障者三其近道一耳公曰願聞其說元曰公受氣剛大於世緣深以剛大器遭世緣深必以身任天下之重懷經世之志用志不純則心未平以未平之心持經世之志何時能一念萬年哉又多怒則與物多競此其三也特視名利如脫髮甘澹薄如頭陀此為近道當以教乘滋茂之可也公再拜後於首楞嚴得旨熙寧八年公復入相一日奏事退上曰佛法於中國有補乎公曰君子小人皆知畏而為善豈小補哉公居金陵由蔣山至其故宅當半道後請以宅為寺因號半山有法喜寺詩悟真院詩

蘇軾

字子瞻因宿東林與照覺論無情話有省獻偈曰溪聲便是廣長舌山色豈非清淨身夜來八萬四千偈他日如何舉似人謫居杭州嘗將公事了湖中或一棹訪密殊琴聰參寥辨才諸禪侶題詩遍武林以至外縣幽僻最深處亦無不到濬湖度僧俱救荒善策遂為萬世之利龍井梵天以公為伽

藍孤山祠并鄴侯香山與公為四今建專祠於寶成寺公每出入必攜阿彌陀佛一軸曰此吾徃西方公據也公於建中元年七月卒於毘陵時錢濟明侍傍曰公平生學佛此日如何公曰此語亦不受又徑山琳禪師問疾云學士生平踐履至此更須著力公應聲曰著力便差語絕而逝

蘇轍

字子由號穎濱又號欒城累官翰林學士門下侍郎謚文定元豐三年公以皋謫高安會黃檗全禪師於城寺熟視公曰君靜而慧苟留心宗門何患不成此道公識之因習坐數求決於全無契後忽有省聰禪師來居壽聖公以此事徃問聰不答公又叩之聰徐徐謂曰圓照未嘗以道語人吾今亦無以語子公於是得言外之旨又嘗咨心法於洪州順禪師順示以搐鼻因緣公言下大悟作偈呈曰中年聞道覺前非邂逅相逢老順師搐鼻徑參真面目掉頭不受別鉗鎚枯藤破衲公何事白酒青鹽我是誰慚愧東軒殘月上一杯甘露滑如飴嘗自號東軒長老佛印住金山子由謁見先以偈獻曰麓沙印佛佛欣受怪石供僧僧不嫌空手遠來還要否更無一物可增添印答曰空手持來放下難三賢十聖聚頭看此般供養能歆享木馬泥牛亦喜歡門人有以漁家傲祝生日及濟川者乃[廖-(彰-章)+貝]和之七十餘年真一夢朝來壽耈兒孫奉憂患已空無復痛心不動此間自有千鈞重蚤歲文章供世用中年禪味疑天縱石塔成時無一縫誰與共人間天上隨他送

陳師道

字無己號后山彭城人元祐中蘇軾孫覺傅堯俞薦於朝授徐州教授元符三年脩少林道場成曰面壁蘭若師道為記公詩文一代冠冕晚年志在西方寄智果寺參寥詩曰　平生西方願擺落區中緣惟於世外人相從可忘年　又寄孤山圓悟勤禪師詩曰　稍尋東剎論茲事賴有西方托後軌他年佛會見頭陀知是當年老居士

仲殊

名揮姓張氏安州進士後棄家為僧住吳山寶月寺蘇長公在錢塘無日不遊西湖嘗攜妓謁大通禪師大通慍形於色公乃作南歌子一首令妓歌之大通亦為解頤公曰我已今日勘破老禪矣其詞云師唱誰家曲宗風嗣阿誰借君拍板與鉗槌我也逢場作戲莫相疑溪女方偷眼山僧已皺眉莫嫌彌勒下生遲不見老婆三五少年時仲殊聞而和之曰解舞清平樂而

今說向誰紅爐片雪上鉗槌打就金毛獅子也堪疑已信身如夢何知眼共眉蟠桃因甚結花遲不向風前一笑待何時黃涪翁一見大賞

米芾

字元章吳人號海嶽外史由臨光尉累官禮部員外郎芾為文奇險不剽前人一語特妙於翰墨沉著飛翥得獻之筆意蘇子瞻自海外歸嘗與元章書云嶺外八年親友曠絕亦未嘗關念但念吾元章邁往凌雲之氣清雅絕俗之文超妙入神之字何時見之以洗我積年瘴毒即及得寶月菴賦琅然一誦云恨二十年相從知元章不盡元章答云更有知不盡處修楊許之業為帝宸碧落之遊異時相見乃知也其高自標置如此元豐初慧才律師授菩薩戒於南屏之雷峯方羯磨觀音像騰寶燄映奪日燈法真一撰證戒光記命公手書勒石寺中公於幽居洞之左巖復磨崖書琴臺二字惜碑與字今俱不存惟龍井方圓菴碑記尚在後知淮陽軍未卒前一月作親友別書盡焚其所好書畫奇物造香南棺即其中坐臥飲食書判前七日不茹葷更衣沐浴焚香清坐而已及期徧邀郡僚舉拂示眾曰眾香國中來眾香國中去擲拂合掌而逝

陳瓘

字瑩中號了翁又號華嚴居士南劍州沙縣人嘗為司諫諡忠肅公立朝骨鯁有古人風烈嘗謁靈源清禪師執聞見以求解會師曰執解何宗何曰偶諧離却心意識而參絕却聖凡路而學然後可也公乃開悟寄師偈曰書堂兀坐萬機休日暖風柔草木幽誰識二千年遠事如今只在眼睛頭其贊永明壽禪師像曰宋之興也錢氏重民輕土捨別歸總用師之勸諭也公嘗曰佛法之要不在文字而亦不離於文字不在多讀只金剛經一卷足矣此經要處只九箇字阿耨多羅三藐三菩提梵語九字華言只一覺字耳中庸誠字即此字也此經於一切有名有相有覺有見皆掃為虛妄其所建立者獨此九字其一其物是一以貫之之一非一二三四之一也是不誠無物之物非萬物散殊之物也年過五十宜當留意勿復因循與日用事百不相妨獨在心不忘耳但日讀一遍讀之千遍其旨自明早知則早得力也

史浩

鄞人也初浩與覺長老善問覺曰和尚與我孰好覺見其堂奧簾幙羅綺爛盈粉黛環列謾曰丞相富貴好老僧何敢比也既自省曰此念一差積歲蒲團工夫盡廢終當墮落泥滓一日浩坐廳上儼然見覺突入堂中使人

往寺廉之則報覺死矣茶頃浩後院弄璋浩默然知為覺也遂以覺為小名及長名之曰彌遠浩有妙行寺詩

楊傑

字次公元祐中為侍郎自號無為子嘗歷參諸名宿晚從天衣懷禪師游懷每引龐居士機語令研究深造後奉祠泰山一日聞鷄鳴覩日出如盤湧忽大悟平居以淨土自信繪丈六阿彌陀佛隨身觀念嘗曰愛不重不生娑婆念不一不生極樂凡聖一體機感相通諸佛心內眾生塵塵極樂眾生心中淨土念念彌陀若自棄己靈是誰之咎又嘗與僧談道云大凡學道之人十二時中嘗須照顧不見南泉道三十年看一頭水牯牛若犯人苗稼擿鼻拽回如今變成露地白牛倮倮地放他不肯去諸人長須着精采不可說禪道之時便有箇照帶的道理洗菜作務之時不可便無知也如鷄抱卵若是拋離起去暖氣不接不成種子如今萬境森羅六根煩動略失照顧便致喪身失命不是小事

秦觀

字少游一字太虛少豪雋強志盛氣好大而見奇元祐初以薦起累遷國史編修官坐蘇軾黨謫監青田酒稅嘗寓僧寺中有詩云市區收罷魚豚稅來與彌陀共一龕忌者執詩以劾復以謁告寫佛書為皋削秩徙郴州已徙橫州雷州藤州徽宗朝自藤州召還出遊華光寺為客道夢中長短句索水欲飲水至笑視之而卒夢中之作有飛雲當面化龍蛇夭矯轉空碧醉臥古藤陰下了不知南北則公之去來可謂逍遙無礙矣曾作五百羅漢記歷落如畫有法寶長老贊曰欲老不老八及九倒昔是西菴今為法寶又建隆和尚銘曰大因緣十八年結跏坐帶刀眠汝鼻孔未撩天呼我作無事禪其他禪語一一勝妙在武林與龍井辨才師交洽有記崇壽教寺有詩

黃庭堅

字魯直號山谷蘇子瞻見其詩文歎其獨立萬物之表舉進士為著作郎紹聖間為章惇蔡京所嫉謫涪州別駕嘗參黃龍菴晦堂語次舉孔子吾無隱乎爾請公詮釋累言俱不當意時暑退涼生秋香滿院晦堂曰聞木犀香乎曰聞晦堂曰吾無隱乎爾公欣然領解在黔時止酒絕慾讀大藏經三年嘗曰利衰毀譽稱譏苦樂此八風於四威儀中未嘗相離雖古之元聖大智有立於八風之外者乎公有發願文曰我從昔來因癡有愛飲酒食肉增長愛渴八邪見林不得解脫今者對佛發大誓願願從今日盡未來世不復飲酒願從今日盡未來世不復食肉願我以此盡未來際根塵清淨具足十

忍不由他教入一切智隨順如來於無盡眾生中現行佛事稽首如來等一痛切嘗答胡逸老書云君遂歸心於禪悅何慰如之可試看楞嚴圓覺二經反觀自己是何道理既為大丈夫須辦大丈夫事耳又與周才翁云思公窮悴守道不渝蓋古人所難也然已知求道於生死之際則世累自輕但未直下撥塵見己耳投子聰禪師海會演禪師道行高重皆可親近若從文章之士學妄言綺語只增無明種子也

李邴

字漢老濟州任城人崇寧中官翰林學士後拜參知政事謚文敏有草堂集一百卷公浮遊塵外心醉祖道有年聞大慧示眾語曰庭前栢樹子今日重新舉打破趙州關特地尋言語敢問既是打破趙州關為甚麼却特地尋言語後以書咨決曰近扣籌室伏蒙激發忽有省入顧惟根識暗鈍平生學解盡落情見一取一捨如衣壞絮行草棘中適自纏擾今一笑頓釋所疑欣幸何量又書曰比蒙誨答備悉深旨邴自驗者三一事無逆順隨緣即應不留胸中二宿習濃厚不加排遣自爾輕微三古人公案舊所茫然時復瞥地非大宗匠委曲垂慈何以致此大慧杲禪師時卓錫徑山

呂本中

字居仁宣和中為樞密院編修官兼侍講卒謚文清居仁性清約以躭禪而病癯癯不勝衣作江西傳衣詩派圖推山谷為詩祖列陳無己等二十五人為法嗣嘗致書問大慧禪要慧答書曰千疑萬疑只是一疑話頭上疑破則千疑萬疑一時破若一向問人佛語如何祖語又如何諸方老宿語又如何永劫無語時也居仁自是有省每以前路資糧為念嘗有詩云病知前路資糧少老覺平生事業非紹聖丙寅夏六月趺坐而逝考其修蘊定知稛載而去矣又嘗曰予病不能疏食惟有五味爽口之責作詩自戒君不如屈大夫夕餐但秋菊又不如顏平原米盡且食粥雖知舌本欠滋味頗覺和氣充其腹癡人涴腥羶杯盤眩紅綠四方采珍異亦未極所欲何如野僧飯菜羹下脫粟竹間新筍大如椽樹頭老耳肥如肉亦不見蟹躁擾亦不見牛觳觫石郎愛惜韭莽蘧晉侯睥睨熊蹯熟以此為重輕與君未為福與漢老俱徑山弟子

張商英

字天覺號無盡居士童兒日記萬言趙抃薦之召赴闕袖草茅憂國書以進徽宗朝拜相是夕慧星滅久旱大雨御書商霖二字賜之公初不信佛後見維摩經信手開視有云此病非地大亦不離地大倏然會心後漕江西

見兜率悅禪師相與夜話公曰比看傳燈尊宿機緣惟疑德山托鉢話悅曰若疑此話其餘即是心思意解何曾至大安樂境界公憤然就榻屢起夜將五皷不覺踢翻溺器忽大有省發即扣悅門謂悅曰已捉得賊了也悅曰賊在何處公擬議悅曰都運且寢翌日公投偈曰皷寂鐘沉托鉢回巖頭一拶語如雷果然只得三年活莫是遭他授記來悅於是焚香付囑曰等閒行處步步皆如雖居聲色寧滯有無一心靡異萬法非殊臨機不礙應物無拘翻身魔界轉覺迷途了無逆順不犯工夫未幾悅入滅公奏謚號真寂宣和四年十一月黎明公卒口占遺表命弟子書之仍作偈曰幻質朝章八十一漚生漚滅誰人識撞破虛空歸去來鐵牛入海無消息嘗留詩妙行寺

王以寧

湘潭人由太學任鼎澧帥靖康初金兵入冦以寧遣兵入援解太原圍建元中以宣撫司制置襄鄧招諭桑仲等來降以寧嘗過雪峰問道於真歇禪師曰予昔訪宏智大師師令讀起信論謫官天台時於鄰僧借得之披閱再三竊有疑焉是書為大乘人作有破蕩空一法不留之書也而末章以繫念彌陀往生淨土為言其旨何歟歇曰實際理地不受一塵萬行門中不捨一法子欲壞世間相棄有歸空然後為道耶以寧默然真歇時居皐亭崇先寺

張浚

字德遠宣公南軒之父也高宗時累官右僕射兼知樞密院事始終不主和議為秦檜所嫉所著有五經解及雜說文集孝宗朝封魏國公謚忠獻公嘗問道於圜悟勤禪師師曰巖頭云却物為上逐物為下若能於物上轉得疾一切立在下風復示以偈曰收光攝彩信天真事事圓成物物新內若有心還有物何能移步出通津公伏膺投偈曰教外單傳佛祖機本來無悟亦無迷浮雲散盡青天在日出東方夜落西公之母秦國夫人嘗問道於大慧禪師夫人疾亟曰妙喜老師此生無復見也我有私恩未報時大慧居宜春公三走介趣之兼程而至夫人已捐館矣公遂館師於光孝寺之東堂盡誠供奉以慰秦國之願云有妙行寺詩

曹勛

字松隱官太尉昭信軍節度使紹興間翠華臨幸淨慈覩虛主席勅湖州佛智道容禪師住持建五百羅漢殿公為禪師曾撰五百羅漢殿記存寺

程珌

官至內翰林學士紹興初嘗寓南屏為撰重建淨慈報恩光孝禪寺碑記至今猶存

張九成

字子韶錢塘人受學楊時之門紹興初以直言對策上及兩宮下及閹寺忠憤激烈無所顧避仕至禮部侍郎贈太師崇國公謚文忠早業進士之暇篤志釋典嘗謁靈源明禪師叩宗旨師冷看趙州庭前栢樹子話久無所入謁胡文定公咨盡心行己之道胡告以將語孟談仁義處類作一處看則要在其中公稟受其語造次不忘一夕如廁思惻隱之心仁之端也正沉默間忽聞蛙鳴不覺舉庭前栢樹子驀成頌曰春天夜月一聲蛙撞破虛空共一家正恁麼時誰會得嶺頭脚痛有玄沙公嘗奉祠得請詣徑山問格物之旨妙喜曰公只有格物而不知物格公聞之恍如夢覺題於壁曰子韶格物妙喜物格欲識一貫兩箇五百公從是參道得法自在號無垢居士嘗感歎曰凡聞徑山老人所舉因緣無不豁然四達如千門萬戶不消一踏而開公在朝與秦檜和議不合謫居南安談經自若手不停披者十數載庭石歲久雙趺隱然嘗執一紙扇過數夏破即補之皮履闕裂亦不易或問子韶此是性耶抑愛惜不肯妄用耶子韶曰汝且道我用心每日在甚處若一一自頭至足理會此形骸却費了多少工夫我不被他使且要我使他此等話頭是學道之士修行老僧方會得嘗讀子美野色更無山隔斷天光直與水相通忽歎曰子美此詩非特為天光野色凡悟道理透徹處境界皆如此于憲侍郎張九成之甥也常隨舅氏自嶺下歸淦九成令拜大慧禪師憲曰素不拜僧曰汝姑叩之憲遂舉子思中庸天命之謂性三句以問慧曰凡人不知本命元辰下落處又要牽好人入火坑如何聖賢於打頭一著不鑿破憲曰吾師能為聖賢鑿破否慧曰天命之謂性便是清淨法身率性之謂道便是圓滿報身脩道之謂教便是千百億化身憲以告舅氏曰子拜何辭

曾開

字天遊官至禮部侍郎秦檜主和議開抗疏力諍忤檜出知徽州尋褫職後復秘閣脩撰開嘗師游酢友劉安世故立朝大節凜凜遇事敢言紹聖辛未佛海遠禪師住三衢開曰如何是善知識遠曰燈籠露柱猫兒狗子遂有省呈偈曰咄這瞎驢蔟林妖孽震地一聲天機漏洩有人更問道如何拈起拂子驀口截又致書大慧曰今幸私家塵緣都畢望師委曲提警日用當如何做工夫庶幾不涉他塗徑與本地相契也大慧答書曰時時不得忘了須彌山放下著兩則語但從脚下著實做將去過者不必思量久久自有悟處

提刑吳偉明居士

久參真歇了禪師得自受用三昧為極致後訪大慧於洋嶼菴隨眾入室遂留咨參一日慧謂曰不須呈伎倆直須啐地折嚗地斷方敵得生死若秖呈伎倆有甚了期即辭去道次延平倏然契悟

張鎡

號約齋官直秘閣學士嘗聞鐘聲悟道偈曰鐘一擊耳根塞赤肉團邊去箇賊有人問我解何宗瞬若多神面門黑後捨宅建寺曰慧雲請破菴先禪師開山疏云捨林居為阿蘭若夫豈小緣請宗師據曲彔牀只因大事幾度偏參遭密菴打失鼻孔一朝拈出向冷泉將下面皮不謂馨香奚煩鄭重辭青松於北澗穿幾重出岫之雲封綠水於南湖祝萬歲如山之壽今有專祠於慧雲寺

林希逸

字肅翁福清人紹定間進士號鬳齋所著有易講春秋傳老莊列口義考工記解竹溪稿等書行於世嘗撰斷橋倫禪師塔銘曰昔富鄭公於顒華嚴范文正於古薦福張紫巖於泉大慧皆以元勳大老敬尚其人今師之得魏公又何遜哉乃為銘曰　斷橋之學不以言句傳所可傳竹溪已序師於蔡林末法砥柱我觀其初信有異趣麻矢何疑楞伽何悟無準室中不契何故所聞何聲始得汗去師今何故板鳴不住是聲何如必有落處我為此銘來者轉註

鄭清之

字德源少從樓昉學嘉泰中進士理宗潛邸教授凡四登相位端平間召用正人多清之之力累遷太傅保定軍節度使封齊國公謚忠定所著有安晚集六十卷公游淨慈寺撰雙井記有勸修淨業文謂不由禪教律而得戒定慧無踰淨土一門嘗撰妙峰善公塔銘曰西方心法難思維真淨妙明無一絲廣長舌語包須彌誰知認指為月非九年面壁老古錐傳付不在鉢與衣非佛非法非事為透地透天生光輝我識妙峰再見之語真貌古無他奇野鶴同徃雲與歸昭琴雖鼓何成虧雪肥梅瘦扃泉扉無邊春意一枯枝作死生觀真游嬉在旁知狀惟穹碑

甄龍友

字雲卿永嘉人滑稽有辨才西湖作大佛頭贊云色如黃金面如滿月盡大地人只見二橛

曾公亮

字明仲晉江人嘉祐中拜相封魯國公公亮方厚莊重沉深周密韓琦為首相每諮訪焉嘗丁母憂告歸有僧元達附舟至錢塘謁天竺大士入門見素衣女謂曰曾舍人五十七入中書上座是年亦受師號後公亮至五十七果拜相元達以曾公恩補太師初有僧曰青草堂年九十餘曾氏婦入寺設齋以衣物施之青感其意及婦生子青正坐化是知公亮前身為青草堂也太尉呂 吉甫嘗注華嚴法界觀暇日遊五臺山見一衣蒲童子披髮而來手執梵夾問太尉曰官人何求而得至此太尉曰願見大士嘗覽華嚴大教欲望如來發啟妙解庶幾牋釋流行世間童子曰諸佛妙意簡易明白如十地一品釋文不過數紙今時枝蔓注近百卷而聖意逾遠真所謂破碎大道也太尉曰童子貌若此而敢呵前輩乎童子笑曰官人謬矣此間一草一木無非文殊境界在汝日用觸事不迷此真文殊耳言已忽不見先是吉甫帥杭州大通禪師善本退居龍山吉甫入山從容論道大通嘗有語曰我不勸你出家學佛只勸你惜福修行又曰我只勸你生處放教熟熟處放教生

林逋

隱錢塘恬澹好古弗趨榮利梅聖俞為逋撰詩序曰　天聖中聞寧海西湖之上有林君嶄嶄有聲若高峯瀑泉望之可愛即之逾清挹之甘潔而不厭也嘗作詩送慈雲懺主曰　天竺孱顏暫掩扉講香浮穗上行衣白猿聲裏生公石莫遣移文怨晚歸　酬天竺僧詩曰　林表飛來色猶慙久卜隣沼回一水路夢想五天人謝絕空園草沉冥滿几塵暮雲如有待寧謝寄聲頻

貫雲石

號酸齋生而神彩秀異膂力絕人年十二三時使健兒驅三馬疾馳輒持槊騰上之越一而跨二運槊生風觀者辟易及長折節讀書仁宗朝拜翰林學士辭疾居江南賣藥錢塘市中詭姓名易冠服人無知者嘗過梁山濼見漁父織蘆花為被尚其清欲易之以紬漁父曰君欲吾被當賦一詩遂援筆云　採得蘆花不浣塵翠蓑[目*夕*卩]復藉為茵西風刮夢秋無際夜月生香雪滿身毛骨已隨天地老聲名不讓古今貧青綾莫為鴛鴦妬欵乃聲中別有春　詩成竟持被去因自號蘆花道人晚年留情釋典臨終作辭

世吟曰　洞花幽草結良緣被我瞞他四十年今日不留生死相海天秋月一般圓　江干棲雲菴其遁跡處

朱熹

字元晦婺源人少年不樂讀時文因聽一尊宿談禪直指本心遂悟昭昭靈靈一著年十八從劉屏山游屏山意其留心舉業搜之篋中惟大慧語錄一帙而已金城錄謂公之學得於道謙禪師公嘗致書問師云向蒙妙喜開示從前記持文字心識計較不得置絲毫許在胸中但以狗子話時時提撕願投一語警所不逮師答白某二十年不能到無疑之地後忽知非勇猛直前便是一刀兩段把這一念提撕狗子話頭不要商量不要穿鑿不要去知見不要強承當公於言下有省有久雨齋居誦經詩曰　端居獨無事聊披釋氏書暫息塵累牽超然與道居門掩竹林幽禽鳴山雨餘了此無為法身心同宴如　又嘗云佛家有三門曰教曰律曰禪禪家不立文字直下識心見性律戒甚嚴毫髮不容舉過教有三項曰天台教曰慈恩教曰延壽教延壽教南方無傳其學近禪天台教專理會講解慈恩教亦只是講解吾儒若見得道理透就自己身心上理會得本領便是兼得禪的講說辨訂便是兼得教的動由規矩便是兼得律的看來佛氏之學與吾儒甚相似如云有物先天地無形本寂寥能為萬象主不逐四時彫撲落非他物縱橫不是塵山河及大地全露法王身看他是甚麼樣見識今區區小儒怎生出得他手宜其為他麾下也又曰今人多言為事所奪有妨講學此是不能使船嫌溪曲耳遇富貴就富貴上做工夫遇貧賤就貧賤上做工夫語有之假使鐵輪頂上旋定慧圓明終不失世間萬事顛倒迷妄耽嗜戀著無一不是戲劇真不堪著眼也瑞巖和尚每日間常自問主人翁惺惺否又自答曰惺惺今時學者却不如此

陸游

字務觀仕至華文閣待制封渭南伯孝宗朝南臺劾其恃酒頹放因自號曰放翁常問松源嶽禪師云心傳之學可得聞乎師曰既是心傳豈從聞得公領解呈偈曰幾度驅車入帝京逢僧一例眼雙青今朝始覺禪家別說有談空要眼聽公居鏡湖時有塗毒策禪師往來寖厚策往雙徑受生餘七日跏趺而逝公哭以詩曰　岌岌龍門萬仞傾翩翩隻影又西行塵侵白拂繩牀冷露滴青松卯塔成遙想再來非四大尚應相見話三生放翁大欠修行力未免人間愴別情　銘松源崇岳禪師之塔曰語師之語峻峭嵽嵲下臨雲雨如五千仞之華山蹴天駕空駭心眩目如錢塘海門之潮虎豹股栗屋瓦震墮如漢軍之戰昆陽也

真德秀

字景元慶元中進士累官參知政事世稱西山先生謚文忠公帥湘州時潭人為立生祠深於禪學嘗謂遺教經以端心正念為首而深言持戒為智慧之本至謂制心之道如牧牛如御馬不使縱逸去嗔止妄息欲寡求然後由禪定造智慧具有漸次階級非謂一超可入如來地也又云予讀楞嚴經觀世音以聞思修為圓通第一其曰初於聞中入流亡所所入既寂動靜二相了然不生如是漸增聞所聞盡盡聞不住覺所覺空空覺極圓空所空滅生滅既滅寂滅現前若能如是圓投一根則諸根皆脫於一彈指頃徧歷三空即與諸佛無異矣又讀金剛經至四果乃廢經而歎曰須陀洹所證則觀世音所謂初於聞中入流亡所者耶入流非有法也惟不入亦塵安然常住斯入流矣至於斯陀含名一往來而實無往來阿那含名為不來而實無不來蓋往則入塵來則返本斯陀含雖能來矣而未能無往阿那含非徒不往而亦無來至阿羅漢則往來意盡無法可得然則名雖四果實一法也但歷三空有淺深之異耳與魏了翁俱有游天竺詩

郡守謝朝議

時與佛日杲禪師論道見徒侶指施鍬钁平基址運竹木聽指呼無敢怠者於是延見一二觀其能為修答書記乃與從容彌日語論英發榷古商今守甚駭異自是於佛日禪師日益加敬遣其子純粹求入道捷徑佛日示以法語八篇

宋給事中

知瀘州馮楹悟心法於大慧杲禪師號不動居士南渡後所有寺院佛藏經殘失楹印絕施補之足五千餘卷凡四十八藏又四大部者亦如之所至於賢士大夫高僧逸民續廬山蓮社遺風每月建繫念淨土會至癸酉冬十月三日具衣冠望闕再拜已換著僧三衣陞高座跏趺說偈而逝

武林守陳公襄

以承大興教二剎命宗本圓照禪師擇居蘇人擁道遮留又以淨慈堅請移文論道俗曰借師三年為此邦植福不敢久占道俗始從

州牧劉彥慕

宗徹禪師之道立羅漢院以延供養

宋丞相喬行

簡所居多黝洞奇石據湖山之勝後捨以為寺御賜名曰寶奎

岳飛

字鵬舉南宋恢復之功幾成而阻於檜至今俎豆湖上生平著作有集其滿江紅詞及潭水寒生月松風夜帶秋之句膾炙人口游上天竺與李綱俱有詩忠肝義魄激烈千古

錢象祖

字公相錢塘人寧宗時問道於保寧全禪師又參護國此菴元禪師師曰欲究此事須得心法兩忘乃可法執未忘契理亦非悟也公曰纔涉脣吻便落意思如何師曰本自無瘡勿傷之也公渙然有得自左丞相歸日修淨業保寧即湖心寺護國仁王寺在北山

潛說友

咸淳四年以朝散郎直文華閣兩浙運副除司農少卿兼知臨安府至七年罷說友在官嘗修咸淳臨安志梵剎多經考據有下天竺詩

李端愿

兒時在館舍常閱禪書長雖婚宦然篤志祖道遂於後圃築室類蘭若邀達觀雲穎禪師處之公問曰天堂地獄畢竟是有是無穎曰諸佛向無中說有眼見空花太尉就有裏尋無手摝水月堪笑眼前見牢獄不避心外聞天堂欲生太尉但了自心自然無惑公回說偈曰三十八歲懵然無知及其有知何異無知滔滔汴水隱隱隋堤師其歸矣箭浪東馳穎達為錢塘人

鄧文原

字善之巴西人為翰林待制兼國史院編修諡康莊延祐戊午嘗撰石林鞏公塔銘曰　佛氏之道非有非空非垢非淨是正法宗俗昧原本囂昏湯滴不有津筏曷拯於溺言為理筌理得言忘有泥言說大道榛荒惟石林師祇園之傑一念昭融萬法了徹本無有法為覺羣迷出方便慧作誨道師南山繚屏慧日其頂自師之亡山空雲冷師亦不亡空無生滅勒銘山阿昭示來哲

趙孟頫

字子昂宋宗室母丘夫人臨月夢一僧入寢覺而生孟頫年甫十二即好寫金剛經與僧語親若眷屬重天目中峰之道每受師書必焚香望拜公嘗提舉江浙儒學叩師心要師為說防情復性之旨後入翰林遣問金剛般若大意師答以略義一卷中峰有淨土偈一百八首公為作一百八贊手書授之有中峰淨土帖又手繪觀佛及中峰像貽淨慈寺

馮子振

攸州人號海粟於書無所不讀中峰有淨土百八偈子振贊之略云我觀幻住師於幻無所住雖不住於幻能覺如幻人手拈古佛機數與念珠等寄數逾三千其實無一字若人於此中一一總無念於無念念佛無念亦復無所生皆淨土云何更西方是人見彌陀悉得安穩住

黃溍

字晉卿義烏人自幼篤學博極羣書發為文章如澄湖不波一碧萬頃與柳貫虞集揭奚斯游人號為儒林四傑延祐初進士累官侍講學士謚文獻公於佛典橫襟考究天歷初詔天下善書僧儒會杭淨慈寺泥金書大藏尊經公亦在詔內而公必與僧同餐若別為治具則不樂甚至掣肘詬罵不食而去嘗為僧題懸崖畫壁蘭云婀娜春風一樣吹託身高處擬何為從渠自作顛倒想要見懸崖撒手時公為元叟端公笑隱訢公悅堂閻公撰諸塔銘膾炙人口有稿三十卷行於世

虞集

字伯生宋丞相允文五世孫其先蜀人父汲宋黃崗尉宋亡僑居臨川之崇仁大德初始至京師以大臣薦授大都儒學教授除國子監助教自將仕郎十二轉為通奉大夫封仁壽郡公謚文靖嘗闢石室書邵堯夫詩題曰邵菴故世稱邵菴先生接方外士必扣擊其說以為聖人之教不明為學者無所底止苟於吾道異端疑似之間不能深知而欲竊究夫性命之原死生之故其不折而歸之者否矣嘗曰佛以因果二法制服得天下人心無智愚賢不肖總出不得這兩箇字嘗為淨慈北磵簡東嶼海晦機熙撰塔銘平山林撰重脩寺記及題詠若干首其晦機銘畧曰聞佛氏之宗禪者其度人也以悟為則必使自致於思慮之所不及時至機應則決而啟之是以言發意解解泯言忘謂之不立文字豈欺我哉

白珽

字廷玉錢塘人博綜經史詩文一主於理業易方回劉辰翁稱其詩逼陶韋書逼顏柳仕至儒學副提舉所著有湛源集行於世南屏諸剎俱有詩

仇遠

字仁近錢塘人元初為溧陽州儒學教授工詩文一時遊其門者若張羽張翥莫維賢皆有名當時所著有山村集遍題諸剎批註唐百家諸選洪武初祠於杭學鄉賢祠

鄭所南

一名思肖連江人以太學上舍應博學宏辭科元兵南下嘗叩闕上書元人爭目之遂變姓名隱居吳下坐必南向歲時伏[膜-大+(句-口+匕)]輒望南野哭再拜乃返誓不與朝客交遊趙孟頫才名重當世所南惡其宗室而受元聘遂與之絕與中峰禪師善一日會於孝子梅應發家兩人相對無語中峰云所南何不說法思肖曰兩眼對兩眼無法可說棄所居弗居寓城南萬壽覺報二寺有田盡捨諸剎疾亟時囑其友唐東嶼曰思肖死矣煩為書一牌位云大宋不忠不孝鄭思肖蓋恨不能死國事也自贊像曰不忠可誅不孝可斬可懸此頭於洪洪荒荒之表以為不忠不孝之牓樣宋社既墟適意緇黃自稱山外野人嘗著大無上十空經一卷釋氏施食心法一卷太極祭煉一卷謬餘集一卷文集一卷自敘一百二十圖詩一卷

張翥

字仲舉號蛻菴官翰林學士有徑山二十三題詩今錄其二初生巖曰初地靈峯下重來為講經神應合掌受石亦點頭聽雲鶴隨飛蓋湖龍入淨瓶至今花雨處長照一燈青大慧塔曰大慧談經地林園即給孤鑿雲藏舍利鞭石起浮圖風鐸時喧寂天燈忽有無沙門每來此三繞作南謨有六和塔詩

趙孟頫

字雲翰祥符縣人生有異質襁褓時遭元李兵亂母抱匿林莽間有虎突然至母懼棄於地虎熟視而去不敢近稍長游郡校勵志讀書當暑夜寢黌舍羣狐採蔬葉作扇為孟拂暑其曹相歡呼云趙尚書苦熱吾輩莫得憚勞孟聞之私喜後至禮部尚書洪武壬申淨慈燬於回祿且以監寺智盛負

國稅并擅披剃坐法逮及住持道聯聯以例謫五臺公與聯有道交之親公時在任遂以聯名奏聞上命驛詔至京慰勞顧問至再奏對稱旨勅住大佑國云

周密

字公謹寶祐間為義烏令入元不仕自號泗水潛夫詩極典雅善畫得意輒自題其上曾過南屏小蓬萊詩有園林幾換東風主留得亭前御愛松之句所著有齊東野語癸辛雜志武林舊事諸書行世

楊維楨

字廉夫諸暨人泰定間為赤城令棄官將妻子遊天目山與江上老漁相狎時時唱清江欸乃迴波引和之嘗對客云笛有若山古芙海可吸蛟龍可呼非鈞天大人不發也明興天下大定詔徵遺逸之士修纂禮樂廉夫被召至京師肺疾作而卒自號鐵笛道人與南屏僧釋臻釋現釋信為方外友

劉基

字伯溫浙之青田人以佐命元勳封誠意伯當元季以江浙儒學副提舉罷歸與魯道原游西湖有異雲起西北光映湖水道原皆以為慶雲賦詩基益持杯滿引不顧曰此王氣應在金陵十年後王者起佐之者其我乎眾咋舌避去高皇帝既都金陵走使聘基基慨然謂所親曰吾嚮游西湖指且云云者此公也開國翊運果符所言游上天竺有詩云　憶昔西湖覩慶雲玉毫貫頂動星文燭微早已徵休瑞革命方知佐聖君香火重參龍象窟烟霞久負鹿麋羣赤松黃石今安在徙倚蓮臺悵夕曛

宋濂

字景濂金華人為國初佐命功臣未出母胎母夢異僧手寫華嚴來謂母曰吾乃永明延壽願假一室以終此卷母夢覺已學士即生因名曰壽後更名濂六歲日記二千餘言九歲能詩入青蘿山盡閱鄭氏所著書數萬卷其文章如武庫一開千珍萬寶光采爛然有集八十三卷始見太祖即勸不嗜殺人授太子諸王春秋尚書大學衍義每對太祖語漢武梁武好仙好佛之失太祖稱之為賢為君子為純臣天下既定凡郊廟山川祠祀諸大政大令皆所裁定海外諸國朝貢必問安否為人篤倫理行事俯仰無媿真昭代之真儒也後得法於千巖長公其寓南屏最久公自構有羅山石室嘗為智

覺禪師手題像贊及為無旨授竹菴渭逆以順德隱仁公輩撰塔銘復為同菴簡公撰鐘銘其護教編記則宗鏡之末光也

高啟

字季迪長洲人洪武初徵聘官戶部侍郎至翰林國史院編脩嘗泛西湖舟中有望南屏山詩

張羽

字來儀潯陽人洪武初徵聘官校理與南屏竹菴渭禪師善其有寄渭詩云何年慧遠重開社來聽東林寺裏鐘其時復有徐賁字幼文吳郡人洪武初同徵聘為記室亦與渭公為方外友其集自有寄竹菴詩

姚廣孝

自號逃虛老人吳郡湘城人家世業醫父名震[夕*即]廣孝初名天禧幼白父曰某不樂為醫但願積學以仕王朝顯父母不則從佛為方外之樂耳年十四遂出家妙智菴名道衍遊學湖海刻意詩文追古作者後以成祖靖難賓於幕下有功於國官至太子少師賜玉封榮國公文皇勸之蓄髮不從詔之居官不就[田/廾]之章服弗御也賜之宮娥弗近也衲衣僧帽往來蕭寺無改其初噫公之翛然物外塵埃軒冕而電露富貴非受記於靈山者能髣髴其萬一哉洪永間公嘗隱南屏天竺與清遠祖芳存翁同菴希古止菴太朴諸老為同參之友俱有題詠碑記

張寧

字靖之號芳洲海寧人景泰天順間為給事中嘗至淨慈詩有為愛湖南第一山尋春遠自六橋灣之句後奉使朝鮮國朝鮮之人雅重之集所著刻為皇華錄行世

聶大年

號東軒臨川人舉明經為仁和縣學訓導陞教諭襟懷坦率有清才人章流麗詩復俊逸而灑翰得李北海遺意誘育士子務盡恩義薦入居翰林修遼金宋三史卒嘗游淨慈有雷峰夕照南屏晚鐘二詩

陳基

字敬初臨海人受學黃溍官授經筵檢討尋轉浙江行中書省郎中參左鎮將洪武初與淨慈煜上人善煜每從基游基極稱許之一日參方邂逅於吳門與之語終日臨別依依似不忍去

徐一夔

字大章天台人洪武六年以儒士薦授浙江杭州府學教授博雅通經教法嚴整為文有法度士林服之召入纂脩元史賜蟒龍復任尋為省臣在任凡九年所著有始豐稿湖上勒石之丈多其手筆若本寺止菴德祥同菴夷簡與之最善嘗為平山禪師撰塔銘并同菴新鐘之偈序

于謙

字廷益號節菴杭州人累官兵部尚書土木之難宗社幾危復安實其規畫為石亨徐有貞所讚賜死謚忠肅祠南山三台峯下有謁古春蘭法師塔并序古春法師先君方外友也昔予彌月時師赴湯餅之會常摩予之頂曰此兒他日救時宰相也已而齠齔知學先君數以師言警予及登第拜官日恐負師之知言以貽鰥曠之羞茲罹內艱家居改葬先柩于三台山下而師與先君不可復作矣感時追舊祇具蔬盤茗盌展拜墓下爰賦一律以識予之耿耿云維那正法眼冰鑑獨先知摩頂昔憐我銘心更憶師救時慚宰相被謗懼磷緇拜奠香臺下臨風雪涕洩

錢溥

字原博華亭人翰林學士至吏部尚書謚文通天順壬午遊淨慈寺寺中有閣憑虛而出可瞰全湖公題詩倡腰嬌二韻和者百餘皆未穩貼嘉靖間僧法聚號玉芝海鹽人和云大堤迴接鳳山遙金勒東風細馬嬌芳草不知埋帝舄柳枝猶自學宮腰天空水月三千頃春老鶯花十二橋聞說樓船醉年少平章獨免紫宸朝蓋西湖水面凡三千八百畝而裏外六橋於湖上最切所云年少平章蓋指賈似道云

王守仁

字伯安號陽明山人餘姚人官至兵部尚書贈新建伯公自鄉舉時讀書南屏後擒宸濠忽傳王師已及徐淮遂乘夜遄發至錢塘謝病寓居湖南淨慈寺成詩六首存寺南山有陽明洞以公號名嘗建天真精舍於龍山之陽每形於歌咏即今勳賢祠上天竺有二詩云　靈鷲高林暑氣清竺天石壁雨痕晴客來湖上逢雲起僧住峰頭話月明世路久知難直道此身那得

尚虛名移家早定孤山計種果支茅知易成　又云　春園花竹始菲菲又是高秋落木稀天迥樓臺含氣象月明星斗避光輝閒來心地如空水靜後天機見隱微深院寂寥羣動息獨憐烏鵲遶枝飛　其恬澹之定養剛大之純操亦足髣髴想見矣

孫一元

字太初秦人也善詩有逸才意能超脫望之如神仙中人徃來杭湖間而居南山淨慈寺最久有詩云道人占斷南屏景是也閒說時事率鑿鑿副名寔用世之士樂與之交費文憲宏為相日訪一元於南屏一元臥不起久之出見曰海上碧雲起直接天台赤城大奇大奇絕不交一言文憲益重之後居吳興建業劉麟龍霓咸徙居湖與吳充陸崑 暨一元結社遊號苕溪五隱田汝成字叔禾性穎敏博學強記流覽百家言覃心作述為文沉浸穠郁有東漢齊梁風尤善為記事書纚纚多雅致兩為督學使者盛有文譽在閩中時尤得士心至今尸祝之嘉靖初同黃省曾五岳理棹尋返南山下淨慈寺循宗鏡堂左登絕頂披險探奇各賦五言古風二首其所著有田叔禾集西湖遊覽志行世杭士自弘德來揚聲藝苑者汝成為最



總校官庶吉士(臣)朱鈐
校對官中書(臣)吳甸華
膳錄監生(臣)張曾秀
詳校官太僕寺少卿(臣)李廷欽
編修(臣)程嘉謨覆勘

欽定四庫全書　武林梵志卷九

明　吳之鯨　撰

古德機緣

自初祖折蘆五宗紹葉摩竭祇樹聖以地靈南嶽凡山地因人顯故塵外摩尼論中師子照映今昔武林為尊宿奧區金枝玉毫駕慈航於法海者不能殫記略舉所傳以光梵乘總之問等須提請同迦葉學山仰峻挹海知深遺風在握其有興乎

靈隱寺

慧理法師

西竺人東晉咸和初來武林見山巖秀麗建兩剎先靈鷲後以人眾不能容復建靈隱實二剎開始祖師初登山歎曰此吾天竺靈鷲之一不知何年飛來洞中舊有白猿呼之隨應人始信焉至今猶稱飛來峰云

實達禪師

不知何許人晦迹武林山住剎利院因名剎利禪師院中有印沙牀照佛鑑乃其遺跡往者浙江驚濤為害激射湖上諸山師憫之持誦秘咒累日一夜江濤中有玄冠朱衣偉人謂師曰弟子吳行人也憤心未雪師慈心為物敬聞命矣自是潮擊西興浙之東岸沙漲數里後罔知所終

守直律師

字堅道錢塘人姓范齊信安太守瑝之八葉孫詣蘇州支硎圓公受具足律儀是夜眼中光現長一丈餘持久方滅蓋為戒之驗也立願誦華嚴經還於中宵夢神人施珠一顆及覺尚炯炯然如在握開元間有制舉請證明隸大林寺後移籍武林靈隱峰大歷五年三月告眾曰夫至人乘如而來乘如而去示其心然也而愚夫欲以長繩繫白日安可得乎乃寂徒清晝著塔銘

道標侍者

姓秦富春人七歲時有僧摩其頂曰此子目秀如青蓮得非我釋氏之威鳳乎遂出家事靈隱白雲峰海公至德二年奉詔通經為比丘標中首選得度勅住天竺與清晝靈澈齊名李吉甫韋皋孟簡皆心交塵外分契林中長慶三年入寂

皎然侍者

名清晝姓謝長城人康樂十世孫幼負異才受戒於靈隱戒壇事守直律師文章儁麗品藻神雋當時號為釋門偉器後博訪名山晚入杼峰獨處絕去詩詠孤松片雲禪坐相對永貞初年終

鑑空法師

姓齊名佐吳郡人少貧困元和初遊錢塘年四十五矣屬歲荒求餐於天竺寺至孤山餒甚不前因臥雪悲吟俄有梵僧顧之笑曰秀才法師旅遊滋味足未空不省僧曰子不憶講法華經于同德寺乎子應為饑火所燒遂探囊出一棗大如拳許曰食之乃知空食棗頃刻乃悟同德寺事如昨日焉因涕泣歷問當時雲水五人惟公得解脫獨某脩福不完坐於饑凍僧曰由師子座上廣說異端使學空之人心生疑惑戒珠曾缺羶氣微存聲渾響清終不可致質傴影曲報應宜然乃探囊取一鑑曰要知貴賤修短佛法興替宜一鑑焉空照久之了然默記遂投靈隱出家受具足戒後行高節苦太和元年遇河東柳埕說其由又曰我生世七十有七尚九年在世吾捨世之日佛法其哀乎乃索筆題數行于經藏北垣曰興一沙哀恒河沙兔而置犬而拏牛虎相交與角牙寶檀終不滅其華後周遊名山未卜所終

道齊尊師

姓趙錢塘人幼入庠序經籍淹通偶見僧分衛諷淨名經冥然喜之往定水從師剃染投靈隱學華嚴經義於天竺寺脩習禪定靈隱山有石窟齊于中坐忽巨蟒矯首唅呀為吞噬之狀怡然不動復有虎豹近于石室羣虎時時馴擾又山頂乏水以錫杖刺地清泉迸流足供其用貞元二十一年四方學者請講華嚴經時嚴冬飛雪忽生花二本狀若芙蕖熠爚光發觀者嗟歎後終于山室

韜光禪師

西蜀人穆宗時卓錫靈隱巢居塢白樂天嘗以詩招之曰　白屋炊香飯葷羶不到家濾泉澄葛粉洗手摘藤花青芥除黃葉紅薑帶紫芽　命師

來伴食齊罷一甌茶師不赴荅詩曰　山僧野性好林泉每向巖阿枕石眠不解栽松陪玉勒惟能引水種金蓮白雲乍可來青嶂明月難教下碧天城市不堪飛錫去恐妨鶯囀翠樓前

智一尊師

居靈隱山半峰精守戒範而善長嘯牽曳其聲杳入雲際如吹笳葉若揭遊[糸*系]徐舉徐揚載嗚載咽颼颼凄切聽者悲涼謂之哀松梵澗邊養一白猿有時不還一乃吮吻張喉林木震響則猿至矣時人謂之白猿梵稱為猿父其後澗邊羣狙聚焉每眾僧齊訖斂生飯送猿臺令山童呼三二聲則羣猿競至有好事者往往從而施之故今有飯猿臺洎唐武宗廢教寺廢不詳所終

靈隱清聳禪師

福清人初參淨慧一日淨慧指雨謂師曰滴滴落上座眼裏師初不喻旨後因閱華嚴經感悟承淨慧印可迴止明州四明山卓菴節度使錢億執師禮事之忠懿王命于臨安兩處開法後居靈隱上寺署了悟禪師師上堂示眾曰十方諸佛常住汝前還見麼若言見將心見將眼見所以道一切法不生一切法不滅若能如是解諸佛常現前

契嵩禪師

藤州鐔津李氏子得法於洞山曉聰夜則頂戴觀世音像誦其號必滿十萬以為常自是世間經書不學而能作原教論十餘萬言明儒釋之道一貫以抗排佛之說讀之者畏服後居靈隱山永安蘭若著禪門定祖圖傳法正宗記輔教編上進宋仁宗覽之嘉歎行傳法院編次入藏下詔褒寵賜號明教大師宰相韓琦大參歐陽修皆延見而尊禮之還山至熙寧五年六月四日晨興寫偈曰　後夜月初明吾今喜獨行不學太梅老貪聞鼷鼠聲至中夜而化有文集二十卷題曰鐔津集塔永安院

普慈禪師

名幻旻宋慶歷八年住靈隱寺僧問蚌含未剖時如何師曰光從何來問臨濟入門便喝德山入門便棒此意如何師曰天晴不肯去一日師見僧看經乃示頌曰　看經不識經徒勞損眼睛欲得不損眼分明識取經

德章禪師

初住汴大相國寺慶歷中仁宗累詔師於延春閣化城殿問法寵遇師進心珠歌曰心如意心如意任運隨緣不相離但知莫向外邊求外邊求終不是枉用工夫隱真理識心珠光耀日秘藏深密無形質拈來掌上眾人驚二乘精進爭能測碧眼胡須指出臨機妙用何曾失尋常切忌與人看大地山河動岌岌

蘊聰禪師

住靈隱僧問如何是和尚家風師曰索喚即有僧云未審有箇甚麼師曰天台楖[木*栗]子問古路重脩時如何師云平高就下

文勝禪師

字慈濟婺州劉氏子住靈隱寺僧問古鑑未磨時如何師曰古鑑曰磨後如何師曰古鑑曰未審分不分曰更照看問如何是和尚家風師曰莫訝荒疎曰忽遇客來作麼生師曰喫茶去嗣法弟子二十五人

雲知禪師

名慈覺僧問一佛出世各坐一華和尚出世有何祥瑞師曰白雲橫谷口曰光前絕後去也

正童禪師

字圓明住靈隱僧問如何是道師曰夜行莫踏白曰如何是道中人師曰黃張三黑李四

延珊禪師

字慧明住持靈隱僧問如何是道師曰道遠乎哉問如何是正真一路師曰絲髮不通曰恁麼則依而行之師曰莫亂走上堂云與上座一線道且作麼生持論佛法若也水泄不通便教上座無安身立命處當此之時祖佛出頭來也有二十棒分恁麼道山僧還有過也無不見世尊初生下周行七步目顧四方一手指天一手指地云天上天下唯吾獨尊雲門云我當初若見一棒打殺與狗子喫却何以如此貴圖天下太平且道雲門恁麼說話有佛法道理也無雖然如此雲門秖具一隻眼久立珍重天聖三年章懿太后賜庄田令祝延仁宗聖壽至天聖八年師奏免所賜庄田糧稅有勅存寺至今賴之賜號禪定大師

重顯禪師

字隱之遂寧人姓李參北塔祚公盡其道法將造錢唐值曾學士于淮南以書薦于珊禪師顯至靈隱浮沉眾中三載曾奉使歸訪師靈隱無識之者于淨頭寮舍物色得之曾詢薦書內之衣中珊奇之後住雪竇宗風大振有偈曰　三分光陰二早過靈臺一點不銷磨貪生逐日滔滔去喚不回頭爭奈何皇祐四年七月七日示寂塔雪竇

慧淳禪師

名圓智住靈隱上堂云吾心似秋月碧潭清皎潔乃喝云寒山子話墮了也諸禪德皎潔無塵豈中秋之月可比虛明絕代非照世之珠可倫獨露乾坤光吞萬象普天匝地耀古騰今且道是箇甚麼良久曰此夜一輪滿清光何處無

寂室禪師

名慧光錢唐夏侯氏住靈隱僧問飛來山色示清淨法身合澗溪聲演廣長舌相正當恁麼時如何是雲門一曲師曰芭蕉葉上三更雨曰一句全提超佛祖滿筵朱紫盡知音師曰逢人不得錯舉上堂不用求真何須思見倒騎牛兮入佛殿羌笛一聲天地空不知誰識瞿曇面

瞎堂禪師

名慧遠姓彭眉山金流鎮人參圓悟法師悟舉龐居士問馬祖不與萬法為侶者是甚麼人馬云待汝一口吸盡西江水即向汝道師聞舉豁然大悟仆於眾中良久曰吾夢覺矣自此機鋒峻利眾目為鐵舌遠安定郡王趙表之侍郎曾開知府葛剡皆受其法勅住靈隱賜號佛海開堂中使降香師拈香曰此一炷香一鶴不棲雙木一客不煩兩家為直嗣圓悟而云也孝宗留心空宗屢召師對御師以頌紀之曰　鉢盂走馬向天庭漫踏天街馬不驚回首飛來峰上望白雲包盡帝都春　嘗指面前花為佛草料又示僧一大藏教皆是惡口乾道七年正月旨令靈隱長老引見晦日召至選德殿三月七日復有旨令靈隱徑山長老同入選德殿引見賜座八年正月二十八日車駕幸靈隱師于冷泉亭起居駕進至遇安堂一笑軒至交蘆室見師畫像上曰此是畫的那個是真的師乂手曰春氣和暖恭惟聖躬萬福上大笑翌日恩錫直指堂印并御書聖贊匾額是年八月六日獨召入內觀堂延坐賜茶上曰前日睡中忽聞鐘聲遂覺未知夢與覺是如何師對曰陛下問夢中底覺來底若問覺來底而今正是寐語若問夢中夢覺無殊教誰分別夢

即是幻知幻即離離幻即覺覺心不動所以道若能轉物即同如來上曰夢幻既非且鐘聲從甚處起師曰從陛下問處起上復問前日在此閣靜坐忽然思得不與萬法為侶朕從這裡有箇見處師曰陛下作麼生會上曰明鏡絕纖塵師奏曰一口吸盡西江水又如何上曰亦未嘗欠缺九年四月八日又宣入內觀堂問對師預示淳熙三年正月十五日遷化至期諸王卿相皆至師陞坐祝聖遂入方丈扃閉久之師舊蓄一猿頗馴因衣之命曰猿行至是眾窺窻隙並無聲欬惟見猿持卷侍側亟入師已化矣猿書乃辭世偈也偈曰　拗折秤鎚掀翻露布突出機先鵂飛不度留十日顏色不變有御語集奏對錄行世

覺阿侍者

日本國人滕氏通天台教善書與法弟金慶奮然航海而來參遠法師于靈隱後至長蘆江岸聞鼓聲大悟返靈隱述投機五偈曰　航海來探教外傳要離知見脫蹄筌諸方參遍草鞋破水在澄潭月在天　掃盡葛藤與知見信手拈來全體現腦後圓光徹太虛千機萬機一時轉妙處如何說向人倒地便起自分明驀然踏着故田地倒裹幞頭孤路行求真滅妄元非妙即妄明真都是錯堪笑靈山老古錐當塲拋下破木杓豎拳下喝少賣弄說是說非入水泥截斷千差休指注一聲歸笛囉囉哩遠稱善後歸國

德光禪師

臨江彭氏子淳祐四年詔住台州光孝寺師渡江而來上問古有浮笠而渡者可謂神通乎曰宗門不貴神通只貴眼正上悅勅住靈隱上問朕心與佛心是同是別光曰直下無第二人上曰恁麼則佛即是心心即是佛光曰離一切性即心離一切相即佛上又問釋迦老子雪山六年所成何事光曰將謂陛下忘却皇情帝大悅賜號佛照嘉泰三年入寂有奏對錄行世

誰庵禪師

名了演福州人住靈隱上堂云面門拶破天地懸殊打透牢關白雲萬里饒伊兩頭坐斷別有轉身三生六十劫也未夢見在喝下座

懶庵禪師

名道樞四安人姓徐興隆初詔住靈隱上召至內殿問禪道之要師荅以此事在陛下堂堂日用應機處本無知見起滅之棼聖凡迷悟之別第護正念則與道相應應情却物則業不能繫盡去沉掉之病自忘問荅之意矧

今補處見在佛般若光明中何事不成見耶上為首肯數四後退居永安蘭若逍遙自適有偈題壁曰　雪裏梅花春信息池中月色夜精神年來可是無佳趣莫把家風舉似人

最庵禪師

名道印漢州人住持靈隱上堂云大雄山下虎南山鱉鼻蛇等閑撞着抱賞歸家若也不惜好手便與拔出重牙有麼有麼上堂云五五二十五擊破虛空鼓大地不容針十方無寸土春生夏長復云何甜者甜兮苦者苦中秋上堂舉馬大師與西堂百丈南泉翫月公案師曰馬大師垂絲千尺意在深潭西(闕)　鬣百丈擺尾雖則衝波激浪未免上他鉤線南泉(闕)　躍過禹門誰知依前落在巨網即今莫有絕羅籠(闕)　　底麼也好出來露箇消息貴知華藏門下不致寂寥其或未然此夜一輪滿清光何處無

悅堂禪師

名閬南康人周氏子至杭見淨慈栢山介石室中舉栢子話師擬議石抗聲云何不道黃鶴樓前鸚鵡洲師於言下頓悟元貞初奉詔赴闕入對稱旨賜璽書號通慧禪師并金襴法衣大德九年陞住靈隱常勘一僧云微塵諸佛在你舌上三藏聖教在你脚底何不瞥他僧罔措師便喝又勘一僧云釋迦彌勒是他奴他是阿誰僧擬對師便打居四載訣眾偈云　緣會而來緣散而去撞倒須彌虛空獨露

竹田禪師

號圓通靈隱僧常住金陵及鍾山諸處說法元至順三年迎歸住持本寺金陵諸山送師疏曰在宋仁廟驀起衲公于圓通厥後孝宗特召拙菴于靈隱雖出處各欲行志而抑揚皆足扶宗及觀我師度越前古聲飛丹陛天竺莫抗其高風名躍金甌鷲嶺有行于今日某語空眾妙機透重玄宗姓俱高與臨濟同出邢氏師資宿契喚雪峰萬福曾郎詔行江西三十年增高廬阜幾千仞道闢于奧與日月而爭光宗會其元猶河漢之無極方喜金陵之會遽為錢唐之歸與其領徒勘驗諸方曷若據室大弘法施南山之南北山之北纘承祖父兄箕裘一乘非一三乘非三掃空經律論露布如佛出世大眾霑恩

妙峰善禪師

劉氏子世居彭城後徙吳興年十三即辭家祝髮受業德清齊政院其師教以經論一覽輒了大意乃徧參諸大老時佛照唱道鄮山師往參禮以風幡話悟旨蒙印可贈以偈曰　今日與君通一線斬釘截鐵起吾宗自是辯慧泉湧然不以此自足入匡　廬妙高峰下面壁坐十年身隱而名彌彰學者尊之曰妙峰禪師出世于台之慧因鴻福萬年諸剎退皋亭劉寺者又十餘年大略如在妙峰時其徒推迫不已復領明之瑞巖蘇之萬壽常之華藏晚至靈隱亦非所樂靈隱密邇于關輪蹄湊集師掩戶若不聞一無所將迎公卿貴人或見之寒溫而已會天童虛席時鄭清之秉鈞軸謂非師莫宜居因勉師行師荅曰老僧年踰耄矣尚夜行不休乎鄭公高之僧問如何是不入眾流句師曰烏龜鑽破壁僧問如何是舉體無私句師曰百疋馬中一頭驢僧云如何是瞬目揚眉句師曰花雨巖前石點頭僧云如何是奇特事師云紫薇花下紫薇郎僧云學人不會師云三十年後上堂以拂子擊禪床左邊云這裏是鑊湯爐炭擊右邊云這裏是劍樹刀山前面是觀音勢至後面是文殊普賢中間一著還知落處麼又擊云毘婆尸佛早留心直至如今不得妙上堂云久參高座眼空四海鼻孔撩天見也見得親說也說得親行也行得親用也用得親只是未識老僧拄杖子在何所故將成九仞之山不進一簣之土上堂云談玄說妙事如麻添得時人眼裏花赤骨律窮挨得入潑浪潑賴是生涯懸羊頭賣狗肉喫私酒臥官街笑倒籬根破草鞋上堂舉雲門普說搬柴次乃拋下柴瓣云一大藏教只說者箇師拈云雲門只見鑽頭利不見鑿頭方師善誘其徒未嘗厲聲色然一經指授輒心融神化充然皆有得將示寂澡身趺坐書偈云　來也如是去也如是來去一如清風萬里遂逝

石皷希夷禪師

上堂舉瑯琊覺禪師因法華舉和尚相見話頌曰　聞名不如見面見面不如聞名此地無金二兩俗人沽酒三升　上堂舉南泉和尚云文殊普賢昨夜三更每人與二十棒赶出院也趙州曰和尚棒教誰喫南泉曰且道王老師過在什麼處趙州禮拜而出師頌曰　春風吹落碧桃花一片流經十萬家誰在畫樓沽酒處相邀來喫趙州茶　和梁山遠禪師十牛圖頌句法與梁山相埒理趣超卓反有過焉一尋牛云只管區區向外尋不知脚底已泥深幾回芳草斜陽裏一曲新豐空自吟二見跡云枯木岩前差路多草窠裏輥覺非麼脚跟若也隨他去未免當頭蹉過他三見牛云識得形容認得聲戴嵩從此妙丹青徹頭徹尾渾相似子細看來未十成四得牛云牢把繩頭莫放渠幾多毛病未曾除徐徐驀鼻牽將去且要回頭識舊居五牧牛云甘分山林寄此身有時亦踏馬蹄塵不曾犯着人苗稼來徃空勞背上人六騎牛還家云指點前坡即是家旋吹桐角出煙霞忽然變作還鄉曲未必知音似伯牙七忘牛存人云闌內無牛趁出山煙蓑雨笠亦空閒行歌行樂

無拘繫贏得一身天地間八人牛俱忘云慚愧眾生界已空箇中消息若為通後無來者前無去未審憑誰繼此宗九返本還源云靈機不墮有無功見色聞聲不用聾昨夜金烏飛入海曉來依舊一輪紅十入鄮垂手云這漢親從異類來分明馬頷與驢腮一揮鐵棒如風疾萬戶千門盡豁開

鐵牛印禪師

上堂舉南泉示眾云王老師自小養一頭水牯牛擬向溪東放不免食他國王水草向溪西放亦不免食他國王水草如今不免隨分納些些總不見得頌曰　不如隨分納些些喚作平常事已差綠草溪邊頭角露一蓑烟雨屬誰家

松源崇岳禪師

姓吳生於處州龍泉之松源故因以為號自幼卓犖不凡未嘗嬉戲年二十三棄家衣掃塔服首謁靈石妙公繼見大慧于徑山聞大慧稱蔣山華公為人徑捷即往參一夜舉狗子無佛性話有省即以叩應庵庵舉世尊有密語迦葉不覆藏師云鈍置和尚應庵厲聲一喝師便禮拜應庵大喜以為法器說偈勸其祝髮隆興二年始得度於臨安西湖白蓮精舍徧歷諸大老之門罕當其意入閩見木庵水公木庵一日舉有句無句如藤倚樹師云裂破庵云琅琊道好一堆柴讓師云矢上加尖庵云吾兄下語老僧不能過其如未在他日佛柄在手為人不得驗人不得師曰為人者使博地凡夫一超入聖域固難矣驗人者打向面前過不待開口已知渠骨髓何難之有庵舉手云明明向汝道開口不在舌頭上後當自知及見密庵於衢之西山隨問隨荅庵但微笑師切于道至忘寢食庵移蔣山華藏徑山皆從之會入室次問旁僧不是心不是佛不是物師侍側豁然大悟乃云今日方會木庵道開口不在舌頭上庵遷靈隱遂命師為第一座旋出世吳郡澄照徙江陰光孝無為冶父番陽薦福四明香山蘇之虎邱慶元二年被旨補靈隱後貽書嗣法香山光睦雲居善開囑以大法乃書偈曰　來無所來去無所去瞥轉玄關佛祖罔措　跏趺而寂全身塔北高峰之原待制陸放翁銘其塔有曰吾師之語峻峭嶪崒下臨雲雨如五千仞之華山蹴天駕空駭心眩目如錢塘海門之潮虎豹股栗屋瓦震墮如漢軍昆陽之戰可謂臨濟正宗應庵密庵之真子孫也放翁其知言者哉

笑庵了悟禪師

姑蘇人上堂舉睦州因僧問以一重去一重即不問不以一重去一重時如何睦州曰昨日栽茄子今日種冬瓜師頌曰　昨日栽茄子今日種冬

瓜一聲河滿子和月落誰家

高原祖泉禪師

上堂舉九祖伏馱密多尊者問八祖佛馱難提尊者父母非我親話頌曰　父母分明非我親祖師肝膽向人傾直下若能親薦得優曇花發火中春　贈黃漢嶺開接待偈曰　路繞懸崖萬仞頭行人到此一場愁驀然得箇休歇處重叠關山信脚遊

竹泉法林禪師

別號了幻族姓黃台之寧海人依同邑法安太虛同禪師出家因舉睦州語有省白虛曰從生至死只是這箇不由別人也參原叟于中天竺叟問何處來師曰天台叟曰曾見寒山拾得麼師乂手而前曰今日親見和尚叟曰脫空謾語漢參堂去尋俾侍者復掌藏鑰看經次叟曰看經那師曰是叟曰將甚麼看師曰將眼看叟竪起拳曰何不道將這箇看師曰放下拳頭將甚麼看叟微笑東嶼在淨慈招分半座時竺原在浮山得師提唱語稱譽不置尋美以偈有五百眾中居上首妙解堪作人天師之句居淨慈蒙堂不出戶者九年行省左丞相托歡公請主浙江萬壽遷中天竺至元四年遷靈隱宗風大振順帝錫以金襴法衣時寂照在徑山父子同時唱道五山人以為盛事上堂云法是常法道是常道拶破面門點即不到雪峰一千七百人善知識朝夕只輥三箇木毬趙州七百甲子老禪和見人只道喫茶去中峰居常見兄弟相訪只是敘通寒溫燒香乂手若是金毛獅子子三千里外定淆訛上堂舉僧問趙州萬法歸一一歸何處州云我在青州做一領布衫重七斤師云趙州雖則善用太阿截斷這僧舌頭未免自揚家醜靈隱則不然忽有僧問萬法歸一一歸何處只向他道今日熱如昨日元宵上堂云今朝上元節雪霽見晴春梵剎燈千點長空月一輪鼓鐘喧靜夜歌管鬧比隣總是圓通境何須別問津上堂云一大藏教五千四十八卷頓也漸也權也實也偏也圓也只作一句道却三世諸佛在你脚跟下上堂云古杭管內靈隱名山肇建于東晉咸和年間慧理法師為第一祖今日上元令節諸處放燈知事直歲各各點管風燭便下座大龍翔席虛(闕)吉大夫遣幣聘師辭不赴使者三往返師避于會稽山中行院知不可強具疏請師仍領靈隱又居三年退處了幻庵至正十五年春感末疾二月二日集諸徒敘平生本末且誡之曰佛法下衰無甚于今宜各努力吾世緣止于斯矣索筆書偈曰七十二年虛空釘橛末後一句不說不說遂奄然而化龕留十日顏色不變全身窆于松源塔西塔前古桂當春吐花清香滿路見者歎異侍講學士黃公晉[夕*即]目見其事故自書塔銘序中

性原慧朗禪師

幻隱別號也出台之黃巖項氏母陳氏師既長不甘俗處往依溫之寶冠東山魯公出家謁竺原道公於仙居紫籜山咨問心要不大省發去參徑山原叟叟問東嶺來西嶺來師指脚下草鞋曰此是三文錢買得叟曰未在更道師曰某甲只與麼未審和尚作麼生叟曰念汝遠來放汝三十棒久之職侍者朝參夕究一旦默契育王雪窻招師掌藏教未幾出住鄞之五峰遷金峨洪武五年奉詔天下高僧建大齋會於鍾山師與徑山季潭俱與是選既竣事季潭奉旨住天界延師居第一座提綱舉要得表率叢林體又明年鎮江金山請師補處十一年升居靈隱學徒坌集宗風大振上堂云今朝閏五月初一依舊日從東畔出衲僧箇箇解知音短咏長歌皆中律梅雨晴樹陰密林下優游何得失無位真人赤肉團等閒靠倒維摩詰佛涅槃日上堂云涅槃生死等是空華佛及眾生皆為剩語諸人到這裏作麼生會良久拍禪床云但見落花隨水去不知流出洞中春浴佛日上堂舉香巖和尚云去年貧未是貧今年貧始是貧去年貧猶有卓錐之地今年貧錐也無眾中忽有箇漢出來問長老錯了也今朝四月八是佛生日如何舉此公案山僧只對道住持事煩下座師始至經畫大雄寶殿僅一載即落成巍然山峙師室中垂語曰蓮華峰被蜉蝣食卻半邊因甚麼不知又曰冷泉亭吞却壑雷亭即不問南高峰與北高峰鬬額是第幾機罕有契之者洪武十九年六月二十三日示滅

天鏡原瀞禪師

會稽倪氏幼從至大寺雪庭立公祝髮及受具遂徃杭之集慶從濟天岸學止觀一日師自謂從上諸老多由教入禪吾亦究別傳之旨乎登華頂參無見覩又如玉肌見石室瑛室與語大奇之曰吾法叔徑山原叟和尚具大眼目今代妙喜也予欲了己躬事徃見勿後師遂參叟于不動軒入門叟震威一喝師不覺汗流浹背即禮三拜已而俾居侍司繼掌記室尋遊金陵見笑隱于龍翔上江西禮諸祖塔像過臨川訪虞文靖公道話契合延師度夏為作斷江塔銘樸隱軒銘至正丙申出世邑之長慶遷天衣洪武五年設廣薦法會于鍾山詔天下名尊宿輪座說法師預焉九年冬杭慈光率諸山請居靈隱師辭再四僉曰而祖佛照妙峰而父寂照而兄了幻皆說法靈隱于今振墜緒提宏綱捨和尚其誰哉師幡然而起上堂云即心即佛嘉州牛喫禾非心非佛益州馬腹脹不是心不是佛天下覓醫人炙猪左膊上良久云啼得血流無用處不如緘口過殘春上堂云聲不是聲觀音三昧色不是色文殊法門聲色無礙普賢境界拈拄杖畫一畫云大鵬展翅蓋十洲籬邊燕雀空啾啾

退耕寧禪師

初住嘉興崇聖次居蘇之報恩慧日承天萬壽至靈隱上堂云目前雨餘山色翠座間風暖鳥聲喧拍禪床一下云堪笑老鬍無轉智少室峰前坐九年上堂舉香林因僧問年窮歲盡時如何林云東村王老夜燒錢師云王老燒錢言端語端錦包特石鐵裹泥團上堂云極目千峰鎖翠滿空柳絮飛綿可憐無位真人一向草宿露眠啞三春看又過何日是歸年

守仁禪師

號一初富春人靈隱僧從楊廉夫張伯雨遊能詩書法遒勁其題石蟹泉詩曰　神鰲驅水到禪家清出龍泓味更佳晴帶浦雲穿曉斷暗隨山雨走寒沙玉臍圓暎波心月瓊沫香浮沼面花擬待春風招社客焚香來試九溪茶　一初有志事業不偶為僧嘗言我輩從事文墨非以廢道蓋有不得已也在京賦翡翠詩云　見說炎州進翠衣網羅一日遍東西羽毛亦足為身累那得秋林淨處棲　此詩為太祖所見怒而罪之洪武間徵授僧錄右善世所著有夢觀集

淨慈寺

五代杭州永明寺道潛禪師

河中府武氏子初謁法眼眼問曰子於參請外看甚麼經師曰華嚴經眼曰總別同異成壞六相是何門攝屬師曰文在十地品中據理則世出世間一切法皆具六相也眼曰空還具六相也無師憮然無對眼曰汝問我我向汝道師乃問空還具六相也無眼曰空師於是開悟踊躍禮謝眼曰子作麼生會師曰空眼然之異日因四眾士女入院眼問師曰從中道隔壁聞釵釧聲即名破戒觀金銀合雜朱紫駢闐是破戒不是破戒師曰好箇入路眼曰子向後有五百毳徒為王侯所重在師尋禮辭駐錫於衢州古寺閱大藏經忠懿王命入府受菩薩戒署慈化定慧禪師建大伽藍號慧日永明請居之師欲請塔下羅漢銅像過新寺供養王曰善矣予昨夜夢十六尊者乞隨禪師入寺何昭應若是仍於師號加應真二字師坐永明常五百眾上堂云佛法顯然因甚麼却不會諸上座欲會佛法但問取張三李四欲會世法則參取古佛叢林無事久立僧問如何是永明的的意師曰今日十五明朝十六曰覽師的的意師曰何處覽問如何是永明家風師曰早被上座荅了也問三種病人如何接師曰汝是聾人曰請師方便師曰是方便問牛頭未見四祖時為甚麼百鳥啣華師曰見東見西曰見後為甚麼不啣華師曰見南見北曰昔日作麼生師曰且謂今日問達磨西來傳箇甚麼師曰傳箇冊子

曰恁麼則心外有法去也師曰心內無法問如何是第二月師曰月問如何是覿面事師曰背後是甚麼問文殊仗劍擬殺何人師曰止止曰如何是劍師曰眼是問諸餘即不問向上宗乘亦且置請師不荅師曰好箇師僧子曰恁麼則禮拜去也師曰不要三拜盡汝一生去眾參次師指香爐曰汝諸人還見麼若見一時禮拜各自歸堂僧問至道無言借言顯道如何是顯道之言師曰切忌揀擇曰如何是不揀擇師曰元帥大王太保令公問如何是慧日祥光師曰此去報慈不遠曰恁麼則親蒙照燭師曰且喜沒交涉

慧日永明延壽智覺禪師

餘杭王氏子總角歸心佛乘既冠不茹葷日惟一食持法華經七行俱下六旬悉誦感羣羊跪聽年一十八為華亭鎮將屬翠巖參禪師遷止龍冊寺大闡玄化時吳越文穆王知師慕道乃從其志遂禮翠巖為師執勞供象都忘身宰衣不繒纊食無重味野蔬布襦以遣朝夕尋往天台山天柱峰九旬習定有鳥類斥鷃巢于衣褌中暨謁韶國師一見而深器之密授玄旨仍謂師曰汝與元帥有緣它日大興佛事初住雪竇上堂雪竇這裏迅瀑千尋不停纖栗奇巖萬仞無立足處汝等諸人向甚麼處進步僧問雪竇一徑如何履踐師曰步步寒華結言言徹底冰師有偈曰　孤猿叫落中巖月野客吟殘半夜燈此境此時誰得意白雲深處坐禪僧　建隆元年忠懿王請開山靈隱新寺明年遷永明大道場眾盈二千僧問如何是永明妙旨師曰更添香著曰謝師指示師曰且喜沒交涉僧禮拜師曰聽取一偈欲識永明旨門前一湖水日照光明生風來波浪起問學人久在永明為甚麼不會永明家風師曰不會處會取曰不會處如何會師曰牛胎生象子碧海起紅塵問成佛成祖亦出不得六道輪迴亦出不得未審出甚麼處不得師曰出汝問處不得問教中道一切諸佛及諸佛法皆從此經出如何是此經師曰長時轉不停非義亦非聲曰如何受持師曰若欲受持者應須著眼聽問如何是大圓鏡師曰破砂盆師居永明十五載度弟子一千七百人開寶七年入天台山度戒約萬餘人常與七眾授菩薩戒夜施鬼神食朝放諸生類不可稱筭六時散華行道餘力念法華經計萬三千部著宗鏡錄一百卷詩偈賦詠凡千萬言播于海外高麗國王覽師言教遣使齎書敘弟子之禮奉金線織成袈裟紫水精珠金澡瓶等彼國僧三十六人皆承印記前後歸本國各化一方開寶八年十二月示疾越二日焚香告眾跏趺而寂塔于大慈山焉

慧日永明寺道鴻通辯禪師

僧問遠離天台境來登慧日峰久聞師子吼今日請師通師曰聞麼曰恁麼則昔日崇壽今日永明也師曰幸自霧利何須亂道乃曰大道廓然古今常爾真心周徧如量之智皎然萬象森羅咸真實相該天括地亘古亘今

大眾還會麼還辨白得麼僧問國王嘉命公貴臨筵未審今日當為何事師曰驗取曰此意何如師曰甚麼處去來曰恁麼則成造次也師曰休亂道

宗本圓照禪師

常州無錫管氏子體貌龐碩所事淳厚年十九依姑蘇承天永安道昇禪師出家巾侍十載剃度受具又三年禮辭遊方至池陽謁振宗宗舉天親從彌勒內宮而下無著問云人間四百年彼天為一晝夜彌勒于一時中成就五百億天子證無生法忍未審說甚麼法天親曰秖說這箇法如何是這箇法師久而開悟一日室中問師即心即佛時如何曰殺人放火有甚麼難於是名播寰宇漕使李公復圭命師開法瑞光法席日盛武林守陳公襄以承天興教二剎命師擇居蘇人擁道遮留又以淨慈堅請移文諭道俗曰借師三年為此邦植福不敢久占道俗始從元豐五年神宗皇帝下詔闢相國寺六十四院為八禪二律召師為慧林第一祖既至上遣使問勞閱三日傳旨就寺之三門為士民演法翌日召對延和殿問道賜坐師即跏趺帝問卿受業何寺奏曰蘇州承天永安帝大悅賜茶師即舉盞長吸又蕩而撼之帝曰禪宗方興宜善開導師奏曰陛下知有此道如日照臨臣豈敢自怠即辭退帝目送之謂左右曰真福慧僧也後帝登遐命入福寧殿說法以老乞歸林下得旨任便雲遊州郡不得抑令住持擊鼓辭眾說偈曰　本是無家客那堪任意遊順風加艣棹船子下揚州　既出都城王公貴人送者車騎相屬師臨別誨之曰歲月不可把玩老病不與人期唯勤脩勿怠是真相為聞者莫不感涕晚居霧巖其嗣法傳道者不可勝紀僧問如何是祖師西來意師曰韓信臨朝曰中下之流如何領會師曰伏屍萬里曰早知今日事悔不慎當初師曰三皇塚上草離離問上是天下是地未審中間是甚麼物師曰山河大地曰恁麼則謝師荅話師曰大地山河曰和尚何得瞞人師曰却是老僧罪過上元日僧問千燈互照絲竹交音正恁麼時佛法在甚麼處師曰謝布施曰莫便是和尚為人處也無師曰大似不齋來上堂於一毫端現寶王剎坐微塵裏轉大法輪拈起拄杖曰這箇是塵作麼生說箇轉法輪底道理山僧今日不惜眉毛與汝諸人說破拈起也海水騰波須彌岌峇放下也四海晏清乾坤肅靜敢問諸人且道拈起即是放下即是當斷不斷兩重公案擊禪牀下座上堂看看爍爍瑞光照大千界百億微塵國土百億大海水百億須彌山百億日月百億四天下乃至微塵剎土皆於光中一時發現諸仁者還見麼若也見得許汝親在瑞光若也不見莫道瑞光不照好參上堂頭圓像天足方似地古貌稜層丈夫意氣趯到須彌踏翻海水帝釋與龍王無着身處乃拈拄杖曰却來拄杖上回避咄任汝神通變化究竟須歸這裏以拄杖卓一下師全身塔于蘇之霧巖

善本大通禪師

族董氏漢仲舒之裔也大父琪父溫皆官於潁遂為潁人母無子禱白衣大士乃得師及長博極羣書然清修無仕宦意嘉祐八年與弟善思往京師地藏院選經得度習毘尼東遊至姑蘇禮圓照於瑞光照特顧之於是契旨經五稔益躋微奧照令依圓通秀師去又盡其要元豐七年渡淮留太守巖久之出住雙林遷淨慈尋被旨徙法雲僧問寶塔元無縫如何指示人師曰烟霞生背面星月遶簷楹曰如何是塔中人師曰竟日不知清世事長年占斷白雲鄉曰向上更有事也無師曰太無厭生問若論此事譬如兩家著碁學人上來請師一着師曰早見輸了也僧曰錯師曰是僧曰進前無路也師卓拄杖一下曰爭奈這箇何僧曰秖如黑白未分時又作麼生曰且饒一着問百尺竿頭如何進步師曰險曰便恁麼去又作麼生師曰百雜碎問九夏賞勞即不問從今向去事如何師曰光剃頭淨洗鉢曰謝師指示師曰滴水難消上堂上不見天下不見地逼塞虛空無處迴避為君明破即不中且向南山看鼈鼻擲拄杖下座

音堂彥充禪師

於潛盛氏子幼依明空院義堪為師首參大愚宏智正堂大圓後聞東林謂眾曰我此閒別無玄妙秖有木札羹鐵釘飯任汝齩嚼師竊喜之直造謁陳所見解林曰據汝見處正坐在鑒覺中師疑不已將從前所得底一時拋下一日聞僧舉南泉道時人見此一株花如夢相似默有所覺曰打草秖要蛇驚次日入室林問那裏是巖頭密啟其意處師曰今日捉敗這老賊林曰達磨大師性命在汝手裏師擬開口驀被攔胸一拳忽大悟直得汗流浹背點首自謂曰臨濟道黃蘗佛法無多子豈虛語耶遂呈頌曰　為人須為徹殺人須見血德山與巖頭萬里一條鐵　林然之住後上堂世尊不說說迦葉不聞聞卓柱杖曰水流黃葉來何處牛帶寒鴉過遠村上堂舉雪峰示眾云盡大地是箇解脫門因甚把手拽不入師曰大小雪峰話作兩橛既盡大地是箇解脫門用拽作麼上堂一向與麼去法堂前草深一丈一向與麼來脚下泥深三尺且道如何即是三年逢一閏雞向五更啼上堂舉卍庵先師道坐佛床斫佛脚不敬東家孔夫子却向他鄉習禮樂師曰入泥入水即不無先師爭奈寒蟬抱枯木泣盡不回頭卓拄杖曰灼然有不回頭底淨慈向升子裏禮汝三拜上堂三世諸佛無中說有簡[廾/碭]拾花針六代祖師有裏尋無猿猴探水月去此二途如何話會儂家不管興亡事盡日和雲占洞庭元庵受智者請引座曰南山有箇老魔王炯炯雙眸放電光口似血盆呵佛祖牙如劍樹罵諸方幾度業風吹不動吹得動雲黃山畔與嵩頭陁傅大士一火破落戶依舊孟八郎賺他無限癡男女開眼堂堂入鑊湯忽有箇衲僧出來道既是善知識為甚賺人入鑊湯只向他道非公境界後示寂塔于寺之南庵

佛智端裕禪師

吳越王裔也六世祖守會稽因家焉師生而岐嶷眉目淵秀十四駈烏於大善寺十八得度受具往依淨慈一禪師未幾偶聞僧擊露柱曰你何不說禪師忽微省去謁龍門遠甘露卓泐潭祥皆以穎邁見推晚見圓悟於鍾阜一日悟問誰知正法眼藏向這瞎驢邊滅却即今是滅不滅曰請和尚合取口好悟曰此猶未出常情師擬對悟擊之師頓去所滯侍悟居天寧命掌記室尋分座道聲藹著京西憲請開法丹霞次遷虎丘徑山謝事徇平江道俗之請庵於西華閱數稔勅居建康保寧後移蘇城萬壽及閩中賢沙壽山西禪復被旨補靈隱慈寧皇太后幸韋王第召師演法賜金襴袈裟乞歸西華舊隱紹興戊辰秋赴育王之命上堂曰德山入門便棒多向皮袋裏埋蹤臨濟入門便喝總在聲塵中出沒若是英靈衲子直須足下風生超越古今途轍拈柱杖卓一下喝一喝曰秖這箇何似生若喚作棒喝瞌睡未惺不喚作棒喝未識德山臨濟畢竟如何復卓一下曰總不得動著上堂盡大地是沙門眼徧十方是自己光為甚麼東毘提河打鼓西瞿耶尼不聞南贍部洲點燈北鬱單越暗坐直饒向箇裏道得十全猶是光影裏活計撼拂子曰百雜碎了也作麼生是出身一路擲下拂子曰參上堂動則影現覺則冰生直饒不動不覺猶是秦時[車*度]轢鑽到這裏便須千差密照萬戶俱開毫端撥轉機輪命脈不沉毒海有時覺如湛水有時動若星飛有時動覺俱忘有時照用自在且道正恁麼時是動是覺是照是用還有區分得出底麼鐵牛橫古路觸着骨毛寒上堂曰行時絕行跡說時無說蹤行說若到則埽生招箭行說未明則神鋒劃斷就使說無滲漏行不迷方猶滯殼漏在若是大鵬金翅奮迅百千由旬十影神駒馳驟四方八極不取次陷喙不隨處埋身且總不依倚還有履踐分也無剎剎塵塵是要津上堂曰易填巨壑難滿漏巵若有操持了無難易拈却大地寬綽有餘放出纖毫碍塞無路忽若不拈不放向甚麼處履踐同城共休戚飲水亦須肥僧問如何是賓中賓師曰你是田厙奴曰如何是賓中主師曰相逢猶莽鹵曰如何是主中賓師曰劍氣爍愁雲曰如何是主中主師曰敲骨打髓師涖眾色必凜然寢食不背眾唱道無倦紹興庚午十月初示微疾至十八日首座法全請遺訓師曰盡此心意以道相資語絕而逝火後目睛齒舌不壞其地發光終夕得舍利者無計踰月不絕黃冠羅肇常平日問道于師適外歸獨無所獲道念勤切方與客食咀噍間若有物吐哺則舍利也大如菽色若琥珀好事者持去遂再拜於闍維所聞香匳有聲亟開所獲如前而差紅潤門人奉遺骨分塔於鄮峰焉

水庵師一禪師

婺州馬氏子十六披剃首參雪峰慧照禪師照舉藏身無迹話問之師數日方明呈偈曰　藏身無迹更無藏脫體無衣便厮當古鏡不勞還自照

淡煙和露濕秋光　照質之曰畢竟那裏是藏身無迹處師曰夏照曰無蹤迹處因甚麼莫藏身師曰石虎吞卻木羊兒照深肯之住後上堂舉圓悟師翁道參禪參到無參處參到無參始徹頭水庵則不然參禪參到無參處參到無參未徹頭若也欲窮千里目直須更上一層樓上堂凍雲欲雪未雪普賢象駕崢嶸嶺梅半合半開少室風光漏泄便恁麼去猶是半提作麼生是全提底事無智人前莫說打你頭破額裂上堂舉法眼示眾曰盡十方世界明皎皎地若有一絲頭即是一絲頭師竪起拂子曰還見麼穿過髑髏猶未覺法燈在盡十方世界自然明皎皎地若有一絲頭不是一絲頭師曰夜來月色十分好今日秋山無限清上堂寂然不動感而遂通古人恁麼說話大似預搔待癢若教渠踏著衲僧關捩管取別有生涯喝一喝卓柱杖下座

自得慧暉禪師

會稽張氏子幼依澄照道疑染削進具甫二十扣真歇於長蘆微有所證旋里謁宏智智舉當明中有暗不以暗相遇當暗中有明不以明相覩問之語不契初夜定回往聖僧前燒香而宏智適至師見之頓明前話次日入室智舉堪嗟去日顏如玉卻歎回時鬢似霜詰之師曰其入離其出微自爾問荅無滯智許為室中真子紹興丁巳開法補陀徙萬壽及吉祥雪竇淳熙三年勅補淨慈上堂朔風凜凜掃寒林葉落歸根露赤心萬派朝宗船到岸六窻虛暎芥投針本成現莫他尋性地閒閒耀古今戶內凍消春色動四山渾作水龍吟上堂釋迦老子窮理盡性金口敷宣一代時教珠回玉轉被人喚作拭不淨故紙達磨祖師以一乘法直指單傳面壁九年不立文字被人喚作止觀婆羅門且道作麼生行履免被傍人指住去衲被蒙頭萬事休此話山僧都不會上堂巢知風穴知雨甜者甜兮苦者苦不須計較作思量五五從來二十五萬般施設到平常此是叢林飽參句諸人還委悉麼野老不知堯舜力鼕鼕打鼓祭江神上堂谷之神樞之要裏許旁參回途得妙雲雖動而常閒月雖暈而彌照賓主交參正偏兼到十洲春盡花凋殘珊瑚樹林日杲杲僧問如何是正中偏師曰昨夜三更星滿天曰如何是偏中正師曰白雲籠嶽頂終不露崔巍曰如何是正中來師曰莫謂鯤鯨無羽翼今日親從為道來曰如何是兼中至師曰應無跡用無痕曰如何是兼中到師曰石人衫子破大地沒人縫上堂皮膚脫落絕方隅明了身心一物無妙入道寰深靜處玉人端馭白牛車妙明田地達者還稀識情不到唯證方知白雲兒靈靈自照青山父卓卓常存機分頂後光智契刼前眼所以道新豐路兮峻仍曲新豐洞兮湛然沃登者登兮不動搖游者游兮莫忽速亭堂雖有到人稀林泉不長尋常木諸禪德向上一着尊貴難明瑠璃殿上不稱尊翡翠簾前還合伴正與麼時針線貫通真宗不墜合作麼生施設滿頭白髮離巖谷半夜穿雲入市廛上堂舉傅大士法身頌云　空手把鋤頭步行騎水牛人從橋上過橋流水不流　雲門大師道諸人東來西來南來北來各各騎一

頭水牯牛來然雖如是千頭萬頭秖要識取這一頭師曰雲門尋常乾爆爆地錐箚不入到這裏也解拖泥帶水諸人秖今要見這一頭麼天地稍寒各自歸堂上堂舉風幡話師曰風幡動處著得箇眼即是上座風幡動處失却箇眼即是風幡其或未然不是風幡不是心衲僧徒自強錐針巖房雨過昏煙淨臥聽凉風生竹林七年秋退歸雪竇十年仲冬二十九日中夜沐浴而逝窆全身於覺塔右

混源曇密禪師

大參盧氏子依資福道榮出家十六圓具習台教棄參大慧於徑山謁雪巢一此庵元人閩流東西禪無省發之泉南教忠俾悅眾解職歸資福偶舉香嚴擊竹因緣豁然契悟述偈呈忠忠舉玄沙未徹語詰之無滯忠曰子方可見妙喜即辭往梅陽服勤四載住後上堂諸佛出世打刼殺人祖師西來吹風放火古今善知識佛口蛇心天下衲僧自投籠檻莫有天然氣槩特達丈夫為宗門出一隻手主張佛法者麼良久曰設有也須斬為三段上堂德山小參不荅話千古叢林成話靶問話者三十棒慣能說訂說夯時有僧出的能破的德山便打風流儒雅某甲話也未問頸上著枷脚下著匣你是那裏人一回相見一傷神新羅人把手笑欣欣未跨船舷好與三十棒依前相廝誑混源今日恁麼批判責情好與三十棒且道是賞是罰具參學眼者試辨看上堂舉雲門問僧光明寂照徧河沙因緣師曰平地摝魚鰕遼天射飛鶚跛脚老雲門千錯與萬錯後示寂塔于本山

楚明寶印禪師

百粵張氏上堂祖師心印非長非短非方非圓非內非外亦非中間且問大眾決定是何形貌拈柱杖曰遠是麼古篆不成文飛白難同體從本自分明何須重持地擊禪床下座上堂出門見山水入門見佛殿靈光觸處通諸人何不薦若不薦淨慈今日不著便上堂祖師道吾本來慈土傳法救迷情一華開五葉結果自然成淨慈當時若見恁麼道用黑漆柱杖子一棒打殺埋向無陰陽地上令他出氣不得何故呵耐他瞞我唐土人眾中莫有為祖師出氣的麼出來和你一時埋却上堂若論此事如散鋪寶貝亂堆金玉恃已者自甘窮困有眼底信手拈來所以道閻浮有大寶見少得還稀若人將獻我成佛一餉時乃拈柱杖曰如今一時呈似普請大眾高著眼擲柱杖下座

木庵安永禪師

閩縣吳氏子弱冠為僧未幾謁懶菴於雲門一日入室菴曰不問有言不問無言世尊良久不得向世尊良久處會隨後便喝倏然契悟作禮曰不因今日問爭喪目前機庵許之住後上堂要明箇事須是具擊石火閃電光底手段方能嶮峻巖頭全身放捨白雲深處得大安居如其覿地覓金針直下腦門須迸裂到這裏假饒見機而變不犯鋒鋩全身蠲脫猶涉泥水秖如本分全提一句又作麼生道擊拂子曰淬出七星光燦爛解拈天下任橫行上堂舉睦州示眾云諸人未得箇入處須得箇入處既得箇入處不得忘却老僧師曰恁麼說話面皮厚多少木菴則不然諸人未得箇入處須得箇入處既得箇入處直須颺下入處始得上堂拈柱杖曰臨濟小廝兒未嘗當頭道著今日全身放憨也要諸人知有擲柱杖下座僧問須彌頂上翻身倒卓時如何師曰未曾見毛頭星現曰恁麼則傾湫倒嶽去也師曰莫亂做僧便喝師曰雷聲浩大雨點全無

石田禪師

名法黑眉山彭氏子參破菴祖先室中舉世尊拈花迦葉微笑師云焦磚打著連底凍赤眼撞著火柴頭破菴陰可之端平二年奉詔靈隱住持淳祐甲辰三月望示徒云但得本莫愁末喚甚麼作本喚甚麼作末松柏千年青不入時人意牡丹一日紅滿城公子醉山僧恁麼道若有不肯底是我同參退歸寶壽趣辦終焉春秋七十有五臘五十有三塔全身於院之後山師貌古性直音韻朗暢累遷望剎閱三十有二年樽節足用審量計功雖大有興造一毫不以千人而人咸樂施師見他處化者鷺俟狐探咨且嚅囁直鄙且賤之而土木金碧在處成就焉

偃溪廣聞禪師

侯官林家子母陳氏世業儒疎眉秀目哆口豐頤從季父智隆於宛陵光孝十八得度受具初見鐵牛印少室睦無際派追隨甚久參浙翁于天童針芥雖投自知未穩及再參于雙徑翁笑迎曰汝來耶一夕坐簷間聞更三轉入堂曳履而蹶如夢忽醒翌朝造室翁舉趙州洗鉢盂話師將啟吻翁遽止之平生疑情當下冰釋紹定戊子四明制閫胡公以小淨慈致之歷住香山萬壽雪竇育王淨慈靈隱徑塢八山所至革弊支傾廣容徒眾開爐上堂舉趙州和尚示眾云老僧一十年前在南方火爐頭有箇無賓主話直至如今無人舉著師云森羅萬象明闇色空日夜舉揚趙州古佛不是不知只為貪程太速上堂楊岐眼中睛臨濟頂中髓一不成二不是點著不來白雲萬里佛成道上堂錯錯六載草繩空自縛了了開得眼來天大曉古今天地古今日月古今星辰拍膝云劍去久矣切忌刻舟上堂雲門放洞山三頓棒嚼飯餧嬰兒黃蘗打臨濟三頓棒按牛頭吃草只今不犯絲毫有箇方便良久

云大事為你不得小事自家擔當上堂非風幡動仁者心動浣盆浣盆非風鈴鳴我心鳴耳漆桶漆桶盡古往今來和泥脫塹有什麼限還知萬壽落處麼劫灰有銷日虛空無盡時上堂十字街頭石幢子無你遮護處一聲江上侍郎來無你迴避處衲僧家朝出暮入脚前脚後也須仔細忽然築著磕著淨慈柱杖別有分付上堂一升三合柱杖頭邊萬水千山草鞋跟底未言先領誰家竈裏無烟燎起便行是處井中有水莫道空來又空去許多途路不相孤上堂一句絕離微渾淪無縫罅善財七日尋覓不得趙州五年分疎不下靈山今日快便難逢為通一線六月賣松風人間恐無價上堂繞禪牀一匝揮香桌一下轉藏已竟講經已竟若具看經眼目方知落處其或未然依經解義三世佛冤離經一字還同魔說上堂趙州喫茶去金牛喫飯來龍門多上客有人續得末後句許你入阿字法門景定四年六月十四日示寂壽七十五臘五十八

淮海原肇禪師

通州靖海潘氏子母朱氏邑之利和寺妙觀其諸父也謂其父母曰是子生而有異却葷胾殆亦夙種盍俾出家父母然之年十九薙染受具參浙翁於徑山翁問汝何處人師曰淮人翁曰泗洲大聖為甚麼在揚州出現師曰今日又在杭州撞著翁曰且得沒交涉師徐曰自遠趨風翁以師警敏欲大激發未容其叅堂纔見便云下一轉語來擬開口即喝出師以書上又以頌呈末句云免教回首望長安翁云這裏是甚麼所在師曰謝和尚掛搭始容就入室之列已而命掌記翁既寂師出世通之光孝遷吳城雙塔金陵清涼天台萬年蘇之萬壽永嘉江心而四明育王虛席廟堂奏師補處遷杭之淨寺靈隱徑山其住徑山歉餘逋券山積僧殘屋老未幾樓閣矗霄雲衲踵至不減浙翁全盛氣象俄示疾囑其徒為吾附一穴於東磵見生死不忘奉師之意浴訖書偈而逝嘗讚達磨偈曰　踏翻地軸與天關合國人追不再還去去一身輕似葉長江千古浪如山

荊叟如珏禪師

婺州人初見癡鈍室中垂語曰如何是佛師荅云爛東瓜復成頌曰如何是佛爛東瓜咬著冰霜透齒牙根蒂雖然無窖子一年一度一開花又嘗作偈寄呈癡鈍曰　鍾山白刃赤身挨幾度曾經被活埋一自人亡家破後了知無位可安排結夏小參我此一宗正令全提如暴風卒雨鼓蕩無前石火電光追奔不及舉意即迷源擡眸已蹉過不是目前法莫生種種心縱汝三種互脩尅期取證第二頭第三首萬肢千掌轉見氣急殊不知髑髏未具已眼先明呱地一聲千妥萬當然雖如是親證者萬無一二錯會者數

有河沙佛成道頌曰　六年雪嶺方成道打失從前鬼眼睛滿面慚惶無著處至今生怕見明星

晦機元熙禪師

族豫章唐氏世業儒西山明覺院明公乃師族叔父聚宗族子弟教世典師與兄元齡俱習進士業元齡既登第師遂從明公祝髮馬將遊方其母私具白金為裝師憎財足喪志即善言辭之不持一錢以行聞物初闡化玉几徃依之物初與語驚異留侍左右後謁東叟穎於南屏命掌記至元間嘉木揚喇勒智奉旨取育王舍利親詣師求記述舍利始末因招與俱師辭曰我有老母兵後存亡不可知遂歸江西則元齡先以臨江通判從文丞相起兵死獨母在堂師奉之以孝聞元貞二年出世百丈居十二載法席振興至大初應淨慈請入寺日行中書省行宣政院官屬俯伏迎請發揚宗旨四方英衲一時輻輳上堂雲門道箇普字盡大地人不奈何殊不知雲門四棱蹋地當時若與震威一喝待此老惡發徐徐打箇問訊道莫恠觸忤好非徒扶起此老管取話行天下上堂舉太原孚上座聞角聲悟道話頌曰　琴生入滄海太史遊名山從此揚州城外路令嚴不許蚤開關　上堂三界無法何處求心白雲為葢流泉作琴古今無間誰是知音擊拂子云一曲二曲無人會雨過夜堂秋水深上堂獨坐大雄峰寒灰撥不紅一星熒火出孤鶴過遼東結制上堂以手作結布袋勢云南山今日結布袋口了也汝等諸人各各于中身心安居平等性智忽有箇衝開碧落撞倒須彌底莫道結子不堅密良久云漫天網子百千重居七載遷徑山已而杖策歸南屏山下百丈大仰之徒聞師退閒爭來請師辭不獲已而遂返仰山居三年將示寂手書與往來書偈示眾擲筆而化延祐六年閏八月十有七日也壽八十二於金鷄石下葬焉其弟子在杭者又分爪髮塔于淨慈西隱

虛堂智愚禪師

四明人出世嘉禾興聖遷光孝明之顯孝延福瑞巖婺之寶林四明育王柏巖杭之淨慈徑山凡歷住十剎師室中垂語曰己眼未明底因甚將虛空作布袴着畫地為牢因甚透者箇不過入海算沙底因甚向針鋒頭上翹足僧問聲前一句不墮常機轉位就功如何相見師曰問訊不出手僧云且道天子萬年作麼是師曰瑞草生嘉運林花結早春僧云且得九州四海雷動風飛師云出門惟恐不先到上堂春風如月春雨如骨衲僧門下何用叨叨上堂言而足終日言而盡道言而不足終日言而盡物且道道與物是一是二若道是一為甚麼客山高主山低若道是二為甚麼天地一指萬物一馬箇裡緇素得出還你草鞋錢不然但願來年蠶麥熟羅睺羅兒與一文結夏上堂有一人日銷萬兩黃金同此聖制只是無人認得若有人認得許伊

日銷萬兩黃金上堂二林初無門戶與人近傍亦不置之於無何有之鄉只要諸人如鐵入土與土俱化然後可以發越其如運糞入者吾末如之何上堂舉松源師祖臨示寂告眾云久參兄弟止路上行者有只不能用黑豆法臨濟之道將泯絕無聞傷哉拈云鷲峰老大似倚杖騎馬雖無僵仆之患未免傍觀者醜師在淨慈入院日問荅絕忽天使踵門傳旨問趙州因甚八十行脚虛堂因甚八十住山師舉趙州行脚到臨濟話頌曰　趙州八十方行脚虛堂八十再住山別有一機恢佛祖九重城裏動龍顏使以頌回奏上大悅特賜米五百石絹一百縑開堂安眾其住育王徑山亦賜賚優渥

斷橋妙倫禪師

天台黃巖徐氏子母劉氏夢月而孕十八落髮於永嘉廣慈院見谷源道于瑞巖聞麻三斤之話疑之徧叩諸方機終未湊自謂吾口訥耳聵不若把本修行日以誦經為業忽閱楞伽于雲居見山堂至蚊蟲螻蟻無有言說而能辨事頓然有省曰趙州栢樹子話可煞直截然不以語人還謁無準于雪竇準以狗子因何有業識令師下語凡三十轉不契師曰可無方便乎準以真淨所頌荅之即竦然良久忽聞板聲通身汗下於是始脫然矣準移育王雙徑皆以師從俾分座出世秖園遷瑞巖國清至淨慈上堂荊山有玉獲得者不在荊山赤水有珠拾得者不在赤水衲僧有無位真人證得者出入不在面門驀拈柱杖橫按云會麼幽州江口石人蹲上堂舉慈明室中安一盆水盆上橫一柄劒劒上安一緉草鞋凡見僧來便指擬議便打師頌曰
百花叢裡躍鞭過俊逸風流有許多未第儒生偷眼覷滿懷無奈舊愁何
上堂德山低頭夾山點頭俱胝竪起手指頭玄沙築破脚指頭提起柱杖云都來不出山僧柱杖頭何以見得卓柱杖云一葉落天下秋上堂舉達觀穎禪師示眾云七佛是性隸萬法是心奴且道主人翁在甚麼處自喝云七佛已下出頭又自諾云各自祇候師云喚七佛為性隸指萬法是心奴達觀自謂有出身路及乎自喝自諾又是奴隸邊事主人翁何曾夢見在大眾要見麼以拂拂一拂云曉來一陣春風動開遍園林百樣花將終與眾入室罷索筆作詩辭諸山及魏國公公饋藥不受又使人問曰師生天台因甚死淨慈師荅曰日出東方夜落西遂書偈而化

北磵居簡禪師

字敬叟潼川龍氏世業儒資質穎異幼見佛書必端坐默觀如宿習依邑之廣福院圓澄得度參別峰塗毒於徑山沉默自究一日閱卍菴語有省遽往育王見佛照機契自是往來其門十五年一時社中耆碩忘年與交走江西訪諸祖遺蹟瑩仲溫嘗掌大慧之記菴于羅湖纂所聞成書發揮祖道與師議論大奇之以大慧居洋嶼菴竹篦付之師巽焉久之出世台之般若

遷報恩英衲爭附儒碩竹巖錢公水心葉公莫不推重大參真西山時為江東部使者虛東林命之以疾辭乃于飛來峰北磵掃一室居十年人不敢以字稱因以北磵稱之起應霅之鐵佛西余常之顯慶碧雲蘇之慧日湖之道塲奉旨遷淨慈所至道化大行垂老不倦槌拂結夏上堂以大圓覺為我伽藍身心安居平等性智喫官酒臥官街當處死當處埋本來無位次何用強安排上堂雲巖二十年在藥山只明此事澄潭不許蒼龍蟠趙州除二時粥飯外不雜用心兔子何曾離得窟鑄成銕硯欲磨穿還他萬里功名骨上堂先佛照道棒頭撥着活衲僧正法眼藏增高價北磵則不然棒頭撥著活衲僧正法眼藏瓦解冰消且道與先佛照是同是別嘗頌楞嚴經六解一亡云六用無功信不通一時分付與春風篆煙一縷聞清晝百鳥不來花自紅闢一室以居名曰薤室作賦以自見趙節齋奏師補處靈隱師笑曰吾日迫矣乃舉天童癡絕沖淳祐丙午春示疾三月二十八日索紙書偈於紙尾復書四月一日珍重六字呼諸徒誡之曰時不待人以吾自勵吾世緣餘兩日耳至期昧爽索浴浴罷假寐然視之已逝矣壽八十三臘六十三葬全身于月堂昌禪師塔側遵治命也

笑翁妙堪禪師

俗慈谿毛氏廣顙平頂骨氣清豪從野菴道欽受釋學依息菴觀于金山參松源岳於靈隱皆不契時無用居天童徑造其室用問曰行脚僧游山僧師曰行脚僧用曰如何是行脚事師以坐具便摵用曰此僧敢來這裏捋虎鬚俾參堂室中常示狗子無佛性話一日擬開口用以竹篦劈口打師應聲呈偈云　大荼毒皷轟天震地轉腦回頭橫屍萬里用頷之即俾侍杳已而報恩約　公至師分座太守程公請出世妙勝遷金文移光孝忠獻史衛王以堂牒除台之報恩天台舊無律宗師與大卿齊公議合千寺為大剎築壇塲命負毘尼學者偈開遮持犯之法風勵新學閩帥王公請居雪峰未幾詔住靈隱師厭逼近屠沽徹其廬揭關飛來峰外以限喧寂衛王以大慈完美請開山及王薨師菴居上栢台州使君陳公以瑞巖邀師無何江心牒至監丞史公強之乃起淨慈詔下丐辭不允大參余公書來不可重違君命明年荊湖總臣奏令僧道買紫衣師號俾以師號住持師謂如是則千金之子皆可主法我道殆矣奏疏殿陛上書廟堂其議遂寢詔徙天童力辭東歸翠岩築室奉先世香火育王虛席有旨起師再辭不許乃奉詔表章大覺祖述妙喜秩然有序上堂膏雨及時江山如洗幽鳥語喬林殘紅晴遠水可憐盲聾瘖痙人不識此方真教體上堂舉興化開堂三聖推出僧話頭曰一人客路如天遠一箇歸心似箭輕彼此征途雖有異須知同日到天庭上堂舉汾陽示眾云識得拄杖子行脚事畢頌曰　平地無因立話端揭天聲撼怒濤寒直饒識得拄杖　子也是封皮作信看天童除書至大參趙公請主淨慈悉謝之示疾書遺表作寺丞張公書請主後事通守永嘉曹公來問疾從容

敘世契移頃書偈曰業鏡高懸七十二年一搥擊碎大道坦然置筆泊然而逝

東叟仲穎禪師

上堂切忌隨他覓無勞向己求縱橫活潑潑有放還有收是甚麼一葉落天下秋上堂迷生寂亂悟無好惡奉化縣裏契此翁凸箇肚矮雙足拖箇布袋十字街頭憨憨痴痴落落魄魄何似老龍牙手裏把柄破木杓上堂拈拂子畫一畫云伏羲發天地之秘未明者消息又點三點云瞿曇示圓寂之形未明者消息者消息如何辨的不見道冬至乃書雲物擊拂子下座上堂上不在天下不在地中不在人喝一喝且道這一喝落在甚麼處若也得知也有賓也有主也有照也有用若也不知參退巡堂喫茶上堂檛動鼓眾期聚耳同聞目同覩超乾坤越今古夫何故如此五月五是端午上堂行者行坐者坐左之右之缺一不可甘露園中蔌蓼黃檗樹頭蜜果纔與麼不與麼不與麼却與麼善賈之家不停滯貨

孤雲權禪師

上堂舉問雪峰古磵寒泉時如何峯云瞪目不見底僧云飲者如何峰云不從口入又問趙州古磵寒泉時如何州云苦僧云飲者如何州云死師云一人隨波逐浪一人截斷眾流檢點將來總欠會在今日有問育王古磵寒泉時如何只對他道須是親見雪峰飲者如何問取趙州送僧歸鳳山偈云　鳳凰山下鳳凰兒文彩纔彰羽翼齊銕網漫天攔不得歸心已在碧梧枝

退谷義雲禪師

僧問三聖道我逢人則出出則不為人意旨如何師云東斗西移云興化道我逢人則不出出則便為人又作麼生師云南斗北轉上堂奔流度刃疾燄過風啐啄同時崖州萬里有底道如人學射久習則巧殊不知未彀已前中的早涉迂回了也趙州到茱萸靠却拄杖即且置只如孚上座道聖箭折也意什麼生喝一喝云若不同牀睡焉知被裏穿上堂舉首山拈竹篦示眾云喚作竹篦則觸不喚作竹篦則背汝等諸人喚作什麼葉縣近前掣竹篦拗作兩橛拋向階下却云是甚麼山云瞎縣便禮拜師云臨濟一宗掃土而盡

介石明禪師

上堂舉明招謙禪師一日天寒上堂眾纔集招曰風頭稍硬且歸煖處商量便歸方丈眾隨至立定招曰纔到暖室便見瞌睡以拄杖一時趁下師頌曰　稍硬風頭早已乖更將暖處自沉埋反令千古成蹤跡枉喫羅山白飯來　因見郁山主畫像旁僧索讚師信筆書曰　拾得明珠笑眼開為言塵盡轉生埃若無直下承當者孤負闍黎一撲來

晦翁悟明禪師

福州人上堂舉夾山會下一僧到高亭纔禮拜亭便打僧云特來禮拜師何打又拜亭又打趁出僧回舉似夾山山云會麼云不會山云賴汝不會汝若會即夾山口啞去應菴拈云高亭一期忍俊不禁爭奈拄杖放行太速這僧當時若是箇漢莫道高亭夾山便是達磨大師出來也斬為三段何故家肥出孝子國伯有忠臣師云高亭夾山門庭施設各得其宜但中間一人較些子應菴與麼道也是鞏縣茶瓶師纂修聯燈會要傳于叢林

谷源道禪師

舉丹霞然禪師參石頭和尚一日頭告眾曰來日剗佛殿前草師頌曰　石頭剗草驗英豪懵懂丹霞眼不高若解轉身行活路至今應不累兒曹

潛庵慧光禪師

上堂舉趙州和尚因僧問狗子還有佛性也無趙州云無頌曰　狗子無佛性全提摩竭令纔擬犯鋒鋩喪却窮性命

大用普濟禪師

明州奉化人上堂舉睦州因僧問如何是祖師西來意州云一隊衲僧來一隊衲僧去成頌曰　一隊衲僧來一隊衲僧去打破睦州關大地無寸土　題世尊出山相偈曰　龍章鳳質出王宮肘露衣穿下雪峰智願必空諸有界不知諸有幾時空　送僧偈曰　雲遮劒閣三千里水隔瞿塘十二峰抖擻屎腸都說了莫教錯過甕為鐘

無極觀禪師

出山佛贊曰　王宮不住箇痴呆半夜逾城真恠哉苦行六年誰采你計窮只得出山來

石林行鞏禪師

初住安吉上方升思溪法寶隆興黃龍吳郡承天至淨慈上堂橫眸碧漢萬國風清垂手紅塵千峰日出纔恁麼便不恁麼所以道我此法印為欲利益世間故說在所游方勿妄宣傳橫按拄杖云佛滅二千二百單六載沙門行鞏今於苕霅盡頭鼓鐘清處顯示此印絲毫無有妄者卓柱杖云謹白上堂山靜課花蜂股重林空含籜笋肌明倚闌不覺成痴兀又得黃鸝喚一聲思溪恁麼道好喫拄杖三十何故為他不合隨聲逐色上堂水鄉水濶地多濕六月花蚊嘴如錶夜半起來笑不徹煩惱不徹作什麼床頭一柄扇無端又打折上堂三家村裏牛動尾巴乃搖拂子云與這箇相去多少擲拂子云洎合亭囚長至上堂雪峰輥毬禾山打皷祕魔擎义道吾作舞一切賢聖皆以無為法而有差別喝一喝下座師室中垂示云盡大地是箇金剛正體上座者皮袋向甚處著芭蕉聞雷而抽且道是有情是無情南屏山下壁立三關透不過者一錯百錯透得過者千難萬難忽有不甘的出來道既透得過因甚麼也難去明日來與你子細相看

石帆衍禪師

上堂舉大顛和尚因韓文公問師春秋多少大顛提起數珠曰會麼公曰不會顛曰晝夜一百八師頌曰　一串摩尼覿面當機賺卻首座疑殺昌黎弄盡許多窮伎倆春秋元自不曾知

簡翁敬禪師

上堂舉文殊問菴提遮女生以何為義話頌曰　問處分明荅處端當機覿面不相謾死生生死元無際月上青山玉一團

愚極慧禪師

參石田於靈隱田室中舉雲門念七話連舉十數箇無人下語忽有一僧纔跨門田云雪峰輥毬師侍在傍聳耳而聽驀然領悟衝口呈偈曰　雲門念七雪峰輥毬白蘋紅蓼明月孤舟田頷之住北禪日謝劍南儒藏　主雲谷慶藏主無則珍藏主上堂舉白雲師祖開堂拈香有云眾中衣鉢道友有一言半句利益我者同伸報謝山僧乍住二三故人遠來相賀又非一言半句者比豈無片香以為供養燒楓香是著菩提邊事燒黃熟是說佛說祖邊事而今猛炳一也要盡大地人知道浙西管內嘉興府川原道地且道燒底是什麼香良久云不下閣送寧禪人偈曰　心未寧時為汝安落花小雨釀春寒斷橋流水孤山路楊柳絲絲拂畫欄

愚庵智及禪師

字以中別號西麓蘇之吳縣顧氏父茂卿母周氏入海雲院為童子釋書儒典並進閩國王清獻公都中見之特加賞異聽賢首家講法界觀永終章遂莞爾笑曰一真法界圓同太虛但涉言辭即成剩法乃去謁廣智於龍翔筱露文彩廣智大驚有嶼上人者呵曰子才俊爽若此不思負荷大法甘作詩騷奴僕乎無盡燈偈所謂黃葉飄飄者何謂也師舌噤不能荅即歸海雲胸中如礙巨石踰月忽見秋葉吹墜於庭豁然有省雖喜不自勝不取證明眼恐涉偏執乃走見徑山山勘辨之師應荅不滯山遂命執侍久之遷主藏室至正壬午行院舉師出世昌國隆教轉普慈未幾行省左丞相達實公延主淨慈復請陞徑山僧問語是謗默是誑語默向上有事在如何是向上事師云猢猻上樹尾連顛僧問云如何是賓中賓師曰君向瀟湘我向秦云如何是賓中主師云嘗在途中不離家舍云如何是主中賓師云嘗在家舍不離途中云如何是主中主師云橫按鎲耶全正令太平寰宇斬癡頑一日達實特穆爾丞相到方丈問淨名丈室容三萬二千獅子座淨慈丈室容多少師云一塵不立相云得與麼覿體相違師揭起簾云請丞相鑑相呵呵大笑云作家宗師不勞再勘師便供茶上堂舉東山演祖示眾云祖師說不著諸佛看不見四面老婆心為君通一線師云若教頻下泪滄海也須乾上堂諸方今日開罏未免與諸人說些火爐頭話乃以拂子作吹火勢云喚作火燒殺你不喚作火凍殺你上堂一二三四五六七地水火風空見識拈來數目甚分明明眼衲僧數不出也大奇烏龜鑽敗壁鷄向五更啼洪武癸丑詔有道碩僧十餘人集天界寺師居其首以病不能召對賜還穹窿山即海雲也戊午八月忽示疾至九月四日索筆書偈而逝其徒以遺骨藏海雲山陰又分爪髮歸徑山于無等才禪師塔左瘞焉壽八十八臘五十一

本源善達禪師

仙居柴氏早年與及菴信行脚誓不歷職往江西見雪巖于仰山隨眾入室無所省發後歸仙里居人請住多福棄去游湖南主福巖尋還浙西見徑山雲峰入室有省峰印可之適慧雲虛席命師補處後住保寧淨慈徑山皆有成績可紀師凡住處不設臥榻夜則焚香燃燭安坐至旦率以為常又體所稟與人異遇嚴寒則衣絺綌大熱則衣繒絮以餘資建大明院於東路半山接待雲侶一日自知時至會眾敘平生行脚事畢須臾端坐而寂

清溪泥禪師

上堂達磨西來一坐具地被他神光禮了三拜一時占了致令後代兒孫自分疆別界衲僧家撥草瞻風朝吳暮越南天台北五臺拄杖頭草鞋底

還曾踏着也未良久云切忌踏著

宋南屏道臻法師

傳四明法智之道初住金山龍游侍讀吳公倅都聞師名華興教禪居請主之學者朋來師每講次會文集義貫穿始終浙西台學大振自南屏始嘗述二偈贊妙宗鈔曰　佛許六郎辨蛄蜣何不通知一不知二失西又失東　三千若果成一切皆常樂蛄蜣不究竟諸佛斷性惡後與淨覺岳公辨教門陳詞有司乞築高臺竪赤幡倣西竺聖師與外道角勝以幡標顯處義墮者斷首截舌縣之府尹桎而不從聞者凜然初吳公多於休沐請講盛服止閽外師未登座不輒入東坡云與師語羣集有所遺忘師則應口誦之衮衮不休東坡辨才祭文云講有辨臻即謂師也崇寧中謚實相

宋道濟

台州李氏子年十八赴考因過靈隱適瞎堂遠公開席其間濟以宿緣求度遂為沙門而舉止脫略與小乘執相諸僧忤乃訐其犯齋及不循律儀過遠批云法門廣大豈不能容一顛僧意以顛含真義而遠亦似知之惟庸眾之終不釋然也時德輝禪師住持淨慈與瞎堂為法伯仲一見而深器之周旋未幾一夕濟乘醉亟稱無明發呀呀呀眾莫之悟而大火竟作殿宇忽成灰燼矣而輝隨其火化遺偈於磚有百十萬劫假非假等語獨濟預知其幾焉火後濟自為疏感太后為檀及神運枏梓以復古剎其神異等事具如傳記於坐化說偈之碑并其身骨俱存本寺



武林梵志卷九

總校官庶吉士(臣)朱鈐
校對官中書(臣)吳甸華
謄錄監生(臣)張曾秀
詳校官太僕寺少卿(臣)李廷欽
編修(臣)程嘉謨覆勘

欽定四庫全書　武林梵志卷十

明　吳之鯨　撰

徑山寺

大覺國一禪師

法欽吳郡崑山人姓朱氏世服儒業母管氏夢蓮生於戶樞取一花繫衣帶而孕既誕形貌奇偉神色瑩徹好以佛事為兒戲年二十二州以[亠/兄]賦道由丹徒憩於鶴林素禪師見而異之問曰子何之師曰將求仕於上京素曰雖有五等之爵豈如三界之尊耶師曰可學乎素曰觀子神觀幾於生知若肯出家必悟如來知見師即裂逢掖刻苦親依素深器之謂門人法鏡曰此當大弘吾法蔚為人師師日夜奮勵鍊行安禪迺請素示其法要素曰無人得我法師曰以何傳素曰我法實無可傳師頓釋疑滯久之辭素請示所止素曰乘流而行遇徑即止師就神龍所創遂居之未及數載名震天下馬祖令人馳書書中作一圓相師開緘於圓相中作一照卻封回又令智藏來問十二時中以何為境師曰待汝回去時有信藏曰如今便回師曰傳語卻須問取曹溪有僧問如何是道師曰山上有鯉魚井底有蓬塵又僧問如何是祖師西來意師曰汝問不當曰如何得當師曰待吾滅後即向汝說大歷中代宗遣內侍黃鳳持詔致師詣闕既至帝躬迎登殿設坐以資法要同弟子之禮師一日在內庭見帝起立帝曰師何以起師曰檀越何得向四威儀中見貧道帝悅謂忠國師曰欲賜欽師一名忠忻然奉詔迺賜號國一焉頃之辭歸帝曰此眾生有當度者彼眾生豈有殊乎師曰實無有法以度眾生居內僅一年每賜繒綵設御饌皆不受惟布衣蔬食器用陶匏如平時相國楊綰見而歎曰此方外高士也崔趙公嘗問弟子出家得否師曰出家是大丈夫事豈將相所能為趙歎賞其言一時名公如李泌徐浩第五琦陳少游等凡三十二人皆稱門人問道以求決擇已而力辭南還舊山餞禮榮耀勅本州於徑山重建精舍度僧七人以奉巾櫛命州長吏逐月躬至問候

無上禪師

名鑒宗長興錢氏子祖徽禮部侍郎師少而穎異風骨不凡謁鹽官悟空禪師盡得要領以為堪任大法咸通三年至天目東登徑山自國一去後僧徒分散殆盡荒涼如傳舍師意欲追還舊觀遂駐錫焉未幾百廢具舉道望日遠弟子洪諶以經論自負師告之曰佛祖正法直截亡詮汝筭海沙於理何益但能莫存知見泯絕於緣離一切心即汝真性諶聞而適悅即呈偈

云　這箇非他物元來不昧機達而全體現應處不思議　師曰汝問取察師兄察曰師弟高見非吾境界諶即辭徧往諸方至大溈方悟旨師平時指徒語言切直類皆如此

法濟禪師

諱洪諶吳興烏程人姓吳氏初習律乘未十日誦畢棄之游心經論機辯風生耆宿下之歸覲無上無上問曰汝於時中將何以報荅四恩師茫然莫知所對廢食三日無上方便慰安之師於言下有省述偈以進無上頷之咸通七年上徑山無上委以住持事師辭甚力無上曰吳中佛法藉於子耳何辭之有開法之初眾不滿百未中歲間堂餘萬指僧問掩息如灰時如何師曰猶是時人工幹僧曰幹後如何師曰耕人田不種僧曰畢竟如何師曰禾熟不臨塲僧問龍門不假風雷勢便透者如何師曰猶是一品二品僧曰此既是階級向上事如何師曰不知汝有龍門僧問如霜如雪時如何師曰猶是污染曰不污染時如何師曰不同紀僧問如何是長師曰千聖不能量曰如何是短師曰蟭螟眼裏著不滿其僧不肯便去舉似石霜石霜云只為太近寔頭僧問如何是長石霜云不屈曲曰如何是短石霜云雙陸盤中不喝采佛日長老訪師師問承聞長老獨化一方何以薦遊峰頂佛日曰朗月當空挂冰霜不自寒師曰莫便是長老家風佛日荅曰峭峙萬重闕於中含寶月師曰此猶是文言作麼生是長老家風佛日曰今日賴遇佛日佛日卻問云隱密至真時人知有道不得大省無辜時人知有道得於此二途猶是時人升降處未審長老親道自道如何道師曰我家道處無可道佛日曰如來路上無私曲便請玄音和一塲師曰任汝二輪更迭照碧潭雲外不相關佛日曰為報白頭無限眾此回年少莫歸鄉師曰老少同輪無向背我家去路勿參差佛日曰一言定天下四句為誰留師曰汝言有三四我道其中一也無師因有偈曰　東西不相顧南北為誰留汝言有三四我即一也無
許州金明上座聞師說法頗契石霜乃曰徑山老和尚敢說石霜禪我往問之彼若果合我則為渠作園頭如其不然我則掀倒禪牀先問石霜一毫穿眾穴時如何石霜云直須萬年後云萬年後如何石霜云登科任汝登科拔萃任汝拔萃後問師云一毫穿眾穴時如何師云直須老去云老去後如何師云光靴任汝光靴結裹任汝結裹明乃作禮為之治圃三年師始至是山適遭黃巢之亂巢之偏帥領卒千餘人見師師宴坐不起帥以劍揮禪牀者再師神色不動帥異之獻寶再拜而去吳越武肅王微時師一日謂其徒曰明日有異人至當厚禮之詰朝王至師乃門迎延於丈室特異於他堂眾皆訝之師乃密謂武肅曰他日獨霸吳越當須持護佛法無忘此言武肅恭謝而去及立軍功收杭州執弟子禮以事於師待遇勤厚莫可為比中和二年表乞賜師紫方袍景福二年武肅封吳越王後表乞賜號法濟大師中國皆制可乾寧二年九月三十日示寂後武肅將薨謂文穆曰吾昔自徑山法濟

示吾霸業自此發迹建國立功故吾常厚顧此山焉他日汝等無廢吾志其後文穆忠獻忠懿皆不忘武肅之遺旨恩顧山門非他可並焉

大禪明禪師

秀州人妙喜會中龍象叢林所謂明大禪也身長八尺腹大十圍所至人必聚觀先是陽和王夢一異僧欲化蘇州一莊翌旦師忽杖屨徒步而至王見師奇偉與夢中無異首言蘇州一莊為徑山供佛齋僧無窮之福王未有可否遂達孝宗會和王入朝上為言聞卿捨蘇州莊與徑山朕當為蠲免賦稅和王謝恩歸即以莊隸徑山此莊歲出二萬斛犂牛舟車解庫應用百事具足師於緇素有大因緣江浙兩湖皆號之為布袋和尚再出云

佛日大慧杲禪師

宣州奚氏諱宗杲字曇晦少師魏國公張浚延居茲山孝宗為普安郡王時聞師名遣內都監至徑山謁師師作偈以獻王甚嘉之及在建邸復遣內知客請師山中為眾說法親書妙喜菴大字及製真讚寄師又二年即位賜號大慧禪師復取向所賜宸翰以御寶識之恩寵加厚道法之盛號臨濟中興

密菴傑禪師

福州鄭氏謁應菴於衢之明果一日菴問如何是正法眼師遽荅曰破砂盆菴頷之

別峰印禪師

嘉州李氏得法於華藏民禪師首在鄉連主數剎後再出峽住保寧金山雪竇及至茲山彌浹孝宗召對選德殿稱旨此日賜肩輿於東華門內上註圓覺經遣使馳賜命作序師具表奏謝仍進頌曰　古佛與今佛同一廣長舌於無途轍中為物啟途轍　撥開千嶂雲放出一輪月普令大地人言下悉照徹覺亦無可圓幻亦無可滅只此無亦無紅爐一點雪稽首佛與佛字字無異說既經乙夜之覽皇情大悅

佛照普慈宗覺光禪師

臨江新喻人得法于妙喜乾道丁亥台守李侍郎浩延住鴻福徙光孝孝宗雅聞師名淳熙三年詔開堂靈隱召入觀堂留五宿數問佛法大意師

敷奏直截上大悅賜號佛照禪師

癡絕道冲禪師

生而豐上短下資性絕人少長習進士業棄之受釋氏學於梓州妙音院禮修證為落髮師游成都習經論於聖慈以名相厭人復棄去聞松源唱道于饒之薦福徑造其門以歲饑不受曹源以雲居首座出世妙果師聽其入門語有省源遂俾侍香老奉痛棒不少貸平生知見至是絕無影響源徙幽峰師復侍行久之呈偈辭游浙有曰　尚餘窮相一雙手要向諸方痒處爬江湖盛傳至杭時松源主靈隱門戶　嚴峻八閱月不得入室或以失士告源曰我已八字打開挂搭他自是他當面蹉過了師聞其語洞徹反留法華逾月即登徑山人神響應懽聲如雷上堂僧問心佛及眾生是三無差別如何是過去心師云放待冷來看僧云如何是現在心師云你問我荅僧云如何是未來心師云後次上堂向你道僧云如何是過去佛師曰去年梅僧云如何是現在佛師云今歲柳僧云如何是未來佛師云顏色馨香依舊僧云如何是過去差別智師以拂子擊禪牀左邊僧云如何是現在差別智師以拂子擊禪牀右邊僧云如何是未來差別智師以拂子中間點一點僧云心佛眾生無向背十方剎海一毫收便禮拜師乃云過去心不可得現在心不可得未來心不可得三世既不可得喚什麼作差別智若人見得徹去三世諸佛無一時不在諸人項[寧*頁]上轉大法輪更來這裏挨肩並足討什麼碗以拄杖一時赶散結夏上堂圓覺伽藍塵塵有路坐斷去來頓空今古那裏十三這邊十五後先不差毫髮許可笑黃面瞿曇至今不知落處上堂云盡乾坤大地無絲毫許大是汝諸人橫擔拄杖繞四天下行脚道我無處不到無事不知且道西天那欄拖寺戒賢論師今日說什麼法便下座上堂云有一人一念頓證墮在佛數有一人累刼闡提不願成佛具道那個合受人天供養良久云蝶穿芳徑雙眉濕蜂掠殘花兩股肥臨示寂手書龕記并遺書十數且曰無準忌在三月十八日吾以十五日即行不能瓣香修供侍僧亟以遺偈請師謂曰末後一句無可商量只要箇人直下承當即命筆書辭眾上堂語至夜分起坐移頃而逝荼毘舍利五色者無數

雲峰高禪師

福之長谿人諱妙高見偃谿於育王入室掌藏鑰一日谿舉譬如牛過窓櫺頭角四蹄都過了因甚尾巴過不得師豁然有省荅曰鯨吞海水盡露出珊瑚枝谿可之及趨京上問禪以何為宗師奏淨智妙圓體本空寂非見聞覺知思慮分別所能到宣問再三師歷舉西天東土諸祖因緣大抵禪是正法眼藏涅槃妙心超最上乘孰有過於禪詞旨明顯餘二千言上大悅陞

辭南歸徑山復災師謂眾曰吾宿負此山債耳遂竭力再營建匯殿坡為池他屋以次落成

佛日普照元叟端禪師

臨海何氏諱行端從俗叔父茂上人得度於餘杭化城院叅藏叟於徑山得旨大德庚子出世湖之資福名聞京國特旨賜慧文正辯禪師行中書省平章張閭公舉師住中天竺復遷居靈隱有旨設水陸齋於金山命師說法事竣入覲奏對稱旨加賜佛日普照之號南歸即退閭於良渚之西菴至治壬戌三宗四眾相率白於行宣政院請師補處茲山仍闔詞奏請降璽書護持師至是凡三被金襴之賜人以為榮而師漠如也虎岩住茲山時師為第一座每聞虎岩法座上舉云度宗為北兵攻急命道士設大醮奏章天庭問國家重事高公伏章久不得報既竣事問故高公云為定徑山四十八代住持天門不開故得報遲也虎岩舉此夸眾謂住持豈苟然至於四十八代住持尚預定之天庭師聞頗心非之及師住此山適當其次至正辛巳終竺全身於寂照塔院

月林鏡禪師

杭州人住徑山時進士張公寧讚之曰竊以舞鳳飛龍五結青蓮於天目靈雞馴兔一鑑光徹於祖師地既曰靈天其有待恭惟新命徑山堂上大和尚鏡公月林禪師瑞芝三秀古柏十圍得正度於無傳嗣妙法於東嶼頃者五百間清風淨掃人望方歸邇來三十年優鉢猛闖王氣猶在起龍暝於下界興象教於中衰丞相開選佛場和尚悟出世法乘流而行遇徑而止命當年國一亦起於崑山容首度坡仙重遊於方丈凡吾方外之友盡讚僧中此郎師少穎異穉齡出家弱冠剃染專淨業間叩名碩俾叅本來人有省偈曰本來人本來人無腦無頭作麼尋驀然揪著箇鼻孔試勘元來是白丁碩見睨視曰可是師與國一由是名振一時正德己卯歸寂年八十六塔凌霄東崖

浙翁如琰禪師

台州周氏子幼峻嶷穎悟邁倫上堂舉乾峰因僧問十方薄伽梵一路涅槃門未審路頭在什麼處峰以拄杖畫云在這裏後僧請益雲門門拈起扇子云扇子[跳-兆+孛]跳上三十三天築著帝釋鼻孔東海鯉魚打一棒雨似盆傾會麼師云唱愈高和愈高還他二老若是十方薄伽梵一路涅槃門總未踏著在上堂拈拄杖云蔣山喚這箇作柱杖子諸人亦喚這箇作拄杖子還有緇素也無闌干雖共倚山色不同觀

蒙菴元聰禪師

福州人晦菴會中得心要眾推為高第弟子上堂舉玄沙見僧禮拜沙云因我得禮你師頌曰　因我得禮你莫放屁撒屎帶累天下人錯認自家底　上堂舉趙州和尚在東廝上見文遠侍者過驀召文遠遠應諾趙州曰東廝上不可與汝說佛法師頌曰　明明道不說此理憑誰識春風一陣來滿地花狼籍　送行者求僧偈云　山前麥熟雨初晴桑柘青連柳色新毫髮不存風骨露頭頭總是比丘身

塗毒智策禪師

天台陳氏子幼依護國僧楚光落髮十九造國清謁寂室光灑然有省次謁大師麼師曰即今亦不少曰因甚在汝脚跟下師曰當面蹉過圓曰上人不耘而秀不扶而直一日辭去圓送之門拊師背曰寶所在近此城非實師頷之往豫章謁典牛道由雲居風雪塞路坐閱四十二日午初板聲鏗然豁爾大悟及造門典牛獨指師曰甚處見神見鬼來師曰雲居聞极聲來牛曰是甚麼師曰打破虛空全無靶柄牛曰向上事未在師曰東家暗坐西家廝罵牛曰嶄然超出佛祖他日起家一麟足矣住後上堂舉教中道若以色見我以音聲求我是人行邪道不能見如來雖然恁麼正是捕得老鼠打破油甕懷禪師道你眼在甚麼處雖則識破釋迦老子爭奈拈鼈舐指若是塗毒即不然色見聲求也不妨百華影裏繡鴛鴦自從識得金針後一任風吹滿袖香師將示寂陞座別眾囑門人以文祭之師危坐傾聽至尚饗為之一笑越兩日沐浴更衣集眾說偈曰　四大既分飛煙雲任意歸秋天霜夜月萬里轉光輝俄頃泊然而逝塔全身於東崗之麓

照堂了一禪師

明州人上堂云叅玄之士觸境遇緣不能直下透脫者葢為業識深重情妄膠固六門未息一處不通絕點純清含生難到直須入林不動草入水不動波始可順生死流入人間世諸人要會麼以拄杖畫曰秖向這裏薦取

上天竺寺

唐錢塘上天竺寺道翊法師

當陽侯杜公之子出家終南山翠微寺梁天監三年入天竺佛國山止息西峰之隈誅茅結菴精修鍊魔夜則敲擊木魚經行五峰之巔衝冒雩霧霜霰不避豺虎絕無徒侶多歷年所遂致淸然超悟乃屏息止觀休糧入定

者久之一夕忽見山麓火光燭天師禱於天即擲錫空中詰旦果得異木浮水面錫卓其上異香襲人剖之得大士像宛然天成不假刻削供侍菴中多獲靈感建始實由於此或以師與兄道宣弟道定俱入杭後宣為南山六通宣律師定為法相開山之祖時號僧中三鳳云

釋法詵

姓孫氏母初夢吞明珠遂黜魚惡葷誕彌厥月生有異表十五辭親從師依年受具行學一集蔚為教宗卷伊呂立功之致陋黃綺肆志之適遺形理性與山木為羣故地恩貞大師囑之以華嚴經菩薩戒起信論心以靜詵智與經冥一夕夢乘大艑直截滄溟橫山當前峻與天極不覺孤帆鳶戾懷襄上濟峰竦竦而忽高雲溶溶而在下既寤形若委衣流汗輕醒自此句義不思而得一部全文常現心鏡事事無礙之旨如貫花焉天寶六年於蘇州常樂寺繪盧舍那像化示羣品大歷二年於常州龍興寺講纔登法座忽有異光如曳紅縷漸明漸大縈旋杳空久修行者會中先覩前後講大經十遍撰儀記十二卷大歷十三年十一月七日沙門慧覺夢巨塔陷地二級無何詵示疾而終春秋六十一慧命四十二受法弟子太初付以香鑪談柄潯陽正覺會稽神秀亦猶儒氏之有游夏焉詵初講天竺寺盛闡華嚴時越僧澄觀就席決疑深得幽趣及終吳興皎然為碑邗城肅公為頌合揚其美

子儀心印水月大師

溫州樂清人姓陳氏初遊方謁鼓山因問曰子儀三千里外遠投法席今日非時上來乞師非時荅話鼓山曰不可鈍置仁者師曰省力處如何鼓山曰汝何費力師自此承言領旨便往浙中錢忠懿王聆其道譽命開法於羅漢光福二道場海眾臻湊師上堂示眾云久立大眾更待什麼不辭展拓却恐悞於禪德轉迷歸路時寒珍重僧問如何是從上來事師曰住僧曰如何薦師曰可惜龍頭翻成蛇尾師回故里雍熙三年示滅門人闍維收舍利建塔

天竺證悟法師

嘗患本宗學者囿於名相膠於筆錄至以天台之傳為文字之學南宗鄙之乃謁護國此菴元禪師夜話次師舉東坡宿東林偈且曰也不易到此田地菴曰尚未見路徑何言到耶曰秖如他道溪聲便是廣長舌山色豈非清淨身若不到此田地如何有這箇消息菴曰是門外漢耳曰和尚不吝可為說破菴曰却秖從這裏猛著精彩覷捕看若覷捕得他破則亦知本命元辰落著處師通夕不寐及曉鐘鳴去其秘蓄遂豁然大悟呈偈以求記莂

杭州上天竺我菴本無法師

黃岩人從淨慈方山落髮依寂照於中天竺掌綱維有舅氏教庠老成挽之更宗於是見湛堂於演福研精教部寂照惜其去作偈寄之云從教入禪今古有從禪入教古今無一心三觀門雖別水滿千江月自孤後出世既為湛堂嗣仍爇一香報寂照不以跡異而二其心寂照示寂時師住四明延慶遺書祝其力弘大蘇宗趣餘無他言師於祭筵拈香云妙喜五傳最光燄寂照一代甘露門等閒觸著肝腦裂冰霜忽作陽春溫我思打失鼻孔日是何氣息今猶存天風北來歲云暮掣電討甚空中痕我菴臨終無疾坐蛻

從諫慈辯講師

處之松陽人也具大知見聲播講席於止觀深有所契每與禪衲游嘗以道力扣大通通一日作書寄之師發緘睹黑白二圓相乃悟荅偈曰　黑相白相擔枷過狀了不了兮無風起浪若問究竟事如何洞庭山在太湖上

杭州普門寺希辨禪師

常熟人幼出家禮本邑延福院啟祥禪師落髮具戒詣楞伽山聽律尋謁天台受心印乾德初吳越忠懿王命住越州清泰院署慧智禪師開寶中復召入居普門寺師上堂曰山僧素乏知見復寡聞持頃雖侍坐於山中和尚亦不蒙一句開示以至今與諸仁者聚會更無一法可相助發何况能為諸仁者區別緇素商量古今還怪得山僧麼若有怪者且道此人具眼不具眼有賓主義無賓主義晚學初機必須審細時有僧問如何是普門示現神通事師曰恁麼即闍黎怪老僧也曰不怪時如何師曰汝且下堂裏思惟去太平興國三年吳越王入覲師隨寶塔至見於滋福殿賜紫號慧明大師端拱中上言願還故里詔從之賜御製詩及忠懿王施金於常熟本山院創磚浮圖七級高二百尺至道三年八月二十五日示寂壽七十七臘六十三塔於院之西北隅

中天竺寺

[仁-二+幻]堂中仁禪師

洛陽人少依東京奉先院出家宣和初賜牒於慶基殿落髮進具後往來三藏譯經所諦窮經論特於宗門未之信時圓悟居天寧凌晨謁之悟方為眾入室師見敬服奮然造前悟曰依經解義三世佛冤離經一字即同魔說速道速道師擬對悟劈口擊之因墜一齒即大悟留天寧由是師資契合

請問無間後開法大覺遷中天竺次徙靈峰上堂云九十春光已過半養花天氣正融和海棠枝上鶯聲好道與時流見得麼然雖如是且透聲色一句作麼生道金勒馬嘶芳草地玉樓人醉杏花天上堂舉狗子無佛性話乃曰二八佳人刺繡遲紫荊花下囀黃鸝可憐無限傷春意盡在停針不語時淳熙甲午四月八日孝宗詔入賜座說法帝舉不與萬法為侶因緣俾拈提師拈罷頌曰　秤鎚搦出油閒言長語休腰纏十萬貫騎鶴上揚州　癸亥中陞堂告眾而逝

癡禪玄妙禪師

婺州王氏僧問如何是截斷眾流句師曰佛祖問口無分曰如何是函蓋乾坤句師曰匝地普天曰如何是隨波逐浪句師曰有時入荒草有時上孤峰上堂云黃昏雞報曉半夜日頭明驚起雪獅子瞠開紅眼睛上堂云去年梅今歲柳顏色馨香喝一喝良久曰若不得這一喝幾乎道著依舊且道道著後如何眼睛突出

一關逵禪師

番陽人姓方氏叅晦機於淨慈機問甚處人師曰番陽人機曰番陽湖水深多少師曰瞪目不見底機曰恁麼則浸爛衲僧鼻孔也師曰終不借和尚鼻孔出氣機曰畢竟借誰鼻孔出氣師曰恭惟和尚萬福機肯之命充侍者逾二年往依中峰於天目山久之徑山原叟命掌記中天竺笑隱又俾分座既而出世金陵崇因帝師授以佛日普照之號遷鳳山資福陞主報國至中天竺示眾曰心不是佛智不是道一念涉思惟全身入荒草所以道目前無法意在目前不是目前法非耳目之所到古今天地古今日月古今山河古今人倫頭頭顯露物物全彰不從千聖借不向萬機求內外絕承當古今無處所恁麼解會猶是錯認驢鞍橋作阿爺下頷雖然既是泗洲大聖因甚在揚州出現良久云叅空岩有禪師室中勘驗學者垂語云黃金鑄就鐵真人東海湧頌曰　錦衣公子醉田家熟睡柴牀日未斜熱渴呼漿無所得便將玉帶換甌茶

雪屋珂禪師

上堂云枯桑知天風海水知天寒且道衲僧知箇什麼知道飯是米做直饒恁麼閻羅老子索飯錢有日在師以宋鼎既遷即謝寺事金山賢默菴雅知師且尊其道行時元兵下江南默菴被總兵巴延脇而置之幕中從至武林默菴言於巴延請師陞住靈隱親持請疏叩師門師抽關露半面問曰汝為誰默菴曰和尚故人某甲也師落關云我不識你葢師雖處世外而以

忠節自持故不屑靈隱之命後斷江思有詩云　雪屋今亡四十年高風凜凜尚依然巴延丞相拜牀下不肯為渠來冷泉

一溪自如禪師

福建人元兵下江南師年少被游兵擄至臨安遺之而去富民胡氏收養之令伴其子弟讀書鄉塾師偶立凝神靜聽默識無所失胡氏喜因子之既長命隸里中無相寺為僧叅雲峰於徑山得旨戒檢精嚴法服應器不離體初住浙江萬壽寺後有大家黃氏重師道行常供以伊蒲塞饌一日請歸其家進供逾勤乃開私帑所藏金玉示師欲動其心師歸謂左右曰彼黃氏以帑中寶示我欲誘我死去為其子耳殊不知我視金玉瓦礫古人墮此轍者頗眾非但為其子為其牛馬者有之我自此其疎黃氏矣天歷初中天竺笑隱奉詔開山大龍翔寺因舉代住者三人御筆點師名宣政院具疏敦請久之化去茶毗靈異頗多

季潭泐禪師

於洪武元年戊申四月十五日入寺上堂云金剛王劍橫揮千妖屏迹爍迦羅眼洞照萬物潛形到此卷舒在己殺活臨時直得千歲巖中天[跳-兆+孛]跳錢塘水東流逆流諸人還知有也無遂竪拂子云庭前石笋抽條也會見高枝宿鳳凰復舉南泉初入院大眾送歸方丈僧問端居丈室將何指示於人泉云昨夜三更失却牛天明起來失却火師云大小南泉不唯瞞人亦且自瞞新天竺用處也要大家知有忽有問端居丈室將何指示於人劈脊便棓且道與古人是同是別卓拄杖下座

下天竺寺

宋慈雲法師

名遵式字知白台州寧海葉氏母夢嚥明珠而生出家於東掖山傳天台教於寶雲通師未幾繼其席祥符八年刺史薛公請居靈山天竺寺寺久廢師按其舊而新之王文穆出守重師之道奏復天竺名尋請賜慈雲號章獻太后遣使賫白金命修懺師著金光明護國儀文上之因奏請天台教文入藏又依經撰集諸懺法盛行於世常行三昧以九十日為期師力行之感應非一凡為法祈禱必然指唯存三焉及建光明懺堂每架一椽一甃必誦大悲呪七遍屢經兵火巋然獨存願力致也師詩文典雅有金園靈苑天竺別集天聖九年歸東嶺草堂明年十月十八日夜有大星隕於山師示寂累謚法寶禪慧淳祐八年加謚聖應十一年謚正覺

隋觀法師

字聖達錢塘范氏生有奇相左掌仙文右掌人字口流津液[亠/兄]潤榮府從幼至終未嘗患渴舌文交加狀如羅綺八歲通詩禮和庾尚書林檎之作沙門洪偃才邁儒英鈎深釋傑面相謂曰顴高多知耳白有名我有四絕爾具八能謂義導書詩辨貌聲棊是也學士傳綷嗟曰三千稱首七十當初是上人者當為酧對時人語曰錢塘有貞觀當天下一半尋謁天台智者請受禪觀智者以師齊年止為法兄弟開皇十五年於靈隱山頭陀石室宴坐眾建南天竺寺請師居焉是為開山始祖常講法華以為心要感皋亭神請講捨祠宇為佛殿每盥洗餘滴地不為濡人尤異之師有雅操文帝三徵秦王兩延皆以疾辭大業中因山行自標葬地未幾示寂夢與智者同輩翼佛還山覺而歎曰吾六十二應終以講法華力延一紀今七十四生期畢矣中夜入寂塔在東岡久廢不治天禧中慈雲重修

集慶寺

集慶法師

諱士璋字原璞生於海寧王氏伏犀貫頂目光炯炯射之自幼去羶葷即御輒嘔逆唯日取天竺集讀之鄰寺僧競曰此釋氏種也後投城東太平興國傳法寺服五戒服其師某與翰林待制柳公貫游公嘗憩止寺中親授法師儒家羣經為正句讀敷繹旨要法師聞之有如破竹數節之後皆迎刃而解年十九始除鬚髮尋稟持犯於某師時佛護宣覺顯慈匡道大師自四明延慶遷主武林上天竺寺大師諱本無字我菴佛海法師湛堂澄公之嫡子令譽隆洽一時名浮圖爭擁輪下法師將擔簦趨之忽夢游寶所大乘菩薩教之互跪作禮口唱懺辭覺而思之乃普賢淨行品偈文也法師以為祥徵佛護一見果刮目相視凡天台大小部書以次環授之志慮專一饑則親狎釜鬻以事烹飪一飽而止寒暑晝夜若不知切身佛護如三吳俾法師遷丈室之西以便飲食逮還見白烟一抹起其寢所則自爨猶故也佛護陰鑒其勤以遠大期之佛護之門人曰天心瑩素高亢不服人亦歆豔法師之行約其燈火磨切詰難極於毫絲餘子皆望風而畏稱為雙璧元至正十三年江南行宣政院命主州之棲真寺棲真與南天竺演福鄰古稱教海而大用才公絕宗編公二大長者皆在焉法師猶以學之未足時往叩其所未至凡部味教觀之奧偏圓本迹之微疇昔有疑而未徹者二老無不條分縷析以喻之法師彈指歎曰佛法教藏渺如烟海固非獨善偏長所能究也洪武之初以集慶虛席請師提唱接引如旌德時有過無弗及焉未幾竟入涅槃師所著書多未脫藁詩文有別錄若干卷

滅幻禪師

諱善繼住集慶寺夢神授白蓮而生盖永明壽師後身也長治春秋嘆曰此身終壞即穹爵因春秋而致得幾何春秋耶乃棄去傳法湛堂澄修法華懺每多感應豪俊執經輪下與唱和焉及還華徑了池深本寒處修十六觀證壽無量舍利纍纍即其師澄與清古源澤雲夢齊名而皆得圓菴果之傳住演福

普福寺

普福法師

天岸諱弘濟字同舟一字天岸餘姚姚氏投同里寶積寺舜田滿公出家滿公師之從父也師駿發紀倫或授法華經輒能記憶年十六受度為大僧日持四分律跬步之間不敢違越繩尺已而嘆曰成固不可緩情教乘以資行解其又可後乎於是往鄞依半山全公讀天台之書久之悉通其玄義嘗修法華金光明淨土期懺聚精會神存誠不二髣髴於觀定中覩尊者畀以犀角如意自是談辯日增河懸泉湧而了無留礙未幾師於泰定元年開法於萬壽圓覺寺浙河左右傑偉之士奔走其室惟恐後之議者謂倡佛海之道以播芳猷實自師始明年鹽官海岸崩民朝夕惴惴恐為魚鱉江浙行省右丞相托歡甚憂之祈禁觀音大士於上天竺仍請師親履其地建水陸冥陽大會七晝夜師冥心觀想取海沙祝之親帥其徒徧擲其處凡足跡所及岸為不崩人咸異之天歷元年陞主顯慈集慶二寺皆杭之名剎師處之泊然至正七年壽八十矣錢塘諸名山以耆舊凋謝唯師一人巋然如魯之靈光又以大普福寺起之師堅臥不應門人法航進曰和尚自為計固善矣其如斯道何師強赴之居亡何竟拂衣旋故丘開清鏡閣而深蟄焉因覽諸家所註首楞嚴經繁簡失當方將折衷其說為疏解俄疾作召四眾至以唯心淨土惓惓為勉其中或未解師意師厲聲曰死生難死生難遽索觚翰書偈而寂十六年三月十日也後七日法孫至大清晏以陶器奉蛻質葬於里之蛾眉山松花塢師之所自卜也

鳳林寺

唐鳥窠道林禪師

富陽潘氏母夢日光入口有娠誕時異香滿室遂名香光幼出家詣長安西明學華嚴代宗詔國一禪師至闕師謁之得法南歸抵西湖秦望山有大松樹盤屈如蓋乃止其上時人因以鳥窠名之復有鵲巢其側自然馴狎

元和中刺史白居易入山訪之問曰師之住處何其危險耶師曰太守危險尤甚曰余忝郡守何險之有師曰心火相交識性不停得非險乎公悅以偈問曰　持入空門問苦空敢將禪事叩禪翁為當夢是浮生事為復浮生是夢中　師答曰　來時無跡去無踪去與來時事亦同何須更問浮生事秖此浮生是夢中　衣衲穿敝寒暑不更經歷年歲未嘗下山長慶四年入寂塔於北山之喜鵲寺焉

杭州招賢寺會通禪師

本郡人姓吳氏本名元卿形相端嚴幼而聰敏唐德宗時為六宮使王族咸美之春時見昭陽宮華卉敷榮翫而久之倏聞空中有聲曰虛幻之相開謝不停能壞善根仁者安可嗜之師省念稚齒崇善極生厭患帝一日遊宮問曰卿何不樂對曰臣幼不食葷羶志願從釋曰朕視卿若昆仲但富貴欲出於人表者不違卿唯出家不可既浹旬帝覩其容頴詔王賓相之奏曰此人當紹隆三寶帝謂師曰如卿願任選日遠近奏來師荷德致謝尋得鄉信言母患乞歸寧省帝厚其所賜勅有司津道師至家未幾會韜光法師勉之謁鳥窠為檀越與結庵創寺寺成啟曰弟子七歲蔬食十一受五戒今年二十有二為出家故休官願和尚授與僧相曰今時為僧鮮有精苦者行多浮濫師曰本淨非琢磨元明不隨照曰汝若了淨智妙圓體自空寂即真出家何假外相汝當為在家菩薩戒施俱修如謝靈運之儔也師曰然理雖如此於事何益倘垂攝受則誓遵師教如是三請皆不諾時韜光堅白鳥窠曰官使未嘗娶亦不畜侍女禪師若不拯接誰其度之鳥窠即與披剃具戒師常卯齋晝夜精進誦大乘經而習般舟三昧尋固辭遊方鳥窠以布毛示之悟旨時謂布毛侍者暨鳥窠歸寂垂二十載武宗廢其寺師與眾僧禮辭靈塔而邁莫知其終

智果寺

錢塘道潛禪師

以詩見知於蘇文忠公公號師為參寥子凡詩詞迭唱更和形於翰墨必曰參寥及交呂 丞相公著與簡牘則稱曰妙總老師浙江石刻存者甚多後公離錢塘以長短句別之曰有情風萬里卷潮來無情送潮歸問錢塘江上西興浦口幾度斜暉不用思量今古俛仰昔人非誰似東坡老白首忘機記取西湖西畔正暮山好處空翠烟霏箬詩人相得如我與君稀約他年東還海道願謝公雅志莫相違西州路不應回首為我沾衣仲溫瑩禪師贊曰噫今世之小生於有道宗師必名呼而示其忽慢亦安知文忠於一詩僧尚爾敬重況道德崇重者乎

瑪瑙寺

宋孤山法師

名智圓字無外錢塘徐氏八歲出家傳天台三觀於奉先源清師嘗歎荊溪沒後微言墜地於是留意撰述作十疏通經師蚤勤儒學兼涉老莊自號中庸子居孤山瑪瑙院有高世之節時王文穆罷相來牧郡僧悉迎於關外慈雲遣使邀師偕徃師以疾辭笑謂使者曰為我致意慈雲錢塘且駐却一僧聞者歎服師少抱羸疾多杜門獨居惟與處士林逋為鄰友相好以詩文自娛雜著五十一卷題曰閒居編乾興元年二月十七日自作祭文挽辭越二日示寂門人奉遺訓斲院之後山斂以陶器合而瘞之後十五年積雨山頹啟陶覩師真身不壞爪髮俱長其唇微開齒若珂雪諡號法慧治平二年改名寶勝院紹興二十一年創延祥觀有司新師所居以廣之移額山北併塔遷焉

孤山祥符寺

法師可久

錢塘錢氏天聖初覃恩得度學教觀於淨覺無出世志喜為古律詩蘇軾監郡日與師為詩友居西湖祥符軾來守錢塘當元夕九曲觀燈去從者獨行入師室了無燈火但聞薝蔔餘香歎仰留詩有不把琉璃門照佛始知無盡本非燈之句晚年杜門送客不逾閾辟穀安坐觀鍊薰修如此十餘年窓外唯紅蕉數本翠竹百箇淡如也一日謂人曰吾死蕉竹亦死擇瑛公亦死未幾皆驗人嗟異之

湖心寺

紹岩居

錢塘湖心寺專誦法華期滿萬部得生淨土一旦有蓮華生於陸地岩誓焚身供養西方三聖吳越王俶力勸止之一旦見蓮華光照其身越三日欣然坐化西湖三塔妙慧文義禪師上堂云會麼已被熱謾了也今早起來無窖可說下牀著鞋後架洗面堂內展鉢喫粥粥後打睡睡起喫茶見客相喚齋時喫飯日日相似有甚麼過然雖如是更有一般令我笑金剛倒地一堆泥拍禪牀下座

毒峰禪師

諱本善祖鳳陽人隨任生於廣東之雷陽父吳姓母鍾氏稚小以佛事為兒戲十七歲出家初投源明和尚請益明示以無字公案正統八年入閩叅無際師聞鐘聲有省次見蒙隱次見楚山次見月溪溪印可之從前打七掩關曉夜無怠歷盡百倍苦功乃得大徹復蒙古庭重授衣拂天順庚辰趙氏建西湖三塔寺請師開山繼興天目昭明繼興吳山實蓮繼興南山甘露成化庚子掩關石屋寺壬寅慈雲嶺有山曰登雲寺曰天真僧宗綱請師興建事竣即掩關杜人事涵養陶汰有四十餘年秖掩關之句示寂後門人悟深戒新等輯師言論行實名昭明甘露天真三處語要錄云

護國寺

隆興黃龍無門慧開禪師

杭州良渚人俗姓梁母宋氏禮天龍肱和尚為受業師叅月林於蘇之萬壽林令看無字話經於六年迴無入處乃奮志剋責誓云若去睡眠爛却我身每至困時廊下行道以頭向露柱磕一日在法座邊立忽聞齋鼓聲有省成偈曰　青天白日一聲雷大地羣生眼豁開萬象森羅齊稽首須彌[跳-兆+孛]跳舞三臺　次日入室欲通所得林遽曰何處見神見鬼了也師便喝林亦喝師又喝自此機語脗合嘉定十一年出世安吉報國繼遷隆興天寧黃龍翠岩蘇之開元靈岩鎮江焦山金陵保寧淳祐六年奉旨開山護國仁皇寺上堂云若人識得心大地無寸土古人恁麼道黃龍即不然若人識得心大地盡是土上堂云是非長短耳邊風切莫於中覓異同要得八風吹不動放教心地等虛空慈受老人只解順水張帆不能迎風把柁黃龍又且不然是非都去了是非裏薦取何故纔幾度黑風翻大浪未曾聞道釣舟傾上堂云三分光陰二早過懷州牛喫禾靈臺一點不楷磨益州馬腹脹貪生逐日區區去天下覓醫人喚不回頭爭奈何炙猪左膊上於斯薦得叅學事畢其或未然拈拄杖云請木上座與諸人說被卓拄杖一下上堂云趙州和尚云南來者與他下載北來者與他上載大似世情看冷暖人面逐高低慈受和尚云南來者與他一面笑北來者與他一面笑大似懽喜廝散笑裏有刀若是焦山又且不然南來者以平常待之北來者以平常待之也不嗔也不笑也無下也無高何故清平世界不用干戈作朝陽偈曰寒時急用底物趁暖著些針線忽然臘月到來免致脚忙手亂對月偈曰始見些兒光影要了末後一段若是無門拳頭不打這般鈍漢師晚年倦於槌拂菴居西湖之上叅學者猶眾理宗召入選德殿說法祈雨隨即感應勅賜金襴法衣佛眼之號以示褒寵

杭州護國臭菴宗禪師

上堂舉豐干謂寒山拾得云你與我去遊五臺便是我同流寒山云你去遊五臺作麼干云禮拜文殊山云你不是我同流師云豐干開口不在舌頭上寒山云同坑無異土檢點將來兩個駝子廝撞著世上應無直底人上堂舉嶽林振禪師示眾云布袋口開還有買的麼僧云有林云不作賤不作貴作麼生買僧無語林曰老僧失利師云嶽林設箇問端也甚奇特及至被人道箇有字直得東遮西掩囊藏不迭護國云今日布袋口開還有買底麼良久云欄干雖共倚山色不同觀

昭慶寺

宋真悟律師

名允堪錢塘人年九歲有客指小桂試之荅曰始生巖谷畔早有月中香辨博精通撰律宗十二部經解經傳并法門贊序等文慶歷七年賜號真悟大師崇寧間加謚智圓嘉禾陳舜俞撰行業記元瘞西湖湧泉山後遷塔菩提

宋道匡禪師

上堂次大眾擁法座而立師曰這裏無物諸人苦恁麼相促相拶作麼擬心早沒交涉更上門上戶千里萬里今既上來各著精彩昭慶一時拋與諸人好麼乃曰還接得也無眾無對師曰勞而無功便陞座復曰汝諸人得甚麼鈍看他古人一兩箇得恁麼快纔見便負將去也較些子若有此箇人非但四事供養便以瑠璃為地白銀為壁亦未為貴帝釋引前梵王隨後攪長河為酥酪變大地為黃金亦未為足直得如是猶更有一級在還委得麼珍重

省僜禪師

開堂陞座僧將同學人全身不會請師指示師曰還解笑得麼乃曰叢林先達者不敢相觸忤若是初心後學未信直須信取未省直須省取不用掠虛諸人本分去處未有一時不顯露未有一物解蓋覆得如人若要知不用移絲髮地不用少許工夫但向博地凡夫位中承當取豈不省心力既能省得便與諸佛齊眉依而行之緣此事是箇白淨去處今日須得白淨身心合他始得自然合古合今脫生離死古人云識心達本解無為法方號沙門如今諸官大眾各須體取好莫全推過師僧分上佛法平等上至諸佛下至

一切共同此事既然如此誰有誰無王事之外亦須努力適來說如許多般盖不得已而已莫道從上宗門合恁麼語話秖如從上宗門合作麼生還想悉麼若有人想悉山僧今日雪得去也久立大眾珍重示坐禪方便頌曰
四威儀內坐為先澄濾身心漸坦然瞥爾有緣隨濁界當須莫續是天年修持秖學從功路至理寧論在那邊一切時中常管帶因緣相湊豁通玄

宋省常

錢塘人七歲出家淳化中住昭慶慕廬山之風結淨行社於西湖士夫預會者百二十人而王文正公旦為之首比丘亦千人焉翰林蘇易簡作淨行品序至謂余當布髮以承其足剜身以請其法猶尚不辭況陋文淺學而有惜哉天禧四年正月十二日端坐念佛有頃厲聲唱云佛來迎也泊然而化

子元禪師

號萬事休平江崑山茅氏子母柴氏夜夢佛一尊入門遂生因名佛來父母早亡投本州延祥寺志通出家習誦法華經十九歲落髮習止觀禪法一日正定中聞雅聲悟道乃有頌曰　二十餘年紙上尋尋來尋去轉沉吟忽然聽得慈雅叫始信從前錯用心　於是利他心切發廣度願乃慕廬山遠公蓮社遺風勸人皈依三寶受持五戒乃撮集大藏要言編成白蓮晨朝懺儀代為法界眾生禮佛懺悔祈生安養後往澱山湖舟立白蓮懺堂同修淨業述圓融四上三觀選佛圖開示蓮宗眼目四十六歲障臨江州逆順境中未嘗動念隨方勸化即成頌文目曰西行集乾道二年壽聖高宗詔至德壽殿演說淨土法門特賜勸修淨業白蓮導師慈照宗主就居錢塘西湖昭慶寺祝聖謝恩佛事畢嘗為九有四生發大誓言願大地人普覺妙道每以四字為定名之宗示導教人專念彌陀同生淨土從是宗風大振師集彌陀節要法華百心證道歌風月集行於世明年三月二十三日於鐸城倪普建宅告諸徒曰吾今化緣已畢當於此時行矣言訖合掌辭眾奄然示寂二十七日茶毘舍利無數

玉泉寺

齊玉泉法師

名曇超姓張氏清河人身長八尺蔬食布衣獨宿山林虎兕不傷建元末棲錢塘靈苑山夏常講經有一老人來聽詰其姓氏曰我非人乃龍也居富春鹿山之下鄉民鑿山侵龍居龍忿不雨今累月矣屈師一往誨化羣龍

師允其請且曰吾此地亦無水汝能致之乎老人即撫掌泉自湧出今玉泉是也師乃往彼結壇為龍受戒浮舟講經雨大霑洽嘉定三年賜號靈悟大師

懿禪師

久依圓悟自謂不疑紹興初出住興化祥雲法席頗盛大慧入閩知其所見未諦致書令來師遲遲慧小叅且痛斥仍榜告四眾師不得已破夏謁之慧鞫其所證既而曰汝恁麼見解敢嗣圓悟老人耶師退院親之一日入室慧問我要個不會禪底做國師師曰我做得國師去也慧喝出居無何語之曰香巖悟處不在擊竹邊俱胝得處不在指頭上師乃頓明

虎跑寺

唐杭州大慈山釋寰中

姓盧氏河東蒲坂人稟靈特異挺質殊倫聲若鐘響色猶脂凝學通終古辭實豐贍年二十五隨計中甲科然未塞其懷無何遭母憂廬墓服闋徑往北京童子寺出家二稔未周諸經皆覽明年往嵩嶽登戒肄習律部於茲博通忽慕上乘决往百丈山深得玄旨後隱南嶽常樂寺結茅山椒諫議大夫崔公深重其操因別立方丈虞淵景晞一飯永日然苦乏水羸瓶遠求俄爾深宵有虎嗥嘯廬側詰旦視之果檻泉坼地而湧足其汲用後之杭有山號大慈居未久檀信爰臻旋成巨院四方僧侶叅禮如雲壬午歲終時漸潠暑驗其身一無變異而頂門燠潤如冬窣於塔所享年八十三法臘五十四至乾符丁酉歲勅謚大師號性空塔名定慧縉雲太守段成式為真讚焉

慧因寺

慧因懷祥禪師

上堂云南山高北山低日出東方夜落西白牛上樹覓不得烏鷄入水大家知且道覓得後又如何良久曰堪作甚麼

慧因義寧禪師

僧問佛未出世時如何師曰摩耶夫人曰出世後如何師曰悉達太子

淨源住慧因院見長水諸師

專精雜花因合二疏及製此經之懺而解羣經文亦精勤高麗義大師焉

法相寺

長耳和尚

名行修住法相寺幼勤課誦雪峯存公曳其耳至於肩入城士女每牽其耳結於頤下修惟默笑或勸修福能遮百醜永明壽語錢王此定光佛應身也修聞之曰彌陀饒舌遂坐化今漆身猶存追諡宗慧

六通寺

五代杭州六通慈德僧彥求

姓葉氏縉雲人也梁均王貞明年間納戒造景霄律席迥見毘尼祕邃方將傳講我悟沓婆羅漢反求堅固法乃游閩嶺得長慶祖傳心訣迴浙受丹丘人請居六通院其道望惟馨漢南國王錢氏欽其高行復命住功臣院終於龍華寺四遠人聚日有千僧食大作佛事也

宋杭州龍興宗靖禪師

台州人也初叅雪峯密承宗印乃自誓充飯頭服勞逾十載常於眾堂中袒一膊釘簾雪峯覩而記曰汝向後住持有千僧其中無一人衲子也師悔過辭歸故鄉住六通院錢王命居龍興寺有眾千餘惟三學講訟之徒果如雪峯所誌周廣順初年八十一錢王請於寺之大殿演無上乘黑白駢擁僧問如何是六通奇特之倡師曰天下舉去問如何是六通家風師曰一條布衲一觔有餘僧問如何是學人進前一路師曰誰敢謾汝曰豈無方便師曰早是屈抑也問如何是和尚家風師曰早朝粥齋時飯曰更請和尚道師曰老僧困曰畢竟作麼生師大笑而已錢王特加禮重屢延入府以始住院署六通大師顯德元年甲寅季冬月示滅壽八十四塔於大慈山

龍井寺

宋杭州龍井通禪師

處樓上座問如何是龍井龍師曰意氣天然別神工畫不成曰為什麼畫不成師曰出羣不戴角不與類中同曰還解行雨也無師曰普潤無邊際

處處皆結粒曰還有宗門中事也無師曰有曰如何是宗門中事師曰從來無形段應物不曾虧問如何是吹毛劍師曰拽出死屍著

宋辯才淨法師

名元淨字無象於潛徐氏生而左肩肉起如袈裟縧八十一日乃滅父嘆曰是宿世沙門也自幼出家受業於慈雲日夜精勤慈雲沒後復事明智年二十五賜紫衣及辯才號太守沈公遘謂上天竺觀音道場以音聲懺悔為佛事非禪那居請師以教易之師至吳越競來鑿山增室幾至萬礎學者數倍十七年有利而奪之者逾年敗復以舁師趙清獻公贊之云師去天竺空山鬼哭天竺師歸道場光輝越二年謝去老於南山龍井之上平生精修淨業行成力具著應非一嘗與僧熙仲同食仲視師眉間有光如螢攬之得舍利後常有於臥起處得舍利者元祐八年示寂壽八十一果符初生肩痕之徵塔成東坡誌其行事穎濱為銘

五雲院

杭州五雲山華嚴道場志逢大師

餘杭人也生惡葷血膚體香潔幼歲出家於本邑東山朗瞻院早年受具通貫三學了達性相嘗夢陞須彌山覩三佛列坐初釋迦次彌勒皆禮其足惟不識第三佛但仰視而已時釋迦示之曰此是補處彌勒師子月佛師方作禮覺後因閱大藏經乃符所夢天福中遊方抵天台出雲居道場參國師賓主緣契頓發玄秘一日因入普賢殿中宴坐倏有一神人跪膝於前師問曰汝其誰乎曰護戒神也曰吾患有宿愆未殄汝知之乎曰師有何罪唯一小過耳師曰何也曰凡折鉢水亦施主物師每常傾棄非所宜也言訖而隱師自此洗鉢水盡飲之積久因致脾胃疾十載方愈吳越國王嚮其道風召賜紫署普覺大師初命住臨安功臣院玄侶輻湊師上堂曰諸上座捨一知識而叅一知識盡學善財禮游之式樣也且問上座只如善財禮辭文殊擬登妙峰山謁德雲比丘及到彼所何以德雲却於別峰相見夫教意祖意同一方便終無別理彼若明得此亦昭然諸上座即令簇著老僧是相見是不相見此處是妙峰是別峰脫或從此省去可謂不孤負老僧亦嘗見德雲比丘未嘗剎那相捨離還信得及麼僧問叢林舉唱曲為今時如何是功臣的的意師曰見麼曰恁麼即大眾咸欣也師曰將謂師子兒問佛佛授手祖祖傳心未審和尚傳箇什麼師曰汝承當得麼曰學人承當不得還別有人承當得否師曰大眾笑汝問如何是如來藏師曰恰問著問如何是諸佛機師曰道是得麼師一日上堂良久曰大眾看看便下座歸方丈開寶初忠懿王創普門精舍三請住持再揚宗要即普門第一世師上堂曰古德為法行

脚實不憚勤勞如雪峰和尚三迴到投子九度上洞山盤桓徃返尚求箇入路不得看汝近世叅學人纔跨門來便待老僧接引指掌說禪且汝欲造玄極之道豈當等閒况此事悟亦有時操求焉得汝等要知悟時麼如今各且下去堂中靜坐直待仰家峰點頭老僧即為汝說時有僧出曰仰家峰點頭也請師說師曰大眾且道此僧會老僧語不會老僧語其僧禮拜師曰今日偶然失鑒問如何是普門家風師曰幾人觀不足曰如何是普門境師曰汝到處且問家風了休開寶四年師固辭國主稱年老願依林泉頤養時大將凌超以五雲山新創華嚴道場奉師為終老之所雍熙二年乙酉十一月忽示疾二十五日命侍僧辦香水盥沐跏趺而坐良久告寂壽七十七臘五十八塔曰寶峰常照

開化寺

月輪山開化傳法大師

行明本州人也姓于氏少投明州雪竇山智覺禪師披剃及智覺遷住永明大道場有徒二千王臣欽仰法化彌盛師自天台受記迴永明翼贊本師海眾傾仰開寶八年智覺歸寂師遂住能仁寺忠懿王又建大和寺延請住持二處皆聚徒說法僧問如何是開化門中流出方便師曰日日潮音兩度聞問如何是無盡燈師曰謝闍黎照燭太宗皇帝賜紫衣師號咸平四年四月六日示滅

宋僧統賛寧法師

姓高氏其先世渤海人天祐中師生於吳興郡之德清金鵞別墅出家杭之祥符習南山律宗著述毘尼時人謂之律虎文學日茂聲望日隆武肅諸王公族咸慕重之署為兩浙僧統賜號明義宗文興國三年太宗聞其名詔對滋福殿延問彌日改賜通慧詔修大宋高僧傳三十卷又詔撰三教聖賢事一百卷初補左街講經首座知西京教門事咸平初加右街僧錄師又著內典集一百五十卷外學集四十九卷內翰王禹偁作文集序極其賛美又有書稱其文辭末云所謂時雨降矣日月出矣灌溉爝火復何為哉至道二年示寂葬龍井塢崇寧四年加謚圓明

天龍寺

五代杭州天龍寺重機明真大師

台州黃巖人自玄沙得法迴入浙中錢武肅王請說法住持上堂示眾曰若獨舉宗風獨唱本分事便同於頑石若言絕凡聖消息無大地山河盡十方世界都是一隻眼此乃事不獲已恁麼道所以常說盲聾瘖瘂是仙陀滿眼時人不奈何只向目前須體妙身心萬象與森羅僧問如何是璿璣不動師曰青山數重僧曰如何是寂爾無根師曰白雲一帶問如何是歸根得旨師曰兔角生也僧曰如何是隨照失宗師曰龜毛落也問蓮華未出水時如何師曰誰人不知有僧曰出水後如何師曰馨香目擊問朗月輝空時如何師曰正是分光景何消指玉樓

天龍俱胝和尚

初住庵時有尼名實際來戴笠子執錫遶師三匝曰得道即下笠子如是三問師皆無對尼便去師曰日勢稍晚何不且住尼曰道得即住師又無對尼去後師歎曰我雖處丈夫之形而無丈夫之氣不如棄菴往諸方叅尋知識去其夜山神告曰不須離此將有肉身菩薩來為和尚說法也逾旬果天龍和尚到菴師乃迎禮具陳前事龍豎一指示之師當下大悟自此凡有學者叅問師唯舉一指無別提唱有一供香童子每見人問事亦豎指祇對人謂師曰和尚童子亦會佛法凡有問皆如和尚豎指師一日潛抽刀子問童曰聞你會佛法是否童曰是師曰如何是佛童豎起指頭師以刀斷其指童叫喚走出師召童子童回首師曰如何是佛童舉手不見指頭豁然大悟師將辭世謂眾曰吾得天龍一指頭禪一生用不盡言訖示滅

後唐杭州天龍寺釋道怱

俗姓陳永嘉人卯總性殊常惡腥血親黨強啖以枯魚即嘔噦求出家於開元寺具戒已游閩入楚言叅問善知識要決了生死根源見臨川曹山寂公大有徵詰頓息疑於雪峰閩中謂之小怱布衲時大原同名以年臘之高故暨迴浙住越州鏡清院時皮光業者日休之子辭學宏贍探賾禪門嘗深擊難焉退而謂人曰怱公之道崇論閎議莫臻其極錢武肅王欽慕命居天龍寺私署順德大師次文穆王創龍冊寺請怱居之吳越禪學自此而興以天福丁酉歲八月示滅春秋七十荼毘於大慈山塢收拾舍利起塔於龍姥山前故僧主彙征撰塔銘今舍利院弟子主之香火相綴焉

杭州天龍和尚

上堂云大眾莫待上來便上來下去便下去各有華藏性海具足功德無礙光明各各叅取珍重僧問如何是祖師意師豎起拂子僧問如何得出三界去師云汝即今在什麼處

宋杭州天龍秀禪師

上堂謂眾曰諸上座多少無事十二時中在何世界安身立命且子細點檢看何不覓箇歇處因什麼却與別人點檢若恁麼去早落第二頭也時有僧問承師有言恁麼去早落第二頭學人總不恁麼上來師如何辨白師曰汝却作家曰恁麼即今日得遇於師也師曰汝且莫詐明頭問承古有言二人俱錯未審古人意旨如何師曰汝何人自檢責曰恁麼即人天有賴也師曰汝不妨靈利本國署清慧大師

龍華寺

宋龍華真覺大師

靈照高麗人萍游閩越升雪峰之堂冥符玄旨居惟一衲服勤眾務閩中謂之照布衲一夕指半月問溥上座那一片什麼處去也溥曰莫妄想師曰失却一片也眾雖歎美而恬澹自持初止婺州齊雲山上堂良久忽舒手視其眾曰乞取些子乞取些子又曰一人傳虛萬人傳實僧問草童能歌舞未審今時還有無師下座作舞曰沙彌會麼僧曰不會師曰山僧蹋曲子也不會問靈山會上法法相傳未審齊雲將何付囑師曰不可為汝一人荒却齊雲也曰莫便是親付囑也無師曰莫令大眾笑問還丹一粒點鐵成金至理一言點凡成聖請師一點師曰還知齊雲點金成鐵麼曰點金成鐵未之前聞至理一言敢希垂示師曰句下不薦後悔難追師次居越州鏡清院海眾悅隨一日謂眾曰盡令去也僧曰請師盡令師曰吽吽問如何是學人本分事師曰鏡清不惜口問請師雕琢師曰八成曰為什麼不十成師曰還知鏡清生修理麼師問僧什麼處來曰五峰來師曰來作什麼曰禮拜和尚師曰何不自禮曰禮了也師曰鏡湖水淺問如何是第一句師曰莫錯下名言曰師豈無方便師曰烏頭養雀兒問向上一路千聖不傳未審什麼人傳得師曰千聖也疑我曰莫便是傳也無師曰晉帝斬嵇康問釋迦掩室於摩羯淨名杜口於毘耶此意如何師曰東廊下兩兩三三師謂眾曰諸方以毘盧法身為極則鏡清遮裏即不然須知毘盧有師法身有主問如何是毘盧師法身主師曰二公爭敢論問古人道見色便見心此即是色那阿箇是心師曰恁麼問莫欺山僧麼問未剖以前請師斷師曰落在什麼處曰恁麼即失口也師曰寒山送潙山後湖守錢公上杭之西關創報慈院延請開法禪會翕然依附尋而錢王建龍華寺迎金華傅大士靈骨道具寘焉命師住持晉天福十二年丁未閏七月二十六日終於本寺壽七十八塔於大慈山

契盈廣辯周智大師

本福州黃蘗山受業於長慶領旨住後僧問如何是龍華境師曰翠竹搖風寒松鎖月僧曰如何是境中人師曰切莫唐突問如何是三世諸佛道場師曰莫別瞻禮僧曰恁麼則亘古亘今師曰是什麼年中問如何是黃蘗山主師曰謝仁者相訪問如何是黃蘗境師曰龍吟瀑布水雲起翠微峰

慧居禪師

開堂示眾曰從上宗乘到這裏如何舉唱秖如釋迦如來說一代時教如鉼注水古德尚云猶如夢事寮語一般且道據甚麼道理便甚麼道還會麼大施門開何曾壅塞生凡育聖不漏纖塵言凡則全凡舉聖則全聖凡聖不相待個個獨稱尊所以道山河大地長時說法長時放光地水火風一一如是時有僧出禮拜師曰好個問頭如法問著僧擬進前師曰又沒交涉也上堂云龍華這裏也秖是拈柴擇菜上來下去晨朝一粥齋時一飯睡後喫茶但恁麼叅取珍重

勝果寺

無著禪師

名文喜嘉興朱氏年七歲依本邑常樂寺國清出家剃染習律聽教屬武宗汰教反服韜晦宣宗初再度於鹽官齊峰寺徃五臺禮文殊遇一老翁牽牛而行邀師入寺翁縱牛引師陞堂翁踞牀指繡墩命坐翁曰近自何來師曰南方翁曰南方佛法如何住持師曰末法比丘少奉戒律翁曰多少眾師曰或三百或五百師却問此間佛法如何住持翁曰龍蛇混雜凡聖同居師曰多少眾翁曰前三三後三三翁呼童子均提致茶又進酥酪翁拈起玻瓈盞問曰南方還有這箇盃師曰無翁曰尋常將甚麼喫茶師無對辭別翁令童子相送師問童子前三三後三三是多少童召大德師應諾童曰是多少師曰此為何處童曰此金剛窟般若寺也師恍然悟彼翁者文殊也即稽首童子願乞一言為別童說偈曰　面上無嗔供養具口裏無嗔吐妙香心裏無嗔是珍寶無垢無染是真常　言訖均提與寺俱隱懿宗咸通三年師至洪州龍興觀音叅仰山寂禪師頓悟心法後回浙西住龍泉寺杭州錢王奏賜紫衣署無著禪師至是光化三年十月三日告眾曰三界心盡即是涅盤言訖跏趺而逝壽八十歲塔於鷲峯靈隱之西塢哀帝天祐二年叛兵發師塔肉身不壞髮爪俱長錢王鏐聞之遣裨將邵志重加封塋宋寧宗嘉定十三年遷葬大慈山智覺壽禪師塔左

僧淨梵

嘉禾人姓笪氏母夢光明滿室見神人似佛因而懷娠生甫十歲依勝果寺出家祝髮從湛謙二法師學教得其傳初住無量壽院凡講法華經十餘過大觀中結二十七僧修法華懺每期方便正修二十八日連作三會精恪上通感普賢受羯摩法呼淨梵比丘名聲如撞鐘時長洲縣宰王公度親目其事題石為記又常夢黃衣人請入冥見王者令檢簿云淨梵比丘累經刼數講法華經即遣使送歸一日禪觀中合眾皆見金甲神人胡跪師前又在他處懺期蒙韋馱天尊點檢大眾中有戒不嚴淨者先以預定後果懺法不全時姑蘇守應公有婢為祟所惱請師授戒其妖即滅葛氏請施戒薦夫見夫繞師三匝而去待制賈公見師道行即補為管內法主師住持十餘年亡後焚軀有舍利五色

報國寺

大元杭州鳳山大報國廣智全悟笑隱訢禪師

延祐七年四月二十三日入寺開堂拈香云此香爇向寶鑪端為祝延今上皇帝聖躬萬歲萬歲次拈香云此香奉為江淛等處行中書省官行宣政院官洎諸衙門文武官僚資培祿算又拈香云此香昔年大雄峰頂一句下承當今日鳳凰山中五眾前拈出奉為前住徑山後住大仰佛智禪師晦機大和尚用酬法乳之恩就座問荅罷乃云孤峰頂上目視雲霄無乃埋沒己靈十字街頭和泥合水且貴流通正眼拈拄杖云釋迦已滅彌勒未生正當今日千聖命脉列祖鉗鎚總在新報國手裏拈起也七穿八穴頭頭現無邊妙身放下也鑑地輝天處處彰寶王剎海說甚溪山各異雲月是同至化無為功不宰蕩然一片古皇風復舉志公令人傳語思大云何不下山教化眾生去一向目視雲漢作什麼思大云三世諸佛被我一口吞盡何處更有眾生可度師云思大被志公一拶直得倒退三千進退兩序上堂云心空及第選佛何必選官荷負叢林為眾一似為己報國為法擇人量才授職如樂奏九成左右進退無不合度只如一喝分賓主照用一時行諸人作麼生甄別喝一喝九萬里鵬纔奮迅三千年鶴便翱翔上堂舉黃龍南禪師室中垂語云我手何似佛手我脚何似驢脚人人有箇生緣那箇是上座生緣師云黃龍三關如商君立法法雖立而廢先王之道故當時出其門者甚多得其傳者益寡使其恪守慈明家法子孫未致斷絕師一日問僧甚處來僧云遊山來師云笠子下拶破洛浦遍叅底作麼生僧云未入門時已呈似和尚了也師云即今為什麼不拈出僧擬議師便打

大明楚石禪師

諱梵琦字楚石明州象山人朱姓母張氏元元貞二年丙申六月丁巳生在襁褓有僧謂其父曰此子必當振佛法照曜濁世九歲從海鹽天寧訥公受業十六為僧二十侍族祖晉翁洵公因閱楞嚴至緣見因明暗成無見不明自發則諸暗相永不能昏於此有省元於向上一著尚有滯礙元叟端和尚主徑山往叅謁問如何是言發非聲色前不物叟遽云言發非聲色前不物速道速道師擬進語叟震威一喝師乃錯愕而退已而應書寫大藏之選至京師崇天門一夕聞綵樓上鼓聲豁然大悟東歸再叅元叟叟笑迎曰且喜大事了畢未幾出世海鹽之福臻至元乙亥遷杭之報國洪武元年九月十一日徵師說法於蔣山上大悅又明年七月復被召二十六日偈曰真性圓明本無生滅木馬夜鳴西方日出端坐而逝闍維齒舌數珠不壞有語錄二十卷及西齋淨土詩行世

萬壽寺

宋杭州靈鳳山萬壽法詮禪師

僧問如何是佛師曰抱樁打拍浮曰如何是法師曰黃泥彈子曰如何是僧師曰剃除髮鬚曰三寶外還別有為人處也無師舉起一指僧曰不會師曰指在唯觀月風來不動幡上堂云德山棒臨濟喝盡是無風波市市燈籠[跳-兆+孛]跳過青天露柱醜驚頭惱裂然雖如是大似食鹽加得渴喝一喝

靈芝寺

宋大智元照律師

字湛然餘杭唐氏少依祥符東藏慧鑑師學毘尼及見神悟謙公講天台教觀遂摳衣出門博究羣宗以律為本又從廣慈受菩薩戒戒光發見頓漸律儀罔不兼備南山一宗蔚然大振常披布伽黎杖錫持鉢乞食於市楊無為贊之曰持鉢出持鉢歸佛心常在四威儀初入廛時人不識虛空常有鬼神知四主郡席晚居靈芝凡三十年眾常數百嘗言化當世莫若講說垂將來莫若著書撰次持濟緣行宗應法住法報恩諸記十六觀小彌義疏及剛定律尼本共百餘卷芝園集二十卷自號安忍子政和六年秋命諷普賢行願品趺坐而化漁人聞天樂聲建塔靈芝西北諡大智

佛印名了元

居靈芝寺二歲通語論五歲日誦詩三千首稍長通五經因喜楞嚴語入釋得旨納公與蘇軾倡酬時策勵之聽客語合心一笑軒渠而化

千佛寺

漢錢塘千佛釋希覺

字順之姓商氏世居晉陵覺生於溧陽家系儒墨屬唐季喪亂累被剽掠自爾貧窶嘗傭書於給事中羅隱家偶問名居隱曰毘陵商家兒何至於此歎息再三多與顧直勸歸鄉修學至年二十五嘆曰時不我與或服冕乘軒皆一期爾忽求出家於溫州開元寺文德元年也龍紀中受戒續揣摩律部稟教於西明寺慧則律師時在天台山也則乃法寶大師之高足廣明中關中喪亂避地江表覺始窺其牆終見室家瓌富以則出集要記解南山鈔不稱所懷何耶古德妄相穿鑿各競師門流蕩忘返覺遂著記廣之曰增暉錄盖取曹植云螢燭末光增暉日月謙言增暉集要之日月也二十卷成部浙之東西盛行斯錄暨乎則公長往乃講訓於永嘉武肅王錢氏季弟鏵牧是郡深禮重焉尋為愚僧所誣憩釋而不問徙於杭大錢寺文穆王造千佛伽藍召為寺主借紫私者曰文光大師焉四方學者騁騖而臻覺外學偏多長於易道著會釋記二十卷解易至上下繫及末文甚脩常為人較演此經付授於都僧正賛寧及乎老病乞解見任僧職既遂所懷惟嘯傲山房以吟詠為樂年八十一然猶抄書籍異本曾無告倦永終之前捨衣物作現前僧得施復普飯一城僧自此困憊每睡見有一人純衣紫服肌膚軟弱如綿纊焉意自相伴纔欲召弟子將至此人舒徐下牀後還如故親向賛寧說此某知是天人耳囑託言畢而絕享年八十五生常所著擬江東說書五卷雜詩賦十五卷汪林鼎金陵懷古百韻詩雜體四十章覺之執持未嘗弛放勤於講訓切於進修學則彌老而不休官則奉身而知退可謂高志其事名節俱全長者之風藹然如在所居號釋氏西齋慕吳兢之蘊積編簡焉

慈光寺

宋釋晤恩

字修己常熟人姓路母張氏嘗夢梵僧入其家而妊焉及稚孺見沙門相必起迎遲年十三聞誦彌陀經遂求出家親黨饒愛再三阻之乃投破山興福寺受訓後唐長興中受滿分戒登徃崑山慧聚寺學南山律晉天福初從檇李皓端師聽習經論懸解之性天然時輩輒難抗敵後微聞天台三觀六即之說冥符意解漢開運中造錢塘慈光寺志因師講貫彌年通達法華光明經止觀論咸洞玄微尋施覆述出弟子相次角立雍熙三年八月朔日

恩於中夜覩白光自井而出明滅不恒謂門人曰吾報齡極於此矣乃絕粒禁言一心念佛次夢擁衲沙門執金爐焚香三遶其室自言祖師灌頂來此相迎汝當去矣夢覺呼弟子至猶聞異香至二十五日為弟子說止觀旨歸及觀心義辰時端坐面西而化享年七十五僧臘五十五其夜院僧有興文偃等皆聞空中絲竹嘹亮而無鞔鼓且多鈴鐸漸久漸遠依稀西去迨九月九日依西域法焚獲舍利青白圓粒無算恩平時謹重一食不離衣鉢不畜財寶臥必右脇坐必跏趺弟子輩設堂居亦同今之禪室立制嚴竣日別親視明相方許淨人施粥曾有晚飲薯蕷湯者即時擯出黌堂每一布薩則潸洒不止蓋思其大集滿洲之言耳徧誨人以彌陀淨業救生死事受教得生感祥可見者往往有之凡與人言不問賢不肖悉示以一乘圓意或怪不逗機者乃曰與作毒鼓之緣耳不喜雜交游不好言世俗事雖大人豪族未嘗輒問名居況迂趨其門乎先是天台宗教會冒毀廢文義殘缺談妙之辭沒名不顯恩尋繹十妙之始終研覈五重之旨趣講大玄義文句止觀二十餘周解行兼明目足雙運使法華大旨全美流於代者恩之力也又嫌昔人科節與荊溪記不相符順因著玄義文句止觀金光明金錍論科總三十五帖見行於世吁河漢中有魚泝流而上者何潛泳有所取故恩公不寬乘戒而出弟子十有七人求解而行行耳

立中成禪師

錢塘女北鄉孫氏子也母夢比丘風神炯然荷錫求宿已而孕生香霧滿室彌日不散幼不茹葷年十三求出家父母許之投慈光寺若山安公為師受具首謁淨慈祖芳聯公請益垂語臘月火燒山句即呈頌曰　白雲迷却舊行蹤臘月燒山火正紅再得慈風來扇發冷冰冰處煖烘烘　師深器之命入室侍香解職歸造北郭普明禪寺退席重整本山宏開法席海眾常臻正統辛酉六月三十日上堂說偈曰今年八十一老病隨緣且遣日今年記著後年事後年記著今朝日至癸亥八十三焚沐坐化月日無爽停龕九日不變如生茶毘之際送者溢路無不涕泣獲五色舍利無筭建塔於普明本師窣堵波之側豫章祝振志揚勒石記銘篆額為慈光堂上迄今碑塔現存此窣堵波宋時八景之一也恐後湮滅載此以祀永遠云

仁王寺

杭州仁王復禪師

僧問承古有言向上一路千聖不傳如何是何上不傳底事師曰向上問將來曰恁麼即上來不當去也師曰既知如此蹋步上來作什麼

總校官庶吉士(臣)朱鈐
校對官中書(臣)吳甸華
謄錄監生(臣)吳炳文
詳校官太僕寺少卿(臣)李廷欽
編修(臣)程嘉謨覆勘

欽定四庫全書　武林梵志卷十一

明　吳之鯨　撰

報恩寺

五代杭州報恩慧明禪師

姓蔣氏幼出家參學精練志探玄旨乃南遊於閩越間歷諸禪會莫契本心後至臨川謁淨慧禪師師資道合尋迴鄱水大梅山菴居時吳越部內禪學者雖盛而以玄妙正宗置之門外師欲整而導之一日有二禪客到師問曰上座離什麼處曰都城師曰上座離都城到此山則都城少上座此山剩上座剩則心外有法少則心法不周說得道理即住不會即去其二禪客不能對新到僧問如何是大梅主師曰闍黎今日離什麼處僧無對師尋遷于天台山白沙卓菴時有明彥上座博學強記來訪師敵論宗乘師曰言多去道遠矣今有事借問只如從上諸聖及諸先德還有不悟者也無明彥曰若是諸聖先德豈不有悟者哉師曰一人發真歸源十方虛空悉皆消殞今天台山嶷然如何得消殞去明彥不知所措自是他宗泛學來者皆服膺矣漢乾祐中吳越忠懿王延入王府問法命住資崇院師盛談玄妙宗一大師及地藏法眼宗旨臻極王因命翠巖令參等諸禪匠及城下名公定其勝負天龍禪師問曰一切諸佛及諸佛法皆從此經出未審此經從何而出師曰道什麼天龍方再問師曰過也資嚴長老問如何是現在三昧師曰還聞麼曰某甲不患聾師曰果然患聾

法安禪師

初住曹山上堂云知幻即離不作方便離幻即覺亦無漸次諸上座且作麼生會不作方便又無漸次古人意在甚麼處若會得諸佛常現前若未會莫向圓覺經裏討夫佛法亘今未嘗不現前諸上座一切時中咸承此威光須具大信根荷擔得起始得不見佛讚猛利底人堪為器用亦不賞他向善久修淨業者要似他廣頴兇屠拋下操刀便證阿羅漢果直須恁麼始得所以長者道如將梵位直授凡庸

宋釋永安

姓翁氏溫之永嘉人少歲淳厚黃中通理遇同郡彙征大師風鳴越嶠玉瑩藍田護落文心沉潛學奧以其出樂安孫郃拾遺之門也而有慕上之心往拜而乞度然征性高岸而寡合安事之也曲從若環盖哀其幼知擇師

耳天成中隨侍出杭俄有從十二頭陀之意潛逃欲登閩嶺叅問禪宗屬封疆艱棘卻迴結菴于天台後遇韶禪師法席頓遣羣疑重來禮征咄之曰棄背孝養爾日速辜遺行于斯還有裨補前咎記否安跪對曰從來無事請用塞責征肯頷之漢南國王錢氏召居報恩寺署號禪師焉乃以華嚴理論為會要因將合經募人雕板印而施行每有檀施罕聞儲蓄迴捨二田矣以開寶甲戌歲終而焚之其舌存焉累投火煅色雖同乎熾炭寒則柔弱今藏普賢道塲中

慧月禪師

法端上堂云數夜與諸上座東語西話猶未盡其源今日與諸上座大開方便一時說却還願樂也無久立珍重僧問學人恁麼上來請師接師曰不接曰為什麼不接師曰為汝太靈利

通辨明達禪師

紹安師上堂云一句染神萬刼不朽今日為諸上座舉一句分明記取珍重僧問大眾側聆請師不吝師曰奇怪曰恁麼即今日得遇于師也師曰是何歟師有時示眾曰幸有樓臺帀地常提祖印不妨諸上座參取久立珍重問如何是和尚家風師曰一切處見成曰恁麼即亘古亘今也師曰莫閒言語

玄則禪師

頌初問青峯如何是學人自己峯曰丙丁童子來求火後謁法眼眼問甚處來師曰青峯眼曰青峯有何玄句師舉前話眼曰上座作麼生會師曰丙丁屬火而更求火如將自己求自己眼曰與麼會又爭得師曰某甲秖與麼未審和尚如何眼曰你問我我與你道師問如何是學人自己眼曰丙丁童子來求火師于言下頓悟開堂日李王與法眼俱在會僧問龍吟霧起虎嘯風生學人知是出世邊事到此為甚麼不會師曰會取好僧舉頭看師及看法眼乃抽身入眾法眼與李王當時失色眼歸方丈令侍者喚問話僧至眼曰上座適來問底話許爾具眼人天眾前何不禮拜盖覆卻眼摵一坐具其僧三日後吐光而終

從[王*(十/(罩-卓+衣))]禪師

福州人也姓陳氏少投石梯出家初住越州稱心寺後住茲院僧問古人有言今人看古教未免心中鬧欲免心中鬧應須看古教如何是古教師

曰如是我聞僧曰如何是心中閙師曰那畔雀兒聲師於開寶六年癸酉六月十四日辰時沐浴易衣告門人付囑訖右脇而逝

法輪寺

法輪端禪師

謁真淨文禪師機不諧至雲居會靈源分座為眾激昂師扣其旨然以妙入諸經自負源嘗痛箚之師乃援馬祖百丈機語及華嚴宗旨為表源笑曰馬祖百丈固錯矣而華嚴宗旨與箇事喜沒交涉師憤然欲他往因請辭及揭簾忽大悟汗流浹背源見乃曰是子識好惡矣馬祖百丈文殊普賢幾被汝帶累

添禪師

上堂喝一喝曰師子哮吼又喝一喝曰象王嚬呻又喝一喝曰狂狗趁塊又喝一喝曰鰕跳不出斗乃曰此四喝有一喝堪與祖佛為師明眼衲僧試請揀看若揀不出大似日中迷路

妙行寺

思淨錢

唐喻氏建妙行院于北關接待供僧三百萬畫阿彌陀佛入於神妙楊侍郎傑贊為喻彌陀人從而稱之淨於西湖孤山之北鐫石為大佛頭紹興十年十一月七日入寂禮部侍郎張九成銘其塔

香積寺

宋三藏法師

名法道舊名永道順昌毛氏出家宗唯識百法二論又受西天總持三藏密咒軌及傳圓頓戒法於圓照師咸得其要政和中賜椹衣主左街香積院賜號寶覺林靈素以左道罔上宣和初詔改僧為道士服冠巾天下從之無敢後師獨毅然抗詔黥流道州後七年還僧建炎三年賜號圓通法濟紹興間召對上面命欲為之去其涅跡師曰雖感聖恩然先皇之墨不忍除也上曰這僧到老倔強許自便故事道塲僧左道右崇觀以來遂易舊制師不

能平詣朝廷與道士劉若謙論辨卒獲改正十七年秋說偈端坐而化荼毗舍利無數建塔九里松

僊林寺

大明師

號雪庭一號梅雪隱人杭仁和籍父姓桂名徵母徐氏昆仲三人師最少以景泰丙子生毀齒喪父患痘風因得目疾數求出家十五尋師唯邪解成化癸巳參休休翁于郡城仙林寺一見契合受無字公案十七祝髮日夜研究滯沉寂之境座元某勉使看教因閱楞嚴至一毫端上現寶上剎有疑後在江陰乾明寺忽覩萬佛閣金碧崢嶸於眉宇間偶會得毫端現剎之句弘治改元除夕聞鐘聲數年行履忽爾活脫信口偈云　員響心非聞大千同一照抹過上頭關更不存玄妙　乙卯又隨休休翁於淨慈寺乃蒙印可所著有請益警進拈古頌古擬寒山和永明詩偈等凡二十卷號幻寄集行世

廣化寺

錢唐廣化住持覺宗

聖台之黃巖人俗姓蔡始從夢堂於四明時怪石住大慈招師居侍司未幾又從石室學詩日臻其奧若趙子昂虞伯生張仲舉輩皆稱賞之後參南堂於本覺南堂曰汝自是了事人但聞見太多隘塞胷次以致本地風光不能發現於是隨問曰如何是佛南堂曰晨朝有粥齋時有飯擬再進說破次日謁云和尚開大爐鞴鎔鍛聖凡我正如一塊頑鈍鋌投入其中以求鍛煉成就美器若不能者是和尚之爐鞴欠熱耳南堂念其虔懇曲誘之曰我此法門只貴直截承當不在世智辨聰也汝須捨世智向父母未生以前道一句看宗聖無語遂效古人頂彌勒佛像旦暮行道祈生內院一日取平生詩文稿悉火之乃逝

崇先寺

宋杭州崇先真歇清了禪師

左綿雍氏子襁褓入寺見佛喜動眉睫咸異之年十八試法華得度往成都大慈習經論領大意出蜀至沔漢扣丹霞之室霞問如何是空劫已前自己師擬對霞曰你閒在且去一日登鉢盂蜂豁然契悟徑歸侍立霞掌曰

將謂你知有師欣然拜之翼日霞上堂曰日照孤峰翠月臨溪水寒祖師玄妙訣莫向寸心安便下座師直前曰今日陞座更瞞某不得也霞曰你試舉我今日陞座看師良久霞曰將謂你瞥地師便出後游五臺之京師浮汴直抵長蘆謁祖照一語契投命為侍者踰年分座未幾照稱疾退閒命師繼席學者如歸建炎末游四明主補陀台之天封閩之雪峰詔住育王徙溫州龍翔杭之徑山慈寧皇太后命開山皐亭崇先上堂云我于先師一掌下伎倆俱盡覓箇開口處不可得如今還有恁麼快活不徹底漢麼若無銜鐵負鞍各自著便上堂云轉功就位是向去底人玉韞荊山貴轉位就功是却來底人紅爐片雪春功位俱轉通身不滯撒手亡依石女夜登機密室無人掃正恁麼時絕氣息一句作麼生相委良久曰歸根風墮葉照盡月潭空師終于皐亭崇先塔于寺西華桐塢謚悟空禪師

黃龍菴

皐亭黃龍慧南禪師

依泐潭澄禪師分座接物名振諸方偶同雲峰悅禪師遊西山夜話雲門法道峯曰澄公雖是雲門之後法道異矣師詰其所以異峯曰雲門九轉丹砂點鐵成金澄公藥汞銀徒可翫入煆則流去師怒以枕投之明日峯謝過又曰雲門氣宇如玉甘死語下乎澄公有法授人死語也死語其能活人乎即背去師挽之曰若如是則誰可汝意峰曰石霜圓手段出諸方子宜見之不可後也師默記之曰悅師翠巖使我見石霜於悅何有哉即造石霜中途聞石霜不事事忽叢林遂登衡嶽乃謁福嚴賢賢命掌書記俄賢卒郡守以慈明補之既至日其貶剝諸方件件數為邪解師為之氣索遂造其室明曰書記領徒遊方借使有疑可座而商畧師哀懇愈切明曰公學雲門禪必善其旨如云放洞山三頓棒是有喫棒分師曰有喫棒分明色莊曰從朝至暮鵲噪鴉鳴皆應喫棒明即端坐受師炷香作禮明復問趙州道臺山婆子我為汝勘破了也且那裏是它勘破婆子處師汗下不能加答次日又詣明詬罵不已師曰罵豈慈悲法施耶明曰你作罵會那師於言下大悟作頌曰　傑出叢林是趙州老婆勘破沒來由而今四海清如鏡行人莫與路為讐　呈慈明明頷之上堂云千般說萬般喻秖要教君早回去去何處良久云夜來風起滿庭香吹落桃花三五樹師室中常問僧曰人人盡有生緣上座生緣在何處正當問答交鋒卻復伸手曰我手何似佛手又問諸方參請宗師所得卻復垂脚曰我脚何似驢脚三十餘年示此三問學者莫有契其旨脫有酬者師未嘗可否叢林目之為黃龍三關

晦堂心禪師

參雲峯悅禪師三年無所得辭去悅曰必往依黃檗南禪師師至黃檗四年不大發明又辭再上雲峯會悅謝世就止石霜因閱傳燈至僧問多福如何是多福一叅竹福曰一莖兩莖斜曰不會福曰三莖四莖曲師於此開悟徹見二師用處徑回黃檗方展坐具檗曰子已入吾室矣師踴躍曰大事本來如是和尚何得教人看話百計搜尋檗曰若不教你如此究尋到無心處自見自肯即吾埋沒汝也上堂云愚人除境不忘心智者忘心不除境不知心境本如如觸目遇緣無障礙遂舉拂子曰看拂子走過西天却來新羅國裏知我者謂我拖泥帶水不知我者贏得一場怪誕

佛日寺

宋杭州佛日本空禪師

初遊天台山嘗曰如有人奪得我機者即吾師矣尋謁雲居作禮問曰二龍爭珠誰是得者居曰卸却業身來與子相見師曰業身已卸居曰珠在甚麼處師無對同安代云回頭即沒交涉遂投誠入室時始年十三後四年參夾山纔入門見維那那曰此間不著後生師曰某甲不求挂搭暫來禮謁和尚維那白夾山山許相見師未陞堦山便問甚處來師曰雲居來曰即今在甚麼處師曰在夾山頂[寧*頁]上山曰老僧行年在坎五鬼臨身師擬上堦山曰三道寶堦從何而上師曰三道寶堦曲為今時向上一路請師直指山便揖師乃上堦禮拜山問閣黎與甚麼人同行師曰木上座山曰何不來相看老僧師曰和尚看他有分山曰在甚麼處師曰在堂中山便同師下到堂中師遂取拄杖擲在山面前山曰莫從天台得否師曰非五嶽之所生山曰莫從須彌得否師曰月宮亦不逢山曰恁麼則從人得也師曰自己尚是冤家從人得堪作甚麼山曰冷灰裏有一粒豆爆乃喚維那明窻下安排著師曰永審明窻還解語否無山曰待明窻解語即向汝道師終于佛日卵塔存焉

智才禪師

台州人僧問如何是道師曰水冷生氷曰如何是道中人師曰春雪易消曰如何談談師鳴指一下問東西密相付為甚麼眾人皆知師曰春無三日晴曰特伸請益師曰拖泥帶水曰學人到這裏却不會師曰賊身已露上堂城裏喧繁空山寂靜然雖如此動靜一如生死不二四時輪轉物理湛然夏不去而秋自來風不凉而人自爽今也古也不改[糸*系]毫誰少誰多身無二用諸禪德既身無二用為甚麼龍女現十八變君不見弄潮須是弄潮人珍重上堂云風雨蕭騷塞汝耳根落葉交加塞汝眼根香臭叢雜塞汝

鼻根冷熱甘甜塞汝舌根衣綿溫冷塞汝身根顛倒妄想塞汝意根諸禪德直饒汝飜得轉也是平地骨堆參

淨慧戒弼禪師

僧問如何是毗盧印師曰草鞋踏雪曰學人不會師曰步步成蹤

文祖禪師

僧問峭峻之機請師垂示師曰十字街頭八字立曰秖如大洋海底行船須彌山上走馬又作麼生師曰烏龜向火曰甚麼則能騎虎頭善把虎尾師以拄杖點一下曰禮拜著

奉先寺

杭州奉先法明普照禪師

法[王*(十/(罩-卓+衣))]僧問釋迦出世天雨四華地搖六動永審和尚今日有何祥瑞師曰大眾盡見曰法王法如來是也師曰人王見在問淨慧實印和尚親傳今日一會當付何人師曰誰人無分曰恁麼即雷音普震無邊剎也師曰也須善聽

宋奉先法昱禪師

永嘉人也得法于天台國師吳越忠懿王召入問道命軍使薛溫於西湖建大伽藍曰奉先建大佛寶閣延請師居之演暢宗旨署圓通妙覺禪師僧問如何是西來意師曰高聲舉似大眾師開寶中示滅于本寺

華嚴寺

唐杭州華嚴釋玄

覽姓褚氏其先河南人食菜于錢塘因是家焉覽誕膺明德生而懸解深達實相以崇善本自初念至于捨家師承慧昶師德無不滿眾用皆足年高行尊久為師範及見覽無一息之間違仁告門人曰無上之道清淨為本有能一念用其心吾未見學不足者江表無真僧久矣或以此子為法蔽耶俾遐邇聞之其預為達匠之所甄異也如此其本邑有故華嚴寺覽以苞桑之地近於玄禮師之先塋屬隋室不競法宇弛頹名將壑遷跡亦時廢屬於

唐初募信人重建文明歲有勑許還舊額廣輪制度兼移基址背山臨水返往形勝覽初以具戒依天竺次以僧錄住一閒居後以耆德統華嚴三寺次第同致于道無不在因教有遷也覽嘗以憫物慈濟為己任遂議寺前平湖之通川為放生池時太守袁從禮因茲勸勉深入慈門以禁六里司馬楊敏言感夢又廣至十里是以揚鬐掉尾唼喁浮沉不虞其害得遂生性焉覽又以經像為最則殿前畫四像慈氏為首鑄金銅像三百五十座彌陀為首寫經二千餘軸金字涅槃經為首如是功德以順現報故王考宗追贈和州刺史右散騎常侍封舒國公無量則覽之元昆也量修學之日臨平湖龍見無不往觀舒公晏然不離書案氣度如此明皇初年舒公侍講帝嘉尚之歸覲太夫人年已期頤昆季皆以華皓晨昏之地說法而已覽以開元二十二年示疾終于臨平所造寺壽八十有四唐釋道光姓褚氏踰齠出家方冠受具詣光州和尚學通毗尼于時夏淺德崇壇場屬望盖天賚真士為東南義虎雲雨慈味笙鏞道聲光持法華經創塔廟洎沒身不怠也初光未歿其月三日質明支疾凝神依色身觀彌陀具相現在其前滿庭碧華昔所未覩者四日昧爽有異人請光為和尚遂開目彈指曰但發菩提心至五日曼陀羅華自天而雨門人神烈義津追慕弗遑各云法味流布行化香火無窮云

羅漢寺

宋宗徹禪師

吳興人姓吳氏幼歲出家依年受具巡方參禮依黃檗希運禪師法席黃檗一見便深器之入室領旨後至杭州州牧劉彥慕其道立精舍于府西號羅漢院化徒三百師有時上堂僧問如何是西來意師曰骨剉也問如何是南宗北宗師曰心為宗僧曰還看教也無師曰教是心問性地多昏如何了悟師曰亂雲風卷太虛廓清曰如何得明去師曰一輪皎潔萬里騰光師後示疾遷化門人塔于院之北隅梁貞明五年錢王廣其院為安國羅漢寺移師塔於大慈山塢今寺與塔並存

七寶寺

宋用欽居

錢塘七寶寺依大智學律部聞大智示眾曰生弘毘尼死歸安養出家學道能事斯畢即標心淨土一志不退日課佛三萬嘗神遊淨土見佛大士種種異相謂侍者曰吾以明日西行矣即集眾念佛黎明合掌西向跏趺而化

慶善寺

杭州慶善院普能禪師

上堂事不獲已與諸人葛藤一切眾生秖為心塵未脫情量不除見色聞聲隨波逐浪流轉三界汩沒四生致使正見不明觸途成滯若也是非齊泯善惡都忘坐斷報化佛頭截却聖凡途路到這裏方有少許相應直饒如是衲僧分上永為奇特何故如此纔有是非紛然失心咄上堂拈拄杖曰未入山僧手中萬法宛然既入山僧手中復有何事良久曰有意氣時添意氣不風流處也風流卓拄杖一下

杭州慶善守隆禪師

開堂日僧問知師久蘊囊中寶今日當筵畧借看師曰多少分明曰師子吼時全露現文殊仗劍又何如師曰驚殺老僧問千佛出世各有奇祥和尚今日以何為驗師曰木人把板雲中拍曰意旨如何師曰石女拈笙水底吹上堂花簇簇錦簇簇鹽醬年來事事足留得南泉打破鍋分付沙彌煑晨粥晨粥一任諸人喫洗鉢盂一句作麼生會多少人疑著

千頃慈雲院

唐杭州千頃山釋楚南

閩人也俗姓張氏爰在齠齡冥然跪於父母前訴志出家投開元寺曇藹師而受訓焉當授經法目所經覩輒誦於口執巾侍盥灑掃應對頗能謹愿迨乎冠歲乃落髮焉詣五臺登戒就趙郡學相部律往上都學淨名經一律畧通宗旨則知頓機不甘為漸教縛遂往芙蓉山根性未發謁黃蘗山禪師問答雖多機宜頓了倏值武宗廢教南逐深竄林谷大中興教出遇昇平相裴公休出撫宛陵請黃蘗出山南隨侍由此便詣姑蘇報恩寺專行禪定足不踰閾僅二十餘載乾符四年蘇州太守周慎嗣嚮風請住寶林院又請居支硎山至五年昌化縣令徐正元與紫溪戍將饒京同召住千頃慈雲院訓示禪徒之外唯儼然在定逾月或浹旬光啟三年前兩浙武肅王錢氏請下山供施昭宗聞其道化賜以鹿胎衣五事別賚紫衣文德六年二月忽雙虹貫堂室二鹿蹶然入寺法堂梁折至五月辭眾後於禪牀垂兩足伸二臂於膝奄然而逝春秋七十僧臘五十六遷塔于院西隅大順二年壬子歲二月宣州孫儒寇錢塘之封畧兵士發塔見南全身不散爪髮俱長悔罪而去南公平昔著般若經品頌偈一卷破邪論一卷以枝梧異宗外敵見貴於時也

廣福寺

臨安府廣福惟尚禪師

初參覺印問曰南泉斬猫兒意旨如何印曰須是南泉始得印以前語詰之師不能對至僧堂忽大悟曰古人道從今日去更不疑天下老和尚舌頭信有之矣述偈呈印曰　須是南泉第一機不知不覺驀頭錐覿面若無青白眼還如[咸*鳥][咸*鳥]守空池　舉未絕印竪拳曰正當甚麼時作麼生師掀倒禪牀印遂喝師曰賊過後張弓出住廣福日室中問僧提起來作麼生會又曰且道是箇甚麼要人提起

興教寺

興教洪壽禪師

同國師普靖次聞墮薪有省作偈曰　撲落非他物縱橫不是塵山河及大地全露法王身　興教惟一禪師僧問佛未出世時如何師曰白雲數重曰出世後如何師曰青山一朵

龍興寺

唐杭州龍興釋可周

俗姓傅晉陵人也出家于本部建元寺友生勉之曰非其地樹之不生今豫章經謂之江論謂之海胡不往請業乎周感其開導挈囊達彼遇雲表法師盛集窮法華慈恩大疏日就月將斡運深趣昭宗初自江西回台越之間命其啟發梁乾化二年受杭州龍興寺召開演黑白眾有半千兩浙武肅王錢氏命于天寶堂夜為冥司講經鬼神現形扈衛往往人覩焉嘗有祭銅官祠神巫氏久請不下後附巫曰吾隨從大人去西關天寶堂聽法方迴武肅王聞而鄭重賚周金如意并鉢紫衣一副加號靖智通明焉以天成元年終于觀音院本房初周乾寧四年戾止台州松山寺講疏闕鈔遂依疏節成五卷曰評經鈔音訓五帖解宣律師法華序鈔一卷行于浙之左右弟子相繼不絕

漢杭州龍興釋宗季

俗姓俞臨安人稚齒瑰偉心志剛直嘗天震鄰家樹季隨僵仆有姊尼抱就膝視之曰此非震死且有生候至夜未央甦而復作遂勸令出家事欣

平寺僧後往衢州投巨信論師學明名數論文義淹詳且難詘伏鋒芒如也迨迴杭龍興寺召講時僧正蘊讓給慧縱橫兩面之敵也與閭丘方遠先生江東羅隱為莫逆交見而申問季作二百語詶之讓正賞歎遂請開講四十餘年出弟子七八百人漢乾祐戊申歲疾終于本房初季講次遇一異人作胡語問西域未來之經論一眾驚然季眇二目曾夜行感神光引之嘗覽古師之述作曰可俯而窺也遂撰永新鈔釋般若心經暉理鈔解上生經彌勒成佛經疏鈔補猷鈔闕諸別行義章可數十卷並行於世季道行孤僻性情方正寡言語氣貌高邁誓不趨俗舍暨老懇請亦罕赴白衣家居惟屢空衍然自任而孜孜手不釋卷樂道向終至今此宗越多弟子講導不泯焉

多福寺

宋杭州多福和尚

僧問如何是多福一叢竹師曰一莖兩莖斜曰學人不會師曰三莖四莖曲問如何是衲衣下事師曰大有人疑在曰為什麼如此師曰月裏藏頭

湖光寺

周杭州湖光釋師

簡姓趙氏丹丘人也弗循戒範放肆恬然擁破衲衣多誦詞偈好懸記杭越間災福初無信者驗猶合符於一行景淳山經地理別得徑門常言昔泰山道辯相塚得術餘無取焉喜為人遷山相塚吉凶如其言居無定所多遊族姓家言腹飢便求鷄肉餐此外得美酒啜數杯而去初無言謝然長於勒書大字題牌寺觀門額書成相之吉凶隨言久近驗之始居杭西湖旁院無疾而終後有行客自長沙市中見攜手話舊寄言崇壽院主汝先負錢若干今放汝我眠牀芻薦下層有紙裹肉脯必應腐敗為棄之院僧依言果然見之因寫貌供養簡曾言尖頭屋已後火化去及州南塔戊午歲被天火爇之應言無爽矣

常照寺

宋慧明禪師

號晦菴學于慧光晚依青山常照寺修淨業日課法華楞嚴圓覺持彌陀聖號萬數慶元己未春示疾謂弟子曰吾學大乘求生淨土今果遂矣累足坐視眾聞天樂西來徘徊頂上茶毗五色舍利無算

天目山

唐天目釋明覺

俗姓猷河內人也祖為官嶺南後徙居為建陽人覺儒家之子風流蘊藉好問求知曾無倦懈宿懷道性聞道一禪師於佛跡嶺行禪法往造焉遂依投剃染由此即願觀方衡嶽天台四明徧嘗法味復於徑山留心請決數夏負薪面黔手胝下山至杭州大雲寺禁足院門續移止湖畔青山頂結庵而止屬范陽盧中丞嚮風躬謁召歸州治大雲寺住持元和十五年避嫌遠囂隱天目山是山也特秀基墟跨涉四郡有上下龍潭深不可測怪物往往出於中有白鹿毛質詭異土人謂為山神也覺遁是中檀信為禪宇長慶三年春及冬至明年二月大旱野火蔓延欲燒院僧惶懼覺曰吾與此山有緣火當速滅少選雷雨驟作其火都滅遠近驚歎以大和五年七月十九日示寂

唐錢塘永福釋慧琳

字抱玉俗姓柯新安人卯齡受業于靈隱西峯為金和尚弟子所傳法要斷無重問大歷初受具足戒于靈山會習學三教一領無遺不樂聲華止好泉石一入天眼二十餘年天眼即天目也其山高三千丈周圍三百里與天柱廬阜等相儔匹上有二湖謂為左右目登涉艱阻數日乃到巔頂多蛟龍池潭三所最上池人不可近氣臭逆人不可久視或說山神作白鹿形每五月與震澤龍會必暴風雨焉琳居此率多妖異而心不撓元和丁亥太守禮部員外城南杜陟請出永福寺登壇至己丑歲春刺史兵部郎中裴常棣召臨天竺寺壇度人畢歸寺講訓生徒向二十載郡守左司郎中陸則刑部侍郎楊憑給事中盧元輔中書舍人白居易太府卿李幼公刑部郎中崔鄯刑部郎中路異相繼為邦伯皆以公退至院致禮稽問佛法宗意染指性相此諸名公簪組上流辭學高度或號毗曇孔子或名勝力菩薩非琳何以感動哉太和六年四月二十五日示滅享壽八十有三法臘六十四以其年五月十二日葬于今永安寺西山之陽瑪瑙坡之左石塔巋然存矣

高峯禪師

諱原妙故武弁也初參斷橋倫公語未契立三年死限于淨慈脇不至席口體俱忘或如廁惟巾單而出或發函忘扃鐍而去後參雪巖欽公有省遁入天目獅子巖構死關立參三十年影不出山每以萬法歸一一歸何處話極力究竟一日諷經次忽覩五祖演和尚真贊驀然大悟上堂云無邊剎境自他不隔於毫端十世古今始終不離於當念只如山僧每日在張公洞

裏橫眠竪眠或歌或詠諸人還知麼諸人每日在選佛場前東行西行或嗔或喜山僧還知麼若也彼此知得不免分身碓搗拔苦犁耕若也彼此不知管取釋迦拱手彌勒皈依因甚如此不見道知之一字眾禍之門上堂云萬法歸一一歸何處乃顧視左右下座上堂云十方世界是箇鉢盂汝等諸人吃粥吃飯也在裏許屙屎放尿也在裏許行住坐臥乃至一動一靜總在裏許若也識得達磨大師只與你做得箇洗脚奴子若也不識二時粥飯將甚麼吃參元正上堂新年頭行新令露柱燈籠急著眼聽竈頭西南角有片方磚惺惺伶俐伶俐惺惺念茲在茲必恭必敬因甚如此徐十三郎行年本命上堂云愛之欲其生惡之欲其死愛惡兩重關以拄杖卓云總向遮裏起直饒識得根源更買草鞋行脚三十年以拄杖中何曾踏著遮裏擲拄杖云你有拄杖子與你拄杖子上堂卓拄杖云獅子窟獅子吼獅子兒無前後驀然直下翻身便解人前開口即令莫有翻身底麼擲拄杖云鰕跳不出斗

中峯禪師

明本杭之新城人生有異徵為童兒戲必為佛事甫入鄉校尋去稍長閱經教然指臂求佛甚切晝夜彌厲困則首觸柱自儆期必得乃已及入死關密受心要久之誦金剛經至荷擔如來阿耨多羅三藐三菩提處恍然開悟自是說法示人如千江一源奔注放溢莫之能禦從容自在若不經思累千百言應問無碍隨其根器廣為策勵推以為大辯焉緇素及門自以為有得即所聞受傳錄模印行於四方所謂法語書題唱之屬不可勝計又有書五篇曰破胎息論妄傳曰闢信心明義解曰擬寒山詩曰辨七徵心處曰說如幻法名曰一花五葉集虛谷凌禪師於師為尊屬見而歎曰此佛祖向上事非下根小器所可識也仁宗皇帝聞而聘之不至製金襴袈裟賜之曰佛慈圓照廣慧禪師賜獅子院名曰正覺禪寺英宗亦封香製衣即所居而修敬焉駙馬太尉藩王王競使人從師問法意以為未足請于上親往見之既見構亭巖前曰真際表得法也三藏法師沙津愛護持必鼐雅實哩遊方時常從師參詰及事三朝每為上道之翰林承旨趙公孟頫每受師書必焚香望拜與師書必稱弟子結一菴名幻住信施金幣重寶交至一視之邈如也師相好魁碩見者稱歎皆畫像事之南詔人有奉其像者夜有神光燭天其士感悅遂篤信禪宗云時人為之語曰師乘大悲願力為法檀度觀時識宜隨機應物多諸方便如摩尼珠無有定色為未證得謂證得者我說無悟由為求名聞利養者韜晦巖谷為毀犯律儀者演毘尼法為妄認法塵以資狂解者導以正悟為圓機者直示向上師皆以身先之不事空言而師方自以文字失於學問參究闕於明悟尋常好事者所稱盖報緣之偶然耳翩然為退休之計盖師之高邁過人而謙抑如此

斷崖禪師

俗楊氏父太宥母張氏以宋景定癸亥十一月二十三日生師於湖州德清縣自幼不食葷酒六歲始能言但從其母誦法華經於人世事懵無所知姿貌嶷然志若有所待年十七有禪者過之誦高峯上堂語曰欲窮千里目更上一層樓師忽言曰此大善知識必能為人拔釘去楔耳能與我往見之乎母驚異之畧具衣裝與之行見高峯于天目山師子巖立死關為童子峰謂之曰汝所持何多為師曰以待寒暑峯曰學佛者不如是師即[刻-人+亻]盡以散諸人乃令提萬法歸一一歸何處話因名之曰從一他日峯為僧舉牛過窻櫺話師聞之忽生大疑參究不倦一日告峯曰上極天宮下窮水際盡大地界一瑠璃瓶峯曰莫作聖解他日過鉢盂塘見雪自松上墜有省即詣峯呈頌曰　不分南北與西東大地山河一片雪聲未絕峯痛捧之不覺殞身崖下懸崖壁立人　意其必死同學明通捫蘿接磴以救之則已出半山無所苦也謂通曰我往江西見欽公去也通曰汝辜負老漢棒矣力挽之還即同還山之西禪院自誓曰我七日不證則决去矣遂直堅壁忘廢寢食夜則攀樹露立達旦未及所期豁然大悟馳至死關呼曰老和尚今日瞞我不得也呈頌曰　大地山河一片雪太陽一照便無蹤自此不疑諸佛祖更無南北與西東　明日峯上堂云我布縵天大網打鳳羅龍不曾遇得一鰕一蟹今日有蟭螟蟲撞入三十年後向孤峰絕頂揚聲大叫且道叫箇甚麼舉拂子云大地山河一片雪師便奪峰拂子為眾舉揚訶勵同學辭不少遜復曰盡大地有一人發真歸源從一皆知之峯歎其俊快有僧參峰次峰令見師師曰驀直去其出言大抵如此久參者媿之幾有命如懸[糸*系]之慮遂歸德清其母為賣簪珥同入武康上栢山結茅以居人見其渾俗罔測其意越五年還山見峯峯云大有人見你拖泥帶水師曰兩眼對兩眼遂薙落峯改其名曰了義元貞乙未高峯示寂師亦韜晦或遊禪林頹然居下板孤峭巖峻不假借人辭色或觸其機鋒發言如奔雷諸方客衲莫不驚歎居不擇地隨寓而休而律範大閑凜如冰雪所至四眾歸重公侯貴人爭相迎奉師于正宗禪寺累請住持若不聞召未嘗受請立僧而咸尊之曰義首座云中峰本公大揚高峯之道烜赫昭著法席之盛中外罕及至治癸亥棄眾而化同門布袍雍公見地明白提唱超卓而去世更久後泰定三年師勉從眾請歸坐祖庭者一載所謂正宗禪寺者也參學之眾輻輳而至或示眾曰除却語默動靜道將一句來又嘗曰一息不來向何處安身立命然或嬉咲怒罵犄言穢語人所不堪或不因勸請自肆談說或成頌偈不待思惟應機而發人所莫測元統元年歲除日師忽謂從者曰有一件事天樣大還委悉麼良久云明日是年朝正月六日詣法塔西指于地曰更好立箇無縫塔其晚與禪者談笑至夜分乃曰老僧明日天台去也禪者曰某甲隨師去師曰你走馬也趕我不及翼早跏趺而化

大明空谷禪師

諱景隆字祖庭號空谷姑蘇洞庭黿山陳氏子父月潭居士母金氏生師于洪武癸酉七月十二日童時不茹葷趺坐若禪定永樂壬辰從弁山白蓮懶雲和尚受學參禪雖家居而湖海禪伯如古拙和尚輩靡不參謁庚子出家虎丘宣德二年詣杭州昭慶受戒遂依師住靈隱七年往天目禮祖塔憩錫一載[刻-人+亻]苦參究忽有省因造懶雲剖露雲印可之師所著有空谷集三十卷心宗洞達機辨峻拔儒釋通貫事理交融大理卿吳公誌之師存年五十二時自作塔銘於武林西湖之修吉山院名正傳有正傳十景之咏在集

淨土院

淨土惟正禪師

秀州華亭黃氏子幼從錢塘資聖院本如肄業且將較藝于有司如使禱觀音像以求陰相師謝曰豈忍獨私於己哉郡人朱紹安聞而加歎欲致帑度之師慨然曰古之度人以清機密旨今反是去古遠矣吾墮三寶數當有其時已而遇祥符覃恩得諧素志獨擁毳袍且弊同列慢之師曰佛乎佛乎儀相云乎哉僧乎僧乎盛服云乎哉厥後有願輸奉歲時用度俾繼如之院務亦復謝曰聞托鉢乞食未聞安坐以享聞歷謁諸祖未聞廢學自任況我齒茂氣完正在筋力為禮非從事屋廬之秋也於是提策東引學三觀於天台復旋徑山咨單傳之旨於老宿惟素舊董臨安功臣山淨土院師輔相之久而繼席焉然為人高簡律身精嚴名卿巨公多所推尊葉內翰清臣牧金陵迎師語道一日葉曰明日府有燕飲師固奉律能為我少留一日欵清話否師諾之翼日遣使邀師留一偈而返曰昨日曾將今日期出門倚仗又思惟為僧秖合居巖谷國士筵中甚不宜坐客皆仰其標致師識慮洗然不牽世累雅愛跨黃犢出入軍持巾鉢悉挂角上市人爭觀之師自若也杭守蔣侍郎嘗與師為方外友每謁至郡庭下犢譚笑終日而去蔣有詩曰　禪客尋常入舊都黃牛角上挂瓶盂有時帶笠穿雲　去便好和雲畫作圖師嘗作山中偈曰　橋上山萬層橋下水千里唯有白鷺鷥見我常來此　平生製作三十卷號錦溪集又工書筆法勝絕秦少游珍藏之冬不擁爐以荻花作毬納足其中客至共之夏秋好翫月盤膝大盆中浮水上自旋其盤冷笑達旦率以為常九峰韶禪師嘗客于院一夕將臥師邀之曰月色如此勞生擾擾對之者能幾人峰唯唯而已久之呼童子使熟炙峰方饑意作麵餅頃乃橘皮湯一盂峯匿笑曰無乃太清乎又問曰師以禪師名乃不談禪何也師曰徒費言語吾懶寧假曲折但日夜煩萬象為敷演耳言語有間而此法無盡所謂造物無盡藏也皇祐元年孟夏八月語眾曰夫動以對靜未始有極吾一動歷年六十有四今靜矣然動靜本何有哉於是泊然而逝

光慶寺

光慶遇安禪師

錢塘人也姓沈氏卯歲出家于天台華頂峯禮菴主重蕭披剃依年受具尋遇本山韶國師密契宗旨乾德中吳越忠懿王命住北關傾心院又召入居天龍寺開寶七年甲戌安僖王請于光慶寺攝眾署善智禪師初上堂有僧問無價寶珠請師分付師曰善能吐露曰恁麼即人人具足也師曰珠在什麼處僧乃禮拜師曰也是虛言問提綱舉領盡立主賓如何是主師曰深委此問曰如何是賓師曰適來向汝道什麼曰賓主道合時如何師曰其令不行問心月孤圓光吞萬象如何是吞萬象底光師曰大眾總見汝恁麼問曰光吞萬象從師道心月孤圓意若何師曰抖擻精神著曰鷺倚雪巢猶可辨光吞萬象事難明師曰謹退問青山綠水處處分明和尚家風乞垂一句師曰盡被汝道了也曰未必如斯請師答話師曰不用閒言又一僧方禮拜師曰問答俱備僧擬伸問師乃叱之師有時示眾曰欲識曹谿旨雲飛前面山分明真實箇不用別追攀問承古德有言井底紅塵生山頭波浪起未審此意如何師曰若到諸方但恁麼問曰和尚意旨如何師曰適來向汝道什麼師又曰古今相承皆云塵生井底浪起山頭結子空華生兒石女且作麼生會莫是和聲送事就物呈心句裏藏鋒聲前全露麼莫是有名無體異唱玄譚麼上座自會即得古人意旨不然既恁麼會不得合作麼生會上座欲得會麼但看泥牛行處陽燄翻波木馬嘶時空花墜影聖凡如此道理分明何須久立珍重太平興國三年隨寶塔見于滋福殿賜紫號明智大師淳化初還光慶舊寺三年九月二十日示寂

武林山

支遁

字道林廬人幼有神理聰明秀徹初至京師太原王蒙甚重之曰造微之功不減輔嗣隱居餘杭山沉思道行之品委曲慧印之經卓焉獨拔得自天心

禪月大師

貫休以詩謁吳越王錢鏐有滿堂花醉三千客一劒霜寒十四州之語鏐令改作四十州乃可相見休曰州亦難添詩亦難改孤雲野鶴何天而不可飛遂去蜀

宋慧亨住

武林延壽初依靈芝習律專修淨業六十年每勸人必以念佛為先有江自任者忽夢寶座從空而下云亨律師當升此座適社孫居士預啟別亨即在家作印而化其時師亦謂其徒曰孫君已去吾亦行矣即說偈曰　彌陀口口稱白毫念念想持此不退心決定生安養　端坐而化號清照律師

後唐杭州真身寶塔釋景霄

姓徐氏丹丘人初在表公門後慕守言闍黎義集敷演于丹丘執性嚴毅寡與人交狷介自持多事凌轢形器惡弱後納請往金華東白山獎訓初學時有江西徽猷律匠出義記曰龜鑑錄多學彭亨領徒到霄寺正值講次當持犯篇再三歎賞自此聲溢價高每晨滴茶一旦化為乳焉著記二十卷號簡正言以思擇力故去邪說而簡取正義也武肅王錢氏召於臨安故鄉宰任竹林寺未幾命赴北塔寺臨壇天成二年也次命住南真身寶塔寺終焉遷葬于大慈山塢以本受師號塔曰清源

杭州瑞龍幼璋禪師

唐相國夏侯孜猶子大中初伯父司空出鎮廣陵師方七歲遊慧照寺聞誦法華志求出家伯父初不允因師絕飲食不得已而許之師慧遠禪師後游諸禪會薯山白水咸受心訣咸通十三年至江陵騰騰和尚囑之曰汝往天台尋靜而棲遇安即止已而又值憨憨和尚撫而記曰汝却後四十年有巾子山下菩薩王於江南當此時吾道昌矣尋抵天台山於靜安鄉創福唐院乃契騰騰之言又往隱龍院中和四年浙東饑疫師於溫台明三郡收瘞遺骸時謂悲增大士雪峯嘗往見之遺椶櫚拂子而去天祐三年錢尚父遣使童建賫衣服香藥入山致請至府庭署志德大師館于功臣堂日親問法師請每年于天台山建金光明道場諸郡黑白大會逾月而散將辭歸山王加戀慕於府城建瑞龍院延請開法時禪門興盛斯則憨憨懸記應矣天成二年丁亥四月乞墳塔于尚父父命陸仁璋於西關選勝地建塔創院改天台隱龍為隱迹塔畢師入府庭辭尚父囑以護法尅期順寂尚父悲悼遣僧正集在城宿德迎引入塔

杭州傾心法[啗-口+王]宗一禪師

上堂良久曰大眾不待一句語便歸堂去還有紹繼宗風分也無還有人酬得此問麼若有人酬得這裏與諸人為怪笑若酬不得諸人與這裏為怪笑珍重僧問如何朴實免見虛頭師曰汝問若當眾人盡鑒曰有恁麼來

皆不丈夫秖如不恁麼來還有紹繼宗風分也無師曰出兩頭致一問來曰甚麼人辨得師曰波斯養兒問佛法去處乞師全示師曰汝但全致一問來曰為甚麼却拈此問去師曰汝適來問甚麼曰若不遇於師幾成走作師曰賊去後關門問別傳一句如何分付師曰可惜許曰甚麼則別酬亦不當去也師曰也是閒辭問如何是不朝天子不羨王侯底人師曰每日三條線長年一衲衣曰未審此人還紹宗風也無師曰鵲來頭上語雲向眼前飛問承古有言不斷煩惱此意如何師曰又是發人業曰如何得發業師曰你話墮也問請去賞罰如何是吹毛劒師曰如法禮三拜師後住龍冊寺歸寂

餘杭大錢山從襲禪師

雪峰之上足也自本師印解洞曉宗要常曰擊關南鼓唱雪峰歌後入浙中謁錢王王欽服道化命居此山而闡法焉僧問不因王請不因眾聚請師直道西來的意師曰那邊師僧過這邊著曰學人不會乞師指示師曰爭得恁麼不識好惡問閉門造車出門合轍如何是閉門造車師曰造車即不問汝作麼生是轍曰學人不會乞師指示師曰巧匠施工不露斤斧

瞽菴講師

台之寧海人母金氏夢大士現五色雲中覺而有娠及生逮長洒然有出塵之思年十二投會稽悟本院一山元出家元天歷初受具聞天岸濟公主萬壽圓覺寺師往依焉濟見其天機峻利有一日千里之勢乃曰子盍從吾師遊他日大顯南嶽一宗吾於子有望矣濟之師即佛海也佛海倡道上天竺師廁多士中晝夜研磨三觀十乘之旨悉貯心胸叩之者辯口如水佛海遂命司賓及佛海退居南天竺演福延師為第一座至正五年陞隆壽教寺越六年江浙省臣復聘主演福寺寺當兵燹之餘鞠為荒墟師創殿宇以納負笈之士遇有咨問悉竭所蘊而示悟之自持一榻二十年蕭然如在逆旅洪武四年某月順寂神思不亂如返故廬宋學士濂為撰塔銘

千歲和尚

名寶掌中印土人魏晉間東游自云六百七十三歲周威烈王十二年丁卯生左手握拳有珠在掌中因以為名始抵峨眉五臺南返衡廬入建業與達摩遇於梁朝遂扣法焉洎來二浙愛天竺之勝結茆而居者四十五年復往四明天台及諸名山遊歷將遍唐貞觀十五年還竺峯久之移居浦江寶巖顯慶二年正旦手捏一像九日而成與其貌無異即告徒曰吾誓住世千歲自來支那忽四百歲今已過七十有二年矣說偈而化世稱千歲和尚遺記滅後有僧來取吾骨勿拒越五十四年刺浮長老至彼作禮塔戶倏開

得其骨皆連鎖金色因持來別建塔藏之為中竺開山始祖贊曰人壽幾何朝露逝川生周涉唐本誓則然東遲達摩心印始傳孰云佛法獨在西天

海月法師

名慧辨字訥翁華亭富氏子受業普照從天竺韶及浮石矩傳天台教觀韶將老命師代講夢章安以金篦擊其口曰汝勤於誨人當得辨智久之率繼其席嘉祐中翰林沈公遘帥郡以嚴為理察師道行獨異之俾蒞僧職遷都僧正東坡時為通守嘗與師為方外之遊講授二十五年往來常千人無何歸隱草堂但六事隨身而已熙寧六年冬旦起盥濯別眾而化遺戒須待東坡至方可合棺四日坡始抵山中見其趺坐如生頂尚溫煖作三絕哭之師沒二十一年東坡追序其事云余去杭夢至西湖上有大殿榜曰彌勒下生故人海月辨師之流皆行道其問乃作贊辭穎濱銘其塔贊曰　滄海孤月生于雲間飛輪竺嶺萬象光寒知之者誰眉山老仙有如不信銘贊皎然

水源法師

名淨源字伯長姓楊氏生而敏慧依東京報慈寺海達大師得度奮志參尋初見華嚴承遷次見橫海明覃後見長水子璿盡得華嚴奧旨聲譽藉甚住泉之清凉蘇之觀音杭之祥符湖之寶閣秀之善住左丞蒲公守杭尊其道以慧因院易禪為教命師居之所至緇素景慕師筆力遒勁合華嚴證聖正元二疏為一以便觀覽製華嚴楞嚴圓覺三懺法及作法華集義通要十四卷又疏解仁王般若等經高麗國王子為僧曰統義天航海而來問法於師朝廷遣侍講楊傑館伴化及外國其道可知矣元祐三年冬示寂茶毘得舍利無數瘞於慧因院之西北壽七十八先世泉之晉水人故學者以晉水稱之贊曰法界無盡一心洞明奮厥餘力詮釋羣經作式垂範聿有駿聲慕法者眾海國揚舲(前載未備今補)

武林梵志卷十一

欽定四庫全書　武林梵志卷十二

明　吳之鯨　撰

歷朝勳績

梵剎由武林建武林以潮汐濁滷之鄉彙聲名文物之盛代有作者功用不磨紀忠義俠烈樹名教之巨藩紀創業貽謀貌包絡之正域試一覽觀意深遠矣

浙江

在郡城之東南登西湖諸山則大畧可瞰其源發自徽州曲折而東以入于海故名浙江亦曰浙河其潮晝夜再上諸家立說不同宋時郡志載姚寬西溪殘語及徐叔明高麗錄二篇大抵皆云潮隨日而應月依陰而附陽元時聚伯宣作浙江潮候圖說又隳括其詞更加明爽其說曰大江而東凡水之入于海者無不通潮而浙江之潮獨為天下奇觀地勢然也浙江之口有兩山焉其南曰龕山其北曰赭山並峙於江海之會謂之海門下有沙潭跨江西東三百餘里若伏檻然潮之入於浙江也發乎浩渺之區而頓就斂束逼礙沙潭回薄激射折而趨于兩山之間拗怒不洩則奮而上隮如素蜺橫空奔雷殷地觀者膽掉涉者心悸故為東南之至險非他江之可同也原其消長之故者曰天河激涌曰地機翕張揆其晨夕之候者曰依陰而附陽曰隨日而應月地志濤經言殊旨異胡可得而一哉盖圓則之運大氣舉之方儀之靜大水承之氣有升降地有浮沉而潮汐生焉日有盈虛潮有起伏故盈于朔望虛于兩弦息于朓朒消于朏魄而大小準焉月為陰精水之所在日為陽宗陰之所從故晝潮之期日常加子夜潮之候月必在午而晷刻定焉卯酉之月陰陽之交故潮大于餘月大梁析木河漢之津也朔望之後天地之變故潮大于餘日寒暑之大建丑未也一晦一明再潮再汐一朔一望再虛再盈天一地二之道也月經于上水緯于下進退消長相為生成歷數可推毫釐不爽斯天地之至信幽贊於神明而古今不易者也杭之為郡枕帶江海遠引甌閩近控吳越商賈之所輻輳舟航之所駢集則浙江為要津焉而其行止之淹速無不畢聽潮汐者或違其大小之信爽其緩急之宜則必至于傾墊底滯故不可以不之謹也某承乏茲郡屬兵革未弭之秋信使之往來師旅之進退雖期會紛紜邊陲警急必告之曰謹候潮汐毋躁進以自危然而跡累肩摩晨馳夕騖有不能人喻而戶說之者考之郡志得四時潮候圖簡明可信故為之說而刻石于浙江亭之壁間使凡行李之過此者皆得而觀之以毋蹈夫觸險躁進之害亦庶乎思患而預防之之意云

捍江塘

築自吳越王盖江潮為患自唐已然白樂天刺郡時嘗禱於神云滔滔大江南國之紀安波則為利橫流則為害故我上帝命神司之今屬潮濤大湧奔激西北水無知也如有憑焉浸[泳-永+(瑤-王)]郊廛壞敗廬舍人墜墊溺籲天無辜居易祗奉璽書興利除害守土守水職與神同是用備物致誠躬事虔禱庶使水反歸壑谷遷為陵土不騫摧人無蕩析然未聞有修築之績也梁開平四年八月錢武肅王始築塘在候潮門通江門外潮水晝夜衝激版築不就命強弩數百以射又致禱于胥山祠仍為詩一章其末句曰為報龍王及水府錢江借取築錢城函鑰置海門山既而潮水避錢塘東擊西陵遂造竹絡積巨石植以大木隄既成久之乃為城邑聚落凡今之平陸皆昔時江也潮水衝突不常隄岸屢壞大中祥符五年郡守戚綸與兩浙轉運使陳堯佐申請遣使自京師部埽匠壕寨越州易柱石之制雖免水患而眾頗非其變法七年詔江淮發運使李溥同內供奉官盧守懃復依錢氏制專其事時水方大溢九年郡守馬亮禱于子胥祠下明日潮為之卻又漲橫沙數里隄遂以成景祐中隄復壞兩浙轉運使張夏作隄十二里置捍江兵士五指揮採石修塘隨損隨治杭人德之作廟隄上今昭貺廟是也慶歷初六月大風驅潮堤再壞郡守楊偕轉運使田瑜協力築隄二千二百丈丁寶臣作記紹興十年以轉運副使張匯之請招填捍江軍額二十二年吏部尚書林文鼐建選乞選諳曉之士專置一司詢故老究利病脉絡而後興工且言羅剎江濱舊有吳王英烈王廟燼于回祿乞靈無地乞付有司營葺從之自是百餘年間屢修屢壞嘉熙戊戌秋潮由海門擣月塘頭日朘月削民廬僧舍坍者四十里已亥六月詔趙與懽除端明殿學士知臨安任責修築與懽奏先于傍近築土塘為救急之術然後于內築石塘又奏近觀潮勢忽覩異物非龍非魚什什伍伍鼓鬣揚鬐欲望奏告上帝或施強弩火炮以絕其妖又奏日役殿步司官兵五千五百餘人并募夫工及修江司軍兵三千餘人貼立石倉夾植椿笆版木晝夜運土填築自水陸寺之下江家橋之上近江港口築壩南北長一百五十丈自團圍頭石塘近江築擦水塘長六百丈自六和塔以東一帶石隄添新補廢四百餘丈越三月畢工水復其故皇明成化八年八月九月江潮大溢塘壞特甚勅差工部侍郎李顒整築始復其舊

鐵幢浦

相傳吳越王鏐築塘以捍江水置鐵幢三以為水則幢製如杵徑七八寸出土可三尺餘其趾入土不知若干初置幢時塘猶未成慮潮蕩幢用鐵輪護其趾而以鐵綆貫幢榦且引綆維于上下之楗然後實土築塘故幢首出土耳宋淳祐間安撫趙與作亭覆幢今亭夷為民居獨存窪池而鐵幢之

首嶄出可驗一在舊便門東南小巷一在舊薦橋門外皆湮塞無考獨在利津橋者僅存而又為民居所占若不表識久亦湮矣劉伯溫錢王箭頭歌鴟夷遺魄拗餘怒欲取吳山入江去雷霆劈地水羣飛海門扶胥沒氛霧英雄一怒天可回肯使赤子隨鮫鮐指揮五丁發神弩鬼物辟易腥風開三百年來人事改濤落沙平箭空在石梁飲羽未足誇蜀國三犀謾欺怪近聞黃河水亂流青徐一半悲魚頭安得壯士斡地軸為拯斯民塗炭憂

西湖

故明聖湖也周繞三十里三面環山谿谷縷注下有淵泉百道瀦而為湖漢時金牛見湖中人言明聖之瑞遂稱明聖湖以其介于錢唐也又稱錢唐湖以其輸委于下湖也又稱上湖以其負郭而西也故稱西湖云西湖諸山之脉皆從天目天目西去府治一百七十里高三千九百丈周廣五百五十里蜿蟺東來凌深拔峭舒岡布麓若飛若舞萃于錢唐而嵫萃于天竺從此而南而東則為龍井為大慈為玉岑為積慶為南屏為龍為胥為吳皆謂之南山從此而北而東則為靈隱為仙姑為履泰為寶雲為巨石皆謂之北山南山之脉分為數道貫于城中則巡臺藩垣帥閫府治運司黌舍諸署清河文錦壽安弼教東園鹽橋褚塘諸市在宋則為大內德壽宗陽祐聖諸宮隱隱脈脈皆王氣所鍾而其外邏則自龍山沿江而東環沙河而包括露骨于茅山艮山皆其護沙也北山之脉分為數道貫于城中則臬臺分司諸署觀橋純禮諸市在宋則為開元景靈太乙龍翔諸宮隱隱脈脈皆王氣所鍾而其外邏則自霍山繞湖市夾道紅衝武林門露骨于武林山皆其護沙也聯絡周匝鉤綿秀絕鬱葱扶輿之氣盤結鞏厚濬發光華體魄閎矣潮聲海門而上者晝夜再至夫以上奔水導而逆以海潮則氣脉不解故東南雄藩形勢浩偉生聚繁茂未有若錢塘者也南北諸山崢嶸迴繞滙為西湖洩惡停深皎潔圓瑩若練若鏡若雙龍交度而頷下夜明之珠懸抱不釋若連萼層敷柎瓣莊嚴而馥郁花心含瀼甘露是以天然妙境無事雕餙覿之者心曠神怡遊之者畢景留戀信蓬閬之別墅宇內所稀覯者也逮于中唐而經理漸著代宗時李泌刺史杭州憫市民苦江水之鹵惡也開六井鑿陰竇引湖水以灌之民賴其利長慶初白樂天重修六井甃函筧以蓄洩湖水溉沿河之田其自序云每減湖水一寸可溉田十五餘頃每一服時可溉五十餘頃此州春多雨夏秋多旱若隄防如法蓄洩及時即瀕湖千餘頃無凶年矣又云舊法洩水先量湖水淺深待溉田畢却還原水尺寸往往旱甚則湖水不充今年築高湖隄數尺水亦隨加脫有不足更决臨平湖即有餘矣元懲宋轍廢而不治兼政無綱紀任民窺竊盡為桑田國初藉之遂起額稅蘇堤以西高者為田低者為蕩阡陌縱橫鱗次作乂曾不容刀蘇堤以東縈流若帶宣德正統間治化隆洽朝野恬熙長民者稍稍搜剔古蹟粉繪太平或倡濬湖之議憚更版籍竟致閣寢嗣是都御史劉敷御史吳文元等咸有題請

而浮議蜂起有力者百計阻之成化十年郡守胡濬稍闢外湖十七年御史謝秉中布政使劉璋按察使楊繼宗等清理續古弘治十二年御史吳一貫修築石閘漸有端緒矣正德三年郡守楊孟瑛銳情恢拓力排羣議言于御史車梁僉事高江上疏請之以為西湖當開者五其畧曰杭州地脉發自天目羣山飛翥駐于錢唐江湖夾抱之間山停水聚元氣融結故堪輿之書有云勢來形止是為全氣形止氣蓄化生萬物又云外氣橫形內氣止生故杭州為人物之都會財賦之奥區而前賢建立城郭南跨吳山北兜武林左帶長江右臨湖曲所以全形勢而周脉絡鍾靈毓秀于其中若西湖占塞則形勝破損生殖不繁杭城東北二隅皆鑿濠塹南倚山嶺獨城西一隅瀕湖為勢殆天塹也是以湧金門不設月城實倚外險若西湖占塞則塍術綿連容奸資寇折衝禦侮之便何藉焉唐宋已來城中之井皆藉湖水充之今甘井甚多固不全仰六井南井也然實湖水為之本源陰相輸灌若西湖占塞水脉不通則一城將復鹵飲矣況前賢興利以便民而臣等不能纂已成之業非為政之體也五代已前江潮直入運河無復遮捍錢氏有國乃置龍山浙江兩閘啟閉以時故泥水不入宋初崩廢遂至淤壅頻年挑濬蘇軾重修堰閘阻截江潮不放入城而城中諸河專用湖水為一郡官民之利若西湖占塞則運河枯澁所謂南柴北米官商往來上下阻滯而閭閻貿易苦于擔負之勞生計亦窘矣杭城西南山多田少穀米蔬菽之需全賴東北其近塘濱河田地自仁和至海寧何止千頃皆藉湖水以救亢旱若西湖占塞則上塘之民緩急無所仰賴矣此五者西湖有無利害明甚茍壞舊有之業以傷民心怨讟將起而臣等不敢顧忌者以所利于民者甚大也部議報可自是西湖始復唐宋之舊盖自樂天之後二百歲而得子瞻子瞻之後四百歲而得溫甫邇來官司禁約浸弛豪民頗有侵圍為業者夫陂堤川澤易廢難興與其浩費于已隳孰若旋修于將壞况西湖者形勝關乎郡城餘波潤于下邑豈直為魚鳥之藪遊覽之娛若蘇子眉目之喻哉

唐君

名玨字玉潛會稽山陰人家貧聚徒授經營滫髓以養其母歲戊寅有總江南浮屠者嘉木揚喇勒智怙恩橫肆勢燄爍人窮驕極[泳-永+(瑤-王)]不可具狀十二月十有二日帥徒役頓蕭山發趙氏諸陵寢至斷殘支體攫珠襦玉柙焚其胾棄骨草莽間唐時年三十二歲聞之痛憤亟貨家具得白金百星許執券行貸得白金又百星許乃具酒醪市羊豕邀里中少年若干輩狎坐轟飲酒正酣少年起請曰君儒者若是將何為焉唐慘然具以告願收遺骸共瘞之眾謝曰諾中一少年曰發丘中郎將耽耽餓虎事露奈何唐曰余固籌之矣今四郊多暴骨取窴以易誰復知之乃斲文木為匱復黃絹為囊各署其表曰某陵某陵分委而散遺之蕝地以藏為文而告詰旦事訖來集出白金羨餘酬戒勿泄越七日總浮屠下令裒陵骨雜置牛馬枯

骼中築一塔壓之名曰鎮南杭民悲戚不忍仰視了不知陵骨之猶有也禍[泳-永+(瑤-王)]不爽流傳京師上達四聰天怒赫赫飛風雷號令捽首禍者北焉山陰人始有藉藉傳唐事者由是唐之義風震動吳越聲生勢長若胥江掀八月之濤名雖高困固自若明年己夘後上元兩日唐出觀燈歸忽坐[病-丙+員]息奄奄若將絕者良久始蘇曰吾見黃衣吏持文書來告曰王召君道我往觀闕巍峩宮宇靚麗殆非人間有一冕旒坐殿上數黃衣貴人逡巡降堦曰藉君掩骸其有以報唐乃陛謁造王前王謂曰汝受命宴且貧兼無妻若子今忠義動天帝命錫汝伉儷子三人田三頃拜謝降出遂覺罔不知其何也踰時越有治中袁俊齋至始下車為子求師有以唐薦者一見置賓舘一日問曰吾渡江聞有唐氏瘞宋諸陵骨子豈其宗耶左右指君曰此是已袁大駭拱手曰君此舉豫讓不能抗也曳之坐北面而納拜焉禮敬特加情欵益篤叩知家徒四壁惻然嗟矜語左右曰唐先生家甚寒吾當料理使有妻有田以給左右逢迎爰諏爰度不數月二事俱愜聘婦偶故國之公女負郭食故國之公田所費一一自袁出人固奇唐之節而又奇唐之遇兩高之曰二公真義士義士爾後獲三丈夫子鼎立頎頎凡夢中神所告稽其數無一不合咄咄怪事乃如此唐葬骨後又於宋常朝殿折冬青樹植於所函土堆上作冬青行二首曰馬箠問髐形南面欲起語野麋尚純束何物敢盜取餘花拾飄蕩白日哀后土六合忽怪事蛻龍挂茅宇老天監區區千載護風雨又曰冬青花不可折南風吹凉積香雪遙遙翠盖一聲天上有鳳巢下龍穴君不見犬之年羊之月霹靂一聲天地裂復有夢中詩四首曰　珠亡忽震蛟龍睡軒弊寧忘犬馬情親拾寒瓊出幽草四山風雨鬼神驚　一坏自築珠丘上雙匣親傳竺國經只有春風知此意年年杜宇哭冬青　昭陵玉匣走天涯金粟堆寒起暮鴉水到蘭亭轉嗚咽不知真帖落誰家　珠凫玉舄又成埃斑竹臨江首重回猶憶年時寒食節天家一騎奉香來

南湖

在餘杭縣治負山對城曠秀無比向為豪強所侵萬歷間復理濬湖豁然舊觀詳高中丞碑記　高舉南湖告成碑武林山水聯麗而胥原止康以成沃壤必繇疏導先喆經綸至今為烈其介在錢塘餘杭之中者名南湖漢熹平陳公渾所開也縱橫一萬三千七百畝崇岡欝盤波光耀碧清暉暎帶氣候遞換形勝與西湖埒後漸堙塞唐寶歷歸公珧修之宋崇寧楊公時又修之而三賢皆載祀典按志天目諸山之水迸注苕溪分注石門港由石門港逶迤而入汪汪淼淼滙成巨浸是為南湖其下流杭嘉湖三郡受之盖若居亭然瀦積有區用以緩其澎湃洸濬之勢不致衝潰難禦而暵旱時引溉溝塍三郡咸被其澤數百年來稱東南一大利藪矣歲久防弛濱湖諸豪為政臚割潢汙封殖益廣至扞三尺不顧弘正間水部臧公朱公皆欲奪以還

湖議已定汔無底績至嘉靖初侍御傅公始慨然以清復為己任然考碑亦僅還湖八千一百六十畆侍御還諸豪割據如初無何併其碑遷之黍稌高廩穠桑茂樹逵軌如鱗臺榭相望而向所稱清復者不可復識矣湖廢則水無所歸[泳-永+(瑤-王)]潦既苦漫漭一遇亢乾又束手而仰雲漢庚癸之呼憤惋無所控訴歲戊申杭郡苦久雨連月不休禹杭而下水漂沒廬舍田疇以萬萬計二郡之民日蟻集轅門告災時水利王君往覘狀民之荷蓑笠以鏟斧從者千餘人隨車所向一呼而鄧林合抱綺閣連甍應聲俱摧如拉枯朽水勢稍舒眾俱跳號讙舞震山駭谷遂縛豪置之法而一時共事諸公咸蒿目焦心以興湖為急務矣不佞奉命撫浙偕兩臺日集所司條便宜郡邑長佐次第往察蓄泄高下故道及所為永遠計者既備且毖而費約巨萬括諸豪侵牟及三郡贖鍰苦不給有司議加賦天子矜憫小民俾無耗累黍而特允直指鄭公請捐傳犯侵尅袍服贓四萬為修復費聖主浩蕩之恩加惠浙土百萬生靈其有瘳乎於是相度湖勢除高田七百四十畆有奇三分之二以補軍屯一以召民佃而其他菰蒲禾黍之區無問在官在民盡斥以為湖約如傅侍御清復之舊而止其立法也湖分四隅隅分二十井井分六十畆畆分十區每區計用夫若干里遞[泳-永+(瓜-丶)]之每夫計領工食若干縣令頒之每夫領工食計汰泥若干四隅委官督之即用淤泥築十字長堤堤上蒔桑萬株使湖藉堤以為固堤藉桑以為固而桑與田所入皆官筦之以充五年一小濬十年一大濬之需庶亦免徵[泳-永+(瓜-丶)]云堤勢綿亘建橋六所彷蘇文忠公西湖故事黿梁虹渚洄洑漣漪非徒增飾勝覽皆用調停注瀉而復於湖堤內設閘二以節奔湧堤外設壩一以防衝齧四隅各設夫二以察損壞仍著為令所在縣官課績一切以湖興廢為等差噫法至此亦可謂詳核無遺矣後之游者睇丹崖溯澄流疑以為神囂仙的應接不暇而抑知隆古以來開而塞成而毀剏營屢更曠舉炳煥豈易有今日哉功既訖牒上大司農具疏請大畧云南湖貽患城幾為沼民且為魚屢極三郡之災奚啻九年之水乃諸臣計畫一周告成朞月畚鍤雲集有如鬼策神驅庸調不聞更訝泉金雨栗金隄甓社永奠半壁於東南石堰高梁歲登千倉於原隰此豈竊息壤以堙洪水積蘆灰而止驚濤盖緣軫其咨之念備濟川之才牖戶綢繆俾乂方割既經撫按具題合移咨吏部記錄以修吏治靖宏圖云上報可一時臣工咸用肅欽奉揚休命將載諸貞珉以彰不朽而不佞敬集在事諸臣拜手颺言曰南湖之役賴皇上湛恩賢僚屬寅贊勿替臣預觀厥成俾利兆民鞏方輿與天地無極猗歟休哉曷亦念茲締造孔艱美成在久彼豪躭躭巧以中當事者而威箝其下傴儛之及豈在一朝不虞為傅侍御之續乎敢告循良以永厥圖神祇上下實鑒臨之矣敬系以銘銘曰　天目肇源石門剖絡瀦以安流震澤為壑潀濤湓激若擣戎兵師出以律甲騎雲屯千頃洪浸廼奠厥土按轡徐行吐納之府岸谷匪夷滄化為田狐嗥菁篠蠶叢隰阡眾怒難犯瞿瞿樊圃斧鍤奮呼滔天

采阻帝軫其咨蠲賚孔渥不日成之騰歡普樂疆理既定利賴無疆於萬斯年貽謀孔臧湖水清漣羣峯峭立佳氣鬱葱鞏固社稷



武林梵志卷十二

總校官庶吉士(臣)朱鈐
校對官中書(臣)吳甸華
謄錄監生(臣)黃佑

聯絡我們

財團法人
佛教電子佛典基金會（CBETA 基金會）
CBETA Comprehensive Buddhist Electronic Text Archive Foundation

service@cbeta.org
(02)2383-2182 轉分機 12
官網 https://cbeta.org/
CBETA Online https://cbetaonline.dila.edu.tw/
立即贊助 https://cbeta.org/quick-donate/

贊助資訊

CBETA 長年來陸續將歷代重要佛典數位化為「CBETA 電子佛典集成」，不僅收錄了大量的珍貴文獻，更致力於校勘考證用字及增添新式標點，提升佛典的文獻品質及易讀性。「CBETA 電子佛典集成」是大眾廣為運用的公共資源，此成果也獲得國際學界的重視及肯定。

對於一個從事佛法志業的非營利團隊來說，能夠長期埋首理想、踏實耕耘，實屬不易。為了提供更優質的服務，CBETA 基金會擬增聘專業人力，擴大組織規模，懇請大家慷慨解囊、熱情贊助，讓未來有更多更好的電子佛典。

贊助捐款

「水滴雖微，漸盈大器，凡福充滿，從纖纖積。」
—— CBETA 2024.R2, T04, no. 210, p. 565a5-6